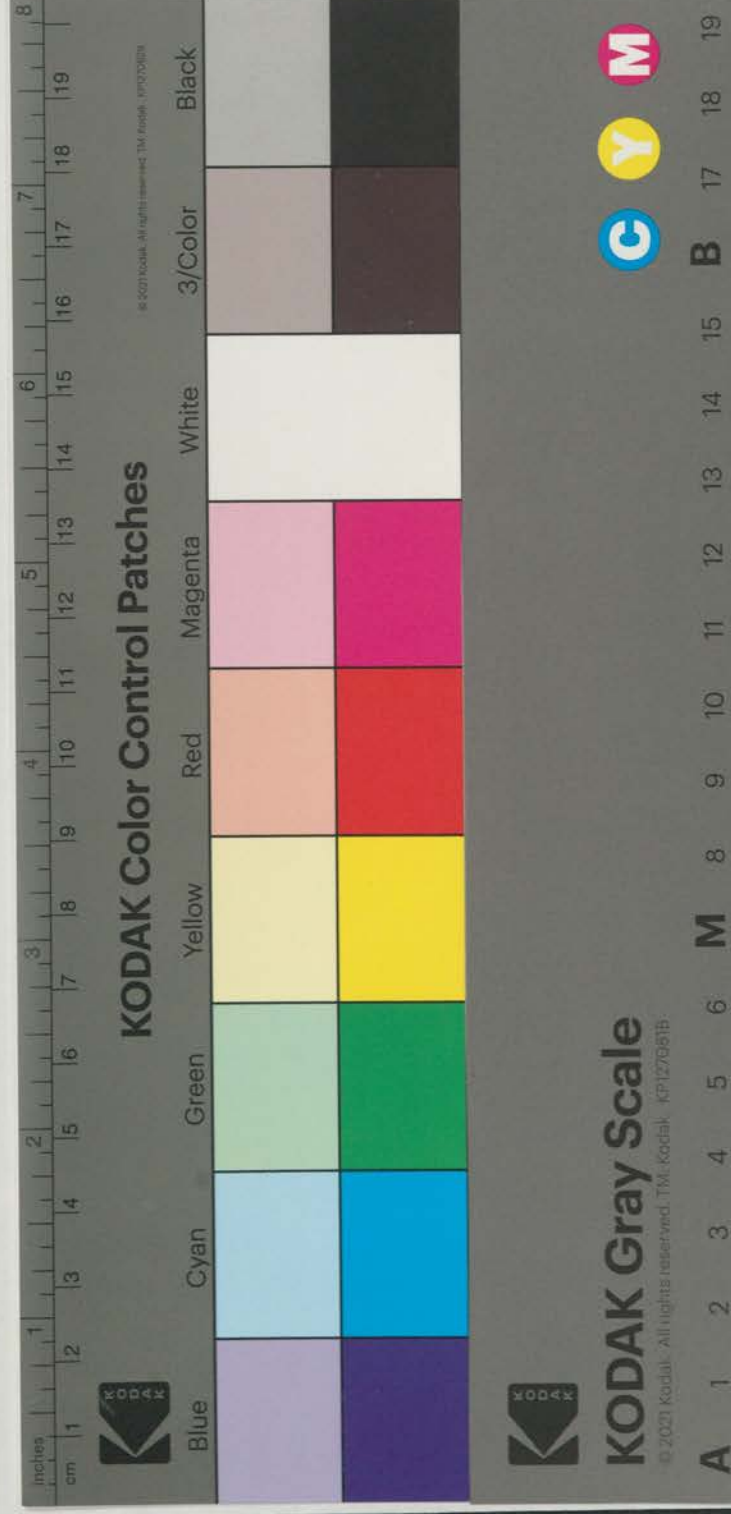


日勝村誌



日勝村誌

埼玉縣南埼玉郡日勝村役場



大山先生
日鑑
明治三十三年
牛堂書

張一回憶

字題氏三義谷柏長談院議衆



氏吉倭枝三長村先

氏作重川佐長村先

氏吉濱澤吉長村前

故陸軍歩兵一等卒 山崎喜太郎氏

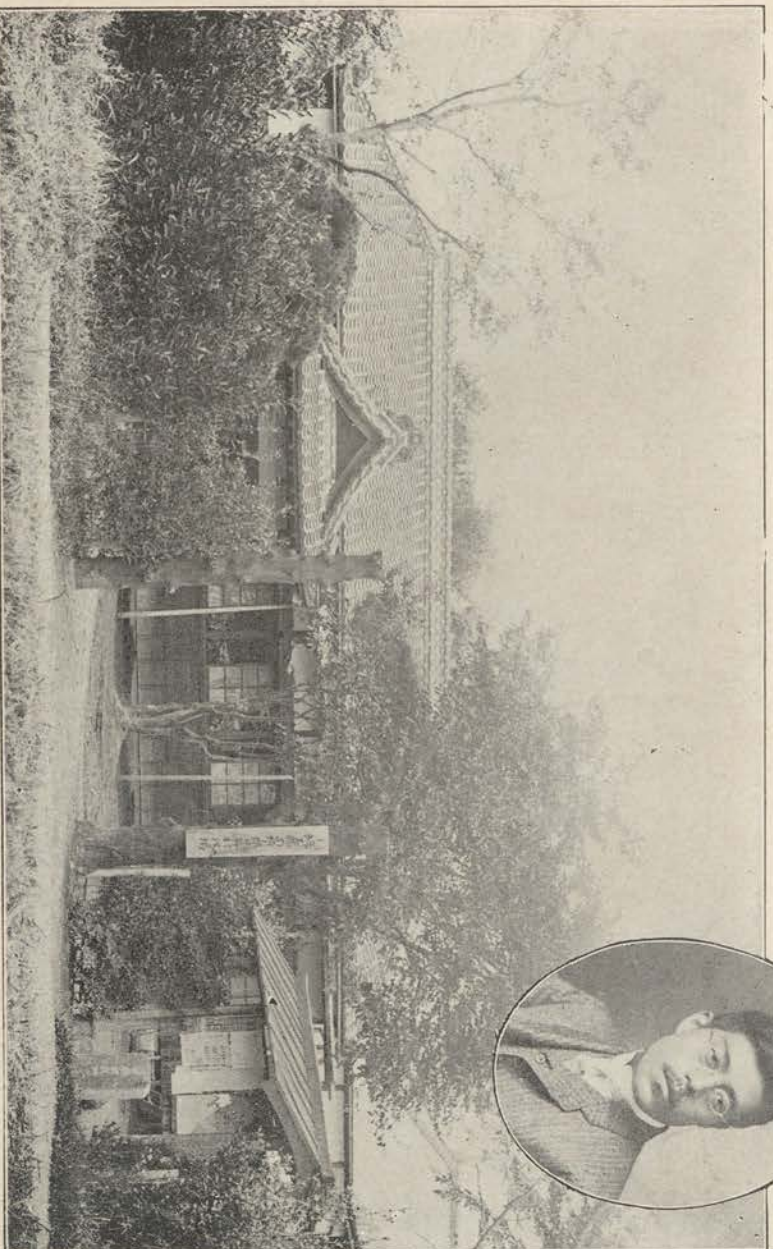
故陸軍歩兵一等卒 山崎喜太郎氏



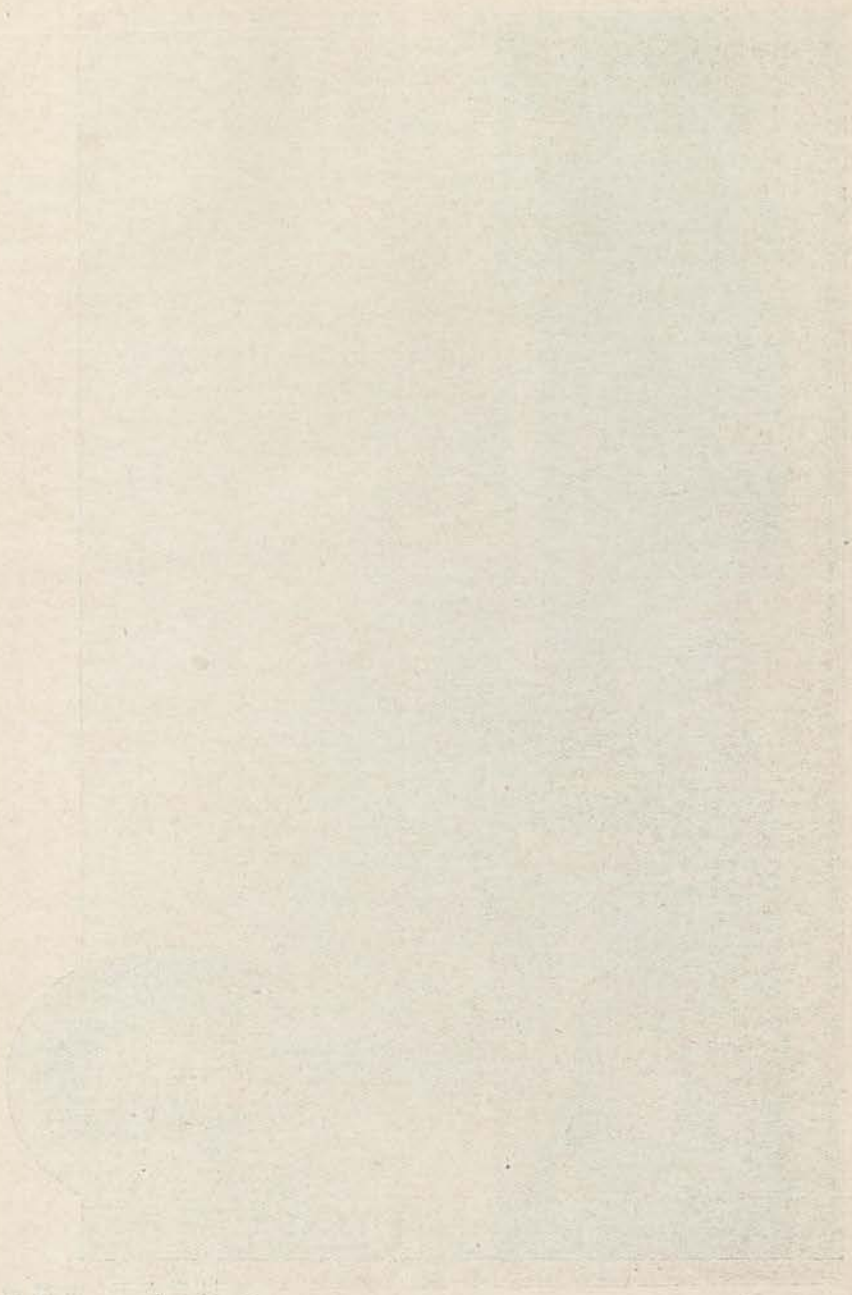
故陸軍歩兵二等卒 石渡才助氏

故陸軍上兵松田亮全氏 故陸軍看護大久保長次郎氏

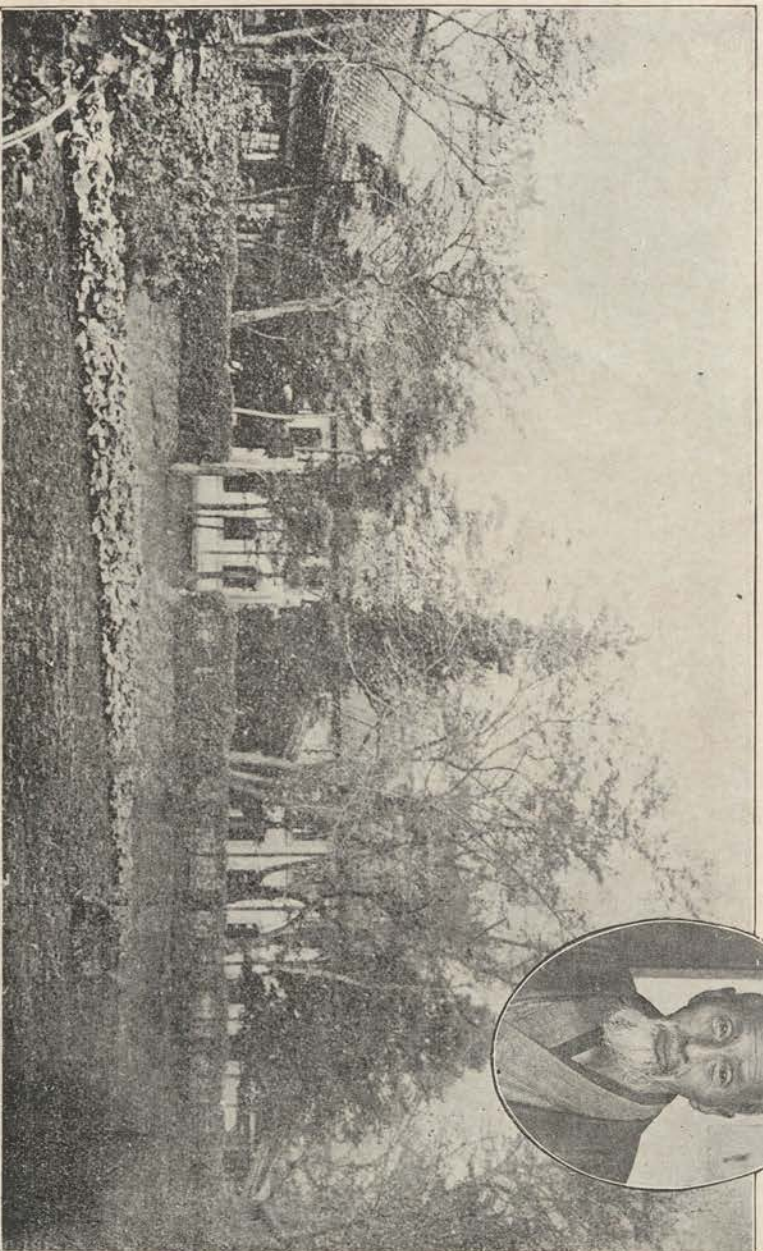
現村長 山崎敬三氏



役 場



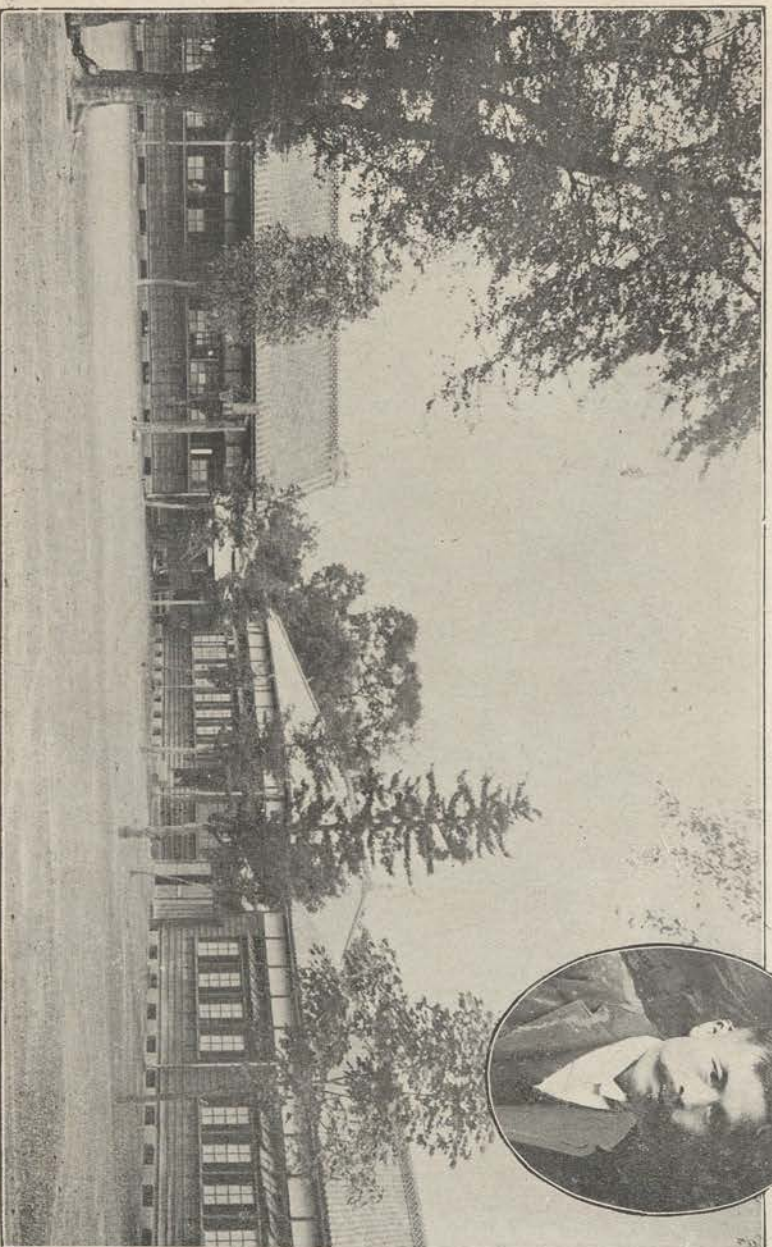
先校長齋藤進之助氏



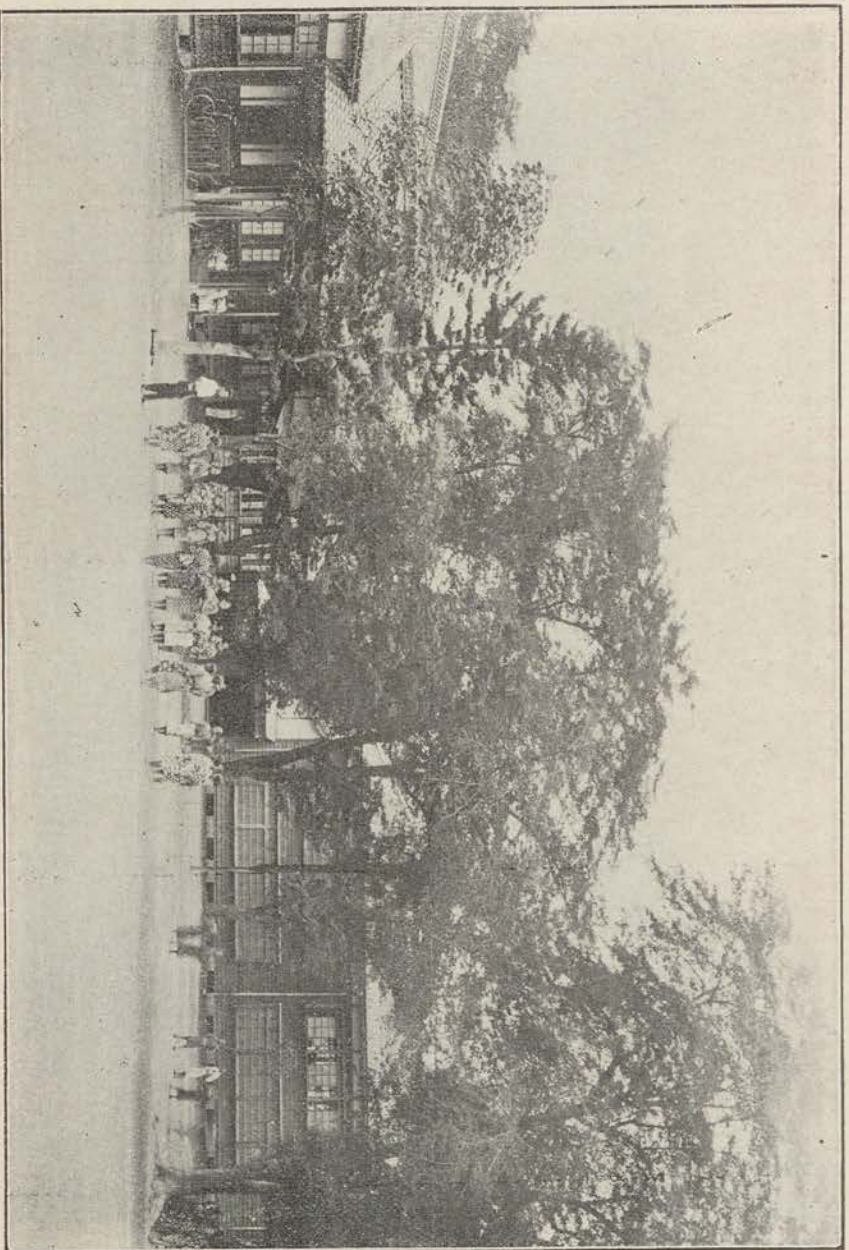
舎校學小ノ前築改



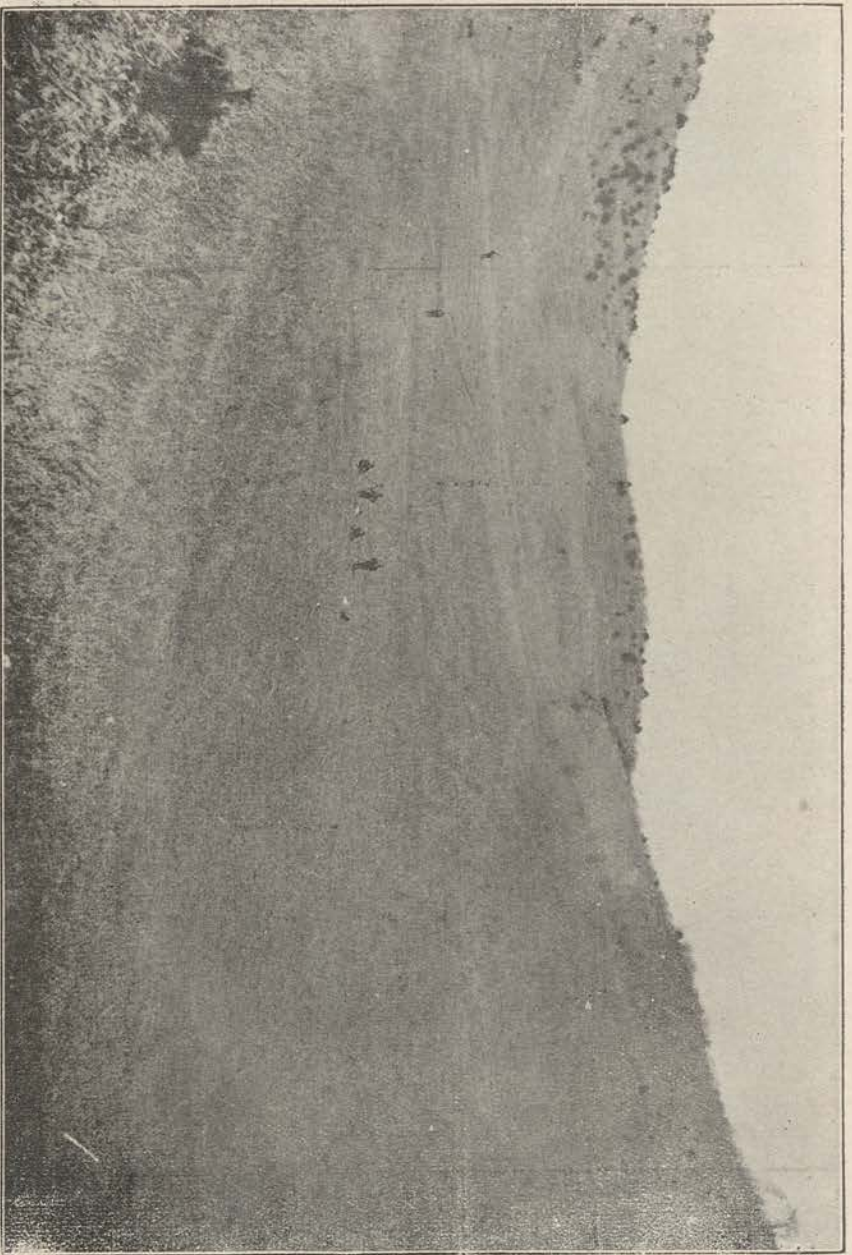
現校長 石田 福太郎氏



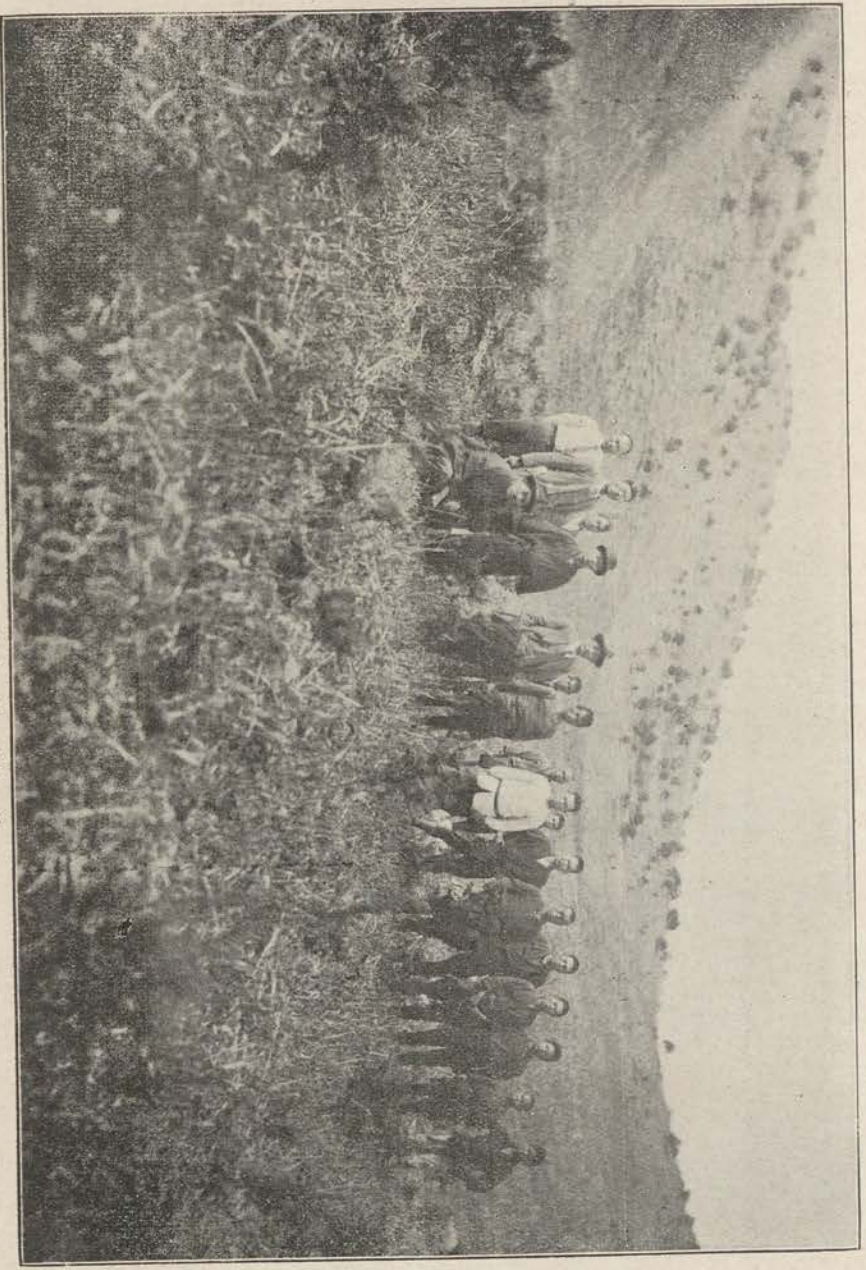
(一其) 小學校舎



（二其）舍校學小



(測實一其)地林造



造林地(其 二)植付

序

一郷は一國の基礎にして、國運の隆昌は即ち地方の繁榮に因するや論なし而して地方の繁榮を求めんには須らく市町村の自治を完成するに如かず。市町村自治の完成は即ち民人の公共的道義心の發達に俟たざるべからず。畏くも。先帝陛下明治維新以後直に郡區町村の編成を布告せしめ給ひ、町村の舊態を革めて國民に共同生活を爲さしむるの素地を作らしめらる。次で明治二十一年市制町村制を發布せしめられ、市町村を以て自治團體となし、國政と地方自治と相照應して茲に國運の隆昌を期せしめ給ふ。爾來年を閲する已に三十有餘、而も町村自治の範を垂るゝもの其の數未だ多からざるは地方行政の爲め寔に遺憾とする所なり。

本縣南埼玉郡日勝村は維新後夙に數個の聯合村を成し、更に進みて其の合併を企圖せしも事容易に成らず。組合村の組織を以て經過せしこと歲あり。偶々明治二十八年各村融和の機熟し、遂に克く之を合併して一新村を形成するに至り、名けて日勝村といふ。蓋し民心の一致及戰勝の意を寓す

るなり。是に於てか村治の發展に一轉機を來し、村人一致庶政の改革に努め、制度日に整ひ治蹟月に揚がり、今や自治村として他に範を垂るゝに至る。眞に邦家の慶事と謂ふべきなり。

今此に本村誌を編纂し、一は以て事蹟を後昆に傳へ、一は以て自治改善の資料たらしめんとす。其の企てや洵に佳なり。冀くは本村人士益々協同一致以て自治の完成に一層の努力を致されんことを。

予職を本縣に奉じ日々地方の繁榮を念ふの時、本誌稿成り來りて序を求む。乃ち欣びて之を誌す。

大正十四年十月第二回國勢調査の日

埼玉縣知事 齋藤 守 圀

序

山崎君明治四十三年以來日勝村に村長たること十有五年凡ての希望を自治の向上、發展に傾け名利に走らず、黙々として自己の所信に進まる。眞に國に報ゆるの途か。余君が人格を畏敬す。

君は地方自治の基調は理解ある郷土愛を経とし自治の内容の整齊、實質の洗練を緯とすることに在りとせられ自治の訓育に努めらるゝや、久し

此度日勝村合村三十年の記念として村誌の編纂を企てられ、自治制度變遷の歴史、教育、産業、その他、あらゆる方面に村勢の現状を闡かにし、その實情を村民に理解せしめ併せて先人の偉蹟を偲び君が年來の理想たる自治の實を擧ぐるの一助たらしめむことを期せらる。余この企あるを聞き君が理想に共鳴し陰かにその識見に敬服す。

今や地方自治の制度確立せられてより三十餘年その理論は既に説き盡されて餘す所なし。路に當る者の聴かむとするはその實行にあるのみ。今茲に山崎君の如きを見たるは誠に歡びに堪へず。仍辭を寄せて君が企劃に序

四

利
岡
南埼玉郡長

利和

例言

大正十四年十月

日勝村役場

目次

繪寫真版順序

- 一、衆議院議長 粕谷義三氏題字
二、前村長諸氏
三、日露戰役戰病死者

- 四、役場
- 五、改築前の校舎
- 六、小學校舎（其一）
- 七、小學校舎（其二）
- 八、造林地（實測）
- 九、造林地（植付）

例言

- 同序
文
埼玉縣知事 齋藤守圀氏
南埼玉郡長 岡利和氏

第一章 總說

第一節 位置及廣表

第二節 沿革

一、維新以前

岡泉村 實ヶ谷村 千駄野村 小久喜村 上野田村 下野田村
爪田ヶ谷村 太田新井村 彦兵衛新田

二、維新以後

四、町村制施行以前 二、町村制施行以後

第三節 人口及戶數

第四節 土地

一、官有地

二、民有地

三、土地所有狀況

四、田畑及林野所有者

五、土地異動狀況

第二章 村制度

第一節 村條例及規程

一、基本財產蓄積條例

二、手數料條例

三、公告式條例

四、有給吏員退隱料條例

五、督促手數料條例

六、學務委員規定

七、日勝村罹災救助資金貯蓄及管理并支出方法規程

八、日勝村會傍聽人取締規則

九、日勝村學校基本財產蓄積規程

一〇、日勝村小學校兒童授業料徵收規程

一一、日勝村財產管理規程

一二、日勝村縣稅戶數割賦課關各規程

一三、日勝村會計規程

一四、區設置規程

一五、日勝村村稅賦課徵收規程

一六、占使用料標準額

一七、日勝村稅縣稅遊興稅附加稅徵收規程

第二節 自治施設

一、五人組規約、巡回講話、村公報

第三節 自治機關

一、議決機關

二、執行機關

村長 助役 收入役 區長 書記 雇員

第三章 産業

第一節 職業別

第二節 生産物

一、農産物

二、畜産物

三、林産物

四、水産物

五、工産物

六、主要農生産高最近五ヶ年調

七、總生産高最近五ヶ年調

第三節 穀物検査

一、検査員

二、検査狀況

第四章 教育

第一節 著我尋常高等小學校

一、沿革ノ大要

二、校地及校舍

三、教育費

四、職員

五、學校管理者 學務委員 學校醫

六、兒童

一、就學ノ狀況

二、在籍兒童

三、出席ノ狀況

七、卒業生

八、事業

一、教育ノ方針

二、教育ノ施設

1 環境觀察ト家庭聯絡

2 兒童觀察

3 學級

4 教科及課程

5 教科細目

6 學習案

7 學習時間

8 學習法

9 自治制

10 常識養成

11 勤勞作業

12 學藝發表

13 勅語及詔書取扱

14 校訓

15 學級訓練

16 季節的敎訓要目

17 全校訓話

18 全校統一訓練

19 弔慰

20 獎勵

21 貯金

22 合同體操

23 運動會

24 應急手當

25 トラホーム治療

26 蛔蟲十二指腸蟲驅除

27 學校衛生日

28 種痘

29 長期休業中ノ兒童取扱

六、處務

1 學級事務

2 全校事務

3 統一事務

4 研究事務

四、職員ノ研究修養

1 敎科研究會

2 職員修養會

第二節 日勝公民學校

一、沿革ノ大要

二、現學則

三、職員

四、生徒

五、卒業生

六、生徒出席ノ狀況

七、經費

八、設備

九、事業

一、教育ノ方針

二、學級編制

三、各學科目敎授要旨

四、訓育

1 訓育ノ方針

2 自治制

3 實踐條目

五、體育

六、娛樂

第五章 財政

一六三

第一節 決算及豫算

第二節 各種財產及借入金、充用金

一、村基本財產

二、小學校基本財產

三、罹災救助資金

四、借入金

五、充用金

第三節 國稅、縣稅、村稅、水利組合費

一、國稅

第二、縣稅

三、水利組合費

四、村稅

五、國、縣、村稅一戶當

第六章 衛生

一九三

第一節 保健衛生

一、種痘

二、水質檢查

三、清潔法施行

四、十二指腸蟲病驅除

五、蛔蟲驅除

第二節 傳染病

第三節 生產、死亡、結婚、離婚

第四節 衛生組合

第七章 消防

二二三

第一節 消防組

第二節 規程

一、日勝村消防組火災豫防巡廻規程

二、日勝村消防組救護班規程

第八章 交通

三三

一、道路

二、鐵道及停車場

三、自働車

四、諸車

第九章 水利

三五

第一節 惡水

第二節 用水

第十章 兵事

三七

第一節 管區

第二節 壯丁

第三節 諸戰役下從軍者

一、西南戰爭

二、明治三十七八年戰役

三、明治三十七八年戰役

四、大正三年乃至大正九年戰役及西伯利亞出兵事件

第四節 戰病死者村葬及凱旋式

第五節 戰役下村民ノ後援

一、軍需品應徵ノ狀況

二、國庫債券應募

三、本村從軍者慰問

第十一章 社寺

二六

第一節 神社

第二節 寺院

第十二章 各種團體

二七

第一節 日勝村農會

一、經費ノ狀況

二、事業ノ大要

三、大正十三年度事業概況

四、役職員

第二節 農事改良組合

一、組織事業及現組合長

二、大正十三年度事業

三、經費狀況

第三節 日勝村教育會

一、規約及規程

二、經費狀況

三、最近學用品給與及出席獎勵金交附狀況

四、總會

第四節 日勝村青年會

一、沿革

二、會則

三、事業

四、所屬青年團體ノ事業

第五節 日勝村處女會

六、會則

二、事業

第六節 帝國在鄉軍人會日勝村分會

一、規約

二、沿革及事業

三、戰死者及公務ニ基因シタ死亡者

四、役員

五、年中行事

六、獎勵事項

七、財產

八、備品

九、在鄉軍人大字別表

第七節 日勝村耕地整理組合

一、組合設立ノ狀況及總會

二、工事費ノ概況

三、地區ノ整理前後ノ地目別面積及地價

四、各年度經費

五、役員

第八節 日勝信用販賣購買組合の組織と業務

一、組合設立の經過

二、事業概況

三、役員

第十三章 雜件

目次終

日勝村誌

第一章 總說

第一節 位置及廣袤

我が日勝村ハ南埼玉郡ノ中部ニ位シ東西一里二町南北三十五町面積〇、六九方里ニシテ岡泉實ヶ谷千駄野小久喜上野田下野田瓜田ヶ谷太田新井彦兵衛ノ九大字ヲ有ス東ハ百間村ニ隣リ東南ハ内牧慈恩寺二村西南ハ黒濱村ニ接ス西北ハ篠津村ニシテ東北ニ亘レルハ須賀村ナリ地勢概ネ平垣ナルモ東南部ハ高臺ヲナシ西南部ハ低地ナリ粕壁菖蒲縣道東西ニ通シ岩槻幸手縣道南北ニ走り鐵道東北本線西部ヲ貫通ス黒沼用水及排水路隼人堀ハ殆ンド平行シテ中部ヲ東ニ流レ北東ニハ爪田ヶ谷堀野牛高岩落アリ笠原用水之ニ平行シテ東流ス

第二節 沿革

一、維新以前

本村現在ノ大字ハ町村制施行以前各々獨立ノ一村ヲ成シ、モ文献ノ徵スベキモノ無キヲ以テ其ノ沿革ヲ詳ニスルヲ得ズ乃チ茲ニハ僅ニ新編武藏風土記ノ傳フル所ニ據リ其ノ梗概ヲ叙スルコト、セリ

岡泉村(太田庄)

正慶ノ頃新田氏ノ北條高時ト相戦フヤ義貞ハ川越ニ陣シ其ノ弟脇屋義助ハ下總國小手指原ニ出陣セリ
義助勝テテ兄義貞ノ川越ノ陣ニ會セントシ野田村ニ來リ大徳寺ニ憩フ義助ノ歸陣後北條氏ノ殘黨入り
來リ殘糧ヲ收メ大徳寺及大日堂ヲ燒キテ退ク當時野田ト岡泉トノ間ニ沼アリ之ヲ隔テ、野田ヨリ本村
ヲ望ム時ハ地形恰モ丘埠ノ如クナリシヲ以テ岡泉村ト稱セシトイフ

慶長以來高力氏ノ所領トナリ元和五年高力氏遠州濱松ニ移封ノ後栃木内膳正新庄駿河守ト互ニ之ヲ領
ス元和九年阿部備中守ノ領知トナリ同氏五代ノ後對馬守忠盛ニ至リ國替トナリ板倉内膳正ノ知領トナ
ル天和三年松原伊賀守元祿十年小笠原佐渡守長信同十七年永井伊賀守直敬等相移リ寶曆六年伊賀守直
陳ノ美濃國加納ニ移サル、ニ及ビ大岡田雲守忠光ノ所領トナリ爾來明治維新ニ至ルマデ大岡氏ノ知領
タリ

明治元年岩槻藩トナリ同四年七月廢藩置縣ノ際岩槻縣トナリ同十一月埼玉縣ノ管轄トナル
村ノ北ニ上下野田及當村入會持添ノ新田アリ大日沼新田ト唱フ享保十六年十二月寛播磨守檢地シテ御
料所トナレリ此ノ外當村及江ヶ崎鹿室三村入會持添ノ新田アリ日川新田ト云フ寶曆十一年本村民半藏
トイフ者之ヲ開發シテ三村ノ持添トナシ、ガ同年石谷備後守小野日向守一色安藝守檢地シテ御料ノ地
トセリ

高札場 村ノ東ニアリ

小名 鹿室臺

土橋

ニアリハ黒沼用水ニ架ス長サ七門許往還橋ト云フ太田新井ト當村二村ノ持一ハ隼人堀
ニ架ス高臺橋ト唱フ

鷺宮社

村ノ鎮守ナリ村持天和元年十月勸請神體ハ丸キ板ニテ本地佛樂師ノ像アリ

圓福寺

新義真言宗太田新井村安樂寺ノ末香水山ト號ス本尊不動ヲ安ゼリ

稻荷社泉福寺

同宗同末天如山ト號ス明和五年正月六日燒失本尊ハ地藏

鷺宮社庵

神明庵ト號ス本尊ハ不動村持

實ヶ谷村(箕輪郷騎西庄)

村名ノ由來明カナラザレドモ武藏風土記ニ「高麗郡新堀村聖天院ニ藏スル鰐口ノ表ニ「久伊豆云々武
州騎西郡鬼窪郷佐那賀谷村」裏ニ「大工澁谷滿五郎應仁二年十一月九日」トアリ鬼久保ノ名ハ今傳ヘ
ザレド佐那賀谷トイヒ且ツ久伊豆トイヘバ當社ノモノナルベクシテ舊キヨリノ勸請ナルヲ知ルベシ聖
天院ニ藏スル所以ハ知ラズ」トアリ「鬼久保ノ名今傳ヘザレド」云々トアレド然ラズ現ニ小久喜ニ舊
家鬼久保トイフモノアリ且ツ本村ニ久伊豆神社ノ鎮守トナリ居ルヲ見レバ鬼窪郷佐那賀谷トハ本村ナ
ルベシ果シテ然ラバ古クヨリ佐那賀谷ト稱セシナランモ其ノ實ヶ谷ト稱スルニ至リシハ何時頃ヨリナ
ルヲ知ラズ

本村ハ昔ヨリ岩槻城附ノ領地ナリシガ後上州館林殿ノ領知トナリ寶曆年中米津播磨守ニ賜ハリ寛政年
中幕府ノ御料トナリ後文化年中旗下横田甚右衛門渡邊捨次郎ノ二人ニ替地トシテ賜ハリ爾後引續キテ
維新ニ及ベリ此ノ外村ノ良ノ方ニ當村及千駄野小久喜三村入會持添ノ新田アリ享保十七年八木清五郎

檢地シテ同人ノ支配所トナリ明和年中松平大和守ニ賜ハレリ
明治元年岩槻藩同四年岩槻縣同十一月埼玉縣ノ管轄トナル

高札場 村ノ中程ニアリ

小名 東、南

久伊社豆 觀音ノ像ヲ彫リタル圓徑一尺餘ノ銅鏡アリシト傳フルモ今ハナシ正徳四年再建棟札ノ裏ニ當社ハ嘉吉元年辛酉年草創トアレド詳ナラズサレド勸請ノ舊カルベキハ前述ノ如シ

末社稻荷天王疱瘡神

秋葉別當延命院 新義真言宗岩槻彌勒寺ノ末神光山ト號ス本尊十一面觀音寺傳ハ回録ニアヒテ之ヲ失ヘリ

天神社 村民ノ持ナリ

諏訪社 村民ノ持ナリ

東光院 當山派修驗勢州世義寺ノ末葛飾郡上高野菩薩院ノ配下當院ハ天文年中起立ト傳フ開祖法印藥王ハ慶長十四年二月廿八日寂セリ本尊不動ヲ安ズ劍一振ヲ藏ム銘ハ貞家ノ文字ニ似タリ表裏共ニ梵字四字アリ

第六天社

八幡社

施 正觀音ヲ安セリ江ヶ崎保福寺ノ持

塚

東光院ノ葬地ニテ東光院塚トモ又念佛塚トモ云フ

舊家者太兵衛 野口ヲ氏トス古隣村江ヶ崎ニ住シ後當所ニ移リシトイフ小田原北條氏ヨリ與ヘラ

レシ文書一通ヲ藏セシガ今傳ハラズ村民ノ傳フル所ニヨレバ其ノ文ニ武藏國川々奉行タ

ルベキ者ナリトアリテ武藏國埼玉郡江ヶ崎村野口彦五郎ト記シ虎ノ印アリシモノナリト

イフ

千駄野村(箕輪郷私市庄)

本村ハ古ヨリ岩槻城附ノ村ニシテ古來荒蕪地多ク領主ニ納ムル貢租ハ僅ニ茅一千駄ニ過ギザリシヲ以

テ千駄野村ト稱セシトイフ

維新マデハ岩槻城主大岡氏之ヲ領セシガ明治元年岩槻藩トナリ同四年七月岩槻縣トナリ同十一月埼玉

縣ノ管轄ニ屬ス

村ノ西南ニ持添ノ新田アリ享保十六年伊澤彌惣兵衛檢地シテ御料所トナリ實ケ谷小久喜兩村入會シテ

七段餘ハ當村ニ屬セリ

高札場 村ノ中程ニアリ

小名 上、下

隼人堀 惡水落シノ堀ナリ

稻荷社 德性寺ノ持、末社山王天神、

八幡社 村民持以上二社當村ノ鎮守ナリ

末社稻荷

德性寺 新義真言宗足立郡倉田村明星院ノ末天満山ト號ス本尊地藏

泉福寺 淨土宗高岩村忠恩寺ノ末龍池山ト號ス本尊彌陀

阿彌陀堂 忠恩寺持

小久喜村(箕輪郷私市庄)

本村ハモト古久鬼ト稱セシガ一旦荒廢ニ歸シ寛永年中再起シテ村落ヲナシ、時今ノ如ク改メタリトイフ

本村モ岩槻城附ノ村ニシテ後米津某ニ賜ハリ子孫播磨守ニ至リ寛政十年所替アリ同十二年松前若狹守ノ領分トナレリ後文化六年徳川氏ノ旗本岡美濃守ニ賜ハリシヨリ子孫相繼ギテ知行セリ

此ノ外村ノ南ニ持添新田アリ御料所ニシテ享保十七年寛播磨守糺セリ
明治元年七月知縣事山田一太夫ノ支配所トナリ同二年一月大宮縣同十月浦和縣同十二月埼玉縣所轄トナル但當村ノ一部ハ享保十七年ヨリ維新ノ際ニ至ルマデ其ノ所轄ヲ異ニセリ

高札場 東南ノ方ニアリ

小名 本田、三谷耕地

久伊豆社 村ノ鎮守ナリ村持

諏訪社、稻荷社 二社村持

壽樂院 禪宗曹洞派白岡村興善寺末大高山ト號ス本尊釋迦ヲ安ス

地藏堂 興善寺持

舊家者文平 氏ヲ鬼窪ト稱ス先祖ヲ鬼窪尾張繁政ト呼ビ天正十九年正月八日歿シ壽光院秋月齋孤

居士ト諡ス夫レヨリ十代文平ニ至ルマデ代々當村ニ住シ名主ヲ奉シ其ノ分家五軒アリト

傳フレドモ家系ヲ傳ヘザレバ詳ナラズサレド武藏七黨ノ内野與黨ノ譜ニ鬼窪六郎定綱ト

イフ人ヲ載セ東鑑正嘉二年三月一日ノ條ニ鬼窪又太郎トイフ者アリ又笠原村ノ康曆三年

ノ文書ニモ鬼窪氏トイフ者ヲ見ル文平ハ或ハ是等ノ子孫ナランカ此ノ外高麗郡新堀村聖

天院ニアル應仁二年ノ鰐口ニ「久伊豆御寶前鰐口願主衛門五郎武州騎西郡鬼窪郷佐那賀

谷村」トアリ佐那賀谷ハ則チ今ノ實ケ谷ニシテ久伊豆社モアリ又白岡村八幡社寶享德五

年ノ鰐口ニ「鬼窪八幡宮」トアルヲ見レバ此ノ邊古ハ鬼窪ト唱ヘシコトヲ知ルベシ而シ

テ鬼窪氏ハ當所ノ在名ヲ以テ名乗シモノナランニハ其ノ舊キ家ナルコトヲ知ルベシ(鬼

窪氏ハ今ハ鬼久保ト書シ當主ハ庄一ト稱ス)

上野田村

本村ハモト下野田村ト共ニ野田村ト稱シ元祿改定ノ國圖郷帳ニハ上下ヲ分タズ今ノ如ク上野田ト稱スルニ至リシハ享保年中ナルベシトイフ風土記ニハ「延享四年一橋家ノ領地ニ進ラレシトイヘバ若シクハ此ノ頃ヨリ上下ノ二村トナリシニヤ」トイヘリ定カナラズ

中古以來百間領ニ屬シ岩槻城附ノ地ナリシガ延享四年一橋中納言ノ領知トナリ爾來世々之ヲ領セリ維新ノ際一橋藩トナリ明治二年二月大宮縣同九月浦和縣トナリ同四年埼玉縣ノ管轄トナル

村ノ南北ニ持添ノ新田アリ享保十六年寛播磨守檢地シ御料所ニ屬ス

高札場 村ノ西ニアリ

小名 西ヶ崎、宮山、本村、原耕地

一里塚 村ノ中程ニテ御成道ノ左右ニアリ高七尺許江戸ヨリ十一里岩槻ヨリ二里ノ行程ナリ

高祖明神社 村ノ鎮守ニテ大光院ノ持祭神詳ナラズ安永六年京都吉田家へ神階ヲ請ヒシ時如何ナ

ル故ニヤ鷲宮大神ト書キテ與ヘラレシニヨリ鷲宮トモ呼ベリ社頭ニ天文廿三年ノ鰐口ヲ

カク

十二所權現社 持同前

末社三峯金毘羅天神

第六天社 村民持

大德寺 禪宗曹洞派下總國葛飾郡山王村東昌寺末金界山ト號ス相傳フ往昔此地ニ眞言ノ古刹アリ

シガ中頃廢寺トナリシヲ下野田村吉田將監トイフ者永正九年再建シテ禪宗曹洞派ニ改メ

シト開山能山藝聚永正十三年二月八日寂ス本尊釋迦ヲ安ス

境内ニ山王社大日堂鐘樓等アリ鐘樓ニ明和五年鑄造ノ鐘ヲカク

正傳寺 村內大德寺ノ末聖德山ト號ス開基ハ岩槻城主太田十郎氏房ト云ヒ傳フ其後本山ノ住僧重

關之ヲ中興ス重關ハ寛永十九年六月八日寂ス本尊釋迦ヲ安ズト云フ

太子堂 長二尺六寸許ノ像アリ腹籠ニ太子自作ノ像ヲ安置スト云フ

大光院 當山派修驗京都三寶院ノ配下開祖ヲ神教トイフ天文二年五月二日寂ス本尊不動ヲ安ス
庵 藥師ヲ安ス村民ノ持

下野田村

本村ノ沿革ハ上野田村ニ關シ述ブル所ノ如シ持添新田村ノ南ト西トニアリ御料所ニ屬ス

高札場 村ノ中央ニアリ

小名 鶴ヶ曾根、宿耕地、駒込耕地、本村耕地

爪田ヶ谷堀 上野田ト當村トノ境ニアリ御成道ノ處ニ土橋ヲ架ス

鷲明神社 本村ノ鎮守ナリ

爪田ヶ谷村 (太田庄百間領)

此ノ地古ヨリ岩槻城附ノ村ナリシガ何時ノ頃ニカ御料所トナリ寛永五年阿部對馬守檢地シ後伊奈半左衛門之ヲ支配セリ、明和七年松平大和守ニ賜ハル、其後清水領ニ轉ジ安政二年林部善太左衛門之ヲ領シ夫レヨリ支配者數名相轉シ維新ノ際小笠原甫三郎ノ支配トナリ慶應四年四月大竹左馬太郎ニ轉ジ同年七月武藏知縣事トナル明治二年正月大宮縣同年九月浦和縣ニ轉ジ同十一月埼玉縣管轄トナル持添新田ハ享保十九年檢地シテ御料所ニ屬セリ

高札場 村ノ中程ニアリ

小名 野中、カチ塚、諏訪山、十三坊塚

諏訪社 村ノ鎮守觀音寺持

愛宕山稻荷社

觀音堂 新義眞言宗太田新井村安樂寺末慈眼山ト號ス開山宥範寶永六年五月廿八日寂ス本尊十一

面觀音ヲ安ス

寮 不動ヲ安ス

太田新井村(百間領)

此ノ地古ハ上新井村ト唱フ其ノ太田新井ト稱セシハ何時ナリシカ明カナラザレドモ寛永五年ノ水帳ニハ上新井ト記シ正保ノ郷帳ニハ太田新井ト記セラレバ今ノ名トナリシハ寛永五年以後ナルコト明カナリ當村モ古ハ岩槻城附ノ村ナリシガ後御料所トナリ延享四年一橋中納言ノ領知トナル明治元年岩槻藩トナリ同四年七月岩槻縣トナリ同十一月埼玉縣ノ管轄トナル

高札場 村ノ北ニアリ

小名 紅葉大門、稻荷山、海老島、三新田、堂ヶ島、原、古新田、土新田、宿新井

紅葉大門ハ日光御成道ノ内三畝許ノ芝地ナリ岩槻ヘ二里幸手ヘ二里餘ノ中間ナルヲ以テ立場トナシ日光御參詣ノ時ハコ、ニ御茶屋ヲ建テラル、ヲ恒例トセリ此ノ地ハ安樂寺ノ大門ニシテ此所ニ周圍五六尺ノ楓樹十四五株アリタルヲ以テ紅葉大門ノ稱起レリトイフ

土橋 黒沼用水ニ架ス高臺橋ト云ヒ長七間御成道ノ内ナリ
隼人堀 惡水路ナリ幅八間此ニ土橋ヲ架シ往還橋トイフ御成道ノ内ナリ

鷲明神社 二字アリ共ニ安樂寺ノ持

諏訪社村民ノ持以上三社ヲ村ノ鎮守トス

末社稻荷社 安樂寺持

天神社 太田道灌ノ草創ト傳フ村民持

八幡社 村民持

安樂寺 新義眞言宗山城國醍醐報恩院末朝日山遍照院ト號ス本尊阿彌陀中興ヲ祐榮ト云フ境内ニ

安スル藥師佛ノ腹内ニ「應仁二年戊子祐榮法印修理」ノ記録アレバ古キ寺院ナルベシ

天神社藥師堂 前文所載ノ藥師ヲ安ズ長三尺許弘法大師ノ作ト云フ

鐘樓 安永九年鑄造ノ鐘ヲカタ

安養院 村內安樂寺ノ末即チ安樂寺ノ隱室ニテ等シク朝日山ト號ス本尊彌陀ヲ安ス

地藏 村民ノ持ニテ傍ニ寮アリ

陣屋跡 村ノ南ニアリ今陸田トナリタルモ尙構堀ノ跡ヲ存セリ昔時岩槻太田氏ノ持ニテ道灌此所

ニ居住セシコトアリシト傳フ

彦兵衛新田(百間領)

此ノ地ハ鷲ノ郷ト唱ヘ上野田村ノ飛地ニシテ一橋中納言ノ林ナリシガ寶曆十三年武州葛飾郡幸手領ノ民彦兵衛新平ノ二人之ヲ新墾シ彦兵衛新田ト稱セリ開村ノ後モ一橋殿ノ領知タリ

明治元年一橋藩トナリ同二年大宮縣同年浦和縣トナリ明治四年埼玉縣ノ管轄トナル

高札場 村ノ中央ニアリ

小名 小笠原、北山、八幡山、清左衛門耕地、外記山、前山

淺間社 村ノ鎮守玉寶院ノ持

末社下淺間金毘羅社 傍ニ庵ヲ建テ不動ヲ安ス成田庵ト云フ

最勝寺 禪宗曹洞派葛飾郡西大輪村迦葉院末金光山ト號ス本尊釋迦ヲ安ス

玉寶院 羽黒行人派修驗足立郡小針領家村大勝院ノ配下本尊不動ヲ安ス

不動堂 玉寶院持

庵 淨心院ト號ス彌陀ヲ安ス村民ノ持

二、維新以後

(一) 町村制施行以前

明治四年七月廢藩置縣トナリ、明治五年三月區制ヲ制定セラル本村ノ現大字タル當時ノ各村ノ所屬ハ左ノ如シ

第五區 埼玉郡四十八ヶ村一宿ニシテ區務所ハ粕壁町ニアリ彦兵衛新田太田新井村瓜田ヶ谷村岡泉村

之ニ屬ス

第六區 埼玉郡十三ヶ村ニシテ區務所ハ杉戸町ニアリ上野田下野田二村之ニ屬ス

第九區 埼玉郡二十七ヶ村二ヶ町ニシテ區務所ヲ久喜町ニ置ク小久喜村之ニ屬ス

第二十區 埼玉郡四十ヶ村二ヶ町ニシテ區務所ヲ岩槻町ニ置ク實ヶ谷千駄野二村之ニ屬ス

明治十一年七月大政官第十七號ヲ以テ郡區町村編成法發布セラレ本縣ニ於テハ同十二年三月ヲ以テ之

ヲ實施セリ此ノ際埼玉郡ハ南北ニ二分セラレ南埼玉郡役所ヲ岩槻町ニ北埼玉郡役所ヲ行田町ニ置カレタルヲ以テ本村ハ南埼玉郡ニ屬セリ爾來町村ハ一ヶ町村又ハ數ヶ町村聯合シテ戶長役場ヲ設ケ行政ヲ掌レリ今茲ニ明治十七年七月ニ於ケル本村關係ノ戶長役場位置及其ノ所轄町村ヲ示スベシ

戶長役場位置

所 轄 町 村

岡 泉 村 岡泉村彦兵衛新田實ヶ谷村千駄野村上野田村下野田村太田新井村

東 条 原 村 東条原村西条原村須賀村瓜田ヶ谷村國納村和戸村

篠 津 村 篠津村小久喜村寺塚村白岡村野牛村

(二) 町村制施行以後

明治二十一年四月町村制發布セラレ同二十二年町村區域及名稱ヲ改メ可成聯合村ヲ以テ一町村ヲ造成セシメ同年四月ヨリ之ヲ實施セリ當時本村ハ不幸ニシテ和衷融合ヲ缺キ新村ヲ造成スルコト能ハズ組合村ヲ組織シテ岡泉村外八箇村組合ト稱セリ此ノ時ニ於ケル本郡ノ町村ハ

町六、村四四、計五〇

單獨ニテ組織セル役場數二九

新町村ヲ組織スルコト能ハサル數一二

組合村役場數二

ニシテ組合村ヲ組織スルノ止ムナキ狀態ニアリシハ實ニ越ヶ谷町大澤町組合ト本村トノミナリキ明治二十二年十一月十六日南埼玉郡書記佐川重作氏村長職務管掌ノ命ヲ受ケテ本村ニ派遣セラレ同月

廿六日岡泉村外八ヶ村組合村役場ヲ開ケリ爾來同氏ハ誠心其ノ職ニ任ジ組合村ノ和合ヲ計リ村民ノ福祉ヲ増進センコトニ努力セリ明治二十四年一月郡書記ノ官ヲ辭シ組合村長ノ職ニ就キ益々村内ノ融和ニ銳意セリ明治廿八年一月滿期トナルヤ再選セラレテ各種ノ事業ニ盡瘁セラレタリ斯クテ漸ク村内融和ノ機熟シ明治二十八年二月新村造成ノ決議ヲナスニ至レリ決議書左ノ如シ

決議書

一岡泉村實ヶ谷村千駄野村小久喜村上野田村下野田村爪田ヶ谷村彦兵衛村太田新井村ノ九ヶ村ヲ以テ新村トナスノ可ヲ認メ之ヲ其筋ヘ具申スルコト

理由 右九ヶ村ヲ以テ組合ヲ設ケ現ニ町村ノ事務ヲ共同處辦シアルヲ以テ更ニ之ヲ一新村トナシ團結セントスルニアリ

一新村名 日勝村

理由 今茲ニ明治廿八年二月九ヶ村共同一致シ新村造成ノ機運ニ達ス會々我帝國大義ノ兵ヲ舉ゲ清國ノ暴横ヲ膺懲シ東洋ノ平和ヲ永遠ニ克復セントス而シテ開戰以來百戰百勝 皇軍ノ向フ所敵壘陷落セザルハナク 皇威ノ輝ク所異民風靡セザルハナシ實ニ空前ノ盛事ト謂フベシ此ノ嘉會ニ遭遇シ和氣霽々合村ノ議ヲ決ス豈一快事ナラザランヤ且夫レ今村域ヲ擴張セントスルハ恰モ帝國ノ目下其版圖ヲ異域ニ伸長スルニ髮髭タリ乃チ是ニ日軍大捷ノ義ヲ採リ謹テ日勝ノ二字ヲ村名ニ冠シ以テ之ガ紀念トシ帝國ノ英名ト共ニ無窮ニ銘記センコトヲ期ス

一役場位置 上野田村

理由 組合村役場ハ現ニ上野田村字大日耕地ニ新築シアリ殊ニ全九ヶ村ノ中央ニ位スルヲ以テ將來同所ヲ役場位置トナサントス

右決議候也

明治廿八年二月廿七日付知事ヨリ新村造成ニ關シ各村會ニ諮問アリ之ニ對シ異議ナキ旨答申シ同二十八年三月二十日付ヲ以テ合村シ日勝村ト稱スル指令ヲ發セラレ茲ニ自治ノ本體ヲ造成スルニ至レリ時ノ埼玉縣知事男爵千家尊福閣下深ク我が新村ノ造成ヲ喜バレ詠歌ヲ自書シテ賜ハリタリ

南埼玉郡日勝村はもと岡泉をはじめ九村の組合なりしを明治二十八年の四月新村を組織しけるに征清軍の記念にもとて村名を日勝とたたへてをがうたをここにひければ

從三位 尊

福

日勝てふ名にたゝへてもあふくかな

豊さかのほる國のひかりを

洵ニ本村ノ光榮ト謂フベシ

第三節 人口及戸數

人口及戸數

年 別	男 現	住 女	口 計	戸 數
明治二十二年			三、八三一	六〇一
明治二十三年			三、八七二	六一一
明治二十四年			三、八八七	六一二
明治二十五年			三、九七七	六一二
明治二十六年			三、九九五	六一二
明治二十七年			四、〇三八	六一五
明治二十八年			四、〇八九	六一五
明治二十九年			四、〇九三	六一五
明治三十年			三、九九七	六一五
明治三十一年	二、〇七九	二、〇二三	四、〇九二	六一五
明治三十二年	二、〇八三	二、〇三二	四、一四五	六一五
明治三十三年	二、一〇〇	二、〇四七	四、一四七	六一五
明治三十四年	二、一二六	二、〇三七	四、一六三	六一五
明治三十五年	二、二四三	二、一三〇	四、三七三	六三三
明治三十六年	二、二八五	二、一九六	四、四八一	六三〇
明治三十七年	二、〇七三	二、〇五五	四、一二七	六三〇
明治三十八年	二、一五一	二、〇六八	四、二一九	六三〇

明治三十九年	二、一七一	二、〇九五	四、二六六	六三三
明治四十年	二、一九七	二、一六	四、三三三	六三三
明治四十一年	二、二二〇	二、〇七一	四、二九一	六三五
明治四十二年	二、一八三	二、一五	四、二九八	六六六
明治四十三年	二、一六二	二、一四五	四、三〇七	六七〇
明治四十四年	二、二一九	二、一九〇	四、四〇九	六九〇
大正元年	二、二一〇	二、一九七	四、四〇七	六九五
大正二年	二、三二七	二、三二三	四、六三〇	六九九
大正三年	二、五四四	二、四七六	五、〇二〇	七三九
大正四年	二、四八六	二、四三六	四、九二二	七四九
大正五年	二、四〇三	二、四〇八	四、八一	七五七
大正六年	二、三三二	二、三二三	四、六四五	七五七
大正七年	二、三四一	二、三三二	四、六六三	七六〇
大正八年	二、四一七	二、三五二	四、七六八	七六一
大正九年	二、四三〇	二、三四〇	四、七七〇	七六七
大正十年	二、二二三	二、二四六	四、四六九	七九五
大正十一年	二、二二三	二、二四六	四、四六九	七九五
大正十二年	二、二二三	二、二四六	四、四六九	七九五
大正十三年	二、二二三	二、二四六	四、四六九	七九五

大正九年十月一日執行シタル第二回國勢調査ノ結果ニヨル本村世帯數及人口左ノ如シ

大字名	世帯數	男	女	合計
岡ヶ泉	九五	二六二	二五五	五一七
實ヶ谷	五七	一八〇	一七一	三五二
千駄野	六八	二〇八	二一一	四一九
小久喜	一五八	三六九	三五二	七二一
上野田	一二九	三三三	三七五	七二八
下野田	七二	一九七	一九三	三九〇
爪田ヶ谷	六八	二一一	二二九	四四〇
太田新井	二二三	三七三	三九二	七六五
彦兵衛	二五	七〇	六八	一三八
合計	七九五	二、二二三	二、二四六	四、四六九

第四節 土地

面積ハ官民有地ヲ合セ千六十九町四段五畝十一歩ニシテ南埼玉郡中ニ於テ最モ大ニシテ第一位ヲ占ム
一、官有地(三十町六段九畝九歩)

神社地 一、七二〇八

寺院地 一、〇三二一
官有地 一、九七二七
鐵道用地 一、四七〇六
道路 一三、四七〇三
堤 五、〇四
其他 一〇、五一

合計 三〇、六九〇九

二、民有地(千三十八町七段六畝二歩内免租地二町八畝五歩)

地目	段別	地價	平均	最高	最低
田	二五三、八三二五	一〇五、五六九〇五	四二、五二	六二、二〇	一〇、四四
畑	四九二、一二一九	五七、三一二七六	一一、七三	一九、三三	四、九一
宅地	一八九、四八三	四九、七八〇一七	二六、二九	六〇、〇〇	二四、〇〇
山林	一八二、七三二〇	五、〇五七〇八	二七七	四〇〇	二〇〇
原野	四四、三三一九	一、三六四八五	三〇四	四〇〇	五〇
雜種地	〇、四八一	三一四	六四	一〇〇	五〇
合計	一、〇三六、六七二七	三九、〇八七〇五			

三、土地所有狀況

地目	本村人ノ所有地		計	他市町村人ノ本村 内ニ於ケル所有地	
	本村 内ニテ	他町村 内ニテ		本村 内ニテ	他町村 内ニテ
田	二二〇、六八二四	二二、六三二一	二四三、三二〇七	三三、一四二一	
畑	四三七、〇二二五	一一、八六〇五	四四八、八九〇〇	五五、〇九二四	
宅地	六〇、六三二五	一一、二五一〇	六一、九四三五	二、五二〇八	
山地	一四九、八五二二	一七、七六一八	一六七、六二一〇	三二、八七二八	
原野	三三、二二二八	〇	三三、二二二八	一一、一一二二	
雑種地	〇、四八一	〇	〇、四八一		
合計	九〇一、九一一五	五三、六一一六	九五五、五三〇一	一三四、七六一二	

四、田畑及林野所有者

田畑	野林		合計
	無シ	五段未満	
一五町段未満	二二	七四	一〇三
五段未満	三四	一四九	四七九
無シ	四八	一	四九
五段以上	一町未満	二町以上	
二町未満	三町以上	五町以上	
十町未満	十町以上		

五、土地ノ異動狀況

(イ) 本村人ガ本村内ノ他町村人所有土地ヲ買入レタル反別

地目	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
田	二、三二〇歩	二、八一八	一、九〇九	二、七〇九	五、九〇二	〇、七〇八
畑	一五、二二七	一〇、八一九	一、九〇九	一〇、七二〇	二、九二九	一七、六二三
山地	八、九〇七	六、一二九		〇、五二七	〇、三二二	五、三二二
原野	〇、九二七	三、三二五	一、九〇九	三、七〇二	一、二二五	二五、二一〇
宅地	二七、五一	二二、二二一	三	一七、七〇八	一〇、四二九	二五、二一〇
合計	一九	一四	三	一〇	一〇	八

(ロ) 本村人ガ本村内所有地ヲ他町村人ニ買渡シタル反別

地目	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
田	一、六二五 ^反	二、〇二一	四、二二七	七、四一一	一、二二〇	七、七七一
畑	六、八〇〇	九、四一三	四、四一六	三、八〇六	三、八〇二	二、一二〇
山	三、四一四		六、三〇九	一〇、二〇八	二、八二〇	四、五二五
原	〇、五〇一				一、〇〇四	
宅	二、三〇三			〇、七〇一	二、五二九	一、三〇九
合	一四、七二三	一一、五〇四	一五、〇一二	二二、一二六	一一、五一五	一五、八一
件	九	五	六	一五	一一	一一

(ハ) 本村人本村内所有土地買賣反別

地目	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
田	一八、〇一五 ^反	六、八一七	九、〇二四	二五、四二〇	一二、七〇五	五〇、三〇二
畑	五八、五〇七	四二、八〇一	二四、〇〇七	三二、六二四	二九、二〇三	五九、四二〇
山	一三、八二一	一五、〇二八	九、七二三	五、九〇五	七、九一七	二、八〇八
原	〇、六二二			〇、七二二	一、三二四	
野						
林						

第二章 村制度

第一節 村條例及規程

一、基本財産蓄積條例

第一條 本村ハ本條例ノ規定ニ依リ毎年度基本財産ヲ蓄積ス

第二條 町村制第八十一條第二項ニ掲クルモノ、外左ノ收入ハ基本財産トシテ蓄積ス

一、基本財産ヨリ生スル收入

二、歳計剩餘金

三、戸籍法ニヨリ收入スル手数料

四、村條例ニ依リ收入スル證明閲覧手数料

五、不用品拂下代金

第三條 前條ノ外村費ヨリ毎年度金二十五圓以上ヲ基本財産トシテ蓄積スルモノトス

第四條 公債ヲ起ス場合ニ於テハ村會ノ議決ヲ以テ其償還ヲ了スル迄ノ間第二條第二號乃至第五號及
ヒ第三條ノ蓄積ヲ停止シ又ハ蓄積額ヲ減少スルコトアルヘシ非常災害若クハ事變ニ遭遇シタルトキ
ハ前項ノ例ニ依ル

第五條 基本財産蓄積ニ關スル費用ハ村費ヨリ之ヲ支辨ス

第六條 基本財産ノ收入支出精算ノ要領ハ每翌年度ニ於テ之ヲ村内ニ公告スヘシ

第七條 基本財産トシテ蓄積スヘキモノハ總テ豫算ニ編入スヘシ

第八條 本條例ハ明治四十四年度ヨリ施行ス

二、手数料條例

第一條 本村ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ特ニ一個人ノ爲メニ要スル一事件ニ對シ手数料ヲ徵收ス
但シ法律命令ニ依リ取扱フモノハ此限リニアラス

第二條 手数料ヲ徵收スヘキ事件ノ種類及ヒ金額左ノ如シ

- | | |
|---------------------------|------------|
| 一、地租、營業稅、所得稅、其他租稅公課ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 二、土地、建物、船車、牛馬、其他動產ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 三、資産ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 四、礦業ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 五、營業職業ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |

- | | |
|-------------------------|------------|
| 六、法人ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 七、本籍、住所、居所ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 八、族稱、身分、氏名、年齡ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 九、身元ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十、品行經歷ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十一、在學修學ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十二、兵役ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十三、身代限リ、家資分散、破産ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十四、刑罰、懲戒處分ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十五、褒賞ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十六、生存、不在、失踪ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十七、出產、死亡、死產、結婚、相續ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十八、家族、親族、隣佑ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 十九、親權者、後見人ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 二十、面識ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 二十一、諸資格ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |
| 二十二、雇人ニ關スル證明 | 一件ニ付 金 拾 錢 |

- 二十三、財産管理人、破産管財人ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十四、納税代人ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十五、種痘ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十六、旅行ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十七、印鑑ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十八、里程ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十九、航路航海ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十、社寺宗教ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十一、埋火葬ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十二、土地、其他被害ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十三、公權、能力ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十四、漂流物、沈沒品ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十五、文書受理ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十六、公簿、公文書、圖面ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十七、徵收傳令書、徵稅令書、納入告知書ノ再交付 一件ニ付 金拾錢
 - 三十八、公簿、公文書、圖面、印鑑ノ閱覽照合 一件ニ付 金五錢
- 但、公簿、公文書ノ閱覽ハ公衆ノ閱覽ニ供シ差支ナキモノニ限ル

三十九、公簿、公文書、圖面ノ謄本、抄本ノ交付 一件ニ付 金拾錢

土地、建物中土地ハ三筆建物ハ三棟迄ヲ一件トシ以上一筆又ハ一棟ヲ増ス毎ニ金參錢ヲ加フ

謄本、抄本ハ紙數一枚ヲ以テ一件トシ一枚ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ

第三條 前條第一項第三號乃至第三十六號中ノ事項ヲ一括シテ一通ノ證明書ヲ作成スル場合ニハ紙數

一枚ヲ以テ一件トシ金拾錢ヲ收入シ以上一枚ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ

第四條 手數料ハ申請ノトキ之ヲ徵收ス

手數料ノ納付後申請事項ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スモ既納ノ手數料ハ還付セス

第五條 手數料ハ左ノ事項ニ該當スルモノニ限り之ヲ徵收セス

一、現ニ公費ヲ以テ救助ヲ受ケ居ル者若クハ救助ヲ受クルニ要スル者

二、村長ニ於テ納付ノ資力ナシト認ムル者

三、鑛山主ノ求メニ依ル鑛夫ノ兵役ニ關スル證明

四、法規、簿冊、官報、縣報、及諸願届伺書ノ書式ノ閱覽

附 則

第六條 本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三、公告式條例

第一條 本村ノ條例又ハ規則ハ揭示場ニ揭示スルヲ以テ公告式トス

第二條 條例又ハ規則以外ノ規程或ハ處分ニシテ公告ヲ要シ若クハ要スヘキモノト認メタルトキ亦之

ヲ揭示ス

第三條 揭示場ハ本村役場前トス

第四條 條例又ハ規則ハ揭示ノ日ヨリ五日ヲ經テ施行ス

但シ特ニ施行期限ヲ定メタルモノハ此ノ限リニアラズ

第五條 公告ハ總テ揭示ノ年月日ヲ記入シ村長之ニ署名ス

村長故障アル場合ニ於テハ其ノ代理者之ニ署名ス

附 則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四、有給吏員退隱料條例

第一條 本村有給吏員ハ此條例ノ規定スル所ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在職滿十年以上ニ至リ退職シタル者ニハ終身退隱料ヲ支給ス

但シ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ此ノ限リニアラス

一、年齡滿六十歳未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキ

二、懲戒裁判ニ依リ解職セラレタルトキ

但シ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ハ此ノ限ニアラス

三、隨時解職シ得ヘキ有給吏員ニシテ不都合ノ所爲アリタルカ爲メ解職セラレタルトキ

四、犯罪ニ依リ失職シタルトキ

五、職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ルモノニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附ス

ヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルカ爲メ解職シタルトキ

但シ後ニ免訴若クハ無罪ノ言渡アリタル場合又ハ有罪宣告アルモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル場合ニ於テハ其裁判確定ノ日ヲ待チ解職ノ當時ニ遡リテ退隱料ヲ支給ス

第三條 前條退隱料年額ハ退職當時ノ給料ト在職年數トニ依リ之ヲ定ム即チ左ノ如シ

一、在職滿十年以上十二年滿滿ノトキ

給料年額五分ノ一

二、在職滿十二年以上十五年未滿ノトキ

給料年額四分ノ一

三、在職滿十五年以上ノトキ

給料年額四分ノ一、五

第四條 在職中公務ノ爲メ疾病又ハ傷痍ヲ受ケ不具廢疾ト爲リ其職ニ堪ヘスシテ退職シタルモノニハ

在職年數ニ拘ハラス終身退職當時ノ給料年額四分ノ一ニ相當スル退隱料ヲ支給ス

第二條ノ年限間在職シタルモノニシテ前項ノ事由ニ依リ退職シタルトキハ第三條ノ規定ニ照準シタル退隱料年額ニ其ノ四分ノ一ヲ増シタル額ヲ支給ス

第五條 本條例ニ規定セル給料年額ハ月給ノモノハ其ノ十二月分日給ノモノハ其ノ三百六十日分ヲ以テ算出ス

退隱料年額圓位未滿ノ端數ハ圓位ニ滿タシム

第六條 有給吏員ノ在職年數ハ認可又ハ任用ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ルモノトス

前項ノ在職年數ハ一時退職ノ後再ヒ就職シタル者ニアリテハ前後ノ年數ヲ通算ス但シ第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其以前ノ在職年數ヲ通算セサルモノトス

第七條 退職料ヲ受クルモノニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ退職料ヲ受クル權利ヲ失フモヘトス

一、國民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

二、公權ヲ剝奪セラレタルトキ

三、在職ノ犯罪行為ニヨリ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ裁判確定シタルトキ

第八條 退職料ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月又ハ權利喪失ノ前月ヲ以テ終ルモノトス

第九條 退職料ヲ受クルモノニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ退職料ノ支給ヲ停止ス

一、官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキ

二、公權ヲ停止セラレタルトキ

前項ノ停止ハ停止理由ノ生シタル月ヨリ始マリ其終リタル月マテトス

第十條 退職料年額ハ月割ヲ以テ之ヲ計算シ毎年四月七月十月一月ニ於テ其前月マテノ分ヲ支給ス但シ退職料ヲ受クルモノニシテ死亡シ又ハ權利ヲ喪失シタル場合ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

第十一條 退職料ハ賣買讓與質入書入ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 在職滿五年以上八年未滿ニシテ退職シタル者ハ退職現時ノ給料年額五分ノ一ニ當ル金員ヲ給シ其滿八年以上十年未滿ニシテ退職シタル者ハ給料年額三分ノ一ニ當ル金員ヲ給ス但シ第二條第

二號乃至第五號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限リニアラス

第十三條 在職中死亡ノ者在職滿五年以上十年未滿ノトキハ前條ノ例ニ依リ滿十年以上ノトキハ死亡當時ノ給料年額四分ノ二ニ當ル金員ヲ其遺族ニ給ス

附 則

第十四條 第六條ノ在職年數ハ本村造成前町村制第一百六條ニ依リ組織セシ岡泉村外八ヶ村組合在職有給吏員ノ在職年數ヲ通算スルモノトス

第十五條 年齡二十年未滿ノ在職年數ハ第二條第三條ノ年數ニハ計算セサルモノトス

五、督促手數料條例

第一條 村稅其他ノ收入金ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ直ニ督促狀ヲ發布ス其ノ督促狀ニ指定スル期間ハ七日以内トス

第二條 督促狀ヲ發付シタルトキハ督促狀一通毎ニ金十錢ヲ徵收ス

村外ニアル滯納者ニ對シテハ前項ノ外脚夫ヲ以テスル場合ハ其里程ニ應シ一里毎ニ金拾錢郵便ヲ以テスル場合ハ其實費ヲ以テ増手數料トシテ徵收ス

第三條 督促手數料及ビ増手數料ハ滯納金ト同時ニ徵收ス

第四條 督促ヲ受ケ猶其指定期限内ニ滯納金又ハ増手數料ヲ完納セサル時ハ直ニ國稅徵收法ニヨリ徵收ス

附 則

第五條 本條例ハ許可ヲ得テ公告シタル日ヨリ七日ヲ經テ之ヲ施行ス

六、學務委員規定

第一條 本村ニ學務委員六名ヲ置ク

第二條 學務委員ノ任期ハ四ケ年トス

七、日勝村罹災救助資金貯蓄及管理並支出方法規程

第一章 貯蓄

第一條 縣罹災救助基金又ハ郡罹災救助資金ヨリ救助ヲ受クルニ至ラサル災害又ハ其救助ヲ受クル前
後ニ於テ本村內罹災者ノ救助ヲ爲ス爲メ罹災救助資金ヲ貯蓄スルモノトス

第二條 罹災救助資金ハ一ケ年度金五拾圓ノ割合ヲ以テ明治參拾六年度及同四拾貳年度ヨリ同四拾參
年度並大正元年度ヨリ大正七年迄拾ケ年度ニ金五百圓ヲ積立ツルモノトス但シ經濟上餘裕アル場合
ニ於テハ一ケ年度ノ積立額ヲ増加シ其年限ヲ短縮シ非常災害若クハ事變ニ遭遇シ又ハ起債ヲ爲シ其
償還ヲ了セサルノ間ハ一ケ年度ノ積立額ヲ減少シ又ハ積立ヲ停止スルコトアルヘシ
前項但書ニ依リ積立ヲ停止シタル場合ハ其數ニ應ジ積立年數ヲ延長シ積立額ヲ減少シタル場合ハ平
時一ケ年度積立額ノ割合ヲ以テ其年限ヲ延長ス

第三條 前條ノ外左ノ收入ハ罹災救助資金ニ編入スルモノトス

一、罹災救助資金ヨリ生スル收入

二、罹災救助資金トシテ收入スル寄贈金

明治三十九年	二、一七一	二、〇九五	四、二六六	六三三
明治四十年	二、一九七	二、一一六	四、三三三	六三三
明治四十一年	二、一八三	二、〇七一	四、三九九	六三五
明治四十二年	二、一六二	二、一四五	四、二九八	六六六
明治四十三年	二、一六二	二、一四五	四、三〇七	六七〇
明治四十四年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
明治四十五年 (大正元年)	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正二年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正三年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正四年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正五年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正六年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正七年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正八年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正九年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正十年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正十一年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正十二年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八
大正十三年	二、一六二	二、一四五	四、三二七	六八八

大正九年十月一日執行シタル第一回國勢調査ノ結果ニヨル本村世帯數及人口左ノ如シ

大字名	世帯數	男	女	合計
岡 泉	九五	二六二	二五五	五一七
實 谷	五七	一八〇	一七一	三五二
千 野	六八	二〇八	二二一	四一九
小 喜	一五八	三六九	三五二	七二一
上 野	一二九	三三三	三七五	七二八
下 野	七二	一九七	一九三	三九〇
爪 田	六八	二二一	二二九	四四〇
太 田	一二三	三七三	三九二	七六五
彦 兵衛	二五	七〇	六八	一三八
合 計	七九五	二、二二三	二、二四六	四、四六九

第四節 土地

面積ハ官民有地ヲ合セ七千六百九十九町四段五畝十一歩ニシテ南埼玉郡中ニ於テ最モ大ニシテ第一位ヲ占ム
一、官有地(三十町六段九畝九歩)
神社地 一、七二〇八

寺院地 一、〇三一一
官有地 一、九七二七
鐵道用地 一、四七〇六
道路 一三、四七〇三
堤 五、〇四
其他 一〇、五一一
合計 三〇、六九〇九

二、民有地(千三十八町七段六畝二歩内免租地二町八畝五歩)

地 目	段 別	地 價	平 均	最 高	最 低
田	二五三、八三二五	一〇五、五六九〇五	四二・五二	六二・二〇	一〇・四四
畑	四九二、一二二九	五七、三一二七六	一一・七三	一九・三三	四・九一
宅 地	一八九、四八三	四九、七八〇・一七	二六・二九	六〇・〇〇	一四・〇〇
山 林	一八二、七三二〇	五、〇五七〇八	二・七七	四・〇〇	二・〇〇
原 野	四四、三三二九	一、三六四八五	三・〇四	四・〇〇	五・〇〇
雜 種	〇、四八一	三・一四	六四	一・〇〇	五・〇〇
合 計	一、〇三六、六七二七	三九、〇八七〇五			

三、土地所有状況

地目	本村人ノ所有地		他市町村人ノ本村 内ニ於ケル所有地
	本村 内ニテ	他町村 内ニテ	計
田	二二〇、六八二・四	二二、六三三・三	二四三、三二〇・七
畑	四三七、〇二二・五	一一、八六〇・五	四四八、八八三・〇
宅地	六〇、六三二・五	一、二五二・〇	六一、九八四・五
山林	一四九、八五二・三	一七、七六八・八	一六七、六二一・〇
原野	三三、二二二・八	〇	三三、二二二・八
雑種地	〇、四八一・一	〇	〇、四八一・一
合計	九〇一、九一一・五	五三、六一一・六	九五五、五三〇・一

四、田畑及林野所有者

田畑 野林	無シ					合 計
	五 段 未 満	五 段 未 満	五 段 未 満	五 段 未 満	五 段 未 満	
田	一五 町段 未 満	三二 四	七 四	〇	〇	一〇三
畑	五 段 未 満	一四 九	二	〇	〇	四七九
野林	無 シ	四 八	一	〇	〇	四九

合 計	二 一 三 三 五 三 三 三 三 二									
	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満	町 段 未 満
田	三 五 三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七
畑	三 三 六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四二
山林	五 三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一四
原野	二 〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三
雑種地	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一
合計	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	六六

五、土地ノ異動状況

(イ) 本村人ガ本村内ノ他町村人所有土地ヲ買入レタル反別

地目	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
田	二、三三〇・歩	二、八一八	一、九〇九	二、七〇九	五、九〇二	〇、七〇八
畑	一五、三二七	一〇、八一八	一、九〇九	一〇、七二〇	二、九二九	一七、六二二
山林	八、九〇七	六、一三九	〇、五二七	〇、五二七	〇、三二二	五、二二二
原野	〇、九二七	三、三二五	一、九〇九	三、七〇二	一、二二五	一、五二七
宅地	二七、五一一	二、三二一	一、九〇九	一、七〇八	一〇、四二九	二五、二一〇
合計	一九	一四	三	一〇	一〇	八

(ロ) 本村人ガ本村内所有地ヲ他町村人ニ買渡シタル反別

地目	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
田	一六二五 ^反	二〇二一	四二二七	七四二一	一、二二〇	七、七二七
畑	六、八〇〇	九、四一三	四四二六	三、八〇六	三、八〇二	二、一二〇
山	三、四一四		六、三〇九	一〇、二〇八	二、八二〇	四、五二五
原	〇、五〇一				一、〇〇四	
宅地	二、三〇三			〇、七〇一	二、五二九	一、三〇九
合計	一四、七二三	一一、五〇四	一五、〇二二	二二、一二六	一一、五一五	一五、八一
件数	九	五	六	一五	一一	一一

(ハ) 本村人本村内所有土地買賣反別

地目	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
田	一八、〇一五 ^反	六、八一七	九、〇二四	二五、四二〇	一一、七〇五	五〇、三〇二
畑	五八、五〇七	四二、八〇一	二四、〇〇七	三二、六二四	二九、二〇三	五九、四二〇
山	一三、八二一	一五、〇二八	九、七二三	五、九〇五	七、九一七	二、八〇八
原	〇、六二二			〇、七一二	一、三二四	
野林						

第二章 村制度

第一節 村條例及規程

一、基本財産蓄積條例

第一條 本村ハ本條例ノ規定ニ依リ毎年度基本財産ヲ蓄積ス

第二條 町村制第八十一條第二項ニ掲クルモノ、外左ノ收入ハ基本財産トシテ蓄積ス

一、基本財産ヨリ生スル收入

二、歳計剩餘金

三、戸籍法ニヨリ收入スル手数料

四、村條例ニ依リ收入スル證明閲覧手数料

五、不用品拂下代金

第三條 前條ノ外村費ヨリ毎年度金二十五圓以上ヲ基本財産トシテ蓄積スルモノトス

第四條 公債ヲ起ス場合ニ於テハ村會ノ議決ヲ以テ其償還ヲ了スル迄ノ間第二條第二號乃至第五號及

ヒ第三條ノ蓄積ヲ停止シ又ハ蓄積額ヲ減少スルコトアルヘシ非常災害若クハ事變ニ遭遇シタルトキ

ハ前項ノ例ニ依ル

第五條 基本財産蓄積ニ關スル費用ハ村費ヨリ之ヲ支辨ス

第六條 基本財産ノ收入支出精算ノ要領ハ每翌年度ニ於テ之ヲ村内ニ公告スヘシ

第七條 基本財産トシテ蓄積スヘキモノハ總テ豫算ニ編入スヘシ

第八條 本條例ハ明治四十四年度ヨリ施行ス

二、手数料條例

第一條 本村ハ本條例ノ定ムル所ニ依リ特ニ一個人ノ爲メニ要スル一事件ニ對シ手数料ヲ徵收ス

但シ法律命令ニ依リ取扱フモノハ此限リニアラス

第二條 手数料ヲ徵收スヘキ事件ノ種類及ヒ金額左ノ如シ

一、地租、營業稅、所得稅、其他租稅公課ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

二、土地、建物、船車、牛馬、其他動産ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

三、資産ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

四、鑛業ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

五、營業職業ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

六、法人ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

七、本籍、住所、居所ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

八、族稱、身分、氏名、年齡ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

九、身元ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十、品行經歷ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十一、在學修學ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十二、兵役ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十三、身代限り、家資分散、破産ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十四、刑罰、懲戒處分ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十五、褒賞ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十六、生存、不在、失踪ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十七、出產、死亡、死産、結婚、相續ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十八、家族、親族、隣佑ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

十九、親權者、後見人ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

二十、面識ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

二十一、諸資格ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

二十二、雇人ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢

- 二十三、財産管理人、破産管財人ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十四、納税代人ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十五、種痘ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十六、旅行ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十七、印鑑ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十八、里程ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 二十九、航路航海ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十、社寺宗教ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十一、埋火葬ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十二、土地、其他被害ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十三、公權、能力ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十四、漂流物、沈没品ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十五、文書受理ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十六、公簿、公文書、圖面ニ關スル證明 一件ニ付 金拾錢
 - 三十七、徵收傳令書、徵稅令書、納入告知書ノ再交付 一件ニ付 金拾錢
 - 三十八、公簿、公文書、圖面、印鑑ノ閱覽照合 一件ニ付 金五錢
- 但、公簿、公文書ノ閱覽ハ公衆ノ閱覽ニ供シ差支ナキモノニ限ル

三十九、公簿、公文書、圖面ノ謄本、抄本ノ交付 一件ニ付 金拾錢

土地、建物中土地ハ三筆建物ハ三棟迄ヲ一件トシ以上一筆又ハ一棟ヲ増ス毎ニ金參錢ヲ加フ

謄本、抄本ハ紙數一枚ヲ以テ一件トシ一枚ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ

第三條 前條第一項第三號乃至第三十六號中ノ事項ヲ一括シテ一通ノ證明書ヲ作成スル場合ニハ紙數一枚ヲ以テ一件トシ金拾錢ヲ收入シ以上一枚ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ

第四條 手數料ハ申請ノトキ之ヲ徵收ス

手數料ノ納付後申請事項ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スモ既納ノ手數料ハ還付セス

第五條 手數料ハ左ノ事項ニ該當スルモノニ限り之ヲ徵收セス

一、現ニ公費ヲ以テ救助ヲ受ケ居ル者若クハ救助ヲ受クルニ要スル者

二、村長ニ於テ納付ノ資力ナシト認ムル者

三、鑛山主ノ求メニ依ル鑛夫ノ兵役ニ關スル證明

四、法規、簿冊、官報、縣報、及諸願届伺書ノ書式ノ閱覽

附 則

第六條 本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三、公告式條例

第一條 本村ノ條例又ハ規則ハ揭示場ニ揭示スルヲ以テ公告式トス

第二條 條例又ハ規則以外ノ規程或ハ處分ニシテ公告ヲ要シ若クハ要スヘキモノト認メタルトキ亦之

ヲ揭示ス

第三條 揭示場ハ本村役場前トス

第四條 條例又ハ規則ハ揭示ノ日ヨリ五日ヲ經テ施行ス

但シ特ニ施行期限ヲ定メタルモノハ此ノ限リニアラズ

第五條 公告ハ總テ揭示ノ年月日ヲ記入シ村長之ニ署名ス

村長故障アル場合ニ於テハ其ノ代理者之ニ署名ス

附 則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四、有給吏員退隱料條例

第一條 本村有給吏員ハ此條例ノ規定スル所ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在職滿十年以上ニ至リ退職シタル者ニハ終身退隱料ヲ支給ス

但シ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ此ノ限リニアラス

一、年齡滿六十歳未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキ

二、懲戒裁判ニ依リ解職セラレタルトキ

但シ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ハ此ノ限ニアラス

三、隨時解職シ得ヘキ有給吏員ニシテ不都合ノ所爲アリタルカ爲メ解職セラレタルトキ

四、犯罪ニ依リ失職シタルトキ

五、職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ルモノニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附ス

ハキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルカ爲メ解職シタルトキ

但シ後ニ免訴若クハ無罪ノ言渡アリタル場合又ハ有罪宣告アルモ禁錮以上ノ刑ニ該ラサル場合ニ於テハ其裁判確定ノ日ヲ待テ解職ノ當時ニ遡リテ退隱料ヲ支給ス

合ニ於テハ其裁判確定ノ日ヲ待テ解職ノ當時ニ遡リテ退隱料ヲ支給ス

第三條 前條退隱料年額ハ退職當時ノ給料ト在職年數トニ依リ之ヲ定ム即チ左ノ如シ

一、在職滿十年以上十二年滿滿ノトキ 給料年額五分ノ一

二、在職滿十二年以上十五年未滿ノトキ 給料年額四分ノ一

三、在職滿十五年以上ノトキ 給料年額四分ノ一、五

第四條 在職中公務ノ爲メ疾病又ハ傷痍ヲ受ケ不具廢疾ト爲リ其職ニ堪ヘスシテ退職シタルモノニハ

在職年數ニ拘ハラス終身退職當時ノ給料年額四分ノ一ニ相當スル退隱料ヲ支給ス

第二條ノ年限間在職シタルモノニシテ前項ノ事由ニ依リ退職シタルトキハ第三條ノ規定ニ照準シタル退隱料年額ニ其ノ四分ノ一ヲ増シタル額ヲ支給ス

第五條 本條例ニ規定セル給料年額ハ月給ノモノハ其ノ十二月分日給ノモノハ其ノ三百六十日分ヲ以テ算出ス

第六條 有給吏員ノ在職年數ハ認可又ハ任用ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ルモノトス

前項ノ在職年數ハ一時退職ノ後再ヒ就職シタル者ニアリテハ前後ノ年數ヲ通算ス但シ第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其以前ノ在職年數ヲ通算セサルモノトス

第七條 退職料ヲ受クルモノニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ退職料ヲ受クル權利ヲ失フモヘトス

一、國民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

二、公權ヲ剝奪セラレタルトキ

三、在職ノ犯罪行為ニヨリ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ裁判確定シタルトキ

第八條 退職料ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月又ハ權利喪失ノ前月ヲ以テ終ルモノトス

第九條 退職料ヲ受クルモノニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ退職料ノ支給ヲ停止ス

一、官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキ

二、公權ヲ停止セラレタルトキ

前項ノ停止ハ停止理由ノ生シタル月ヨリ始マリ其終リタル月マテトス

第十條 退職料年額ハ月割ヲ以テ之ヲ計算シ毎年四月七月十月一月ニ於テ其前月マテノ分ヲ支給ス但シ退職料ヲ受クルモノニシテ死亡シ又ハ權利ヲ喪失シタル場合ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

第十一條 退職料ハ賣買讓與質入書入ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 在職滿五年以上八年未滿ニシテ退職シタル者ハ退職現時ノ給料年額五分ノ一ニ當ル金員ヲ給シ其滿八年以上十年未滿ニシテ退職シタル者ハ給料年額三分ノ一ニ當ル金員ヲ給ス但シ第二條第

二號乃至第五號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限リニアラス

第十三條 在職中死亡ノ者在職滿五年以上十年未滿ノトキハ前條ノ例ニ依リ滿十年以上ノトキハ死亡當時ノ給料年額四分ノ二ニ當ル金員ヲ其遺族ニ給ス

附 則

第十四條 第六條ノ在職年數ハ本村造成前町村制第十六條ニ依リ組織セシ岡泉村外八ヶ村組合在職有給吏員ノ在職年數ヲ通算スルモノトス

第十五條 年齢二十年未滿ノ在職年數ハ第二條第三條ノ年數ニハ計算セサルモノトス

五、督促手數料條例

第一條 村税其他ノ收入金ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ直ニ督促狀ヲ發布ス其ノ督促狀ニ指定スル期間ハ七日以内トス

第二條 督促狀ヲ發付シタルトキハ督促狀一通毎ニ金十錢ヲ徴收ス

村外ニアル滯納者ニ對シテハ前項ノ外脚夫ヲ以テスル場合ハ其里程ニ應シ一里毎ニ金拾錢郵便ヲ以テスル場合ハ其實費ヲ以テ増手數料トシテ徴收ス

第三條 督促手數料及ビ増手數料ハ滯納金ト同時ニ徴收ス

第四條 督促ヲ受ケ猶其指定期限内ニ滯納金又ハ増手數料ヲ完納セサル時ハ直ニ國稅徵收法ニヨリ徴收ス

附 則

第五條 本條例ハ許可ヲ得テ公告シタル日ヨリ七日ヲ經テ之ヲ施行ス

六、學務委員規定

第一條 本村ニ學務委員六名ヲ置ク

第二條 學務委員ノ任期ハ四ヶ年トス

七、日勝村罹災救助資金貯蓄及管理並支出方法規程

第二章 貯蓄

第一條 縣罹災救助基金又ハ郡罹災救助資金ヨリ救助ヲ受クルニ至ラサル災害又ハ其救助ヲ受クル前後ニ於テ本村內罹災者ノ救助ヲ爲ス爲メ罹災救助資金ヲ貯蓄スルモノトス

第二條 罹災救助資金ハ一ヶ年度金五拾圓ノ割合ヲ以テ明治參拾六年度及同四拾貳年度ヨリ同四拾參年度並大正元年度ヨリ大正七年迄拾ヶ年度ニ金五百圓ヲ積立ツルモノトス但シ經濟上餘裕アル場合ニ於テハ一ヶ年度ノ積立額ヲ増加シ其年限ヲ短縮シ非常災害若クハ事變ニ遭遇シ又ハ起債ヲ爲シ其償還ヲ了セサルノ間ハ一ヶ年度ノ積立額ヲ減少シ又ハ積立ヲ停止スルコトアルヘシ

前項但書ニ依リ積立ヲ停止シタル場合ハ其數ニ應ジ積立年數ヲ延長シ積立額ヲ減少シタル場合ハ平時一ヶ年度積立額ノ割合ヲ以テ其年限ヲ延長ス

第三條 前條ノ外左ノ收入ハ罹災救助資金ニ編入スルモノトス

一、罹災救助資金ヨリ生スル收入
二、罹災救助資金トシテ收入スル寄贈金

第四條 救助施行ノ爲メ多額ノ支出ヲ要シ罹災救助資金ノ貯蓄高第二條ノ額ヲ下リタルトキハ村税又ハ其他ノ收入ヲ以テ其不足額ヲ補充スルモノトス
第二條ノ貯蓄期間ニ於テ積立元資ヲ支出シタルトキハ前項ノ例ニ依ル但資金ヨリ生シタル收入金ニシテ元資ニ編入シタルモノノ支出ハ之ヲ補充セサルコトヲ得

第一章 管理

第五條 罹災救助資金ハ甲種國債登錄トシ若クハ國債證券、勸業債券、地方債券、日本興業銀行債券、北海道拓殖銀行債券ヲ購入ス但救助準備トシテ金壹百圓未滿ニ限り郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預金スルモノトス

證券、債券ハ郵便官署ニ預入ス但記名證券債券等ニシテ郵便官署ニ預入シ難キモノハ確實ナル銀行ニ保護預トス

第六條 救助施行上多額ノ費用ヲ要シ郵便貯金又ハ銀行預金ヲ以テ支辨シ難キトキハ證券又ハ債券ヲ賣却シテ其支出ニ充ツ

第七條 非常災害ニ因リ本村課税減縮ノ爲歲計ヲ維持スルコト能ハサルトキ又ハ多額ノ村費ヲ要シ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り郡長ノ許可ヲ受ケ十箇年以内ノ期限ヲ以テ利付積戻方法ヲ定メ其村費ニ充用スルコトヲ得但前五ヶ年度間ノ救助費平均額ノ二十倍ニ相當スル資金ハ之ヲ充用スルコトヲ得ス

第三章 支出方法

第八條 救助ノ爲メ罹災救助資金ヲ支出スヘキ費目左ノ如シ

- 一、避難所費
- 二、食料費
- 三、被服費
- 四、治療費
- 五、小屋掛費
- 六、就業費
- 七、學用品
- 八、運搬用具費
- 九、人夫賃金

第九條 避難所費ハ罹災者其住家ニ起臥シ難キ事實アリト認ムル場合ニ限リ必要ナル避難所ヲ設置スル爲メ支出スルモノトス

第十條 食料費ハ罹災者自ラ炊爨ヲ爲スコト能ハサルカ又ハ食料品ヲ自辨スルニ由ナキ事實アルト認ムル場合ニ限リ焚出シ又ハ焚出ニ代ヘ必要ナル食品ヲ給與支給スルモノトス

焚出又ハ食品ハ一人一日白米三合ノ割合ヲ以テ之ヲ給與シ尙一人一日價格參錢以内ニ於テ鹽、味噌、漬物ノ内一品ヲ加給ス

焚出ノ給與ハ二日トシ食品ノ給與ハ十日以内トス但シ焚出ノ給與ヲ受ケタルモノニシテ尙食品ノ給與ヲ要スルトキハ焚出給與ノ日數ヲ併算シテ十日ヲ超エサルモノトス

第十二條 被服費ハ罹災者之ヲ自辨スルコト能ハサル事實アリト認ムル場合ニ限リ左ノ標準ニ依リ罹

災當時必要ノ時服ヲ給與スル爲メ支出スルモノトス

一、單衣 一人一枚價格一圓二十錢以内

二、衾衣 一人一枚價格一圓八十錢以内

第十二條 治療費ハ罹災者自ラ傷痍疾病ヲ治療シ難キ事實アリト認ムル場合ニ限リ左ノ標準ニ依リ支

出スルモノトス

一、醫師診察料、手術料、旅費、日當、宿泊料

診察料 一度 三十五錢以内

手術料 一度 實費

旅費 車馬賃一里 二十七錢以内
汽車賃一哩 四錢以内

日當 一日 一圓二十錢以内

宿泊料 一夜 二圓以内

二、藥價及療養ニ關スル諸費

藥價 一日 十五錢以内

看護人 一人一日晝夜共六十錢以内

入院料 一日 下等實費

治療所借家料 一日 六十錢以内

療養ニ關スル必要品費 實費

但必要品ハ之ヲ給與シ又ハ貸與スルコトアルヘシ
治療ヲ爲スノ日數ハ七日以内トス但傷病者ノ狀況ニヨリ尙十日以内ニ於テ其日數ヲ延長スルコトヲ得

第十三條 小屋掛費ハ災害ニ因リ家屋ヲ亡失シ又ハ潰倒セラレタル爲メ自ラ小屋掛ヲ爲スコト能ハサル事實アリト認ムル場合ニ限リ左ノ標準ニヨリ小屋掛ヲ爲シ又ハ其材料ヲ給與スル爲メ支出スルモノトス但小屋掛ハ亡失ノ場合材料ハ潰倒ノ場合ニ給與スルモノトス

一、小屋掛 一戸 十五圓以内

一、小屋掛材料 一戸 八圓以内

小屋掛ハ災害ノ狀況ニヨリ數家ヲ合シテ之ヲ設クルコトアルヘシ

第十四條 就業費ハ價格僅少ナル資料又ハ器具ニ依頼シ業務ニ従事スルモノニシテ罹災ノ爲メ就業ニ必要缺クヘカラサル資料又ハ器具ヲ亡失シ自辨スルコト能ハサル事實アリト認ムル場合ニ限リ其價格ヲ合セ十二圓ヲ超エサル現品ヲ給與スル爲メ支出スルモノトス
前項ニヨリ資料又ハ器具ヲ給與セル場合ニ於テ一家内ニ從業者數人アルトキハ主タル從業者ニ對シ救助スルモノトス

但シ生計ヲ異ニスルモノハ此限ニ在ラス

第十五條 學用品費ハ尋常小學校兒童ニシテ罹災ノ爲メ就學ニ必要ナル教科書又ハ文房具ヲ自辨スル

コト能ハサル事實アリト認ムルモノニ限リ其實費ヲ支出スルモノトス

第十六條 運搬用具費ハ罹災救助ノ爲メ必要ナル舟、車、馬其他ノ運搬用器借入ニ要スル費用ヲ左ノ標準ニヨリ支出スルモノトス

一、舟借料舟夫付一艘一晝夜

一、舟借料舟夫付一艘一晝夜 三圓以内

一、荷馬車借料馬丁付一輛一晝夜 四圓内外

一、駄馬借料輓夫付一輛一晝夜 二圓五十錢以内

一、荷車借料輓夫付一輛一晝夜 二圓五十錢以内

一、其他 實費

第十七條 人夫賃金ハ災害ノ際罹災救助ノ爲メ必要ナル場合限ニリ左ノ標準ニヨリ其傭入費用ヲ支出スルモノトス

一、人夫賃 一人一晝夜金 一圓五十錢以内

第十八條 焚出ニアラサル食品、被服、小屋掛、就業及學用品ニ關スル救助ハ代金ヲ以テ給與スルコトヲ得

第十九條 罹災救助資金ヲ受ケントスル者ハ罹災ノ時ヨリ二日以内ニ村長ニ出願スルモノトス

第二十條 前條ノ出願アリタルトキハ村長ハ直ニ現場ニ臨ミ其實地及事實ノ調査ヲ遂ケ救助ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ前條ノ制限額以内ニ於テ救助ヲ施行スルモノトス

第二十一條 炊出及食品ハ下等白米ヲ以テ之ヲ給與スルモノトス、但下等白米ヲ以テ給與シ能ハサル

場合ハ此ノ限リニアラス

第二十二條 傷病者ニ對シテハ時々診察ヲ爲サシムルモノトス

第二十三條 傷病者ノ治療ヲ爲ストキハ戸主又ハ其家族ヲ立會ハシメ役場吏員立會ヲ爲スモノトス

傷病者治療中ハ村長又ハ其他ノ役場吏員ニ於テ時々視察ヲ爲スモノトス

第二十四條 食品、被服、小屋掛、材料、資料、器具、學用品、ハ之ヲ罹災者ニ給與シ受取證書ヲ徴スルモノトス

第二十五條

物件ノ買入ヲ爲ストキハ便宜ノ地ニヨリ少ナクトモ二三ノ商店ヨリ價格見積書ヲ徴シ最低價格ノ者ヨリ購入スルモノトス、但シ本文ニ依ルノ暇ナキトキ又ハ特ニ其商店ニ限ル場合ハ此ノ限リニ在ラス

焚出米ハ急迫ノ場合ニアリテハ特ニ商店ニアサル者ヨリ買入ヲ爲スコトヲ得

但シ其價格ハ時價ニ依ルモノトス

第二十六條 給與品ノ運搬其他救助ノ爲メ要スル雜費ハ各條ノ制限額以內ニ於テ支出スルモノトス

補 則

第二十七條 本規定ニ依リ賣買、貸借ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第二十八條 救助ノ爲メ買入レタル物件ニテ不用ニ屬シタルトキハ之ヲ賣却シ雜收入ニ收入ス

第二十九條 本資金ハ特別會計ヲ以テ整理スルモノトス

八、日勝村會傍聽人取締規則

第一條 會議ノ傍聽ヲ爲サントスル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ

傍聽人員ハ百人ヲ限リトス

第二條 議員傍聽人ヲ紹介スルトキハ其氏名ヲ議長ニ通告スヘシ

第三條 傍聽人ハ受付掛ノ指揮ニ從ヒ著席スヘシ

第四條 傍聽席ニ於テハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、會議ニ對シ公然可否ヲ表ハシ又ハ喧騒ニ涉リ其他會議ノ妨害ヲ爲スヘカラス

二、會議中濫リニ傍聽席ヲ離ルヘカラス

三、私語又ハ飲食喫煙スヘカラス

四、帽子、襟卷又ハ外套ヲ着スル等不敬ノ所爲ヲ爲スヘカラス

五、傘杖ノ類ヲ携帶スヘカラス

六、一定ノ出入口ノ外出入スヘカラス

第五條 武器、兇器、其他危險ノ虞レアル物品ヲ携帶シタルモノ及酔酩シタルモノハ傍聽ヲ許サス

第六條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議席ニ入ルコトヲ得ス

第七條 議場内ニ於テ議員ニ文書物品ノ類ヲ差出サントスルモノハ受付掛ニ差出シ届ケ方ヲ請フヘシ

傍聽人自ラ差出スコトヲ得ス

議場内ニ於テ議員ニ面會ヲ求メントスルモノハ受付掛ニ申出指揮ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ速ニ退場スヘシ

第二章 村制度

三九

一、傍聴ヲ禁シタルトキ

二、退場ヲ命セラレタルトキ

第九條 前各條ノ外掛員ヨリ指揮スルコトアラハ其指揮ニ從フヘシ

九、日勝村學校基本財産蓄積規程

第一條 本村ハ本規程ニ依リ毎年度基本財産ヲ蓄積ス

第二條 左記各號ノ收入ハ學校基本財産ニ編入スルモノトス

一、學校基本財産ヨリ生スル收入

二、學校基本財産トシテ收入スル寄贈金

第三條 公債ヲ起ス場合又ハ非常災害ニ遭遇シタル場合ニ於テハ村會ノ決議ヲ以テ蓄積ヲ停止スルコトヲ得

第四條 基本財産ノ收支精算ノ要領ハ每翌年度ニ於テ之ヲ村内ニ公告スルモノトス

第五條 基本財産トシテ蓄積スルモノハ總テ豫算ニ編入スルモノトス

附 則

第六條 本規程ハ明治四十五年度ヨリ施行ス

一〇、日勝村小學校兒童授業料徵收規程

第一條 本村立小學校高等科兒童授業料ハ法律命令其他ニ規定シアルモノ、外本規定ニヨリ徵收スルモノトス

第二條 授業料ハ一箇月參拾錢トシ毎月二十日迄ニ其月分ヲ徵收ス

第三條 一家内ノ兒童二名以上就學スル場合ニ於テハ一名ニ付五錢ツ、ヲ減額ス

第四條 夏期又ハ冬期休業若クハ學校ノ都合ニヨリ休業全月ニ涉リタルトキ又ハ兒童ノ病氣其他ノ事由ニ依リ缺席全月ニ涉リタルトキハ其月分ノ授業料ハ之ヲ徵收セス

但休業又ハ缺席半箇月未満ナルトキハ全額ヲ徵收シ半箇月以上ニ涉ルトキハ半額ヲ徵收ス

第五條 明治廿九年二月七日勅令第五號第二條ニ該當スル者ニ對スル授業料ハ之ヲ徵收セス

一、日勝村財産管理規程

第一章 總 則

第一條 本村財産ハ本規程ニ依リ管理スルモノトス但別ニ管理方法ヲ定メタルモノハ此ノ限リニアラス

第二條 本規程ニ管理方法ヲ規定セサル財産ハ村長ニ於テ適宜管理スルモノトス

第三條 基本財産ハ會計規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ整理ス

第二章 土地建物

第四條 土地建物ニシテ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルモノハ村會ノ議決ニ依リ五ヶ年以内ノ期間ヲ以テ之ヲ貸貸スルモノトス但舊慣ニ因リ使用セシムルモノ、期間ハ本文ニ依ラス又貸付期間六ヶ月未満ノモノハ村長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

營利ノ目的ニアラサル事業ノ爲メ貸付スル場合ハ料金ヲ徵收セサルコトアルヘシ

第五條 土地建物ノ賃貸料額ハ村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム貸付期間六ヶ月未滿ノモノハ村長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

賃貸料ハ毎年四月十月ノ二期ニ其年度分ノ半額宛テ前納セシム、但賃貸與期間一ケ年ニ滿タサルモノハ貸付ノ時ニ又年額二圓以内ノモノハ毎年四月ニ其全額ヲ全納セシム

第六條 土地建物ヲ賃貸スルトキハ借主ヨリ村内ニ在住スル能力者ニシテ辨濟ノ資力ヲ有スル保證人二名以上連署ノ契約書ヲ徵スルモノトス

但シ第四條第二項但書ニヨリ貸付スル場合ハ保證人ヲ要セス

第七條 土地建物賃貸ニ關スル契約ニハ左ノ條件ヲ付セシムルモノトス

- 一、貸付期間中本村ニ於テ使用シ又ハ公用若クハ公共ノ用ニ供スル必要ヲ生シクルトキハ一ヶ月以内ニ之ヲ返還セシメ前納ノ料金ニ過納アルトキハ月割ヲ以テ還付スルコト
- 二、貸付期間中借主ノ都合ヲ以テ返還スルコトアルモ既納ノ料金ハ還付セサルコト
- 三、借主ハ承諾ヲ受ケスシテ使用ノ目的及方法ヲ變更セサルコト
- 四、前號ノ場合ニ於テ損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコト

第四條第二項ニ依リ無料貸付ノ契約ハ前項第一號第二號第四號ニ準ジ條件ヲ付セシムルモノトス

第二章 有價證券及債券

第八條 國債證券、勸業債券、貯蓄債券、興業債券、等郵便官署へ保護預ケヲ爲シ得ルモノハ同官署

ニ預托ス

前項以外ノ證券及債券ハ村長ニ於テ確實ナル銀行ニ保護預ケト爲シ其預リ證書ヲ徵シ保管スルモノトス

第九條 有價證券及債券ハ新債ニ乘換ヘ又ハ村經濟上特ニ現金ニ換ユル必要ヲ生シタル場合ヲ除クノ外之ヲ交換又ハ賣却スルコトヲ得ス

第十條 擔保トシテ徵シタル有價證券及債券ノ領置期間一ケ年未滿ノモノハ村役場金庫ニ格納シ金庫ヲ開閉スルトキハ特ニ注意シ其一ケ年以上ニ亘ルモノハ第八條第二項ニヨルモノトス

第四章 現金(歳出ニ充ツルモノハ包含セス)

第十一條 現金ハ郵便貯金、大藏省預金、信用組合若クハ確實ナル銀行ニ利付預入レト爲スモノトス前項ノ貯金預金證書ハ村役場備置キ金庫ニ格納シ金庫ヲ開閉スルトキハ特ニ注意スルモノトス

第十二條 現金ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス
一、甲種國債登錄ヲ爲シ又ハ國債證券、府縣債證券、勸業債券、貯蓄債券、興業銀行債券、府縣農工銀行株券ヲ購入シ若クハ募債ニ應エルコト

二、收益ノ確實ナル土地ヲ購入スルコト

第五章 穀物

第十三條 穀物ハ利息附貸付ヲ爲スモノトス穀物ノ貸付期間ハ一ケ年以内トシ借主ヨリ擔保付契約證書ヲ徵シ又ハ村内ニ在住スル能力者ニシテ辨濟ノ資力ヲ有スル二名以上ノ保證人連署ノ契約證書ヲ

徴シ之ヲ保管スルモノトス

第十四條 穀物ノ保存中ハ役場倉庫ニ格納スルモノトス但倉庫ナキトキハ俵裝面ニ記號ヲ施シ村長ニ於ス確實ナル者ニ保護預ケト爲シ其預リ證書ヲ徴シ保管スルモノトス

第十五條 穀物ノ保存ヲ要セサルモノハ村會ノ議決ニヨリ適當ノ時期ニ之ヲ賣却スルモノトス

一二、日勝村縣稅戶數割賦課ニ關スル規程

第一條 縣稅戶數割ハ法律命令其他ニ規定アルモノノ外本規程ニ依リ賦課スルモノトス

第二條 戶數割納稅義務者ノ資力ハ所得額及住家坪數ニ依ルノ外資產ノ狀況ヲ斟酌シテ之ヲ算定ス

第三條 府縣稅戶數割規則第四條ニ依リ配當セラレタル戶數割總額ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ賦課ス

一、住家坪數 十分ノ一

二、資產ノ狀況ヲ斟酌シ資力ヲ算定スヘキモノ 十分ノ四

三、所得額 十分ノ五

第四條 第二條ニ依リ納稅義務者ノ資產ノ狀況ヲ斟酌シテ資力ヲ算定スヘキモノハ從前ノ縣稅戶數割

等差設定ニ依リ算出シタル個數ヲ基本トシ算定スルモノトス

第五條 府縣稅戶數割規則施行細則第七條ノ規定ニ依リ控除スヘキ金額ハ左ノ區分ニ依ル

一、所得千圓以下ナルトキ

年令十四歳未満者ハ六十歳以上ノ者又ハ不具廢疾者 一人ニ付金二十圓

二、所得二千圓以下ナルトキ

同 一人ニ付金十四圓

一、所得三千圓以下ナルトキ

同 一人ニ付金十圓

附 則

本規程ハ大正十一年度分ヨリ之ヲ施行ス

一三、日勝村會計規程

第一條 本村ノ會計事務ハ法令其ノ他別段ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外本規程ニ依リ取扱フヘシ

第二條 村長ハ歲入出豫算謄本ノ外繼續費一時借入金翌年度歲入繰上充用又ハ豫算各項ノ金額ノ流用

ニ付議決ヲ經若ハ決定ヲ爲シタルトキ及町村制第四百三條ニ依リ郡長ヨリ費用ヲ豫算ニ加ヘラレ

タルトキハ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ但シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノニ在リテハ許可ヲ經タ

ル後其ノ手續ヲナスヘシ

第三條 村稅ハ徵收簿及徵稅令書ニ依リ徵收スヘシ

徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ徵收セシムル村稅ハ徵收簿ニ依リ收入スヘシ

第四條 村稅夫役現品以外ノ收入ハ別ニ規定アルモノ、外稅外收入簿及納額告知書又ハ納付書ニ依リ

收入スヘシ

第五條 夫役現品ハ徵收簿及賦課令書ニ依リ徵收スヘシ

第六條 村稅、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金、其ノ他ノ村ノ收入ヲ納期內ニ納メサル者ア

ルトキ及夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者期限内ニ其ノ履行ヲ爲サヌ又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサル者ニ對スル督促ハ督促令狀ニ依リ爲スヘシ

前項督促ヲ爲ス場合ニ於ケル徴收簿又ハ收入簿ノ整理ハ督促印ニ依リ爲スヘシ延滞金ヲ徴收スル場合ニ於ケル諸帳簿ノ整理ハ延滞金徴收印ニ依リ爲スヘシ

第七條 前條ニ依ル税金又ハ收入金ノ滞納處分ハ滞納整理簿ニ依リ整理スヘシ

第八條 歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ減額告知書ニ依リ爲スヘシ

第九條 收入金ヲ受領シタルトキハ收入役ハ領收證ヲ納人ニ交付スヘシ

第十條 徴税令書、納額告知書、其ノ他金錢又ハ夫役現品ノ納付ヲ命スル一定ノ様式アルモノニ限リ其ノ發布年月日ノ記載及村長ノ捺印ニ代フルニ付印ヲ用ウルコトヲ得

金錢ノ領收證ニハ其ノ領收年月日ノ記載及收入役ノ捺印ニ代フルニ領收日付印ヲ用ウルコトヲ得

第十一條 町村制第二百二十七條第二項ノ證票ハ檢稅吏證票ニ依ルヘシ

第十二條 支出命令ハ請求書ニ依リ爲スヘシ

但シ債主カ別ニ本様式ニ依ラサル請求書ヲ差出シタルトキハ支出命令印ニ依リ取扱フヘシ

債主ノ請求ヲ俟タス支出ヲ要スルモノハ支出決定書ニ依リ支出命令ヲナスヘシ

第十三條 支拂ヲ爲ストキハ前條ノ請求書又ハ支出決定書ニ接續スル領收證ニ相當記入捺印セシメ又ハ特ニ調製シタル領收證ヲ徴スヘシ

領收證ヲ徴スル能ハサル正當ノ事由アルモノハ請求書又ハ支出決定書欄外ニ支拂年月日及其ノ事由

ヲ記載シ村長及收入役之ニ認印スヘシ

第十四條 前二條ノ請求書及領收證ニハ金額目的事物及其ノ分量單價アルモノハ其ノ單價等ノ記載アルコトヲ要ス請求又ハ受領者カ代人ナルトキハ其ノ代理ヲ證スル書面ヲ添付セシムヘシ

第十五條 現金前渡、概算拂及繰替金ハ前三條ニ依ルノ外收支整理簿ニ依リ整理スヘシ

第十六條 現金前渡及概算拂ハ精算書ヲ徴スヘシ但シ現金前渡ノ精算ニ在リテハ債主ノ領收證ヲ徴スヘシ其ノ之ヲ徴スルコト能ハサル正當ノ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額現金前渡概算拂及繰替金(官廳ヨリ戻入ノモノヲ除ク)戻入ハ戻入告知書ニ依リ爲スヘシ

第十八條 收入役ニ於テ收入又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ歳入簿又ハ歳出簿ニ記帳スヘシ毎日ノ收入支拂ハ現金受拂簿ニ記帳スヘシ

手數料ノ收入ニ限リ前二項ノ記帳ハ之ヲ其ノ末日ニ於テ一ヶ月分ノ計金ヲ記載スルコトヲ得

第十九條 前各條ニ定ムルモノノ外左ノ帳簿ヲ備ヘ整理スヘシ

一、郵便切手受拂簿

二、備品臺帳

三、財産臺帳

四、村債臺帳

五、村吏員退隱料並遺族扶助料臺帳

前項ニ定ムルモノノ外必要ニ應シ帳簿ヲ設クルコトヲ得其ノ様式ハ村長之ヲ定ムヘシ

第二十條 有給吏員退隱料並ニ遺族扶助料ノ支給ヲ決定シタルトキハ證書ヲ交付スヘシ

第二十一條 徵稅令書、納額告知書、納付書及之ニ類スル書面並支出證憑書類ニ記載スル數字ハ壹貳

參拾等ノ文字ヲ用ウヘシ

前項書類ノ訂正ヲ要スルトキハ金額ニ係ルモノハ其ノ金額ノ全部ヲ朱抹シ右傍ニ正字ヲ明記シ其ノ他ニ在リテハ之ヲ挿入削除シタル上欄外ニ其ノ旨ヲ記載シ捺印ヲ要ス

第二十二條 歲入簿、歲出簿、現金受拂簿、其ノ他計算ノ連續スル簿記ニシテ誤謬ヲ發見シタルトキハ最終記帳ノ次ニ其ノ事由ヲ記シテ計算ヲ更正シ當該誤謬ノ箇所ニハ其ノ事由及計算ヲ更正シタル年月日ヲ欄外ニ朱記シ收入役之ニ認印スヘシ

第二十三條 支出證憑書類ハ科目毎ニ記帳ノ順序ニヨリ編綴スヘシ收入濟ニ係ル徵稅令書、納額告知書納付書、及之ニ類スル書類ハ別ニ規定アルモノヲ除ク外科目毎ニ一日分ヲ一括シテ表紙ヲ附シ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 村ノ經濟ニ屬セサルモノ及他ノ法令等ニ依リ別ニ帳簿ノ規定ナキ出納ハ雜部金整理簿ニ依リ整理スヘシ

第二十五條 諸帳簿ハ會計年度毎ニ之ヲ調製スヘシ
特別會計ニ屬スルモノハ各別ニ帳簿ヲ設ケ整理スヘシ
前二項ノ規定ハ第十九條第二項第二號乃至第五號ノ臺帳及第二十四條ノ帳簿ニハ之ヲ適用セス

第二十六條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負物件勞力其ノ他ノ供給ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一、特定ノ人又ハ會社ノ專有スル物件ヲ買入又ハ借入ルトキ

二、物件ノ性質若ハ使用ノ目的ニ依リ特定ノ製産所又ハ生産者ヨリ直接ニ買入若ハ借入ヲ要スル

トキ

三、二百圓未満ノ工事ノ請負及百圓未満ノ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

四、百圓未満ノ物件ヲ賣渡ストキ

五、有價證券又ハ株券ヲ買入ルトキ

六、相手方カ官公署公共團體又ハ公益法人若ハ之ニ準スヘキ營利ヲ目的トセサル團體ナルトキ

七、競争入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再入札ニ付スルモ尙落札者ナキトキ

八、職工又ハ人夫ヲ僱入ルトキ

九、前各號ノ外村會ノ同意ヲ得タルトキ

物件ノ修繕ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負物件勞力其ノ他ノ供給ニ就テハ前條ニ定ムルモノノ外埼玉縣會計規則第五章同施行細則第三章工事執行規程及工事請負規程ヲ準用ス

第二十八條 出納例月検査ハ毎月十日之ヲ執行スヘシ其ノ休日ニ當ルトキハ順次之ヲ繰下ク

第二十九條 出納検査ハ其ノ前日迄ノ收支ニ付總テノ會計帳簿書類ニ依リ出納ノ適否ヲ査閱スヘシ

第三十條 出納検査ヲ了シタルトキハ現金受拂簿中ニ検査月日ヲ記載シ例月検査ニ在リテハ村長臨時検査ニ在リテハ村長及立會議員捺印スヘシ

附 則

本規程ハ大正十二年度ヨリ之ヲ施行ス
從來ノ村會計規程ハ大正十一年度限り之ヲ廢止ス
備考様式ハ略ス

一四、區 設 置 規 程

第一條 町村制第六十八條ニ依リ左ノ十區ヲ置ク

岡泉區(大字岡泉)實ケ谷區(大字實ケ谷)千駄野區(大字千駄野)小久喜第一區(大字小久喜二區ヲ除キタル區域)小久喜第二區(大字小久喜相野谷ノ一部)上野田區(大字上野田)下野田區(大字下野田)爪田ケ谷區(大字爪田ケ谷)太田新井區(大字太田新井)彦兵衛區(大字彦兵衛)

第二條 各區ニ區長及區長代理者各一名ヲ置ク

第三條 區長及其ノ代理者ノ任期ハ三ヶ年トス

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一五、日勝村村稅賦課徵收規程

第一條 村稅ハ法令及別ニ定ムルモノヲ除ク外本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ賦課徵收ス

第二條 村稅トシテ賦課スヘキ稅目左ノ如シ

一、地租附加稅

二、國稅營業稅附加稅

三、所得稅附加稅

四、戶數割附加稅

五、縣稅營業稅附加稅

六、縣稅雜種稅附加稅

第三條 村稅ノ賦課率ハ毎年度村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第四條 國稅附加稅ノ賦課及徵收期日ハ其ノ國稅ノ附加稅タル縣稅賦課及徵收期日ニ據リ縣稅附加稅ノ賦課及徵收期日ハ其縣稅ノ賦課及徵收期日ニ據ル臨時追加ニ係ル村稅ノ賦課及徵收期日ハ其ノ都度村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 國稅附加稅ハ其ノ賦課期日現在ニ於テ本稅タル國稅年額ヲ標準トシ賦課度數ニ平分シテ每期ノ賦課額ヲ算定シ縣稅附加稅ハ其ノ本稅タル縣稅ノ賦課期日現在ニ於ケル賦課額ヲ標準トシ其ノ賦課額ヲ算定ス但シ本稅ノ追加賦課額ニ對シテハ村稅ヲ賦課セス

臨時追加ニ係ル村稅ハ本稅タル國稅又ハ縣稅(追加賦課ノ縣稅ヲ除ク)ノ年額ヲ標準トシ其ノ賦課額ヲ算定ス但シ村會ノ議決ヲ經テ別ニ賦課標準ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス
隨時賦課ニ係ル村稅ハ其ノ本稅タル國稅又ハ縣稅ノ賦課額ヲ標準トシテ其ノ賦課額ヲ算定ス

第六條 明治四十四年九月勅令第二百四十一號第三條第二項及第三項ノ規定ニ依リ月割ヲ以テ村稅ヲ賦課スル場合當該村稅ノ賦課期日二期ノトキハ四月ヨリ九月迄ヲ一期十月ヨリ三月迄ヲ二期ト見做シ賦課期日四期ノトキハ四月ヨリ六月迄ヲ一期七月ヨリ九月迄ヲ二期十月ヨリ十二月迄ヲ三期一月ヨリ三月迄ヲ四期ト見做シ當該賦課期ノ賦課額ニ付月割額ヲ算定ス

一回ニ賦課シタル村稅ヲ二回以上ニ分割徵收スルトキハ前條ニ依リ算出シタル賦課額ヲ其ノ徵收期ニ平分シ之ヲ徵收ス月割ニ依ル賦課額ハ定期徵收期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ定期徵收期ノ終リタル後ニ於テ月割賦課ヲ爲スヘキ事實ノ生シタルトキハ其ノ徵收期ノ終リタル分ニ付テノミ村長ニ於テ其ノ徵收期日ヲ定ム

臨時追加ニ係ル村稅ニ付月割ヲ以テ徵收スル必要アルトキハ前二項ノ例ニ準シ之ヲ賦課徵收ス

第七條 賦課期日後納稅義務ノ消滅變更又ハ移轉シタルトキト雖法令又ハ本規程中特ニ規定アル場合ノ外其ノ賦課ハ之ヲ變更セス但シ當該村稅ノ標準トナリタル本稅額ニ異動アリタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第八條 徵稅令書ヲ發シタル後ニ於テ本稅額異動又ハ賦課ノ錯誤等ノ事由ニ依リ賦課額ニ變更ヲ要スル場合其稅金未納ナルトキハ其ノ追徵ヲ要スルモノハ直ニ其ノ不足額ヲ追徵シ過納又ハ誤納トナリタルモノハ之ヲ還付ス

附 則

本規程ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

一六、占使用料標準額

占 用 種 目	準 市 街 地	村	落
電柱(支柱支線共)建設	一本ニ付 二 十 錢	一 二 十 錢	
鐵 塔 建 設	一基ニ付 一 十 錢	一 十 錢	
諸 管 埋 設	長五間ニ付 十五錢乃至四十錢	十錢乃至三十錢	
軌 條 敷 設	一坪ニ付 十錢乃至三十錢	五錢乃至二十錢	
家屋及之ニ類スル建築物(建物等ヲ建設セサル宅地占使用共)	同 三十錢乃至六十錢	十錢乃至四十錢	
敷地ニ固着シテ施設スル工作物	同 三十錢乃至六十錢	十錢乃至四十錢	
工作物ヲ施設セサル現形占使用	同 十錢乃至三十錢	五錢乃至二十錢	
宅地出入口及通路	同 十錢乃至三十錢	五錢乃至二十錢	
耕 地	一反歩ニ付 九圓乃至二十圓	九圓乃至二十圓	
水 車 導 流 堰	一坪ニ付 十錢乃至三十錢	十錢乃至三十錢	
養 魚	一反歩ニ付 一圓乃至三十圓	一圓乃至三十圓	
其 他	一反歩ニ付 一圓乃至三十圓	一圓乃至三十圓	

- 一、諸管理設ノ占使用ニ於テ長五間未滿ノモノノ占使用料ハ五間分トス
- 二、前項以外ノ占使用ニ於テ一坪未滿ノモノノ占使用料ハ一坪分トス
- 三、占用期間一ヶ月未滿ノモノノ占使用料ハ月割計算ニ依ル一ヶ月分トス

一七、日勝村稅縣稅遊興稅附加稅徵收規程

第一條 料理屋待合茶屋(貸席共)飲食店又ハ旅人宿營業者ハ縣稅遊興稅附加稅の徵收義務者ト爲リ其徵收ヲ爲スヘシ

第二條 納稅義務者ハ飲食又ハ遊興ヲ爲シタル都度稅金ヲ徵收義務者ニ拂込ムベシ

第三條 徵收義務者ハ第一號樣式ノ縣稅遊興稅附加稅徵收原簿ヲ作り稅金ヲ徵收シタルトキハ其ノ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

徵稅義務者ハ第二號樣式ノ拂込書ニ依リ前月分ノ徵收稅金ヲ毎月五日迄ニ收入役ニ拂込ムヘシ
徵收義務者營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ翌日迄ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 徵收義務者ハ縣稅遊興稅附加稅徵收原簿及拂込領收證ヲ當該年度經過後一ケ年間保存スヘシ

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

備考樣式ハ略ス

第二節 自治施設

五人組規約

本規約ハ大正三年二月制定シ大正十三年一月改正シタルモノナリ。本規約ノ趣旨トスル所ハ村行政自治ノ圓滑ナル施行ヲ爲スト同時ニ隣保相互ノ情誼ヲ厚クシ世ハ輕佻浮華ニ傾カントスルニ伴ヒ出產婚禮等人事ニ關スル諸事ニ關シ贅費ヲ省キ質實ナル習慣ヲ維持シ以テ村民相互ノ幸福ヲ期セントスルニアリ

日勝村五人組規約

(大正十三年二月制定
大正十三年一月改正)

第一章 總 則

第一條 本村住民ハ自治ノ基礎ヲ鞏固ニシ發展ノ實ヲ舉クルニ勤ムルコト

一、一家親睦シ隣保相助ヲ完ウシ舉村和合共力スルコト

二、常ニ産業ノ振興發達ヲ計リ贅費ヲ省クコト

三、神社ハ住民ノ宗神ヲ祀ル所ナルヲ以テ常ニ社殿境内ノ神嚴ヲ保ツニ注意スルコト

四、公德及私德ノ涵養ニ勤ムルコト

五、納稅及兵役ノ義務ヲ重シ義務奉公ノ精神ヲ養ヒ併セテ子弟ノ敎養ヲ怠ラサルコト

第二條 本村居住民ハ總テ本規約ヲ確守スルノ義務アルモノトス

第二章 五人組

第三條 五人組ハ相隣ノ五戸ヲ一組合ト定ム

但シ地形ノ便否ニ依リテハ區長之ヲ増減ス

第四條 五人組ニ組長一名ヲ置ク

第五條 組長ハ戸主ニシテ名望ヲ有スル者ヲ公選スルモノトス

第六條 組長ハ義務勤務ニシテ其任期ハ三ヶ年トス但シ再選スルコトヲ得

第七條 組長ノ選舉ハ區長之ヲ執行シ當選者確定シタルトキハ其氏名ヲ村長ニ報告スルモノトス

第八條 村長ハ當選シタル組長ニ對シ承認狀ヲ交付スルモノトス

第九條 當選シタル組長ニシテ犯罪其他不正ノ行爲ヲナシタルモノアルトキハ區長ノ意見ヲ聞キ之カ

取消ヲ公告スルモノトス

第十條 組長ハ村長及區長ノ指揮ニ從ヒ組合諸般ノ事務ヲ處理シ令達周知及諸規約協議ヲ遵守セシムルモノトス

第十一條 組長ハ組合内ニ奇特ノ善行者アルトキハ之カ表彰ヲ申出又ハ不正ノ行爲ヲナシ本規約ニ違反シ本村居住民タルノ精神ニ反スルモノアルトキハ區長又ハ村長ニ申出除組ノ請求ヲナスモノトス

第十二條 組長ヨリ除組ノ請求アリタルトキハ村長及區長ハ事實ヲ調査シ正當ト認メタルトキハ之ヲ

認許シ同時ニ揭示場ニ公告スルモノトス

但シ除組セラレタルモノニシテ改悔ノ狀明カナルモノハ前條ノ手續ニ準シ組合ニ復歸セシムルコト

第十三條 除組セラレタルモノハ吉凶慶弔其他ニ關シ公式ニ組合間ノ援助ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第三章 年賀節句婚姻葬祭其他

第十四條 新年祝賀一月一日ニハ組合一般枝松ニテ松飾ヲナシ村内名譽職員其他有志ハ學校ニ參集シ祝賀式ニ列スルコト

但シ午後ヨリ節約ヲ旨トシタル會費ヲ以テ新年宴會ヲ開クモノトス

二月一日組長ハ組下ヲ引率シテ其大字鎮守社ニ參拜シ區長指揮ノ下ニ萬歳ヲ三唱シ相互ニ祝意ヲ表シ之ヲ改曆祝賀トス

第十五條 三月五月節句ニ弓矢雛人形武者人形五月幟鯉幟等ノ贈答ハ村内ニテハ親戚間タリトモ節約ヲ旨トスルコト

金子ハ子弟ノ教育婚姻資金トシテ必ス蓄積スルコト

第十六條 盂蘭盆ニハ組内ハ必ス相互ニ佛前ニ焼香シ二盆其他ノ佛事ニハ質素ヲ旨トスルコト

第十七條 慶弔其他ニ關シ組合間ノ援助ヲ請フトキハ先以テ組長ト協議ヲナスモノトス組長ハ協議ヲ

請ケタルトキハ必ス立會ヒ本規約ニ從ヒ質素ヲ主トシテ冗費ヲ省クノ責アルモノトス

但シ組長ノ家ニ於テ前條ノ場合ニハ組内ノ者代リテ協議スルモノトス

第十八條 婚姻祝其他ノ慶事ノ祝物ハ組内及村内親懇者ハ敬意ヲ失ハサル範圍ニ於テ節約ヲ旨トス
祝膳ハ節約ヲ旨トシ調フルコト

第十九條 葬式ノ當日ハ組内ハ勿論親戚間タリトモ一切酒ヲ用ヒサルコト

第二十條 葬式當日ハ造花、放鳥、弔旗、供養錢ノ類ハ一切廢スルコト

但シ他町村親戚ヨリ前項ノ必要止ムヲ得サル場合ニハ組内協議ノ上之ヲ行ハシメ之ニ相當スル金圓ヲ公益方面ニ寄附セシムルモノトス

第二十一條 入營除隊ノ際ハ戰時ヲ除キ左記ニ依ルコト

一、入營ノ場合ハ旗其他物品金子ノ祝物及立祝ノ饗應ヲ廢シ組合ハ口頭ヲ以テ入營ヲ祝シ其字鎮守社ニ參詣シ停車場迄送ルコト親戚間ハ多少ノ錢別ニ限リ妨ナシ

二、除隊ノ際ハ村内ハ親戚間ト雖トモ歸郷祝及土産物ヲ一切廢シ組合内ハ停車場迄出迎ヘ鎮守社ニ

參詣シテ解散スルコト

第二十二條 火災ノ場合ニハ見舞ノ贈答ハ節約ヲ旨トシ一切酒ヲ廢スルコト

第二十三條 火災風災等ニ依リ家屋ヲ燒失潰倒セラレタルモノアルトキハ身分ニ依リ其字ノ區長ハ各組長ト協議シ字内一般ヨリ見舞金ヲ贈呈シ且ツ小屋掛其他ノ助力ハ手辨當ヲ以テ手傳ヲナスコト

第四章 雜事

第二十四條 社寺參拜遊山ノ如キ旅行等ニ就テハ親戚間ト雖トモ土産物等ハ節約ヲ旨トスルコト

第二十五條 出產、病氣、普請等ノ見舞ニハ物品ノ贈答ハ節約ヲ旨トシ隣保相助ノ實ヲ舉クルニ勤ムルコト

第二十六條 養蠶上ケ田植上ケ收納上ケ等ノ祝ハ内祝トシ餅赤飯等ノ贈答ヲ廢スルコト

第五章 休日及納稅寄附金

第二十七條 本村内休日ハ自治曆ニ依ルコト其以外ニ於テハ村長ノ許可ヲ得スシテ區長猥リニ發表スルコトヲ得ス

第二十八條 組長ハ組内ノ納稅ヲ監督シ學齡兒童ノ就學出席ヲ督勵シ納稅ハ取纏メ順次ニ役場ニ納入セシメ就學出席セサルモノアルトキハ懇説スルコト

第二十九條 本村住民ハ慶弔其他ニ關シ冗費ヲ省キタル餘裕ノ一部ヲ本村基本財産ニ寄附スルモノトス

第三十條 寄附金ヲ申出テ之ヲ納入シタルトキハ村長ハ直ニ公告スルモノトス

第三十一條 本村以外ヨリ寄附其他ノ勸誘アリトモ本村長ノ承認ナキモノハ絕對ニ應セサルコト

第三十二條 本村住民ハ時間ヲ確守シ役場集會大字又ハ組内協議集會ニハ必ス指定ノ時刻ニ參會シ時

大字又ハ組内ノ協議集會ノトキハ組長ハ組下ヲ引率シテ指定ノ時刻ニ參集スルコト

第二十三條 大祭祝日ニハ各戸必ス國旗ヲ掲揚シ名譽職員其他有志ハ學校ノ祝賀式ニ參列スルコト

附則

第二十四條 本改正規約ハ大正十三年二月一日ヨリ之ヲ實行ス

日勝村自治曆

			一 月		月
三	二	一	三	一	日
日	日	日	日	日	
			元 始 祭	四 方 拜	祝 祭 名
春 祝	春 祝	春 祝		か び た り	舊 慣
			國 旗 掲 揚	國 旗 掲 揚	備
全 休	全 休	全 休	半 休	全 休	考

五月		四月				三月				二月			
八日	五日	三十日	四日	三日	一日	二十九日	春分ノ日	十日	初午ノ日	十六日	十五日	十一日	七日
	菖蒲節句	靖國神社祭		神武天皇祭	入學祝	卒業祝	春季皇靈祭	陸軍紀念日	初午			紀元節	
釋迦	菖蒲節句		同	雛祭	日勝村造成紀念日					齋日	春祝	倉ひらき	七草
				國旗掲揚			國旗掲揚	奉天府大戰ノ日				國旗掲揚	
半休	半休	半休	半休	半休	半休	半休	半休	半休	半休	全休	半休	半休	半休

二	九	八					七			正	
月	月	月					月			月	
一	秋分ノ日	三十一日	十六日	十五日	十四日	十三日	七日	一日	三十日	二十五日	二十七日
學校創立紀念日	秋季皇靈祭	天長節						永日清開戰紀念日祭	明治天王祭	祇園祭	海軍紀念日
		八朔	齋日	同	同	盂蘭盆	七夕祭			淺間神社祭	
	國旗掲揚	國旗掲揚							國旗掲揚		日本海大戰ノ日
半休	半休	半休	全休	半休	半休	半休	半休	半休	半休	半休	半休

十一月		十月			
二十三日	十日	三十一日	十七日	十三日	九日
新嘗祭	國民精神ニ關スル詔書下賜日	天長節祝日	神嘗祭	戊申詔書下賜日	重陽節旬日
	青年日				待
國旗掲揚		國旗掲揚	國旗掲揚		
半休	半休	全休	半休	半休	半休

一、凡ソ祝日休日ニハ青年會等ノ總會ヲ開キ村内ノ青年ハ學校又ハ寺院ニ集リ互ニ得意ノ談話ヲナシ智識ヲ交換シ或ハ適宜ノ運動ヲナシ身體ノ健全ヲ計ル等總テ有益ニ快樂ノ道ヲ求ムルモノ

ノトス

巡
回
講
話

自治ノ向上發達ヲ計ラントスルニハ、村民ニ自治精神ノ涵養振作ヲ爲スハ最モ必要ノコトナリ。且ツ村豫算ノ狀況、産業、教育、衛生等各般ノ方面ニ亘リ現況ヲ周知セシメ、常ニ向上ノ精神ヲ振興セシメサルヘカラス。此點ニ立脚シ、大正五年巡回講話ヲ開催シ毎年一回各大字ヲ巡回シ其ノ目的ヲ發成セシメコトヲ企圖シタリ。

大正五年

字名	開催場所	日時	出	講者
岡 泉	笑樂庵	三月一日	山崎村長、石田校長	和泉助役
實ヶ谷	觀音堂	三月三日	同	馬場巡查
千駄野	元德稱寺	三月五日	同	和泉助役、大山巡查
小久喜	壽樂院	三月七日	同	馬場巡查
上野田	正傳寺	三月九日	同	同、大山巡查
下野田彦兵衛	大德寺	三月十二日	同	松本訓導、松崎部長、馬場大山巡查
爪田ヶ谷	觀音堂	三月十三日	同	和泉助役、同
太田新井	安樂寺	三月十四日	同	同、同
大正六年				
字名	開催場所	日時	出	講者
岡 泉	笑樂庵	三月十六日	山崎村長、石田校長、和泉助役、加藤訓導	
實ヶ谷	區長宅	三月十七日	同	松崎部長、小舟教師
千駄野			耕地整理工事ノ都合ニヨリ延期シタリ	
小久喜	村長宅	三月二十日	山崎村長、石田校長、松崎部長、鬼久保訓導、小舟教師	
上野田	正傳寺	三月廿二日	同	同、澁谷訓導

大下野田彦兵衛	區長宅	三月廿五日	同	澁谷加藤、河内訓導、巡查二名
太田新井	安樂寺	三月廿七日	同	同、松崎部長、澁谷鬼久保訓導、巡查二名
爪田ヶ谷	區長宅	三月廿九日	同	同、森澁谷訓導、鳥塚巡查

大正七年

字名	開催場所	日時	出	講者
岡 泉	笑樂庵	四月九日	山崎村長、石田校長、澁谷助役、和泉收入役	
實ヶ谷	區長宅	三月七日	同	田島訓導
千駄野	元德稱寺	三月八日	同	山崎訓導、村尾技手
小久喜	壽樂院	三月九日	同	松崎部長、鬼久保訓導、村尾技手
上野田	正傳寺	三月十一日	同	同、村尾技手、堀口巡查
下野田彦兵衛	大德寺	三月十三日	同	同、中山、河内教師、飯島巡查
爪田ヶ谷	觀音堂	三月十四日	澁谷助役	同
太田新井	安樂寺	三月十六日	山崎村長	同、村尾技手

大正八年

字名	開催場所	日時	出	講者
岡 泉	笑樂庵	三月八日	山崎村長、石田校長、和泉收入役、若松巡查	
實ヶ谷	區長宅	三月十一日	同	同、關根訓導

千駄野	元德稱寺	三月十三日	同	同	若松巡查
小久喜	壽樂院	三月十六日	同	同	同
上野田	正傳寺	三月十八日	同	山口穀物検査所支所長	同
下野田彦兵衛	大德寺	三月廿五日	石田校長、澁谷助役、關巡查	八木橋生産検査員、若松關、巡查	
爪田ヶ谷	觀音堂	三月三十日	同	八木橋生産検査員、關巡查	
太田新井	安樂寺	四月 四日	山崎村長、石田校長、若松巡查、中山教師		

大正十年

字 名	開催場所	日 時	出	講 者
岡 泉	笑樂庵	三月十八日	山崎村長、石田校長、穀物検査所岩槻支所主事補	川崎生産検査員、關根訓導
實ヶ谷	區長宅	三月十九日	同	森田、齋藤訓導、川崎生産検査員、高橋巡查
千駄野	同	三月廿一日	同	石田校長、鈴木訓導、矢部方丈
小久喜	壽樂院	四月 二日	同	鈴木訓導、矢部方丈、高橋巡查
上野田	正傳寺	三月廿四日	同	穀物検査所岩槻支所主事補
下野田彦兵衛	大德寺	三月廿四日	同	渡邊、熊倉訓導
爪田ヶ谷	觀音堂	三月三十日	同	熊倉訓導
太田新井	安樂寺	三月廿七日	澁谷助役、同	川崎生産検査員

大正十三年

字 名

開催場所

第一回日時

第二回日時

出

講

者

岡 泉	齋藤宅	二月十八日	十一月十七日	山崎村長、石田校長、小學校訓導二名
實ヶ谷	區長宅	二月二十日	十一月十八日	同
千駄野	同	二月廿二日	十一月廿一日	同
小久喜一區	壽樂院	二月廿五日	十一月廿四日	同
同 二區	廣木屋	三月三日	十二月三日	同
上野田	正傳寺	三月五日	十一月廿五日	同
下野田彦兵衛	大德寺	三月七日	十一月廿七日	同
爪田ヶ谷	觀音堂	三月十一日	十一月廿九日	同
太田新井	安樂寺	三月十三日	十二月 一日	同

村 公 報

村内各般ノ狀況ヲ周知セシムル爲メ巡回講話ヲ補足シ且ツ時々注意スヘキ事項等ヲ徹底セシムル目的ヲ以テ大正七年企畫シ同年七月第一號ヲ發行シ既ニ第三十四號ニ達セリ

第三節 自治機關

村自治機關ニ議決機關及ヒ執行機關アリ村會ハ前者ニ屬シ村長以下吏員ハ後者ニ屬ス

議決機關

村會六十二人ヨリ成ル新村造成以來ノ議員左ノ如シ

級別	在	職	年	數	備考	大字名	氏名
一級	自明治二十八年六月 至大正九年一月		二十四	八年八ヶ月		實ヶ谷	内田作之進
同	自明治二十八年六月 至同三十五年十月		七	ケ年四ヶ月		上野田	濱田岩之丞
同	自明治二十八年六月 至同四十二年七月		十四	ケ年一ヶ月		岡 泉	齋藤徳三郎
同	自明治二十八年六月 至同三十八年六月	自明治四十三年七月 至大正七年一月	十	ケ年六ヶ月		千駄野	弓木糸太郎
二級	自明治二十八年六月 至大正二年六月	自大正六年七月 至同十年六月	五	ケ年一ヶ月		彦兵衛	鈴木幸八
一級	自明治二十八年六月 至同三十八年六月		六	ケ年		下野田	吉澤音吉
同	自明治二十八年六月 至同三十四年六月	自明治三十七年七月 至大正十年六月	二十	三ケ年		岡 泉	澁谷浦吉
同	自明治二十八年六月 至同三十四年六月	自明治三十七年七月 至大正十年六月	十	ケ年一ヶ月		小久喜	土橋忠兵衛
同	自明治二十八年六月 至同三十四年六月	自明治三十七年七月 至大正十年六月	三	ケ年		上野田	細田久右衛門
同	自明治二十八年六月 至同三十四年六月	自明治三十七年七月 至大正十年六月	十五	ケ年		太田新井	福澤彌兵衛
同	自明治二十八年六月 至同三十四年六月	自明治三十七年七月 至大正十年六月	七	ケ年四ヶ月		千駄野	高橋源八
一級	自明治二十八年六月 至同三十五年十月	自明治三十六年五月 至同四十二年六月	十一	ケ年四ヶ月		千駄野	高橋房太郎

級別	在	職	年	數	備考	大字名	氏名
一級	自明治三十四年七月 至同四十年六月		六	ケ年		下野田	吉田與八
二級	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		三	ケ年		岡 泉	佐川重作
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月	自明治三十五年五月 至同四十二年六月	十三	ケ年四ヶ月		上野田	澁谷房吉
一級	自明治三十四年七月 至同三十七年六月	自明治三十五年五月 至同四十二年六月	二十二	ケ年二ヶ月		同	濱田安之助
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		十	ケ年		下野田	竹内嘉藤次
二級	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		十	ケ年		上野田	安藤勇太郎
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		十二	ケ年四ヶ月		岡 泉	木村愛之丞
一級	自明治三十四年七月 至同三十七年六月	自大正十年七月 至大正十四年六月	十	ケ月		同	齋藤清兵衛
二級	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		十五	ケ年		太田新井	戸田貞次郎
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		九	ケ年三ヶ月		爪田ヶ谷	齋藤常藏
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		四	ケ年		岡 泉	齋藤波之助
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		四	ケ年		爪田ヶ谷	齋藤正三郎
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		四	ケ年		彦兵衛	島村善次郎
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		四	ケ年		岡 泉	齋藤泰助
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		四	ケ年		下野田	吉澤濱吉
同	自明治三十四年七月 至同三十七年六月		四	ケ年		實ヶ谷	内田武左衛門

明治二十八年四月ヨリノ村會開會度數及ビ決議事項數ハ左ノ如シ

明治二十八年
同二十九年

同 三十二年	同 三十三年	同 三十四年	同 三十五年	同 三十六年	同 三十七年	同 三十八年	同 三十九年	同 四十年	同 四十一年	同 四十二年	同 四十三年	同 四十四年	同 四十五年
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

明
大治
正
元
年

村
長

種別	在職年數	本籍	生年月日	氏名
職務管掌	一ヶ年二ヶ月	千葉縣長生郡茂原町	文久三年十二月二十七日	佐川重作
有給	五ヶ年二ヶ月	同	同	同
職務代理	五ヶ月	同	同	同
有給	五ヶ年八ヶ月	同	同	同
同	一ヶ年	日勝村大字下野田	文久十二年九月十四日	吉澤濱吉
同	二ヶ年二ヶ月	北足立郡片柳村	安政五年五月五日	三枝倭吉
同	六ヶ年	千葉縣長生郡茂原町	文久三年十二月二十七日	佐川重作
同	四ヶ年	日勝村大字小久喜	明治十二年九月二十日	山崎敬三
名譽	現職	同	同	同

助役

種別	在職年數	大字名	生年月日	氏名
名譽	六ヶ年	爪田ヶ谷	安政六年九月廿二日	齋藤信久三郎
同	四ヶ年	太田新井	文久二年十月十日	戸田貞次郎

同	自明治四十一年十月至同四十三年六月	一ヶ年九ヶ月	千駄野	明治十二年十二月十二日	高橋房太郎
同	自明治三十七年七月至同三十九年六月	二ヶ月	下野田	文久二年九月十四日	吉澤濱吉
同	自明治三十七年七月至同三十九年六月	五ヶ月	上野田	慶應二年八月廿三日	濱田安之助
同	自明治四十三年十一月至同四十四年十月	四ヶ月	爪田ヶ谷	明治七年二月廿一日	八十橋貞助
同	自明治三十七年七月至同三十九年六月	四ヶ月	岡泉	明治十六年正月十六日	和泉龍助
同	自明治三十七年七月至同三十九年六月	四ヶ月	同	明治十五年二月十四日	澁谷塊一
同	自明治三十七年七月至同三十九年六月	現職	同	明治十六年十一月廿一日	木村愛之丞

収入役

在職年數	備考	本籍	氏名
四ヶ年	兼掌	千駄野	高橋房太郎
一ヶ年五ヶ月	同	上野田	濱田安之助
四ヶ月	同	千葉縣長生郡茂原町	佐川重作
五ヶ年九ヶ月	同	下野田	竹内嘉藤次
十一ヶ月	同	爪田ヶ谷	齋藤常藏

自明治三十五年二月 至同三十五年八月	七ヶ月	千駄野	中太幸右衛門
自明治三十五年十月 至同三十五年十二月	三ヶ月	下野田	竹内嘉藤次
自明治三十七年五月 至同三十七年七月	一ヶ月八ヶ月	豊春村	森田龜吉
自明治三十九年四月 至同三十九年六月	二ヶ月	下野田	折原兼吉
自明治四十四年九月 至同四十四年十一月	五ヶ月六ヶ月	同	吉田將監
自明治四十四年九月 至同四十四年十一月	四ヶ月	爪田ヶ谷	齋藤常藏
自明治四十四年九月 至同四十四年十一月	二ヶ月	岡泉	木村愛之丞
自明治四十四年九月 至同四十四年十一月	五ヶ月	同	和泉龍助

收入役代理者

在職年數	備考	本籍	氏名
自大正四年十月	現職	爪田ヶ谷	富澤周哉

明治四十四年改正町村制ニ依リ設置

區長

村内ヲ九區ニ分チ一大字ヲ一區トナシ區長及ビ區長代理者ヲ置キタリシガ大字小久喜地内ニ白岡停車場設置セラレシヨリ同大字ハ戶數人口増加シタルヲ以テ二區ニ分チ大正十二年四月ヨリ停車場區域ヲ以テ一區トナシタリ

在職年數	區名	氏名
自明治三十八年六月 至同三十八年七月	岡泉	齋藤德三郎
自明治三十八年七月 至同三十八年八月	實ヶ谷	内田作之進
自明治三十八年八月 至同三十八年九月	千駄野	高橋久次郎
自明治三十八年九月 至同三十八年十月	小久喜	鬼久保文輔
自明治三十八年十月 至同三十八年十一月	上野田	濱田岩之丞
自明治三十八年十一月 至同三十八年十二月	下野田	竹内祐之助
自明治三十八年十二月 至同三十九年一月	爪田ヶ谷	齋藤宇三郎
自明治三十九年一月 至同三十九年二月	太田新井	福澤彌兵衛
自明治三十九年二月 至同三十九年三月	彦兵衛	鈴木幸八
自明治三十九年三月 至同三十九年四月	千駄野	弓木条太郎

自明治三十二年七月	自明治三十七年九月	自大正三年一月	自大正十一年二月	現職	下野田	吉田興八
至同三十五年七月	自明治三十九年四月	至同四十四年十一月	自大正五年二月	八ヶ年六ヶ月	太田新井	戸田貞次郎
自明治三十九年四月	至同三十九年九月	自大正六年六月	自大正十年九月	二ヶ年十一ヶ月	千駄野	中太作兵衛
自明治四十一年十一月	至同四十一年九月	自大正九年二月		九ヶ年四ヶ月	小久喜	土橋忠次郎
自明治四十三年九月	至同四十三年十一月	自大正十二年二月		十三ヶ年八ヶ月	上野田	濱田安之助
自明治三十七年九月	至大正四年四月			九ヶ年九ヶ月	爪田ヶ谷	齋藤貞藏
自明治三十七年九月	至同三十八年五月			二ヶ年三ヶ月	千駄野	大木恒次郎
自明治三十七年十月	至同三十八年五月	自明治三十九年四月		一ヶ年七ヶ月	爪田ヶ谷	賀島丹次郎
自明治三十八年五月	至同三十九年四月	自大正六年六月		六ヶ年	太田新井	山崎太右衛門
自明治三十九年四月	至同四十一年四月	至同九年六月		六ヶ年一ヶ月	爪田ヶ谷	齋藤常藏
自明治四十一年四月	至同四十二年十一月			三ヶ年	太田新井	鷺谷音次郎
自明治四十二年十一月	至同四十五年四月			六ヶ年七ヶ月	岡泉	和泉龍助
自明治四十五年四月	至大正五年八月			九ヶ年五ヶ月	千駄野	高橋房太郎
自明治四十五年八月	至大正九年九月			三ヶ年	小久喜	田口定八
自明治四十九年九月	至大正十四年一月			三ヶ年	下野田	吉澤濱吉
自明治四十四年一月	至大正十四年一月			一ヶ年二ヶ月	實ヶ谷	小崎伴之助

自大正二年二月	自大正二年四月	二ヶ年三ヶ月	太田新井	齋藤惣市郎
至同四年四月	自大正二年十一月	三ヶ年	爪田ヶ谷	大森喜八
自大正三年十一月	至同六年一月	三ヶ年	小久喜	土橋秀松
自大正三年一月	至同四年四月	一ヶ年十一ヶ月	實ヶ谷	野口啓次郎
自大正四年四月	自大正六年六月	三ヶ年	小久喜	江原七藏
自大正五年十月	至同五年十月	六ヶ年	下野田	竹内嘉藤次
自大正五年二月	至同六年八月	三ヶ年	爪田ヶ谷	八木橋貞助
自大正八年二月	至同八年二月	現職	岡泉	澁谷塊一
自大正十年六月	至同十三年六月	三ヶ年	實ヶ谷	内田武左衛門
自大正八年七月	自大正十三年六月	現職	同	倉持政三郎
自大正元年二月	至同十二年二月	三ヶ年	千駄野	高橋源八
自大正十二年二月	至同十二年二月	現職	同	岡安全左衛門
自大正二年二月	至同二年二月	十ヶ月	實ヶ谷	小崎作左衛門
自大正七年十月	至大正十年十月	現職	小久喜二區	田口勇助
自大正十一年一月	至大正十一年一月	三ヶ年	上野田	澁谷房吉
		現職	同	細田三右衛門

書記

在職年	數	本籍	氏名
自明治三十八年八月 至明治三十九年二月	現職	爪田ヶ谷	齋藤長三
自明治三十九年九月 至明治四十二年四月	一ヶ年八ヶ月	太田新井	山口忠吉
自明治四十二年四月 至明治四十二年四月	現職	同	福澤市右衛門
自明治四十二年四月 至明治四十二年四月	現職	小久喜二區	澁谷直貴
自明治三十八年八月 至明治三十九年二月	七ヶ月	岡泉	由利守
自明治三十九年四月 至明治四十一年五月	一ヶ年二ヶ月	小久喜	木村愛之丞
自明治四十一年五月 至明治四十二年五月	三ヶ年	岩槻町	齋藤定右衛門
自明治四十二年五月 至明治四十二年八月	九ヶ月	下野田	田中勝太郎
自明治四十二年八月 至明治四十二年七月	十一ヶ月	内牧村	齋藤濱吉
自明治四十二年七月 至明治四十二年八月	二ヶ年	上野田	内田捨五郎
自明治四十二年八月 至明治四十二年九月	四ヶ月	千駄野	折原金右衛門
自明治四十二年九月 至明治四十二年十一月	二ヶ月		中太幸右衛門

雇員

在職年	數	本籍	氏名
自明治三十五年二月 至明治三十五年六月	五ヶ月	豐春村	齋藏喜太郎
自明治三十五年六月 至明治三十五年七月	現職	爪田ヶ谷	富澤周哉
自明治三十五年七月 至明治三十五年十一月	一ヶ年	山口縣阿武郡萩町	木村豐吉
自明治三十五年十一月 至明治三十六年十月	一ヶ年八ヶ月	爪田ヶ谷	賀島源之丞
自明治三十六年十月 至明治三十七年八月	一ヶ年十ヶ月	上野田	小島僚輔
自明治三十七年八月 至明治三十八年五月	一ヶ年	下野田	吉田將監
自明治三十八年五月 至明治三十八年四月	九ヶ月	岡泉	利根川彌左衛門
自明治三十八年四月 至明治三十九年一月	九ヶ月	黑濱村	矢島末五郎
自明治三十九年一月 至明治四十二年二月	現職	岡泉	齋藤自由郎
自明治四十二年二月 至明治四十二年六月	現職	同	齋藤遊之助
自明治四十二年六月 至明治四十四年三月	現職	小久喜	齋藤光弘
自明治四十四年三月 至明治四十四年四月	三ヶ年十一ヶ月	太田新井	山口惣七
自明治四十四年四月 至明治四十四年十一月	現職	實ヶ谷	楠田豐
自明治四十四年十一月 至明治四十四年九月	現職	岡泉	木村豐喜知
自明治四十四年九月 至明治四十四年三月	現職	上野田	小野目覺成

在職年	數	本籍氏名
自明治三十九年五月至同四十年四月	二ケ年	上野田 折原金右衛門
自明治四十年一月至同四十年六月	四ケ年六ケ月	岡 泉 齋藤自由郎
自明治四十年七月至同四十年十二月	六ケ月	岩槻町 鯨井喜市
自明治四十一年一月至同四十一年六月	五ケ月	太田新井 松本源左衛門
自明治四十一年七月至同四十一年十二月	五ケ月	下野田 内山喜三郎
自明治四十二年一月至同四十二年六月	三ケ年九ケ月	上野田 細田義彰
自明治四十二年七月至同四十二年十二月	七ケ月	岡 泉 木村豊喜知
自明治四十三年一月至同四十三年六月	三ケ月	同 齋藤遊之助
自明治四十三年七月至同四十三年十二月	十一ケ月	爪田ケ谷 富澤周哉
自明治四十四年一月至同四十四年六月	九ケ月	太田新井 山崎孝作
自明治四十四年七月至同四十四年十二月	一ケ年	下野田 竹内六郎
自明治四十五年一月至同四十五年六月	六ケ年五ケ月	太田新井 山口惣七
自明治四十五年七月至同四十五年十二月	二ケ年	小久喜 齋藤光弘
自明治四十六年一月至同四十六年六月	四ケ年五ケ月	上野田 小野月覺成
自明治四十六年七月至同四十六年十二月	五ケ月	千駄野 石井茂左衛門

第三章 産業

第一節 職業別

職業方面ヨリ觀察スル時ハ村內住民ハ大部分農業ヲ本業トスルモノニシテ一部商工業ヲ兼業トスルモノアリ、明治四十三年二月大字小久喜地内ニ白岡停車場設置セラレテヨリ同附近ノ戸數増加ニ伴ヒ商業ヲ專業トスルモノ或ハ俸給生活者ノ移住スルモノヲ生シタリ

職業別	戸數	職業別	戸數
農業者	五五六三	醫師	三
商業者	八一	俸給ニヨル者	三〇
工業者	六三八	雜業	八〇
合計			七九五

農業者ヲ更ニ細別スレバ左ノ如シ

種別	種別	
	農業ヲ本業トスル者	農業ヲ副業トスル者
自作	二七八	一〇
自作兼小作	一六五	五〇
小作	一二〇	七九
合計	五六三	一三九

耕地面積階級別農作業主

農作業主	五段未満					計
	五段未満	一段以上一町未満	一町以上二町未満	二町以上三町未満	三町以上五町未満	
農作ヲ本業トスル者	二七五	一八四	三六	二二	三	五一九
農作ヲ副業トスル者	一一五	二四	三六	二二	三	一三九
合計	三九〇	二〇八	三六	二二	三	六五八

自作小作別田畑

別	目地		別	目地	
	田	畑		田	畑
自作地	一四一、〇町	二二五、五町	自作地	九四、〇町	二四四、〇町
小作地	三六六、五町	三三八、〇町	小作地	九四、〇町	二四四、〇町

第二節 生産物

本村生産物ハ職業關係ヨリノ結果トシテ農産物其大部ヲ占メ副業ヨリ生スル畜産林産工産物ヲ合シテ六十有餘萬圓ナリ

一、農産物(大正十三年)

種類	種類	數量	價	格	摘	要
水	稻	五、一四九石	二二二、七一八圓	作付反別二百五十三町八反歩		
陸	稻	一、七六三石	七七、二四一	同 百七十六町三反歩		
春	繭	四、九三四貫	三三、一七九	掃立枚數千枚		
秋	繭	三、〇〇〇貫	二六、三三〇	同千四百五十枚		
蔬	菜類	四三、九六〇	作付反別六十二町五反歩			

計	果實	其他	製茶	小豆	大豆	甘藷
			六八〇〇貫	四八石	一四九三石	四七二、五〇〇貫
						五六、七〇〇
						八、一三五
						一、二〇〇
						四、六四〇
						二、〇〇〇
						三、〇〇五
						五、四四、三六三
						同百五町步
						作付反別八十五町步
						同十二町步
						製茶戸數百戸
						梨柿等

二、畜產物（大正十三年）

種	類	數	量	價	格	摘	要
豚	（成鶏）	一五〇頭		一、五〇〇		頭數百九頭	
鶏	（雛）	六、一五〇羽		六、〇八五		六千五百五十羽	
鷄	（雛）	一、八〇〇羽		四五〇		千八百羽	
鷺		一四〇羽		一九八		三百二十羽	
卵		二二〇、〇〇〇個		六〇〇			
計				八、八三三			

三、林產物（大正十三年）

種	類	數	量	價	格	摘	要
用材				五、二〇〇		杉、松等ヲ主トス	
薪類				二、五〇〇		松、雜木	
竹類				二二〇			
計				七、九二〇			

四、水產物（大正十三年）

種	類	數	量	價	格	摘	要
諸魚		三八五貫		八七六		鮎、鯰、鰻、泥鰌等	

五、工產物（大正十三年）

種	類	數	量	價	格	摘	要
瓦		四五〇坪		三、六〇〇		製造戸數一戸	

味噌	二二、八〇〇貫	一八、二四〇	自家用ヲ計上セリ
醬油	二五石	七五〇	同
箱指物類		五、八〇〇	製造戸數十二戸
乾鰹	六、〇〇〇	六、〇〇〇	製造戸數一戸
藥細工		三、八八〇	自家用ヲ計上
合計		三九、一四六	
戶數二付生産價格		六〇〇、二六二	
人口二付生産價格		七五五、〇四	
		一三四、三四	

六、主要農生産高最近五ヶ年調

米

年次別	水	陸	稻	合
大正十三年	五、一四九 _石	一、七六三 _石	七七、二四一 _円	六、九一二 _石
大正十二年	四、四九二	二、〇六七	六二、二六〇	六、五五九
				二二三、五一
大正十一年	三、七五〇	一、四〇〇	三四、二〇〇	五、一五〇
大正十年	四、六〇〇	一、〇五〇	三九、四〇〇	五、六五〇
大正九年	四、八〇五	二、一〇二	四八、〇七六	六、九〇七
五ヶ年平均	四、五五九	一、六七六	五二、二三五	六、二三五
				二一〇、一六九

麥

年次別	大	小	合
大正十三年	五、二八四 _石	一、五八七 _石	六、七七二
大正十二年	五、四〇五	二、六五四	七、〇五九
大正十一年	六、四八六	二、一九七	八、六八三
大正十年	五、八六〇	二、二五八	七、一一八
大正九年	六、八八一	一、八九九	八、七八〇
五ヶ年平均	五、九六三	一、七一九	七、六八二
			八五、四七六

麥

年次別	大	小	合
大正十三年	四六、六五六 _円	二四、五九九 _円	七一、二五五
大正十二年	四三、三四〇	二四、八〇一	六八、〇五〇
大正十一年	六四、八六〇	三八、四四八	一〇三、三〇八
大正十年	五二、五六八	三三、九〇二	七五、四七〇
大正九年	七六、四四七	三二、八五三	一〇九、二九九
五ヶ年平均	五五、五五四	二八、九二二	八五、四七六

蘭

年次別	春		秋		合	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
大正十三年	四、九三四	三三、一七九	三、〇〇〇	二六、三三〇	七、九三四	五九、五〇九
大正十二年	五、四四五	五二、八九九	一、九六二	二二、三二六	七、三三七	六五、二一五
大正十一年	三、三〇六	三四、七〇二	七、三四六	五七、九二二	九、六四七	八二、六二四
大正十年	四、一七〇	三七、五九五	五、五四六	三九、九〇六	九、七二六	五七、四九六
大正九年	三、四四〇	二二、七六〇	三、四三四	二二、一九一	六、八六〇	二六、九五二
五ヶ年平均	三、八五一	三〇、四二七	四、二五三	二六、九三三	八、一〇四	五七、三六〇

七、總生産高最近五ヶ年調

種別	年次	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年
農産物價格		五四四、三六三	四五二、七七三	三九三、九九〇	四五八、四三一	四〇九、三八一
畜産物價格		五、二〇〇	八、五四九	一四、一九一	四、九二〇	六、九二三
林産物價格		七、九二〇	四、〇七〇	五、四〇〇	五、〇八〇	四、二九〇
水産物價格		八七六	七六七	七八二	九〇四	一、七七五
工産物價格		三九、一四六	四三、八三五	六六、六八〇	三四、〇七四	三一、二〇三
合計		六〇〇、二六二	五〇九、九九三	四八一、〇四三	五〇三、九〇九	四五二、七九七

戸數	二付生産價格	七五五	六四一	六〇五	六五六	五九三
人口	二付生産價格	一三四	一一四	一〇七	一〇五	九四

第三節 穀物検査

本縣ニ於ケル穀物検査ハ大正四年産米ヨリ實施セラレシ後大正十年産ヨリ大小麥ニ及ヒタリ。検査ハ生産検査移出検査ノ二種ニ分レ生産検査ハ各町村ニ派出セラレ、生産検査員之レヲ行フ本村ニ派出勤務セシ検査員及検査狀況左ノ如シ

一、検査員

在職年數	備考	名字	氏名
自大正四年八月一ヶ月 自大正四年八月一ヶ月 自大正七年五月二ヶ月十ヶ月 自大正七年五月三ヶ月一ヶ月 自大正四年九月 自大正十年五月	現職	岡下野田泉木村愛之丞 下野田吉田將監 爪田ケ谷八木橋貞助 太田新井川崎半兵衛 上野田小島僚助	同

二、検査實施以來ノ検査狀況

(一) 稻之部

年度	水陸別	検査總數	甲	乙	丙上	丙下	小計	格不合	検査總數	甲	乙	丙上	丙下	小計	格不合	合計
大正四年度	水	八八八二	六七	七五五、五九三	—	—	六二二、六六六	—	二二四	—	—	—	—	—	—	一一三、九〇三
大正五年度	水	八〇五一	—	三二九八	—	—	三〇一、五五一	—	四〇〇	—	—	—	—	—	—	八〇八、二二六
大正六年度	水	一、四四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八
大正七年度	水	八八二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八
大正八年度	水	九、一七二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八
大正九年度	水	九、三七六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八
大正十年度	水	九、〇一八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八
大正十一年度	水	八、四三七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八
大正十二年度	水	八、五九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八
大正十三年度	水	八、七六九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六二二、八〇八

備考 大正六年度迄ハ丙上丙下ノ區別ナク單ニ丙ナルモ丙上欄ニ記載シタリ單位ハ俵ナリ

(二) 麥之部

年度	大	甲	乙	丙	小	甲	乙	丙	合計
大正十年度	検査總數	二二三	五、五七	三、七五	三、〇四	七二	一、九六	九八三	二二、五四二
大正十一年度	検査總數	三、八八	六、四〇〇	三、三八	三、八〇六	二、〇九	一、六二	九三	一四、三六二
大正十二年度	検査總數	一三八	四、一六六	三、五三	四、四六二	三七九	二、八四三	一二四〇	二二、二八九
大正十三年度	検査總數	三〇九	七、一〇一	一、三五九	四、一九三	一、一〇一	二、六九八	三九四	一三、〇六二

(三) 穀物検査各字別検査數

大字名	年度				部
	米	之	部	麥	之
岡	大正九年度 一、五二五	大正十年度 一、四九五	大正十一年度 一、一六〇	大正十年度 九一四	大正十一年度 一、一七三
實	一、二八四	一、一四三	一、〇〇八	一、〇一四	一、〇五九
千	一、五五九	一、三五六	一、三六一	六八三	六七一
小	一、三四六	一、〇七六	一、〇〇七	一、〇〇四	一、〇〇八
上	二、七三〇	二、三八九	二、三二六	二、六九九	三、一三三
下	一、三五五	一、三〇四	一、二六六	一、五八九	一、七七三
爪	一、六八八	一、六三三	一、六六六	二、四四三	一、四八八
太	二、四七〇	一、三〇八	八九三	三、〇〇四	三、四三四
彦	三二五	三三四	三三一	三九二	四四八
計	二、三、二八二	二、一、〇三九	二、一、〇九八	二、一、五四二	二、一、四二七

(四) 穀物検査品種別 (大正十一年産ニヨル)

◎水 梗 之 部

品 種 名	數 量	品 種 名	數 量	品 種 名	數 量
慈恩寺早生	三	松坂	五〇	三石	二六
水島	七一	神力	五八	不作不知	三四
早生愛國	一四九	冬前	三六六	松島	一三九
愛國	三、八一〇	赤早生	一〇	虎ノ尾	一九
信州	四	關取	一、五四〇	土佐	四二
八右衛門	一八八	津賀	九	賴姫	八
似關	四八五	西國	二五	無芒愛國	一一五
櫻田	四七	撰一	五六七	大切早生	一四
保村八號	四六〇	近江	二九	品川	七四
香取早生	六	八石	六九	計	八、四三七
		玉錦	二〇		

◎水 糯 之 部

品 種 名	數 量	品 種 名	數 量	品 種 名	數 量
太郎兵衛	一三	愛國糯	五	柳糯	五
小針	三二六	三次郎	九	計	五一二
		晚糯	六四		

◎陸 粳之部

千葉錦
戰捷

數量
八七
六〇

關取
信州
大畑

數量
八
一
五

浦三

數量
六
一六七

◎陸 糯之部

凱旋

數量
二、〇三八

計

數量
二、〇三八

◎大 麥之部

關取

數量
一〇、〇〇四

水品
二ノ谷

數量
四九三
五五

坊頭

數量
一〇、五五六
四

◎小 麥ノ部

白倭

數量
三、四〇〇

赤達摩
穗摘

數量
三五七
九

計

數量
三、八〇六

總計

一四、三六二

第四章 教育

教育ハ社會文化ノ基礎ナリ教育ナクンバ人無シ教育ナクンバ國家ナシ教育ナクシテ何ノ政治ゾ教育ナクシテ何ノ産業ゾ人間生活ヨリ教育ヲ除却セバ一切空ナリ本村ノ先覺者夙ニ此理ヲ觀破シ一村ノ經營上常ニ重キヲ教育ニ置キ率先シテ諸多ノ施設ヲ企劃セリ故ニ本村ノ教育ハ本村造成當時業ニ既ニ嶄然トシテ頭角ヲ拔ンズルヲ見ル爾來コ、ニ三十年其ノ進歩ノ跡ヤ如何ニ其ノ發展ノ狀ヤ如何ニ請フ之ヲ以下ノ叙述ニ徴セン

第一節 菁莪尋常高等小學校

一、沿革ノ大要

我菁莪尋常高等小學校ハ日勝村立ニシテ大字上野田字大日百十八番地ニアリ明治二十五年十月一日ノ創立トス

今溯リテ其ノ沿革ヲ繹スルニ明治五年學制頒布ノ時ニ當リ岡泉太田新井ノ二村ハ有斐學校ヲ太田新井ニ設置シ千駄野實ヶ谷二村ハ外一村ト共ニ千駄野學校ヲ千駄野ニ小久喜ハ外一村ト共ニ小久喜學校ヲ小久喜ニ設立シ上野田ニハ高岩分校ヲ置ケリ明治十六年上野田ハ高岩ト分離シテ上野田學校ト稱セリ明治十九年四月岡泉太田新井實ヶ谷千駄野上野田下野田彦兵衛ヲ一學區トシ前ノ四校ヲ廢シ

テ岡泉學校ヲ設ケ上野田ニ分教室ヲ置ケリ明治二十二年町村制實施ニ際シ更ニ爪田ヶ谷小久喜二村ヲ併セテ岡泉村外八村組合村トシ岡泉學校ヲ改メテ菁莪尋常小學校ト稱ス蓋シ時ノ南埼玉郡長間中進之氏ノ命名セル所ナリ

當時斯ノ如ク一組合村ニシテ本分二校アリシヲ以テ教育上ノ不便經濟上ノ不利尠カラズ特ニ高等小學ニ至リテハ岩槻若クハ杉戸等ニ通學セザルベカラザルニヨリ其困難甚大ナルノミナラズ漸ク都市浮華ノ弊風ニ感染スルノ虞ナシトセズ時ノ村長佐川重作氏痛ク之ヲ憂ヒ新ニ部内中央ヲトシテ一大校舍ヲ建築シ尋常高等ノ兩小學校ヲ併置シ以テ教育ノ普及改善ヲ圖ラント欲シ之ヲ有力家ニ詢議シテ大ニ贊同ヲ得タリ乃チ直ニ其ノ互選ニ依リ齋藤德三郎濱田岩之丞、細田久右衛門、吉田武之助、澁谷浦吉ノ五氏ヲ舉ゲテ新築委員トシ部内一般ヲ勸誘セシニ翕然一致爭ツテ財ヲ捐テ金ヲ贖セリ是ニ於テ部署ヲ定メ規律ヲ正シテ工ヲ起シ拮据經營二百有餘日ニシテ竣成ヲ告グ所要ノ經費二千有餘圓人夫亦二千餘人皆悉ク部内有志ノ寄附ニカ、ル斯クテ校舍既ニ成リシヲ以テ明治二十五年十一月一日高等小學校ヲ併置シ菁莪尋常高等小學校ト稱シ同十一月廿七日盛大ナル開校式ヲ舉行セリ

同年十月七日南埼玉郡綾瀨學校訓導齋藤遊之助氏本校訓導兼校長ニ任ゼラル氏資性溫良恭謙學和漢ヲ兼ネ德操高潔ニシテ夙ニ教育者ノ典型ヲ以テ稱セラレタルノ士其ノ本校ニ長タルヤ俊敏達識ナル管理者佐川重作氏ト與ニ協力シテ本村教育ノ向上發展ニ盡瘁セラレタルヲ以テ校運隆々トシテ聲名嘖々縣下ニ鳴ルニ至レリ

明治廿五年十一月三十日 御眞影ヲ下賜セラル蓋シ異數ナリ

明治二十六年九月廿六日銀林本縣知事ノ臨校同廿七年六月廿日千家本縣知事ノ巡視アリ千家知事ヨリ左ノ訓示ト詠歌トヲ賜ハル

訓示

一、修身科擔任ノ件及修身科ト他教科トノ連絡

二、實業的思想養成ノ必要

三、歌

菁莪學校にて生徒のものまなぶさまを見て
同十一年十一月一日本校創立、今日まで
大いに育れ竹のなほきこゝろにつとめなば

よにたちこえしふしやえてまし

明治廿八年四月高等小學補習科ヲ置キシガ同卅三年三月之ヲ廢セリ

明治三十年十一月廿七日本校創立滿五週年紀念式ヲ舉行シ更ニ同日ヨリ三日間教育品展覽會ヲ開ケリ出品物ハ本校及隣校生徒成績物ノ外本村及附近町村有志ノ出品ニカ、ル古器物書畫等五百四十三點ニ達シ縦覽人七千餘ニ及ベリ紀念式當日黑河内本郡長臨席セラレ詠詩ヲ賜ハル

愛兒父心高如山
慈兒母情深如海
人倫大道由師明
鴻恩荷身重九鼎

明治三十五年四月農業補習學校ヲ附設シ高等科ニ學年修業者ヲ入學セシムルコト、ナリタルヲ以テ同六月三日高等小學ノ修業年限ヲ二ケ年トセリ

明治三十八年三月三十一日訓導兼校長齋藤遊之助氏依願退職ヲ命ゼラル勤績實ニ三十三年六ヶ月同日南埼玉郡越ヶ谷高等小學校訓導兼校長石田福太郎氏本校訓導兼校長ニ任ゼラレ以テ今日ニ及ベリ開校以來茲ニ三十有四年校長ノ交替僅ニ一回或ハ以テ村民ノ教育ニ對スル意向ノ一端ヲトスベキカ
明治卅八年四月十四日再ビ高等小學ノ修業年限ヲ四ヶ年トセシガ明治四十一年四月一日改正小學校令ノ實施ニ伴ヒ尋常科ノ修業年限ハ六ヶ年トナリタルヲ以テ高等科ノ修業年限ハ二ヶ年トセリ
明治四十二年二月十一日本校管理者佐川重作氏文部大臣選奨ノ榮ヲ荷ヒ小學教育効績狀及金百五十圓ヲ下賜セラル縣下町村長ニシテ此ノ榮典ニ浴セシハ實ニ佐川氏ヲ以テ嚆矢トス惟フニ此ノ一事獨リ佐川氏ノ本村教育上ニ於ケル効績ノ偉大ナルヲ知ルベキノミナラズ亦以テ本村教育ノ進程ヲ窺フニ足ルベシ

大正四年十月廿九日 御眞影ヲ同五年十月廿八日 皇后陛下御眞影ヲ下賜セラル

大正九年八月校舍ノ新築改造ニ着手シ其ノ功ヲ竣ルヤ同十年十月一日本校創立ノ紀念日ヲ以テ落成式ヲ舉行セリ此ノ日又校旗ヲ制定ス調製費二百九十餘圓全ク本校出身者ノ寄附ニカ、ル

大正十三年五月廿六日國民精神作興ニ關スル詔書謄本ヲ下賜セララル

以上ヲ本校沿革ノ概要トス其ノ細目ハ序ヲ逐ウテ之ヲ述ブベシ

二、校地及校舍

明治廿五年開校ノ際ニ於ケル校地ハ廣サ九百九十一坪ナリシガ其ノ後西北ニ擴張シテ千百十八坪トナレリ東西南ノ三面ハ田畑遠ク開ケテ遙ニ富嶽ニ對シ北ハ隼人堀ヲ隔テ、山林ヲ負ヘタリシガ其ノ

後山林ハ次第ニ開墾セラレ今ハ概ネ畑地トナレリ校庭ナル抱餘ノ櫻樹ハ皆開校當時指大ノ苗木ヲ取リテ植エタルモノナリ

校舍ハ中央二階建ニシテ東西ニ平屋ノ袖ヲ有シ總坪數百九十五坪餘ナリシガ明治廿七年三月本村役場ヲ西隣ニ新築シ其ノ一室(十二坪)ヲ教室トシ翌廿八年六月更ニ玄關ノ後方ニ職員室(七坪)ヲ増築セリ

明治卅六年平屋一棟(四十五坪)ヲ新築シ他ニ一部ノ改修ヲ加ヘ總坪數二百九十六坪トナレリ是レ現校舍築造以前ノ校舍ナリ

大正五年五月校地西隣ノ畑三反八畝廿四步ヲ購入シ大正九年四月更ニ四畝六步ヲ購入シテ校地ヲ擴張セリ

大正九年六月校舍新築ノ議ヲ決シ同八月中央校舍及講堂ノ新築ニ着手シ翌十年五月竣功セリ東西兩校舍ノ改築續デ行ハレ同年九月功ヲ竣リ附屬建物モ亦其ノ間ニ成リテ全校舎ヲ完成セリ經費總額五萬四千五百有餘圓總建坪五百三十八坪之即チ現在ノ校舍ナリ

校舍完成ト共ニ前面畑地一段一畝二十五步(千七百五圓)ヲ購入シ其ノ間ノ道路ト共ニ之ヲ敷地ニ編入セリカクテ現在ノ校地ハ三千二百六十三坪トナレリ

三、教育費

年 度	教 育 費 村	費	教育費ノ村費 ニ對スル歩合	教育費一戸當	教育費一人當
明治二十五年	七九八	一三六八	五八、三八	一、三〇五	〇、二〇〇
明治二十六年	一二三九	一八〇一	六八、七八	二、〇二五	〇、三〇七
明治二十七年	一一六八	一九〇二	六一、四五	一九〇一	〇、二八七
明治二十八年	一二一七	二二六八	五三、六六	一九八六	〇、二九五
明治二十九年	一三三二	二三五二	五六、六二	二、一六六	〇、三二〇
明治三十年	一四三八	二四二七	五九、二八	二、三四〇	〇、三四四
明治三十一年	一七二三	三一五四	五四、六四	二、八〇二	〇、四〇九
明治三十二年	一九六〇	三四八二	五六、三〇	三、一八八	〇、四六一
明治三十三年	一九六九	三五〇五	五六、一九	三、二〇三	〇、四五九
明治三十四年	一九九九	三五九五	五五、六一	三、二五一	〇、四五三
明治三十五年	二〇一七	三八一五	五六、一〇	三、二八一	〇、四五七
明治三十六年	二〇三七	三九九六	五〇、九九	三、二三四	〇、四四五
明治三十七年	一六七二	二四八五	四七、九八	二、七二〇	〇、四一一
明治三十八年	一八〇六	三四四七	五二、四〇	二、八六七	〇、四〇一

明治三十九年	一九三三	三七三三	五一、八〇	三、〇七〇	〇、四二七
明治四十年	二〇一三	三八七一	五二、〇一	三、一八〇	〇、四四一
明治四十一年	一九七二	三九三五	五〇、二三	三、一四〇	〇、四二六
明治四十二年	二一一八	四二五六	四九、七六	三、三二〇	〇、四五八
明治四十三年	二四三三	四六一〇	五二、七八	三、六三一	〇、五二六
明治四十四年	二八五九	四七五四	六〇、一四	四、一七四	〇、六六四
大正元年	二六四七	五一九二	五一、〇〇	三、八四〇	〇、五六〇
大正二年	二六六〇	五〇二三	五二、九六	三、八六〇	〇、五五〇
大正三年	二七一五	五二三六	五一、八五	三、九四〇	〇、六二〇
大正四年	二八四八	五六三〇	五〇、五九	四、〇七〇	〇、五七〇
大正五年	二七八七	五七八二	四八、二〇	三、七五〇	〇、五六〇
大正六年	二九三三	六〇五〇	四八、四八	三、八七〇	〇、六〇〇
大正七年	三三三三	六七七四	四九、五〇	四、四五〇	〇、七〇〇
大正八年	四六〇九	九六六九	四七、六七	六、一一〇	〇、九九〇
大正九年	九二四四	一八一九四	五〇、八一	一二、一六〇	一、九八〇
大正十年	九五九〇	一八四九九	五一、八四	一二、六二〇	二、〇一〇

大正十一年	九七五九	一八八三九	五一、八〇	一二、八三〇	二、〇五〇
大正十二年	九七四九	一八二一九	五三、五一	一二、七八〇	二、〇四〇
大正十三年	一〇〇〇〇	一九一八八	五二、一二	一二、五九〇	二、二三〇
大正十四年	一〇四六三	二〇六四一	五〇、六九	一三、一八〇	二、三四〇

四、職 員

就職年月日	退職年月日	勤続年數	資格	職名	氏名
明治二十年九月三日	明治四十年九月三十日	二十年一ヶ月	資 格	授業生	中里祐次郎
明治二十一年十月九日	明治三十九年五月廿五日	七年八月	最初 最後	訓導	譽田勝平
明治二十五年八月十九日	明治三十八年九月廿九日	十一年二月	中等科 尋本正	准訓導	齋藤友吉
明治二十五年八月十九日	明治三十八年三月卅一日	二年八月	本 正	訓導	和泉龍助
明治二十五年十月一日	明治三十七年二月	一年五月	准教員 准教員	准訓導	矢島脩三郎
明治二十五年十月七日	明治三十八年三月卅一日	十三年六月	本 正	校訓導	齋藤遊之助
明治二十五年十月八日	明治三十七年一月	一年四月	本 正	校長	齋藤六四郎
明治二十六年二月廿七日	明治三十四年七月廿四日	八年六月	本 正	訓導	石田福太郎
明治二十六年十月二日	明治三十一年十一月卅日	五年二月	本 正	訓導	平手きく

明治二十七年五月十四日	明治二十九年六月三十日	二年二月	准教員	尋本正	准訓導	永野米藏
明治二十八年四月一日	明治二十九年四月八日	一年一月	本 正	本 正	訓導	森泉庄八
明治二十八年四月一日	明治二十九年一月八日	十月	本 正	本 正	訓導	齋藤興藏
明治二十八年四月廿九日	明治四十五年五月廿九日	十七年二月	准教員	尋本正	准訓導	和泉龍助
明治二十八年十月三日	明治二十九年四月十日	七月	本 正	本 正	訓導	松本奎次郎
明治二十九年一月十日	明治三十年四月十日	一年四月	本 正	本 正	訓導	金子久太郎
明治二十九年四月一日	明治三十年九月三十日	一年六月	本 正	本 正	訓導	八木橋貞助
明治二十九年五月廿九日	明治三十七年五月	八年一月	本 正	本 正	訓導	田中友右衛門
明治二十九年七月八日	明治三十年一月二十九日	七月	本 正	本 正	訓導	由利幸藏
明治二十九年十月一日	明治三十年十一月三十日	一年三月	本 正	本 正	訓導	石塚幸藏
明治三十年二月二日	明治三十二年八月廿五日	二年七月	本 正	本 正	訓導	内田拾五郎
明治三十年五月六日	明治三十年十二月十五日	八月	本 正	本 正	訓導	金子久太郎
明治三十年十二月四日	明治三十一年四月三十日	四月	本 正	本 正	訓導	黒田安之助
明治三十一年四月十一日	明治三十二年五月十日	一年二月	本 正	本 正	訓導	高澤清次郎
明治三十一年四月二十日	明治三十一年十一月十日	八月	本 正	本 正	訓導	武井幾次郎
明治三十二年四月十八日	明治三十二年十一月卅日	八月	本 正	本 正	訓導	折原直吉
明治三十二年五月五日	明治三十五年二月廿一日	二年一月	本 正	本 正	訓導	齋藤六四郎
明治三十二年六月廿二日	明治三十四年七月卅一日	二年二月	本 正	本 正	訓導	石田きく

明治三十三年三月	明治三十七年四月三十日	四月二年	吉田將監
明治卅三年十一月十六日	明治三十四年三月卅一日	五月	齋藤德左衛門
明治三十四年二月七日	明治三十四年九月三十日	八月	田中耕治
明治三十四年四月一日	明治三十四年四月廿六日	一月	松島幸右衛門
明治三十四年五月廿九日	明治三十六年八月卅一日	二年四月	戶田敬之
明治三十四年九月一日	明治三十七年二月十五日	二年六月	齋藤しな
明治三十四年九月三十日	明治三十六年六月十日	一年十月	沖忠藏
明治三十五年一月二十日	明治三十五年四月廿八日	四月	小栗直亮
明治三十五年五月廿六日	明治三十五年九月十六日	五月	土橋縫之助
明治三十五年五月廿六日	明治三十七年十一月七日	二年七月	關山榮
明治卅五年十一月十三日	明治卅七年二月	一年四月	齋藤末吉
明治三十六年九月廿三日	明治四十五年一月十六日	八年五月	山口善太郎
明治三十六年十一月	明治三十七年二月	四月	朝比奈脩造
明治三十七年五月六日	明治三十九年二月十四日	十年十月	戶田敬之
明治三十六年五月六日	明治卅七年十二月廿三日	八月	利根川さう
明治三十七年五月十一日	明治三十八年四月十七日	一年	戶田慶助
明治三十六年五月廿三日	明治卅八年十二月廿八日	一年八月	峰岸政三
明治三十八年一月十八日	明治三十八年三月卅一日	三月	清水洋三
准教員	准教員	准教員	吉田將監
准教員	准教員	准教員	齋藤德左衛門
准教員	准教員	准教員	田中耕治
准教員	准教員	准教員	松島幸右衛門
准教員	准教員	准教員	戶田敬之
准教員	准教員	准教員	齋藤しな
准教員	准教員	准教員	沖忠藏
准教員	准教員	准教員	小栗直亮
准教員	准教員	准教員	土橋縫之助
准教員	准教員	准教員	關山榮
准教員	准教員	准教員	齋藤末吉
准教員	准教員	准教員	山口善太郎
准教員	准教員	准教員	朝比奈脩造
准教員	准教員	准教員	戶田敬之
准教員	准教員	准教員	利根川さう
准教員	准教員	准教員	戶田慶助
准教員	准教員	准教員	峰岸政三
准教員	准教員	准教員	清水洋三
准教員	准教員	准教員	吉田將監

明治三十八年一月廿八日	大正五年四月	十一年四月	本 正	准教員	教員用	楠 田 豊
明治三十八年三月卅一日	明治四十三年三月卅一日	五年	本 正	本 正	校訓導長	石田福太郎
明治三十八年四月一日	明治四十二年十一月卅日	四年八月	本 正	本 正	訓 導	齋藤遊之助
明治三十九年一、廿六日	明治三十九年四月十五日	四月	准教員	准教員	訓 導	折原 龜藏
明治三十九年四月十九日	明治四十一年三月卅一日	二年	本 正	本 正	訓 導	山口善太郎
明治三十九年四月十七日	明治四十二年十一月卅日	三年八月	本 正	本 正	訓 導	鬼久保勝輔
明治三十九年四月廿一日	明治三十九年十二月	九月	本 正	本 正	訓 導	金井塚はつ
明治四十年七月十三日	明治四十三年十二月十日	三年六月	本 正	本 正	訓 導	青 木 千城
明治四十年十月十六日	明治四十一年四月三十日	七月	本 正	本 正	訓 導	遠 藤 千代
明治四十一年六月十日	明治四十二年四月三十日	十一月	本 正	本 正	訓 導	渡 邊 以一
明治四十一年九月十四日	明治四十二年三月卅一日	七月	本 正	本 正	訓 導	福澤吉之丞
明治四十二年四月廿一日	明治四十二年九月廿七日	六月	本 正	本 正	訓 導	齋 藤 きよ
明治四十二年五月三日	明治四十五年三月卅一日	二年十一月	本 正	本 正	訓 導	南 毎 平
明治四十二年十月十二日	明治四十三年三月卅一日	六月	准教員	准教員	訓 導	松 田 新治
明治四十二年十一月廿日	大正二年五月二十日	三年七月	本 正	本 正	訓 導	新井小一郎
明治四十三年三月十九日	明治四十三年十月十四日	九月	本 正	本 正	訓 導	榎 本 基康
明治四十三年四月四日	明治四十四年三月卅一日	一年	准教員	准教員	訓 導	岩上丑太郎
明治四十三年四月十一日	明治四十五年三月卅一日	二年	本 正	本 正	訓 導	新井端藏
			本 正	本 正	訓 導	飛田英之助

明治四十三年四月十一日	明治四十四年十月廿六日	一年七月	本正	本正	訓導	齋藤美
明治四十四年一月十六日	明治四十五年六月三十日	一年六月	本正	本正	訓導	齋藤與四郎
明治四十四年三月卅一日	明治四十五年三月三十一日	一年一月	本正	本正	訓導	岩田滿
明治四十四年三月卅一日	大正七年三月三十一日	七年一月	本正	本正	訓導	加藤喜右衛門
明治四十四年四月三十日	明治四十五年三月三十一日	一年	本正	本正	訓導	山崎愉一郎
明治四十四年十一月九日	大正元年十二月三十一日	一年二月	本正	本正	訓導	榎本あさ
明治四十五年一月廿五日	大正七年三月三十一日	六年三月	本正	本正	訓導	澁谷作造
明治四十五年三月卅一日	大正二年四月九日	一年二月	本正	本正	訓導	塚田新一
明治四十五年三月卅一日	大正五年三月三十一日	四年一月	本正	本正	訓導	内田菊五郎
明治四十五年四月十九日	大正四年三月三十一日	三年一月	本正	本正	訓導	鬼久保勝輔
明治四十五年四月三十日	大正四年三月二十三	三年	本正	本正	訓導	木村隆信
大正元年九月一日	大正八年十一月二十六日	七年八月	准教員	准教員	准訓導	高澤
大正二年一月十一日	大正三年五月三十一日	一年五月	准教員	准教員	准訓導	齋藤與四郎
大正二年三月三十一日	大正三年七月十九日	一年五月	本正	本正	訓導	石井翠
大正二年三月三十一日	大正三年七月二十九日	一年五月	本正	本正	訓導	淺草岩松
大正三年四月十六日	大正四年三月九日	一年	本正	本正	訓導	小川祐治
大正三年六月十一日	大正六年四月十二日	二年十一月	本正	本正	訓導	小船角藏
大正三年七月十八日	大正四年三月三十一日	九月	本正	本正	訓導	金子俊治

大正三年九月二日	大正七年三月三十一日	三年七月	本正	本正	訓導	森歡吾
大正四年三月三十一日	大正四年十一月九日	九月	本正	本正	訓導	齋藤きよ
大正四年三月三十一日	大正七年十一月三十日	三年九月	本正	本正	訓導	河内常太郎
大正四年四月三十日	大正四年十一月三十日	八月	本正	本正	訓導	齋藤與四郎
大正四年十一月九日	大正五年三月二十五日	五月	本正	本正	訓導	松本庄七
大正四年十二月十三日	大正十一年九月三十日	六年十月	本正	本正	訓導	中山賢隆
大正五年三月二十五日	大正八年三月三十一日	三年一月	本正	本正	訓導	鬼久保勝輔
大正五年三月二十五日	大正七年三月三十一日	二年一月	本正	本正	訓導	熊倉しづ
大正四年四月三十日	大正五年十二月十六日	四月	本正	本正	訓導	山崎
大正五年九月三十日	大正七年三月三十一日	一年二月	本正	本正	訓導	小關右馬三
大正六年三月三十一日	大正七年三月三十一日	一年二月	本正	本正	訓導	田島藤太郎
大正六年四月二十七日	大正六年八月二十一日	五月	本正	本正	訓導	戸田章四郎
大正六年十一月十六日			本正	本正	訓導	高山義雄
大正七年三月三十一日	大正八年三月三十一日	一年一月	本正	本正	訓導	關根勝正
大正七年三月三十一日	大正八年三月三十一日	一年一月	本正	本正	訓導	新井彦太郎
大正七年三月三十一日	大正八年三月三十一日	一年一月	本正	本正	訓導	永井よし
大正七年三月三十一日	大正七年十月十四日	八月	准教員	准教員	准訓導	鈴木保
大正七年四月二日	大正八年十一月三十日	一年八月	本正	本正	訓導	根岸武雄

大正八年一月三十一日	大正八年十一月八日	十二月	本正	本正	代用	榊原彌七
大正八年三月三十一日	大正十二年三月三十一日	三年一月	本正	本正	訓導	森田淳次郎
大正八年三月三十一日			本正	本正	訓導	鈴木勝二
大正八年三月三十一日	大正九年九月十五日	一年七月	本正	本正	訓導	太田ムメ
大正八年三月三十一日			尋正	尋正	訓導	齋藤大昇
大正八年四月二十日			本正	本正	代用	齋藤安之助
大正八年十月三十一日	大正九年三月三十一日	六月	本正	本正	代用	石井ひさ
大正八年十一月三十日	大正十二年三月三十一日	三年五月	本正	本正	訓導	渡邊以一
大正九年一月二十日	大正十二年五月二十五日	三年五月	尋正	尋正	代用	熊倉定右衛門
大正九年三月三十一日	大正十二年八月三十一日	二年六月	尋正	尋正	訓導	齋藤さこ
大正九年九月十五日	大正十年三月三十一日	七月	尋正	尋正	訓導	新堀いね
大正十年三月三十一日	大正十二年三月三十一日	一年一月	本正	本正	訓導	門多ときえ
大正十年八月二十五日	大正十三年四月三十日	二年九月	本正	本正	訓導	齋藤繁枝
大正十一年三月三十一日	大正十二年三月三十一日	一年一月	尋正	尋正	訓導	柿沼ミツ
大正十一年三月三十一日			尋正	尋正	訓導	高山福壽
大正十一年九月十六日	大正十二年二月六日	六月	本正	本正	代用	鈴木チヨ
大正十一年九月三十日			本正	本正	訓導	黒須勝太郎
大正十二年三月三十一日			本正	本正	訓導	榎本愛子
大正十二年三月三十一日	大正十四年三月三十一日	二年一月	尋正	尋正	訓導	宮原けさみ

五、學校管理者、學務委員、校醫

大正十二年三月三十一日	岡安モト	代用	訓導	尋正	尋正
大正十二年五月二十五日	間宮宏	訓導	訓導	尋正	尋正
大正十三年五月二十二日	河野きい	訓導	訓導	尋正	尋正
大正十四年四月十日	石井翠	准訓導	准訓導	准教員	准教員
大正十四年六月二十三日	三月				
大正十四年六月三十日	柴崎沖藏	代用	代用	尋正	尋正

就職年月日	退職年月日	勤務年數	職名
明治三十二年十二月十六日	明治三十四年四月十七日	十一年六月	管理者 佐川重作
明治三十五年十月一日	明治四十一年十月十四日	十六年一月	學務委員 齋藤德三郎
同	明治三十七年九月二十日	十二年	學務委員 濱田岩之丞
同	明治三十八年三月三十一日	二年六月	學務委員 澁谷浦吉
同	同	二年六月	學務委員 吉田武之助
同	同	二年六月	學務委員 細田久右衛門
明治三十四年四月十八日	明治三十八年三月三十一日	十三年三月	學務委員 齋藤遊之助
明治三十五年四月二十一日	明治三十五年四月二十一日	一年一月	管理者 吉澤演吉
明治三十五年四月二十五日	明治三十七年六月二十八日	二年三月	管理者 三枝倭吉

明治三十七年六月二十九日	明治四十四年五月二十六日	六年三月	管理	佐川重作
明治三十七年九月二十日	明治三十五年四月十一日	一年一月	學務委員	濱田安之助
明治三十八年四月一日	明治三十八年三月二十一日	十三年三月	學務委員	石田福太郎
明治四十一年十月十五日	明治四十三年六月一日	一年九月	學務委員	山崎敬三
明治四十三年六月一日	明治四十四年六月一日	二年八月	管理	山崎敬三
明治四十三年六月十一日	大正八年二月二十七日	八年九月	學務委員	木村愛之丞
大正二年十一月十八日	大正十三年三月十八日	八年一月	校醫	矢部良齋
大正五年二月二十六日	大正十三年三月十八日	八年一月	學務委員	高橋房太郎
大正五年二月二十六日	大正十三年三月十八日	八年一月	學務委員	齋藤常藏
大正五年二月二十六日	大正十三年三月十八日	八年一月	學務委員	戶田貞次郎
大正十三年六月三十日	大正十三年六月三十日	八年一月	學務委員	齋藤泰助
			學務委員	石川信太郎

六、兒童

(一) 就學ノ狀況

學齡兒童ノ就學ハ年ト共ニ増加シ明治四十年度ヨリハ特ニ著シク進歩ヲ呈セリ然ルニ明治四十三年八月未曾有ノ水災ヲ被リ教育上ニモ多大ノ打撃ヲ受ケ明治四十四年度ヨリ就學者ニ非常ノ減少ヲ來スニ至リシハ誠ニ遺憾トスル所ナリサレド其ノ後水害瘡痍ノ回復ト共ニ次第ニ向上シ大正七年以後ニ至リ

テハ就學歩合堂ニ九十九以上ヲ示スニ至レリ

年度別	種別		就學兒童		不就學兒童		就學		平均
	男	女	男	女	男	女	男	女	
明治三十四年	三二七	一四〇	一七	一六一	九四、九一	四六、五一	七一、九七		
明治三十五年	三四七	二三五	四	六七	九六、八六	七七、八一	八九、一三		
明治三十六年	三四三	二二三	五	四〇	九八、五六	八五、三五	八二、七五		
明治三十七年	三〇五	二二六	一〇	四八	九六、八二	八三、一〇	九〇、三二		
明治三十八年	三一〇	一九一	七	四四	九七、七八	八四、五一	九二、二七		
明治三十九年	三二五	二五九	一八	三五	九四、七五	八五、四八	九〇、四〇		
明治四十年	三三三	二六八	五	一一	九八、五二	九六、〇五	九七、八九		
明治四十一年	四〇〇	二八七	三	五	九九、二六	九八、二九	九八、八五		
明治四十二年	三五三	二七九	七	一三	九八、〇六	九五、五五	九六、九三		
明治四十三年	三五七	二七七	四	一三	九八、八九	九五、五二	九七、三九		
明治四十四年	三三七	二八六	八	二三	九七、六八	九二、五五	九五、二四		
明治四十五年	三三一	二六八	二	四一	九三、七七	八六、七三	九〇、四八		

大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年
三四四	三五七	三五七	三七九	三三二	三八二	三八〇	四一四	四二二	四三六	四五二	四四九	四四七
二八六	三〇七	三〇六	三二五	二八七	三四〇	三四七	三九三	四〇三	四〇二	四〇八	四〇一	三九四
一四	九	五	二	三	三	一	二	五	六	六	五	六
四三	一二	二五	一〇	七	四	三	一	二	二	一	二	一
九六、〇九	九七、五四	九八、六一	九九、四八	九九、〇一	九九、二二	九九、七三	九九、五二	九八、八三	九八、六四	九八、六九	九八、九〇	九八、六八
八六、六九	九六、二四	九三、四四	九七、〇一	九七、六一	九八、八三	九九、四二	九九、七五	九九、五一	九九、五二	九九、七六	九九、五〇	九九、七五
九一、四三	九六、九四	九五、六七	九八、三二	九八、四一	九九、〇三	九九、五八	九九、六三	九九、一六	九九、〇五	九九、一九	九九、一八	九九、一五

(二) 在籍兒童

年度別	種別	男	女	計	男	女	計	合計
明治三十五年	尋常	一一二	三五〇	二七六	一七	四	二一	三九二
明治三十六年	尋常	一一八	三五五	二八三	一五八	八	一六六	四四九
明治三十七年	尋常	一二三	三〇四	三三三	一七一	一〇	一八一	四八五
明治三十八年	尋常	一二五	二七八	三三三	一七三	一七	一八九	五二二
明治三十九年	尋常	一二六	二七四	三三〇	一八八	一七	二〇五	五二五
明治四十年	尋常	一二四	二七九	三二〇	一七七	二三	二〇〇	五二〇
明治四十一年	尋常	一二三	二八四	三一一	二一五	二九	二四四	五五九
明治四十二年	尋常	一二〇	二七六	二九六	二二五	三七	二六二	五五八
明治四十三年	尋常	一二二	二七三	二九五	二二二	三〇	二四二	五三七
明治四十四年	尋常	一二五	一八六	四一	一七八	三〇	二〇八	六一九
明治四十五年	尋常	一二七	一六七	三八四	九三	一六	一〇九	四九三
明治四十六年	尋常	一二五	一七〇	三八五	九九	一五	一一四	四九九
明治四十七年	尋常	一八一	一四八	三二九	一〇六	二〇	一二六	四五五
明治四十八年	尋常	一八一	一二四	三〇五	一三八	三五	一七三	四七八
明治四十九年	尋常	一二二	二七六	二九六	二二五	三七	二六二	五五八
明治五十年	尋常	一二三	二七三	二九五	二二二	三〇	二四二	五三七
明治五十一年	尋常	一二四	二七九	三二〇	一七七	二三	二〇〇	五二〇
明治五十一年	尋常	一二三	二八四	三一一	二一五	二九	二四四	五五九
明治五十二年	尋常	一二五	一八六	四一	一七八	三〇	二〇八	六一九
明治五十三年	尋常	一二七	一六七	三八四	九三	一六	一〇九	四九三
明治五十四年	尋常	一二五	一七〇	三八五	九九	一五	一一四	四九九
明治五十五年	尋常	一八一	一四八	三二九	一〇六	二〇	一二六	四五五
明治五十六年	尋常	一八一	一二四	三〇五	一三八	三五	一七三	四七八

明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年	明治四十五年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
一九二	二二二	二八〇	二八一	三〇〇	二九八	二八三	二七一	二七八	二九六	三〇九	三二〇	三一五	三四二	三三五	三四六
一九六	二〇〇	二二〇	二一九	二四四	二三四	二二〇	二四〇	二五一	二五九	二七四	二九三	二九四	三〇四	三二八	三四一
三八八	四二二	五〇〇	五〇〇	五四四	五三二	五〇三	五一一	五二九	五五五	五八三	六一三	六〇九	六四六	六六三	六八七
一四八	一四八	四四	四七	三七	二六	二六	三七	三六	三四	三三	二五	二九	三二	三六	三一
三三	三五	一〇	一三	四	六	一〇	一六	一一	一一	一三	一七	一五	一六	七	一五
一八一	一八三	五四	六〇	四一	三二	三六	五三	四七	四五	四六	三二	四〇	四八	四三	四六
五六九	五九五	五五四	五六〇	五八五	五六四	五三九	五六四	五七六	六〇七	六二九	六四五	六四九	六九四	七〇六	七三三

(三) 出席ノ状況

年度別	種別	教授日數	出席平均數	缺席平均數	科	高	等	科
大正十一年	尋常	三五五	三三五	六九〇	四〇	一〇	五〇	七四〇
大正十二年	尋常	三六〇	三二三	六八三	四九	一三	六二	七四五
大正十三年	尋常	三六四	三一五	六七九	五四	二五	七九	七五八
大正十四年	尋常	三五四	三〇八	六六二	五九	二六	八五	七四七
明治二十五年	高等	二三五	二三〇、八〇	一一二、二〇	九四、三五	九五、〇〇	六、八〇	九三、三二
明治二十六年	高等	二七五	二三七、六〇	四〇、〇〇	八五、五九	一四三、四〇	二七、二〇	八四、〇六
明治二十七年	尋常	二七六	二六六、五〇	四二、八〇	八六、一六	一五八、一〇	二九、四〇	八四、三三
明治二十八年	尋常	二七五	二七五、九〇	四七、三〇	八五、三七	一五九、八〇	三〇、七〇	八三、〇〇
明治二十九年	尋常	二七五	二七五、九〇	四七、三〇	八五、三七	一五九、八〇	三〇、七〇	八三、〇〇
明治三十年	尋常	二七五	二七五、九〇	四七、三〇	八五、三七	一五九、八〇	三〇、七〇	八三、〇〇
明治三十一年	尋常	二七五	二七五、九〇	四七、三〇	八五、三七	一五九、八〇	三〇、七〇	八三、〇〇

明治三十二年	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年	明治四十五年	大正二年	大正三年
二五五、四〇	二六四、六〇	三〇五、一四	三二四、六三	二八〇、五二	二五〇、九三	二六七、一三	三三九、九六	三五九、七二	四三六、三七	四五八、六四	四七七、六二	四六四、九三	四六五、一八	四六一、二三	四六八、二三
三八、五〇	二五、七〇	九六、四〇	七〇、四九	一〇四、二六	六五、六六	四二、九五	四三、七六	四五、〇三	五四、〇七	四五、四七	五九、九八	四九、五八	四五、八〇	四六、一六	五四、八三
八六、九〇	九一、一五	七五、九九	八一、七〇	七二、九〇	七九、二六	八六、一五	八八、六〇	八八、八七	八八、九八	九〇、九八	九〇、五三	九〇、四〇	九〇、八八	九〇、八〇	八九、五一
正二〇、八八	二〇、九〇	一九八、七〇	一〇三、七九	一〇五、二〇	一三三、九七	一六七、七九	一六九、七〇	一七一、八二	四九、一八	五六、二三	四〇、四五	三一、二七	三三、八四	五〇、四二	四三、七一
二八、九〇	二四、〇〇	一四、九一	四、六九	七、四七	二、八五	五、八〇	六、二六	一、六八	一、七八	〇、五三	〇、七三	〇、七九	〇、七九	一、九九	二、〇三
八七、八四	八九、七四	九三、〇三	九五、六九	九三、三七	九三、八九	九三、四〇	九六、四九	九六、六九	九六、九三	九八、七二	九七、七六	九七、七三	九七、七三	九六、二一	九五、五七

大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
二五五	二五一	二五二	二五二	二五九	二五一	二五〇	二五〇	二五一	二五六
四七七、九八	五四二、三九	五六三、四八	五六九、四九	六〇九、六八	六一八、七七	六二九、二九	六四七、五一	六五一、四七	六四四、六三
六〇、三八	三九、三〇	三七、〇四	三六、二二	二五、一二	三七、〇四	四〇、三九	三四、九二	三三、六一	三〇、三九
八八、九四	九三、二四	九三、八三	九四、〇二	九五、六八	九四、三五	九三、九七	九四、八八	九五、〇九	九五、五〇
四〇、一二	四三、三七	三一、一二	三七、三四	四五、六四	四〇、二七	三九、一一	四五、〇二	五七、五三	七二、九二
二、八四	一、八六	〇、八八	二、二二	〇、八六	一、九一	一、五九	二、一〇	三、五七	三、七八
九三、二三	九五、八九	九七、二五	九四、六〇	九八、一六	九五、四六	九六、二六	九五、五四	九四、一七	九五、〇七

七、卒業生

年度別	種別	尋常科	高等科	計
明治二十五年	男	二九	四	三三
	女			
	計			
	男			
	女			
	計			

明治二十六年	明治二十七年	明治二十八年	明治二十九年	明治三十年	明治三十一年	明治三十二年	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年
三二	三二	三六	三二	三八	四九	二九	四五	三五	四二	四五	四二	三一	三八	二九	二八
二	七	九	七	七	一八	九	一七	一三	一三	一一	一八	一七	一三	一二	五
三三	三九	四三	四一	四五	六七	三八	六二	四八	六五	五六	七〇	四八	六一	五一	三三
一六	一六	二七	二〇	二七	二一	一七	一九	二二	四二	三七	三九	一五	九九	一九	一四
〇	〇	二	一	一	二	一	二	二	八	五	〇	四	一	四	三
一六	一六	二九	二一	二八	二三	一八	二一	二四	五一	四二	四七	一五	一三	二〇	一七

明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年	明治四十五年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
二〇	二四	三四	五四	三五	三二	三九	三七	三五	三八	四八	四九	四八	四四	四四	五六
二	一五	二三	二三	二三	三一	二七	二三	二五	三九	二九	三六	三八	四八	四二	四六
二二	三九	五七	七七	五八	六三	六六	六〇	六〇	七七	七七	七七	八七	九六	八六	一〇二
一八	一六	一五	七	八	〇	一三	一〇	一一	八	〇	一二	一〇	一一	一七	二三
七	三	五	二	四	七	〇	六	二	三	四	四	一	三	四	五
二五	一九	一五	九	二	七	三	六	一	一	四	一	一	一	二	二

八、事業

本校ノ事業ハ教育ニ關スル勅語ノ御趣旨ヲ奉體シ小學校令其他ノ教育法規ニ遵ヒ經營施設セルモノナリ然レドモ教育ノ事タル最モ緊切ニ社會ノ狀態ト地方ノ狀況ニ適合セザルベカラザルヲ以テ廣ク時代ノ趨勢ヲ達觀シ深ク地方ノ風習ヲ觀察シ村民ノ風尚ヲ顧ミ兒童ノ性情ニ鑒ミ郷土中心のニ諸般ノ事業ヲ設定セリ以下其ノ施設ノ梗概ヲ記述スベシ

(一)教育ノ方針

本校ノ教育ハ創始以來自力發展主義ヲ標榜セリ嘗テハ自憤主義ト稱セリ蓋シ孔聖ノ所謂「不憤不啓」ノ義ヲ取レルナリ然モ意ハ則チ同ジキノミ今之ヲ表示スレバ

自力發展主義

知能教育——自學主義
道德教育——自律主義
身體教育——自強主義

故ニ兒童ノ個性ヲ尊ビ直接經驗ヲ重ンズ個性ヲ尊ブガ故ニ人格的價值創造ノ自己活動ヲ重視シ衝動的行為モアナガチニ之ヲ抑制セズシテ規正善導ス直接經驗ヲ重ンズルガ故ニ環境ヲ重視シ作業ヲ尊重シ兒童ヲシテ自然ト人事トニ直接セシムルニ努ム從ツテ教育場ハ獨リ教室ノミニアラズ學習好適ナル場所ハ悉ク兒童ノ教育場ナリ

(二)教育ノ施設

1 環境觀察ト家庭聯絡 兒童ノ教育ニ當ラント欲セバ先ヅ其ノ背景タル地方ノ風俗家庭ノ習慣

ヲ察シ家庭ト聯絡ヲ保ツノ要アリ其ノ手段トシテ常ニ實施シツ、アル事項ハ村內巡視、家庭訪問學校手帖及書狀ニヨル通信、父兄ノ學校參觀保護者會、巡回講話等ナリ

2 兒童觀察 教育正面ノ對者ハ兒童ナリアラユル教育ノ營爲ハ兒童ノ心性體質及其ノ生活ニ即シテ行ハレザルベカラズコ、ニ兒童觀察ノ極メテ切要ナルヲ見ル兒童觀察ハ精神技能及身體ノ兩方面ニシテ入學當初ノ知能検査、學業成績考査、定時(入學前及毎年四月)及隨時ノ身體検査及アラユル兒童生活ノ觀察等ニヨリテ行ハル

兒童觀察ノ結果ヲ教育上ニ活用センニハ之ヲ記録ニ存スルノ要アルヲ以テ明治三十三年教育要録ヲ定メシガ明治三十八年之ヲ改メテ兒童觀察錄トシ様式内容ヲ改善シツ、今日ニ及ベリ現今所定ノ記載事項ハ左ノ如シ

イ、兒童氏名生年月日、入學年月日、退學年月日
ロ、保護者氏名、住所、職業資産、
ハ、家庭ノ狀況(家族生活狀態特殊ノ事項)
ニ、兒童

性質(心性、行為、言語、勤惰偏癖) 體質(發育狀態榮養官覺、健康、疾患)

ホ、訓育ノ手段操行ノ評定賞罰

ヘ、其他訓育上必要ト認メタル事項

3 學級

第四章 教育

イ、學級編制ハ場合ニヨリ或ハ男女別ニシ或ハ優劣ニ分チシコトアリシモ大正十一年度以來尋一ヨリ尋三マデハ通學方面ニヨリテ之ヲ定メ尋四以上ハ男女別トセリ但シ本年ハ試ニ尋一ヲ四月乃至九月生及十月乃至翌年三月生ノ二學級トセリ

ロ、學級經營ハ本校ノ方針ニ從ヒ學級主任之ニ當ル其ノ記錄ヲ教務録ト稱ス
學級主任ハ創立以來持上リヲ本體トシ教科擔任制ヲ加味セリ

兒童ハ其ノ所屬ノ學級ニアリテ學習スルヲ本體トスルモ兒童ノ實力ト希望トニヨリテハ他ノ學級ニ加ハリ某教科ノ學習ヲナスヲ許ス

4 教科及課程 教則ノ示ス所ニ從フモ左ノ如キ斟酌ヲ加フルモノトス

イ、尋一入學當初凡ソ一ヶ月ハ教科ヲ區分セズ學校教育ノ豫備的教育ヲ行フ

ロ、尋一二ニハ兒童ノ好ム教科ヲ多ク課スルヲ得算術ヲ減シ國語ヲ多クスルガ如シ

ハ、各教科特ニ讀方ニアリテハ機會ヲ逸セズ教材ヲ採擇シ尋四ニ於テハ明治三十八年以來第二

學期ヨリ特ニ郷土科ヲ加設ス

ニ、高等科ニハ農業圖書ヲ加設シ女子ノ爲メニハ更ニ家事ヲ加フ

ホ、尋六及高二ノ最終ノ場合ニハ凡ソ一ヶ月間教科ヲ區分ヒズ總合的教育ヲ行フ

5 教科細目 教則ニ準據シ本校ノ方針ニ從ヒテ教科主任之ヲ編成シ學校長ノ查閱ヲ經テ之ヲ定

ム其ノ編成ニアタリテハ特ニ左ノ點ニ留意スルモノトス

イ、教材ノ選擇

基本的模式の材料ヲトルコト

郷土的材料ヲ逸セザルコト

兒童現在ノ生活ニ即シ將來ノ要求ニ應ジ實用的社會的ナルコト

ロ、教材ノ排列

兒童ノ發達階段ニ應ズルコト

自然ト人事ニ直接シ得ルヤウニスルコト

ハ、樣式

學習材料及其ノ主眼點並ニ學習上ノ注意學習用具、學習ノ機會等ヲ示スコト

6 學習案 從來樣式ヲ一定シテ作製セシモ數年前ヨリ之ヲ廢シ全ク教師又ハ兒童ヲシテ自由ニ

立案セシムルコト、セリ而シテ學習案ハ教科細目ニ基クベキモ必シモ之ニ拘泥スルヲ要セザル

モノトス

7 學習時間

イ、朝會 第一時十五分前ヨリ

ロ、毎時學習時間 四十五分ヲ普通トスルモ場合ニヨリ四十分乃至五十分トスルコトアリ

ハ、毎學期末凡ソ二週間ハ時間表ヲ撤廢シ總合復習ヲ行フ

ニ、時間割ハ必要ニ應ジ隨時變更スルコトヲ得

8 學習法 兒童ノ自發活動ヲ重ンズルガ故ニ學習ニ一定ノ樣式ナシ樣式アリトセバソハ劃一

注入、束縛ヲ打破セントスル様式ナリサレド自發活動ニハ外面的ト內面的トアリ學習ハ內面的ナルヲ要ス放恣ナル個性助長亂雜ナル學習法ノ如キハ本校ノ採ラザル所ナリ此ノ見地ヨリ立テタル學習法ハ左ノ如シ

學習
獨自學習
分團學習
協同學習
學級學習
合級學習

而シテ此等ノ何レノ場合ニ於テモ教師ノ之ニ干與スルヲ本體トスルモ時トシテハ全ク兒童ノミニテ行ハル、コトアリ

9 自治制 兒童ヲシテ自治ノ習慣ヲ得シメ協同ノ精神ヲ養ハシメテニ設クル所ナリ
自治トハ自覺ニヨル行動ニシテ單獨の場合ト協同の場合トアルモコ、ニ謂フ所ノモノハ協同的ノ場合ナリ之ヲ分チテ三トス

學級自治

協同自治 學校自治

學友自治

イ、學級自治 開校當時ヨリノ施設ニシテ學級會ヲ組織シ左ノ役員ヲ置ク

學級長 各學級正副各一名トシ尋四以上ハ兒童ノ互選ニ基キ尋三以下ハ學級主任ノ選定ニヨリ學校長之ヲ命ズ其ノ任務ハ其ノ學級ノ秩序ヲ保チ學級會ヲ主催シ教室ノ出入、集合解散等

ノ指揮ヲナスニアリ

學級當番 各學級毎日二名ヅツ交替之ニ當リ帳簿答案ヲ集配昇降所及教室ノ清潔整頓硯水ノ配附墨汁ノ始末等ヲナス

掃除當番 各學級若干名交代ニ之ニ當リ校舍各室及便所ノ掃除ヲナス
ロ、學校自治 全校ニ關スル事務及作業ヲ自治的ニ行ハシムル爲メ明治四十三年四月設ケタル

モノニテ左ノ役員ヲ置キ每學期一回學校會ヲ開キ諸般ノ協議ヲナシ或ハ學藝ノ發表ヲナス

世話掛 全校兒童ノ風紀ヲ正シ看護ノ任ニ當ルモノニシテ高等科兒童中數名ヅツ每週交替ニ勤務スルモノトス

購買掛 學用品共同購買ノ事務ニ當ルモノニシテ高等科又ハ尋六ノ兒童之ニ當ル

應接掛 來校者ニ應接スルモノニシテ高等科女兒之レニ當ル

圖書館掛 圖書館ノ整理及圖書出納ヲ掌ルモノニシテ高等科兒童之ニ當ル

ハ、學友自治 即チ校外自治ニシテ明治三十九年九月兒童通學組合ヲ設ケシニ始マル明治四十四年四月之ヲ學友自治團ト稱シ各大字毎ニ男女別ニ左ノ役員ヲ置ク其ノ事業ハ校外ニ於ケル風紀ノ振肅出席互誘學習會ノ開催道路ノ修理危險物除去害蟲驅除社寺ノ掃除疾病者慰問學友ノ募參等ナリ毎木曜日各團會合ス

團長 正副各一名兒童ノ互選ニ基キ學校長之ヲ命ズ

組長 各團ヲ若干組ニ分チ各組ニ組長一名ヲ置ク

10

指導者 各團ニ一名ヲ設ケ職員中ヨリ學校長之ヲ命ジ成ルベク大字内ニ居住セシム
常識養成 小學教育ハ之ヲ一面ヨリ見レバ常識教育ナリサレバ本校ハ常ニ此ノ點ニ力ヲ注ギ
諸種ノ施設ヲ行ヘリ今正科外ニ於ケル此ノ種ノ施設ヲ舉ゲン

イ、學校新聞 明治三十八年四月ヨリ校内廊下ニケ所ニ大黑板ヲ備ヘ毎週一回以上常識養成ノ
資トナルベキ事項ヲ掲載シテ學校新聞ト稱シ之ヲ正科教授ニ利用シ或ハ成績考查ノ問題中ニ
加ヘテ兒童ノ注意ヲ惹キ頗ル裨益スル所アリシモ大正十年校舍改築後未ダ其ノ設備ヲナスニ
至ラズ

ロ、著莪校報 明治四十五年十月ヨリ兒童ノ常識養成及學校家庭連絡ノ機關トシテ毎週一回著
莪ト題スル校報ヲ出シ、ガ大正七年日勝村公報發行セラル、ニ及ビ之ヲ廢セリ

ハ、學校郵便 兒童ノ常識養成及綴方練習ノ一助トシテ大正三年六月ヨリ學校郵便制ヲ設ケ方
法ハ現制度ニ模シ其ノ事務ハ便宜ノ學級兒童ヲシテ之ヲ執ラシメ配達區域ハ本村内ニ限ルコ
ト、セリ

ニ、著莪圖書館明治四十二年三月同年高等科卒業生ノ本箱寄附ニ發端ス書籍ハ大概卒業生及有
志ノ寄附ニカ、ル閱覽人員ノ最モ多カリシハ明治四十四年度ノ六千七百四十三人ニシテ多ク
ハ毎年千數百人ニ過ギズ大正十三年度ニ於ケル藏書冊數ハ三百六十二冊ナリ

ホ、雜誌回覽 久シキ以前ヨリ或一二ノ學級ニヨリ計畫セラレシガ現在ハ尋五以上ノ學級ハ皆
之ヲ行ヘリ

11 勤勞作業 學習事項ヲ實習セシメ勤勞ノ習慣ヲ養ハンガ爲メ施設セル事項ハ左ノ如シ

イ、學校農場 明治三十五年農業補習學校ヲ本校ニ附設シ畑二段歩ノ實習地ヲ置キシヲ以テ本
校兒童モ該農場ニ於テ實習ヲ行ヒ來リシガ明治四十五年其ノ一段歩ヲ以テ全ク本校ノ農場ト
シテ經營スルコト、ナレリ大正九年校舍改築ニ際シ之ヲ廢シ大正十一年ヨリ現校地内ニ約六
畝歩ノ實習地ヲ置ケルノミ今後大ニ之ヲ擴張スルノ必要アリ

ロ、家庭農場 學校農場ハ狹小ニシテ十分其ノ目的ヲ達スルニ足ラザルヲ以テ明治四十三年ヨ
リ家庭ニ於テ廣狹適宜ノ農場ヲ設ケシムルコト、シ高等科兒童ハ勿論尋五以上ニモ之ヲ獎勵
セリ而シテ毎年七月蔬菜ノ品評會ヲ開催ス

ハ、養鶏及養兔 此ノ二業ハ當地方兒童ニ恰適ナルモノナルヲ以テ明治四十三年ヨリ有志兒童
ヲシテ家庭ニ於テ行ハシム其ノ飼養人員鶏兔數ハ年ニヨリテ異ナルモ最モ多カリシハ大正十
二年ナリ

尋常科	養鶏者數	鶏數	養兔者數	兔數
一八	五八	二	三	
五一	六七	一〇	一七	

ニ、學用品共同購買 明治四十二年一月ヨリ實施セル所ニシテ賣買ノ形式ヲ以テ之ヲ行ヘリ

ホ、家事手傳 兒童ヲシテ農業其他ノ家事ヲ實習セシメンガ爲メ其ノ手傳ヲナサシムルハ最モ有効ノ手段ト認メ夙ニ鼓舞獎勵ヲ加ヘ各大字指導者ハ屢々部内ヲ巡視シ家庭ヲ訪問シ學級主任ハ農繁休業其他ニ於テ時々各家庭ヲ訪問シテ兒童ノ勤務狀態ヲ查察シ以テ父兄ノ指導ヲ促シ兒童ノ勤勞ヲ獎勵セリ

12 學藝發表 學藝ハ發表ニヨリ實行ニヨリテ益々確實トナルモノナルヲ以テアラユル機會ニ於テ之ヲナサシムルニ努ム今其ノ主ナル事項ヲ述ベシ

イ、學藝會 明治二十六年四月高等兒童相謀リテ菁莪學友會ヲ組織シ言語ノ練習ヲ主目的トシテ毎月二回開會シ談話討論等ヲ行ヘリ翌二十七年五月更ニ毎月一回雜誌「千草の園」ヲ發行シ學藝ノ發表及學校家庭聯絡ノ機關トセリ明治二十八年六月經濟上雜誌ノ維持ニ困難ヲ來シテ廢刊セシモ其ノ他ノ事業ハ依然トシテ盛ニ行ハレタリシガ明治三十四年以後次第ニ振ハザルニ至レリ後明治三十九年五月高等科兒童ニヨリテ再興セラレ教科ノ練習及校風ノ肅正ヲ目的トシテ毎月一回開會シ更ニ二年二回大會ヲ開キ孜孜トシテ目的ノ遂行ニツトメツ、今日ニ及ビ

ロ、記念書 本校ハ古來ノ慣習ニ從ヒ每年書初ヲ行ヒ來リシガ明治四十一年ヨリ之ヲ記念書ト稱シ一月一日ノ外開校記念日、卒業式及特ニ記念スベキ日ニ於テ記念事項ニ關係アルモノ文學上趣味アルモノ及道德上裨益アルモノ等ニツキ語句及繪畫ヲ描書セシメ兒童ノ展覽又ハ回覽ニ供セリ

ハ、成績物回覽 一ツハ兒童相互砥勵ノタメ一ツハ家庭トノ聯絡ノ爲メ綴方書方圖書其他ノ成績物ヲ各學級別ニ編冊シ每學期一回兒童及家庭ノ回覽ニ供ス

13 教育勅語戊申詔書、國民精神作興詔書ノ取扱

教育勅語ハ我が國民道德ノ大綱ヲ明示シ給ヘルモノニシテ其ノ要旨ハ修身敎則トナリ其ノ細目ハ修身敎科書トナレリ而シテ戊申詔書及國民精神作興詔書ハ各其時代ニ於ケル國民思想ノ趣向ヲ察シ給ヒ時ニ必要ナル國民的敎訓ヲ垂レサセ給ヘルモノナリサレバ此ノ勅語及詔書ハ國民敎育上依據シ遵奉スベキ大方針タルヤ自ラ明カナリ然レドモ地方ニハ自ラ地方的特質ヲ有スルヲ以テ敎育者ハ其ノ特質ノ美點缺所ヲ觀破シ短所ハ之ヲ補修シ長所ハ益々之ヲ發揮センコトヲ努メザルベカラズ熟々當地方人民ノ道德的觀念及行動ヲ察スルニ對家族對國家道德ニ於テ幾多ノ美點長所ヲ有スルニカ、ハラズ概シテ自己ト社會トニ對スル道德的觀念ニ於テ大ニ缺如セル所アルガ如シ本校道德敎育ノ施設ハ此等ノ點ヲ顧慮ノ下ニ聖旨ノ貫徹ヲ期セントスルモノナリ

1 敎訓程度

尋一二 名稱及性質

尋三四 主要語句ノ讀方及大意

尋五六 勅語全文ノ暗誦及大意並ニ主要語句ノ暗書

尋 詔書全文ノ讀方及大意

高一二 勅語及詔書發布ノ由來並ニ意義

(2) 教訓方法

普通教授

イ、修身科ニ於テロ、諸教科ノ關係事項ニ附帶シテ

ハ、偶發事項ニ關聯シテ

特別教授

イ、勅語ハ三大節及卒業式並ニ御下賜記念日ニ於テ之ヲ奉讀シ御趣旨ニツキ誨告ス

ロ、戊申詔書及國民精神作興詔書ハ御下賜記念日ニ於テ之ヲ奉讀シ御趣旨ニツキ誨告ス

(3) 實踐方法 項ヲ改メテ之ヲ述ベシ

14 校訓 聖旨貫徹ノ方便トシテ我が國民ノ特性ニ鑒ミ地方ノ狀況ヲ察シ明治三十二年一月一日左ノ校訓ヲ制定セリ

校訓

一、常ニ聖旨ヲ奉體シ忠孝ノ全カラシムコトヲ期スベシ

一、智ヲ啓キ德ヲ修メ身ヲ健ニシ以テ國民ノ本分ヲ盡サシムコトヲ期スベシ

一、常ニ誠實ヲ旨トシ言行一致ナラシムコトヲ期スベシ

一、公德ヲ重シ禮節ヲ守リ以テ篤實恭謙ノ人タラシムコトヲ期スベシ

一、分ヲ守リ用ヲ節シ以テ仁慈ヲ施シ公益ヲ謀ラシムコトヲ期スベシ

此ノ校訓ハ其ノ後難解ノ嫌アルヲ認メ明治三十八年十月三十日左ノ如ク改定セリ

校訓

一、よく勉めよく遊べ

一、きまりをよくせよ

一、正直にして親切なるべし

一、禮儀を正しくすべし

一、忠孝を心がけよ

15 學級訓練 學級訓練ハ主トシテ學級主任ノ經營ニ屬スルモ其ノ實踐ヲ指導スルニ於テ不統一

ナランニハ到底十分ノ効果ヲ收ムベカラズ仍テ校訓ノ德目ニ從ヒ其ノ實行スベキ具體的事項ヲ

選ビテ之ヲ各學年ニ配當シ之ヲ訓練要目ト稱シ學級訓練上準據スベキ點ヲ示セリ明治四十年四

月始メテ之ヲ編成シ爾後數次ノ改正ヲ經テ今日ニ及ベリ

19 季節的教訓要目 兒童訓育上ノ訓話ハ常ニ機先ヲ制シ機會ヲ逸セザランコトヲ要スコ、二本

要目ノ必要ヲ感シ明治四十一年四月之ヲ作り時々補正ヲ加ヘ以テ全校訓話ノ指針トセリ

17 全校訓話 全校訓話ノ目的ハ全校兒童ノ修身上ニ切實ナル事項ヲ訓諭シ以テ訓練上統一ヲ謀

リ善美ナル校風ヲ作ルニアリ其ノ機會ハ主トシテ式日、記念日模範日及朝會トス

イ、式日訓話 開校以來行ヒ來レル所謂式日トハ三大節祝賀式入學式卒業式始業式勅語下賜

記念式戊申詔書下賜記念式職員送迎式等ナリ

ロ、記念訓話モト隨時之ヲ行ヒ一定セザリシガ明治四十年所謂式日以外ニ於ケル國民的記念日

ヲ定メ爾後一二ノ變更ヲ加ヘ現今ハ左ノ時日ニ於テ之ヲ行フコト、セリ

日勝村造成記念日 四月一日

日清平和克復記念日 四月十五日

靖國神社例祭日 四月三十日
五月二十三日

海軍記念日 五月廿七日

地久節 六月廿五日

條約改正記念日 七月十七日

明治天皇祭 七月三十日

日露平和克復記念日 十月十六日

王政復古記念日 十二月九日

平和大詔下賜記念日 一月十日

陸軍記念日 三月十日

ハ、模範日 大正十二年十一月十日喚發セラレタル國民精神作興詔書ノ御趣旨ヲ奉體シ兼ネテ

其ノ日ヲ記念センガ爲メ毎月十日ヲ以テ模範日ト定メ學校長又ハ其他ノ職員ハ同詔書ニ因メ

ル訓話ヲ行ヒ職員兒童及使丁ニ至ルマデ學校全員悉ク模範的生活ヲ營ムモノトス

ニ、朝會 明治四十一年四月ヨリ月曜會ト稱シ毎月曜始業前訓話ヲ行ヒシガ大正七年四月之ヲ

朝會ト改メタリ其ノ行事ハ時々變更アリシモ大正九年五月ヨリハ靜念訓話及合同體操トセリ

18 全校統一訓練 校訓訓練要目及全校訓話等ニヨリ系統的統一のニ訓練ヲ行フト雖モ其ノ條項

ハ多種多樣ナルヲ以テ動モスレバ徹底ヲ缺クノ憾アリ仍テ其ノ場合ニ應ジ最モ必要ナリト認ムル訓練事項ヲ定メ全校一致其ノ徹底ヲ期スルコト、セリ大正七年四月以來選定セル事項ハ左ノ

如シ

- 一、友ヲ呼ブニ敬稱ヲツケル
- 二、人ニ逢ッテ左ニヨケル
- 三、教室ノ出入ヲ正シクスル
- 四、掃除ハ靜肅ニスル
- 五、紙屑ハ紙屑箱ニスル
- 六、容儀ヲ正シクスル
- 七、學用品ヲ忘レナイ
- 八、成績物ハ指定ノ時ニ出ス
- 九、物ヲ大切ニスル

19 弔慰 師弟ノ情誼ヲ厚ウシ兒童ノ友情ヲ養ハンガ爲メ開校以來施行セル所今其ノ要點ヲ抄録

セン

職員及兒童ニシテ大病又ハ不時ノ災禍ニ罹リタル者アル時ハ兒童總代及職員總代之ヲ訪問ス

職員死亡セシ時ハ全校職員及兒童之ニ會葬ス

兒童死亡セシ時ハ兒童總代及職員總代之ヲ吊問ス

20 獎勵 個人及團體ニ對シ左ノ三種ニ分チテ獎勵ヲ加フ(細項省略)

イ、善行獎勵 特種ノ善行アリタルモノハ之ヲ表彰ス

ロ、成績獎勵 學業及操行ノ優良ナルモノハ之ヲ表彰ス

ハ、出席獎勵 出席優良ナルモノハ之ヲ表彰ス

21 貯金 日露戰役記念事業トシテ明治三十九年一月ヨリ兒童ヲシテ貯金ヲ行ハシムルコト、セリ今開始以來五ケ年毎ノ成績ヲ示サン

年 度	全校兒童數	貯金兒童數	貯金總額	貯金一人平均額
明治三十八年	四七四	二二二	二五九・三九五	一・二二四
明治四十三年	五三九	一三一	四五八・二四〇	三・四九八
大正四年	五七八	一五三	六一二・一九七	四・〇〇一
大正九年	六八九	三八八	二、〇五四・七四〇	五・三〇〇
大正十三年	七四二	三八八	三、一〇〇・五六〇	七・九九一

22 合同體操 各學級別體操ヲ行フノ外朝會ノ際全校ノ合同體操ヲ行ヒ且時々數學級ノ合同體操ヲ行フ

23 運動會 春秋各一回全校ノ運動會ヲ開催シ競技、角力、遊戲體操等ヲ行フ又隨時遠足旅行等

ヲナシ體育ヲ獎勵ス

24 應急手當 兒童ノ急病傷害等ニ對シ救急材料及藥品ヲ備ヘ應急ノ手當ヲ加ヘ然ル後適當ノ處置ヲトルコト、セリ其ノ任ニ當ルモノハ主トシテ學級主任、看護當番教育衛生掛等トス

25 トラホーム治療 明治四十一年六月ヨリトラホーム患者ニ對シ校醫ノ指示ニ從ヒ毎日一二回治療(洗滌點藥)ヲ加ヘ明治四十二年ヨリハ更ニ一年一回縣醫ノ派遣ヲ乞ヒ手術ヲ加ヘシモ其ノ効果著シカラズ大正十年ヨリハ家庭ニ於テ治療スベキコトヲ獎勵シ學校ニ於ケル治療ヲ行ハズ

26 蛔蟲十二指腸蟲驅除 大正十二年度ヨリ縣醫ノ出張ヲ乞ヒ之ヲ行ヒシモ日尙淺キヲ以テ未ダ十分其ノ効果ヲ見ルニ至ラズ

27 學校衛生日 毎年春秋二回之ヲ定メ學校清潔方法(文部省訓令)ニ據リ施行ス

28 種痘 種痘法ニ從ヒ之ヲ行フ

29 長期休業中ノ兒童取扱 夏季冬季ノ長期休業中ニハ大概左ノ事項ヲ行フ

イ、自由學習及課題

ロ、綠蔭學習

ハ、召集 全校一訓話運動學藝會

大字別 訓話茶話會

鎮守參拜及境内掃除

戰死軍人及死亡學友墓參

二、家業實習指導

ホ、旅 行

(三) 處務 處務ハ確實簡捷ヲ主トシ共同又ハ分擔シテ之ヲ行フ

教務 教案、學級經營、兒童觀察、身體檢查
成績考查

1、學級事務

就學事務 出席督勵、學籍簿、出席簿

教務 教科細目、教科研究、學藝會、校報

文書 文書類、報告書類、諸揭示

備品 圖書、教具、器具

消品 消耗品

衛生 兒童衛生、設備衛生

購買 學用品共同購買

貯金 兒童貯金、職員貯金

應接 應接、遺失物

圖書館 圖書ノ出納保管

整理 校地、校舍

2、全校事務

職員會

學校長指導

3、統一事務

交互參觀

共同視察

教科研究會

職員修養會

4、研究事務

(四) 職員ノ研究修養

1、教科研究會 教育ノ行ハル、所教科ノ研究アルハ當然ノ事ナルモ開校當時ニアリテハ各職員個々任意ニ行ハレ共同の場合ニアリテモ隨時之ヲナスニ過ギザリシガ明治三十四年十二月各科教法ヲ實地教授ニヨリテ研究スルヲ目的トシテ教法研究會ヲ設ケ毎月一回會合シテ共同研究ヲナセリ後明治四十三年七月斯會ヲ組織シ各教科ノ教材教具教法等ヲ研究スルコト、シ各教科研究主任及委員ヲ置キ毎月一回乃至數回會合シテ共同研究ヲナシ或ハ研究ノ經過及結果ヲ發表セリ本會設立以來ノ主ナル研究調查物ニシテ現存セルモノハ左ノ如シ

郷材教授細目及資料

尋常小學算術書取扱方

綴方教授細目及文案

尋常小學理科教授細目及資料

尋常小學日本歴史解説

尋常小學地理書ニ現レタル物産解説兒童文ノ研究

尋常小學理科教授ノ實際

國語讀本研究

2 職員修養會 御即位大典記念事業ノ一トシテ大正四年六月設クル所毎月一回以上會合シテ研究修養事項ノ發表ヲ行フモノトス

第二節 日勝公民學校

一、沿革ノ大要 本村ハ純然タル農業地ナルヲ以テ、一村ノ盛衰ハ全ク農業ノ振否ニ因ル故ヲ以テ、本村小學校創設以來高等科ニ農業科ヲ加設シ、農業ニ關スル知能ヲ授ケ、趣味ヲ養フニ努メタク、偶々實業學校令發布セラレタルヲ以テ、直ニ農業補習學校ヲ本村小學校ニ附設シ、日勝農業補習學校ト稱セリ、實ニ明治三十五年四月七日ノ創立ナリ
開校當時ノ教科目修業年限及入學程度ハ左ノ如シ

教科目	本	科	別	科
修身、國語、算術、理科、體操、農業、家事裁縫	本	科	別	科
修業年限 三ケ年				
入學程度 高等小學二學年修業				
修業年限 二期				
入學程度 尋常小學卒業				

明治三十六年六月十五日本科ノ修業年限ヲ二ケ年ト改ム
明治三十八年八月三十一日教科目修業年限及入學程度ヲ左ノ如ク改ム

教科目	本	科	別	科
修身、國語、算術、農業、家事裁縫	本	科	別	科
修業期 九月一日ヨリ翌年三月三十一日マデテ一期トシ二期ヲ以テ卒業トス				
入學程度 尋常小學卒業				
修業期 十二月一日ヨリ翌年三月廿日マデテ一期トシ夜間教授シ二期ヲ以テ卒業トス				
入學程度 尋常小學卒業				

明治四十一年十一月十二日學則ヲ改正シ、本科別科ノ別ヲ廢シテ、從前ノ別科ノミトシ、卒業者ニシテ既修ノ一科目、若クハ數科目ヲ更ニ溫習セシトスル者ハ、溫習生トシテ、在學セシムルコト、

セリ

大正二年六月授業料ヲ廢ス

大正三年十一月廿日改正ノ學則ニ於テハ、尋常科、高等科、溫習科ヲ設ケタリ

教 科 目	尋 常 科	高 等 科	溫 習 科
修 身、國語、算術、農業	同上	同上	同上
入 學 程 度	十二月一日ヨリ翌年三月十五日マデヲ以テ一學期トシ二學期ヲ以テ卒業トス 尋常小學卒業	本校尋常科卒業又ハ高等小學卒業	本校高等科卒業

大正十一年二月十日、又學則ヲ改正シ、尋常科ヲ前期、高等科ヲ後期、溫習科ヲ研究科ト改メ、教科目ニ公民、體操二科ヲ加ヘタリ

大正十四年四月一日學則ヲ改正シ、日勝公民學校ト稱ス、即チ現今ノ學則ナリ

二、現 學 則

日勝公民學校學則

第一章 總 則

第一條 本校ハ實業補習學校規程ニ依リ、小學校ノ教科ヲ卒ヘ農業ニ從事スル者ニ對シ、農業ニ關

スル知識技能ヲ授クルト共ニ、國民生活ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 本校ハ埼玉縣南埼玉郡日勝村公民學校ト稱シ、普莪尋常高等小學校ニ併設ス

第三條 本校ニ男子部、及女子部ヲ置ク

第二章 修 業 年 限

第四條 本校ノ課程ヲ分チテ、本科、及研究科トシ、本科ハ之ヲ前期及後期ニ分ツ

第五條 本科ノ修業年限ハ、男子部ニ在リテハ前期二年、後期二年、女子部ニ在リテハ前期二年、後期二年トス

研究科ハ滿二十歳ニ至ル迄トス

第三章 學 科 目、學 科 課 程 及 授 業 時 數

第六條 本校ノ學科目、學科課程、及一學年間ノ教授時數左ノ如シ

男 子 部

學 科 目	前期一學年	前期二學年	後期一學年	後期二學年	研 究 科
時數	時數	時數	時數	時數	時數
修身及公民	二〇	二〇	三〇	三〇	三〇
國 語	一〇〇	一〇〇	六〇	六〇	六〇
數 學	八〇	八〇	四〇	四〇	四〇
講義、作文、漢文初歩	同上	同上	同上	同上	同上
公民心得	同上	同上	同上	同上	同上
實用算術	同上	同上	同上	同上	同上
實用算術	同上	同上	同上	同上	同上
繩量	同上	同上	同上	同上	同上
珠算四則	同上	同上	同上	同上	同上

理	農	體	計
博物、地文、 理化、衛生	農業大意 體操、教練遊 戲、武道		
二五	二五	二〇	二七〇
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上

女子部

學科目	時數	前期一學年	前期二學年	後期一學年	後期二學年	研究科
修身及公民	二〇	道徳ノ要領作 法、讀、作文、	二〇	二〇	公民心得作法	三〇
國語	二〇	講讀、作文、 習字、小數、	二〇	一〇〇	講讀、作文	一〇〇
數學	九〇	珠算、等數、 比例、分數、	九〇	同上	同上	同上
家庭裁縫	二〇〇	家事ノ大要、 縫衣ノ裁、 縫衣ノ大意	同上	同上	同上	同上
職業	二〇〇	同上	同上	同上	同上	同上
體操、音樂	二〇	體操、遊戲、 單音唱歌、	同上	同上	同上	同上
計	四五〇	同上	同上	同上	同上	同上

第四章 教授ノ時期及休業日

第七條 本校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 本校ノ教授日數、及教授時數ハ左ノ如シ

但シ學校長ハ時宜ニ依リ、變更スルコトアルベシ

男子部

要項	月	前期	後期	研究科	前期	後期	研究科	備考
教授日數	四月	三	三	三	三	三	三	午後一時ヨリ 同四時マデ教授
教授時數	五月	三	三	三	三	三	三	
研究科	六月	一	一	一	一	一	一	
研究科	七月	二	二	二	二	二	二	
研究科	八月	三	三	三	三	三	三	
研究科	九月	三	三	三	三	三	三	
研究科	十月	三	三	三	三	三	三	
研究科	十一月	二	二	二	二	二	二	

要項						女子部
月	月	月	月	月	月	
九	八	七	六	五	四	計
月	月	月	月	月	月	
前期	前期	後期	前期	後期	研究科	教 授 日 數
本 科	本 科	本 科	本 科	本 科	本 科	
前期	前期	後期	前期	後期	研究科	教 授 時 數
本 科	本 科	本 科	本 科	本 科	本 科	
前期	前期	後期	前期	後期	研究科	備 考
本 科	本 科	本 科	本 科	本 科	本 科	

計	三	二	一	十	十	十
月	月	月	月	月	月	月
八〇	二六	二三	二二	一一	一一	一一
八〇	二六	二三	二二	一一	一一	一一
八〇	二六	二三	二二	一一	一一	一一
四五〇	一五六	一三八	一二六	三	三	三
四五〇	一五六	一三八	一二六	三	三	三
四五〇	一五六	一三八	一二六	三	三	三
同	同	午後四時 午前九時 マテ教授	同	同	同	同

第九條 本校ノ休業日ハ左ノ如シ

日曜

二、大祭祝目

三、冬期休業 十二月廿五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第五章 入退學及賞罰

第十條 生徒ノ入學ハ、毎學年ノ始トス、但シ學校長ハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ前期ニアリテハ尋常小學卒業業者、又ハ滿十四歲以上ニシテ之ニ準スヘキ者トシ、後期ニ在リテハ前期ノ課程ヲ卒ヘタル者、高等小學卒業業者、又ハ之ニ準スヘキ者トス

研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ、後期ノ課程ヲ卒ヘタル者、又ハ之ニ準スヘキ者トス
前二項以外ノ者ハ、其ノ經歷又ハ試験ニ依リ、相當學年ニ編入ス

第十二條 本校ニ入學セントスルトキハ親權者、後見人、又ハ雇傭主ニ於テ、第一號様式ノ入學届
書ヲ學校長ニ差出スヘシ

第十三條 本校生徒ニシテ轉學、又ハ退學セントスルトキハ、其ノ理由ヲ具シ、親權者、後見人、
又ハ雇傭主、連署ノ上、學校長ニ願出スヘシ

第十四條 學校長ハ品行方正、學力優等、又ハ精勤ナル生徒ニ對シ褒賞スルコトアルヘシ

第十五條 學校長ハ不都合ノ行爲アリタル生徒ニ對シ、戒飭謹慎、又ハ停學ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 本校生徒ノ修業、及卒業ハ、生徒平素ノ操行、學業、成績及出席日數ヲ考查シテ之ヲ認
定ス

第十七條 學校長ハ前期、後期若ハ研究科ノ課程ヲ卒ヘタル者ニ對シ、第二號様式ノ卒業證書ヲ授
與ス

第十八條 授業料ハ之ヲ徴收セス

第七章 商 議 員

第十九條 本校ニ商議員十名ヲ置キ、管理者之ヲ囑託ス

第二十條 商議員ノ任期ハ三ケ年トス

第二十一條 商議員ハ管理者及學校長ノ諮問ニ應シ、就學、出席、其他ノ獎勵ニ助力ス

附 則

本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

本則ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

入 學 届

私儀左記學歷ノ者ニ候處今般御校何科前(後)期何學年ニ入學致度候段及御届候也
何年何月何日

原籍地 何縣何郡(市)何村(町)大字何番地
現住地 何縣何郡(市)何村(町)大字何番地

族籍何某何男(女)又ハ弟(妹)職業
本 人

氏 名
何年何月何日生

原籍地 何縣何郡(市)何村(町)大字何番地
現住地 何縣何郡(市)何村(町)大字何番地

族 籍 職 業
親權者(後見人又ハ雇傭主) 氏 名

何學校長何某殿

學 歷

- 一、何年何月何日 何郡(市)何學校卒業
二、何年何月何日 何郡(市)何學校第何學年修了
第二號様式

卒 業 證 書

校 印

氏 名

何年何月何日生

右者本校ニ於テ何科前(後)期^(修業年限)ノ課程ヲ卒業セシコトヲ證ス
何年何月何日

埼玉縣何學校長位勳

氏 名

第 何 號

大正十四年四月一日付十四指令學收第一六二〇號ノ四ヲ以テ埼玉縣知事認可指令

三、職 員

氏 名	職 名	就 職 年 月 日	退 職 年 月 日	在職年月數
齋藤遊之助	校 長	明治三十五年四月七日	明治三十八年三月卅一日	三 年

八木橋貞助	訓 導	明治三十五年六月八日	明治三十六年二月十五日	九 月
須田善右衛門	同	明治三十六年三月十四日	明治三十六年七月	五 月
江口鬼子松	同	明治三十六年十二月十二日	明治三十七年九月十六日	十 月
峯岸政三	同	明治三十七年五月十一日	明治三十八年四月十七日	一 年
齋藤由藏	同	明治三十七年十一月卅日	明治三十八年七月廿五日	九 月
石田福太郎	校 長	明治三十八年三月卅一日	明治四十二年三月	四 年
齋藤遊之助	嚮 托	明治三十八年四月一日	明治四十年四月十九日	一 年 九 月
内田武三	訓 導	明治三十八年八月廿四日	明治四十年九月六日	六 月
野口喜萬	嚮 托	明治四十年四月十日	明治四十一年八月十四日	八 月
稻村宗三	訓 導	明治四十一年一月廿七日	明治四十四年一月廿日	二 年 三 月
木村二十一	同	明治四十二年十二月廿八日	明治四十五年一月十六日	三 年 九 月
朝比奈脩造	同	明治四十四年十一月二日	明治四十五年五月廿九日	七 月 六 月
和泉龍助	同	同	明治四十五年三月卅一日	五 月 十 月
飛田英之助	同	同	同	五 月 十 月
岩田滿	同	同	同	六 年 五 月
加藤喜右衛門	同	同	同	六 年 五 月

明治四十四年			大正元年			大正二年			大正三年			大正四年			大正五年			大正六年			大正七年			大正八年			大正九年			大正十年			大正十一年		
尋常科			高等科			溫習生			尋常科			高等科			溫習生			尋常科			高等科			溫習生			尋常科			高等科			溫習生		
一年			二年			計			一年			二年			計			一年			二年			計			一年			二年			計		
一三			三五			四七			二四			二六			五〇			二四			二八			五二			二四			二七			六一		
二二			二六			五〇			二二			二五			六一			二二			二四			四六			二二			二五			一五		
二一			二二			三三			二一			二二			三三			二一			二二			三三			二一			二二			一五		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二一			二二			三三			一六			一〇			一二			二〇			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一六			一〇			一二			二〇			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二			二五			二二			二二		
二二			二二			四三			一九			一六			二〇			二二			二六			二二											

年 度	種 別	尋常科			高等科			溫習生 合計
		一 年	二 年	計	一 年	二 年	計	
大正十二年		一九	九	二八	一一	一一	二二	六二
大正十三年		一五	一八	三三	二二	二二	四五	八九
大正十四年		二〇	一五	三五	三三	一八	五一	一〇三
大正十四年		九八	一〇	一〇八	七	〇	一七	一一五
		前期			後期			
大正十四年		九八	一〇	一〇八	七	〇	一七	一一五

五、卒業生

年 度	種 別	本 科		別 科		計
		男	女	男	女	
明治三十五年		二七	〇	〇	〇	二七
明治三十六年		一六	〇	〇	〇	一七
明治三十七年		八	〇	〇	〇	七
明治三十八年		〇	〇	〇	〇	〇
明治三十九年		〇	〇	〇	〇	〇
明治四十年		〇	〇	〇	〇	〇
明治四十一年		〇	〇	〇	〇	〇
明治四十二年		五	〇	一六	〇	二一

年 度	種 別	尋 常 科		高 等 科		計
		前 期	後 期	前 期	後 期	
明治四十三年						二〇
明治四十四年						一〇
明治四十五年						二五
大正二年						一九
大正三年		二三	一八			四一
大正四年		一五	九			二四
大正五年		一七	二〇			三七
大正六年		一九	二二			四一
大正七年		八	一〇			一八
大正八年		九	九			一八
大正九年		六	八			一四
大正十年		一四	三			二七

六、生徒出席ノ狀況

年 度	種 別	前 期		後 期		計
		前 期	後 期	前 期	後 期	
大正十一年		九	七			一六
大正十二年		一	六			七
大正十三年		一一	五			一七

補習教育ノ盛衰ハ生徒出席ノ多少ニヨリ、略之ヲトスルヲ得ベシ、今左表ニツキテ之ヲ觀ルニ、本校ハ明治三十五年創立後三ヶ年間通年制ヲ採リシヲ以テ、其ノ出席數ノ多キハ當然ナルモ、年々其ノ數ノ減少ヲ呈セルハ、蓋シ創立當時ノ意氣漸ク消沈セルヲ示スモノニアラザルナキカ、明治三十八年以後ハ學則ニ多少ノ變改アリシト雖モ常ニ季節制ヲ採リ、冬期三ヶ月半ノ教授ニ過ギザルヲ以テ出席數ノ俄然減少セルモ、亦當然ナリ、而シテ明治四十一年度ヨリ、大ニ出席數ヲ増加シ、大正五年ニ於テ最多ヲ表セルハ、以テ當時ノ隆盛ヲ窺フニ足ルベキカ、サレド大正八年以來、大ニ出席數ヲ減ジ、未ダ其ノ復興ヲ見ルニ至ラザルハ、幾多ノ事情ナキニアラスト雖モ、斯ノ教育ノ爲メ洵ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ。

年 度 種 別	出席 總 數	缺席 總 數	出席 百 分 比
明治三十五年	一四、一九六	一、八七一	八八、三六
明治三十六年	一〇、六四三	九〇八	九二、二四
明治三十七年	六、一三〇	四四四	九三、二五
明治三十八年	三、一八一	一、三七五	六九、八二
明治三十九年	三、八八四	八四九	八二、〇六
明治四十年	三、二九四	九一〇	七八、三六
明治四十一年	五、六九九	二、一五一	七二、六〇
明治四十二年	五、一〇八	二、〇三六	七二、五〇
明治四十三年	四、六九九	一、二六九	七八、七四
明治四十四年	五、二四〇	二、〇一〇	七二、二八
大正元年	五、七九〇	二、四六三	七〇、一六
大正二年	五、七七〇	二、二〇五	七二、三五
大正三年	四、七八四	二、四九一	六五、七六
大正四年	五、五四八	二、四三七	六九、四七

七、經 費

大正五年	六、八三〇	三、〇二〇	六九、三四
大正六年	六、四三六	一、八五七	七七、六一
大正七年	五、一五四	一、八六四	七三、四四
大正八年	三、五一七	九一四	七九、三七
大正九年	四、〇一〇	一、〇五六	七九、一六
大正十年	四、七六九	一、四〇九	七七、一九
大正十一年	三、六五二	一、五三〇	七〇、四七
大正十二年	三、〇九三	七三三	八〇、八八
大正十三年	三、八九七	一、〇五三	七八、七三

年 度	年 度
明治三十五年	六四四
明治三十六年	二八〇
明治三十七年	二二五
明治三十八年	六四四
明治三十九年	二八〇
明治四十年	二二五

明治四十一年	三〇八	大正六年	九九
明治四十二年	二九一	大正七年	一〇九
明治四十三年	二九八	大正八年	一三二
明治四十四年	一〇九	大正九年	一七四
大正元年	八一	大正十年	一七四
大正二年	九七	大正十一年	一九〇
大正三年	九七	大正十二年	一九四
大正四年	九四	大正十三年	一九四
大正五年	九九	大正十四年	九九八

八、設 備

(一)校地校舎 共ニ本村小學校ヲ假用ス

(二)校 具 校具モ小學校備品ヲ使用セルヲ以テ特ニ本校ニ備フルモノハ極メテ少ク大正十四年四月末ノ調査ニヨレバ圖書一九三器具機械三八標本九一實習用具五二過ギズ

(三)實習地 開校當時畑二段三畝十六歩ノ實習地ヲ設ケシモ、明治三十七年之ヲ半減シ、大正十年小學校改築ノ際全ク之ヲ廢止スルノ止ムヲ得ザルニ至レリ、爾來小學校ノ實習地ヲ共用シ家庭實習ノ指導ニ意ヲ用フルコト、セリ

九、事 業

(一)教育ノ方針 實業補習教育ノ目的ハ學則第一條ニ明カナル如クニシテ要スルニ、小學校教育ノ延長ト見ルベキヲ以テ、實業補習教育ハ小學校教育ノ基礎ニ立チ之レト密接ナル連絡關係ヲ保タザルベカラズ、故ニ本校ノ教育方針ハ小學校ト同ジク自力發展主義ニ從ヒ、社會ノ趨向ニ鑑ミ、生徒ノ境遇ニ應ジ、小學校教育ノ補充擴張深化ヲ計ルモノトス

(二)學級編制 學則ニ基キ

男 子 部	第一學級	第一分團 (前期第一學年)
	第二學級	第二分團 (前期第二學年)
女 子 部	第一學級	第一分團 (前期第一學年)
	第二學級	第二分團 (前期第二學年)
男 子 部	第一學級	第一分團 (後期第一、二學年)
	第二學級	第二分團 (後期第二、三學年)
女 子 部	第一學級	第一分團 (後期第一、二學年)
	第二學級	第二分團 (後期第二、三學年)

トシ而シテ何レノ學科ニツキテモ、最モ自己ノ境遇ト學力トニ適應スル學習ヲナサシメンガタメ、生徒ハ何レノ學級何レノ分團ニ屬シ何レノ學科ヲ學習スルモ任意ナリトス

(三)各學科目教授要旨

- 1、修身及公民科 教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キテ道德ノ要領ヲ授ケ、國民トシテ社會公共生活ヲ完ウスル爲ニ必要ナル知識德操ヲ啓發スルモノトス
- 2、國語科 國語科ニ於テハ普通ノ言語文字文章ヲ了解シ 正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ、兼ネテ知德ノ啓培ニ資スルモノトス
- 3、數學科 數學科ニ於テハ主トシテ、職業ニ須要ナル實用算術(筆算、珠算、暗算)ヲ課シ簿記ニ習熟セシメ兼ネテ思考ヲ精確ナラシムルモノトス
- 4、理科 理科ニ於テハ、職業ニ須要ナル科學的知識ヲ授ケ、兼ネテ觀察思考ノ力ヲ養フモノトス

- 5、農業科 農業科ニ於テハ、郷土ノ農業ニ須要ナル實際的知識技能ニ習熟セシムルト共ニ、其ノ業ニ對スル趣味ヲ助長シ、愛職勤勞ノ精神ヲ養フモノトス
- 6、家事科 家事科ニ於テハ、衣食住、育兒、看護、衛生、家事、經濟ニ關スル一般ノ知識技能ヲ得シムルト共ニ、家政ニ對スル趣味ヲ助長シ、勤儉ノ精神ヲ養フモノトス
- 7、裁縫科 裁縫科ニ於テハ、普通衣類ノ裁方、縫方、繕方、洗張、ミシン。裁縫、手藝等ニ關スル知識技能ヲ得シムルト共ニ、節約利用ノ習慣ヲ養フモノトス
- 8、體操科 體操科ニ於テハ、體操教練及遊戲ノ外男子ニハ武道ヲ課シ、均齊ナル身體ノ發達ヲ圖リ兼ネテ、剛健忍耐ノ精神及規律協同ノ習慣ヲ養フモノトス

- 9、音樂科 音樂科ニ於テハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ、兼ネテ美感ヲ養ヒ、德性ノ涵養ニ資スルモノトス

(四)訓育

- 1、訓育ノ方針 小學校ト同一ノ方針ヲ取り、勤勉、正直、親切、規律、禮儀ノ五德ヲ中心教條トシ、當村ノ美風タル質實剛健ノ氣風ヲ助長シ、其ノ短所タル公共的精神ノ養成ニ努ム
- 2、自治制 校內ニ在リテハ級長制ヲ設ケ、其ノ學級ニ關スル事項ヲ自治的ニ處理セシメ、校外ニ在リテハ、通學團ヲ設ケテ風紀ノ振肅、出席、勸誘等ヲ行ハシム
- 3、實踐條目 大正七年三月村青年會ト共ニ實行條目ヲ制定シ之ヲ勵行セリ
- 一、時間ヲ確守スルコト
- 二、襟卷ヲ用ヒザルコト
- 三、外出ノ際ドテヲ着用セザルコト
- 四、帶ヲ正シクシメルコト
- 其ノ後大正十三年一月更ニ左ノ一項ヲ加フ
- 五、應分ノ貯金ヲスルコト

- 4、早起 平素早起ヲ獎勵シ、其ノ實行ニ努メシムルノミナラズ、大正八年十二月ヨリ教授時刻ヲ毎日午前六時ヨリ同八時マデトシ、黎明教授ト稱シテ實行今日ニ及ベリ
- 5、模範日 生涯ヲ通ジテ人格的生活ヲナサンコトハ固ヨリ望マシキコトナルモ、是レ全ク理想

ニシテ聖人君子ト雖モ能クスル所ニアラズサレバ、吾人ハ一時タリトモ一日タリトモ自覺的
活動ヲナシ、以テ、公明至誠天地ニ愧ヂザルノ快感ヲ味ヒ之ヲ反復シテ自我實現ノ境地ニ進
マザルベカラズ、此ノ意味ニ於テ、大正十三年一月ニ於テ毎月十日ヲ模範日ト定メタリ、蓋
シ、一ハ以テ國民精神作興詔書煥發ヲ記念シ聖旨奉體ノ誠ヲ表セント欲スルナリ

(五)體 育 正課時間ニ於テハ、主トシテ體操競技、遊戲、自彊術等ヲ課シ、隨時日時ヲ定メテ
劍道ノ練習ヲ行フ、其ノ他一般青年ト共ニ毎年一回大運動會ヲ行ヒ、時々旅行遠足等ヲナス
(六)娛 樂 比較的娛樂機關ニ乏シキ農村ニ於テハ、其ノ子弟ノ教養上清新ナル娛樂ヲ與フルハ
最モ好マシキコトナルヲ以テ、學年ノ終始其他ニ於テ、或ハ茶話會ヲ催シ、或ハ講談、落語
サツマビハ等ヲ演ジ、或ハ櫻會、月見會等ヲ開キ學校ヲ以テ教育場タルト同時ニ、一面娛樂
場タラシメンコトヲ期セリ

第五章 財政

第一節 決算及ヒ豫算

明治二十二年度ヨリ大正二十二年度ニ至ルマデノ決算額左ノ如シ

一歳出決算高 圓以下ハ切捨ツ

年 度 別	決 算		臨時部費目概要	金一戸當リ額
	經常部	臨時部合 計		
明治二十二年度	三八〇 ^四	三八〇 ^四		六三四 ^四
同 二十三年度	九六九	九六九		一五〇四
同 二十四年度	九一五	九一五		一四九九
同 二十五年度	一二五八	一二五八		二〇六一
同 二十六年度	一七五四	一七五四		二八七四
同 二十七年度	一七七四	二〇二一	役場新築費	三二八八
同 二十八年度	二、二〇五	二、二六二	校舍増築費	三六八五

同	二十九年度	二、二六〇	〇	二、二六〇	村長慰勞金	三、六七五
同	三十年度	二、五二三	八〇〇	三、三二三		五、四〇四
同	三十一年度	二、七九三	〇	二、七九三		四、五四八
同	三十二年度	三、三二二	〇	三、三二二		五、四一九
同	三十三年度	三、一五三	〇	三、一五三	校舍増築	五、一二七
同	三十四年度	三、三六一	一、九三二	五、二九三		八、六〇七
同	三十五年度	三、七三一	〇	三、七三一		五、八九四
同	三十六年度	三、九一七	三九〇	四、三〇七	校舍改築	六、八三七
同	三十七年度	三、二四四	六六	三、三一〇	簿冊整理	五、二五四
同	三十八年度	三、四二七	二〇	三、四三七	同	五、四七二
同	三十九年度	三、六五七	二八	三、六八五	校舍臨時修繕	五、八三五
同	四十年度	三、七九七	四一六	四、二二三	校具新調、改築	六、六五五
同	四十一年度	三、九二三	〇	三、九二三		六、二七八
同	四十二年度	四、一六六	七四	四、二四〇	罹災資金積立	六、三六八
同	四十三年度	四、四三三	六七二	五、一〇五	道路橋梁堤塘修繕	七、六二〇
同	四十四年度	五、四五〇	一、二〇四	六、六五四	道路橋梁樋管堤塘修繕	九、六七三

大正元年度	四、〇三一	一、二〇〇	五、二三一	校具新調	七、五八二
同	二年度	五、四九四	五一三	公債費	八、六三一
同	三年度	五、三五四	三二八	同	八、一三〇
同	四年度	五、七八七	八二四	小學校積立、公債費、補助費	八、九四六
同	五年度	五、五八三	一、八八八	同	九、九七六
同	六年度	六、二六七	一、〇五三	同上	九、六七〇
同	七年度	七、四二一	二、〇八八	同上及土木費	一二、五六二
同	八年度	一二、三〇二	二、二三六	同上	一九、一三二
同	九年度	一六、九〇九	四二、七九二	同上及校舍改増築財産充用積戻	七八、四五二
同	十年度	一七、五七五	二二、〇五六	同上及役場營繕費	五三、一一三
同	十一年度	一九、八一六	九、〇七四	同上及土木費	三七、七六六
同	十二年度	二〇、六七六	九、四五四	土木費、充用積戻、公債償還	三七、九〇〇

二歳入表 (決算ニヨル)

年度	科目	財産ヨリ		交付金補助金寄附金雑収入繰入金村債村税其他合計
		入スル收	使用料及手数料	
明治二十二年	度	〇	五〇	二
同二十三年	度	〇	一三八	〇
同二十四年	度	〇	一六四	〇
同二十五年	度	〇	三六三	〇
同二十六年	度	〇	七六五	〇
同二十七年	度	〇	八七七	〇
同二十八年	度	〇	九〇五	〇
同二十九年	度	〇	九四五	〇
同三十年	度	〇	九八六	〇
同三十一年	度	〇	一、二二三	〇
同三十二年	度	〇	一、一九〇	〇
同三十三年	度	〇	一、二六九	〇
同三十四年	度	〇	五八九	〇
同三十五年	度	〇	五五四	〇

明治三十六年	度	〇	五〇六	四九	四三	〇	〇	〇	三、四七	〇	四、五二〇
同三十七年	度	〇	五二	六六	六〇	〇	〇	〇	二、八四二	〇	三、四八〇
同三十八年	度	〇	六〇九	五三	六五	〇	〇	〇	二、四八	〇	三、五二三
同三十九年	度	〇	六四	五	七五	〇	〇	〇	二、八四	〇	三、六八三
同四十年	度	〇	七五	七三	五五	〇	〇	〇	三、三六	〇	四、二二
同四十一年	度	〇	三五七	七	七〇	〇	〇	〇	三、三六	〇	三、九七九
同四十二年	度	〇	四〇六	九三	七〇	〇	〇	〇	三、六〇	五	四、三二六
同四十三年	度	二	二八二	七六	一八七	〇	〇	九〇〇	三、三二	七九	六、四三七
同四十四年	度	九三	一五	一六七	一、二三八	〇	〇	〇	二、五六	一、四九一	六、七五〇
大正元年	度	九〇	一五	二〇八	四七	〇	〇	〇	四、六四六	九八	五、四五九
同二年	度	一三二	一八五	二五五	二二	〇	〇	〇	四、九四	三九	六、〇一一
同三年	度	一三三	一八八	五三三	一七	〇	〇	〇	五、二二	一五	六、一七〇
同四年	度	八二	一八〇	四三	二二	〇	〇	〇	四、九八三	四九〇	六、七五五
同五年	度	一八三	一九五	五七六	一九	〇	〇	〇	五、一三八	一四七	七、八四九
同六年	度	一三九	一五七	五四九	三二	〇	〇	〇	五、四七二	三八〇	七、五五三
同七年	度	一八二	一九〇	一、二五四	一八	〇	〇	〇	六、八七二	二五	一〇、一四〇

科目	年度	三歳	出	表	(決算ニヨル)	役場費	土木費	教育費	衛生費	基本財	諸税及	公債費	補助費	充用	其他	合計
同	八年度	二四二	二八	一、四一五	五〇	一、七二一	二一	〇	七、五二一	三、五〇〇	二、八八六	一、八五七	七、四四三	五、五六	一、六三九	三
同	九年度	三六七	三六	一、六六五	一八二	一、六九七	三八	〇	七、五二一	三、五〇〇	二、八八六	一、八五七	七、四四三	五、五六	一、六三九	三
同	十年度	一、六五	二九	一、六六三	五〇	四七三	一〇八	〇	七、五二一	三、五〇〇	二、八八六	一、八五七	七、四四三	五、五六	一、六三九	三
同	十一年度	一八三	二五七	一、五八二	三〇三	三六	八九三	〇	七、五二一	三、五〇〇	二、八八六	一、八五七	七、四四三	五、五六	一、六三九	三
同	十二年度	二二一	二七八	九〇五	四九〇	四五二	九五九	〇	七、五二一	三、五〇〇	二、八八六	一、八五七	七、四四三	五、五六	一、六三九	三
同	二十二年	二三八	〇	一、三八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同	二十三年	五五八	〇	三九二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同	二十四年	五五八	〇	三九二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同	二十五年	五五八	〇	三九二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同	二十六年	五五八	〇	三九二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同	二十七年	五五八	〇	三九二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同	二十八年	五五八	〇	三九二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

明治二十九年度	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同</
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

五、縣補助金	五七六	八一六
傳染病豫防費補助	一〇二	一〇二
衛生費補助	一八	一八
道路橋梁費補助	四四六	二九一
教育費補助	四〇〇	四〇〇
六、寄付金	八三〇	八三〇
基本財産造成費指定寄附	二〇	二〇
七、繰入金	〇	五〇〇
基本財産繰入	〇	五〇〇
八、繰越金	二、五三五	三、五八五
前年度繰入金	二、五三五	三、五八五
九、雜收入	一五四	一三五
雜收入	二五五	六〇
小學校雜入	二五	二五
過年度收入金	五〇	五〇
一〇、村税	大正十二、三八八	大正十二、五五八

地租附加税	五、四一七	五、四一七
國稅營業税	三〇五	三〇五
所得稅附加稅	一一二	八七
戶數割附加稅	一二、八七九	一二、九三九
縣稅營業稅附加稅	四七〇	四七〇
縣稅雜種稅附加稅	二、二〇五	二、三四〇
歲入合計	二九、〇四二	三〇、五四七

歲出經常部

科目	大正十三年度	大正十四年度
一、役場費	六、四四二	六、五二二
報酬	一、四七五	一、四七五
給料	三、一九二	三、一九二
雜給	八八〇	九二五
需用費	八七〇	八九〇

修繕費	八二五	八三〇
二、會議費	八九六	八九六
費用辨償	九六	九六
三、土木費	一〇八〇	八八〇
道路橋梁費	六九三〇	六七三〇
用惡水路費	一五〇	一五〇
四、教育費	大五十一〇、三〇九	大五十一、五〇六
尋常高等小學校費	一〇、〇〇〇	一〇、四六三
補習學校費	一九四	九二八
社會教育費	二八一五	一一五
五、傳染病豫防費	二四六	二八四
雜給	六二	六二
需用費	一八四	二二二
六、隔離病舍費	二六四	二六四
雜給	一三五	一三五
需用費	一二九	一二九

七、衛生諸費	四七三	四七三
衛生諸費	七〇	七〇
家畜傳染病予防費	四三	三
八、勸業費	二五〇	二、三三〇
害虫驅除豫防費	正八一〇	正八一〇
農事改良費	八四〇	八四〇
勤儉獎勵費	〇	二八〇
九、警備費	三七	三七
雜給	一〇	一〇
需用費	二七	二七
一〇、基本財産造成費	二〇	七五五
基本財産造成	一〇	七四五
小學校基本財産造成	一〇	一〇
一、徵發費	一	一
物件輸送費	一	一
一二、雜支出	七〇	一〇〇

科 目	臨時部	
	臨時部	部
一、綠 替 金	七〇	一〇〇
二、三、豫 備 費	五〇〇	五三八
經 常 部 計 費	五〇〇	五三八
臨時部計	二〇、六四一	二一、三七六
科 目	臨時部	
	臨時部	部
六、土 木 費	一、二〇二	九七三
道路橋梁費	一、二〇二	九七三
二、公 債 費	八、〇一九	八、〇一九
元 金 償 還	五、八九二	五、八九二
利 子	二、一二七	二、一二七
三、補 助 金	一四〇	一九〇
教育費補助	一四〇	一九〇
四、雜 支 出	四九三	四八九
臨時部計	二九、〇四二	三一、〇四七
臨時部計	四九三	四八九

臨時部計	臨時部計
四九三	四八九
九、八五四	九、六七一
二九、〇四二	三一、〇四七

罹災救助資金歳入出決算

罹災救助資金ハ大正元年度迄ハ一般村費豫算ニ編入シタルモ大正二年度ヨリ特別會計ヲ設定シタリ

歳入 決算 (圖以下ハ切捨)

年 度	科 目	入 財 産 ヨリ	入 生 ス ル 收 入	縣 補 助 金	村 費 積 立	繰 越 金	償 還 金	郡 交 付 金	積 戻 金	合 計
大正二年度		一四	二五	五〇	一、一六七					一、二五六
大正三年度		四一	二五	五〇	一、一三七					一、二五三
大正四年度		三七	九	二〇〇	七六八					一、〇〇四
大正五年度		一三〇			二〇〇					二五〇
大正六年度		一三八			三三					四四九
大正七年度		一二四			四五〇					五七四
大正八年度		一一九			一、四七四	二〇				一、六一三

年度	科目	救助費	證券買入代	資金充用金	合計	摘要
大正九年度		一二五		七一四	一〇〇	一八三九
大正十年度		一四九		一三九	一〇	二八八
大正十一年度		一五九		五〇	一六六	三七五
大正十二年度		一八八		七一	五五	四一五

年度	科目	救助費	證券買入代	資金充用金	合計	摘要
大正二年度			一二〇		一二〇	
大正三年度			四八五		四八五	
大正四年度			九〇四		九〇四	
大正五年度						
大正六年度						
大正七年度						
大正八年度			九〇〇		九〇〇	
大正九年度			四〇七		七〇〇	

年度	科目	救助費	證券買入代	資金充用金	合計	摘要
大正十年度		一二			一二	
大正十一年度			三〇五		三〇五	
大正十二年度			一〇〇		一〇〇	

罹災救助資金歳入出豫算

歳入

年度	科目	財産ヨリ生ズル收入	充用積戻金	繰越金	償還金	雑收入	合計
大正十三年度		一七八	五九	一二〇	一六〇	一〇	五二七
大正十四年度		一七七	六一	五三九	一六〇		九三七

歳出

年度	科目	救助金	證券買入代	合計
大正十三年度		一〇七	四二〇	五二七
大正十四年度		一〇七	八三〇	九三七

第二節 各種財産及借入金充用金

一、村基本財産(大正十四年三月三十一日現在)

イ、土地 六畝十九步(役場敷地)

ロ、建物 木造瓦葺平家建一棟建坪三十五坪七合五勺(役場廳舎)

明治二十七年五月十三日新築 大正十年五月八日移轉改築

木造平家建一棟建坪六坪(物置)

明治二十七年五月十三日新築 大正十年五月八日移轉

ハ、有價證券 埼玉農工券々面七百圓

ニ、株 券 埼玉農工銀行七十六株(一株金二十圓拂込)

ホ、現金四百九十六圓九錢七厘(郵便局預入)

基本財産造成造林事業

造林事業ハ大正十四年五月開始シタルモノニシテ 天皇后兩陛下御大婚二十五年ノ記念事業ナリ而シテ其ノ方法ハ部分林ノ契約ニ依ルモノナリ本年五月植付了シタル場所ハ左ノ如シ

入間郡吾野村大字北川字蒔場

山林五町五反四畝步

樹種、杉、扁柏

大正十五年度ニ於テ植付スヘキ場所左ノ如シ

秩谷郡大瀧村大字大瀧字大血川

山林實測約四町步

該造林事業ハ造林地ニ適當ナル土地ヲ得ラル、毎ニ擴張スルノ方針ニシテ其ノ經營ハ四ヶ村ノ共同經營ニシテ篠津村、大山村、鷺宮村及本村ナリ

二、小學校基本財産(大正十四年三月三十一日現在)

イ、土地 六段一畝十五步(小學校敷地)

ロ、建物

木造瓦葺平家建壹棟建坪二百九坪六合五勺(小學校舎本館)(大正十年五月八日新築)

同 二階建壹棟建坪八十四坪(小學校舎東校舎)(大正十年九月廿九日改築)

同 平家建一棟建坪四十九坪四合(小學校舎西校舎)(大正十年九月廿九日改築)

木造スレート葺平家建建坪七十二坪(小學校舎講堂)(大正十年五月八日新築)

便所 四棟建坪三十七坪八合

合計 建坪四百五十二坪八合五勺

ハ、國債證券

帝國四分利付公債額面 四百圓

ニ、債 券

埼玉農工債券々面

二百圓

埼玉縣債券々面

百五十圓

ホ、現金百六十圓四十一錢(郵便局預入)

三、罹災救助資金(大正十四年三月卅一日現在)

イ、國債證券

帝國四分利付公債額面 三百五十圓

ロ、諸債券

勸業債券々面

百圓

埼玉農工債券々面

千七百圓

埼玉縣債券面

百圓

ハ、現金五百三十九圓五十八錢八厘(郵便局預入)

四、借入金

借入先	借入金	償還額		未償還額		摘要
		元	金	元	金	
逓信大臣	一五、三〇〇 _円	五、八〇二 _円	三、三四二 _円	九、四九八 _円	一、四六六 _円	大正九、十年度小學校舎新改築ノ爲メ大正十年三月借入

埼玉縣知事	二九、七〇〇	七、三三一	四、九三六	二二、三六九	四、〇一八	同上ノ爲メ大正十年三月五月借入
合計	四五、〇〇〇	一三、一三三	八、二七八	三一、八六七	五、四八四	

五、充用金

備考 圓下ハ切捨

充用財産別	充用金	充用積戻濟額		充用積戻未濟額		摘要
		元	金	元	金	
基本財産	九八四 _円	四八六 _円	二八七 _円	四九八 _円	九 _円	小學校敷地購入ノ爲メ大正五年七月充用
小學校基本財産	二〇〇	九八	五八	一〇二	二	同上ノ爲メ大正五年七月充用
基本財産	一、〇〇四	一六三	一九六	八四一	二〇〇	大正九、十年度小學校舎新改築ノ爲メ大正九年十二月充用
罹災救助資金	七〇〇	一一四	一三七	五八六	一三九	同上
小學校基本財産	六〇〇	四七	一二〇	五五三	二四七	同上
合計	三、四八八	九〇八	七九八	二、五八〇	四九七	

備考 圓下ハ切捨

一、國稅

第三節 國稅、縣稅、村稅、水利組合費

年 度	地 租	所得稅	營業稅	醬油稅	賣藥稅	相續稅	合 計
明治三十三年度	六、一六二	七一	三				六、二三八
同 三十四年度	六、一五二	一一六	二一				六、二九一
同 三十五年度	六、〇二七	一三三	二二				六、一八八
同 三十六年度	五、六六四	一四六	二四				五、八三七
同 三十七年度	七、一七六	三二五	八七	一〇			七、五九〇
同 三十八年度	一〇、四五六	三八一	一五				一〇、九六六
同 三十九年度	一〇、六五九	三四七	一三三	一五			一一、一四七
同 四十年度	一〇、六四三	四一五	一三五	一七			一一、二二三
同 四十一年度	一〇、六五二	五四四	二二二	一七			一一、四三八
同 四十二年度	一〇、六二六	六九九	二二九	一八			一一、五七五
同 四十三年度	五、七九八	六一	二六一	一八		五一四	六、六五五

二、縣稅

第三章 財政

年 度	地 租	所得稅	營業稅	醬油稅	賣藥稅	相續稅	合 計
同 四十四年度	六、二八三	四二二	二二三	二二		六〇	七、二二二
大正元年度	九、二三〇	四九三	二四六	二八		二八	一〇、三〇〇
同 二年度	九、二一九	四三六	三五五	二六		一〇〇	一〇、三八八
同 三年度	九、二二七	五七五	三七〇	二四		一四〇	一〇、五四二
同 四年度	八、九五六	五四八	一七五	二一		一二六	九、九八四
同 五年度	八、八〇一	五〇四	一五〇	二一		二七	九、七一一
同 六年度	八、八九九	六五五	一八二	一三		一三一	一〇、〇一五
同 七年度	八、九〇三	九四三	二四六	一五		二五	一〇、二六七
同 八年度	八、八七九	一、七五二	二八六	一五		三〇九	一二、三三〇
同 九年度	八、八六五	一、五三三	四八八	一四		二六六	一二、二一一
同 十年度	八、八五四	九二九	五六一	一六		七四五	一二、一〇五
同 十一年度	八、八八六	一、〇八七	五五三	一六		一、一四〇	一二、六六六
同 十二年度	八、八九五	七九五	五一四	一		九二四	一二、一二八
同 十三年度	八、八九五	六二〇	五三二	一		二九三	一〇、三六三

年 度	明治三十三年度	同 三十四年度	同 三十五年度	同 三十六年度	同 三十七年度	同 三十八年度	同 三十九年度	同 四十年度	同 四十一年度	同 四十二年度	同 四十三年度	同 四十四年度	大正元年度	同 二年度
附加税	三、七四一 ^円	三、一八六	三、九一〇	二、九七一	二、五七四	二、五七四	二、五七四	五、三一九	三、九九六	四、四三七	四、〇四四	四、五六七	五、三四五	四、九七四
營業税	一、三三三 ^円	一、四九	一、六八	一、四八	一、五一	一、三九	一、四九	一、七六	一、七三	一、六四	一、七七	二、〇〇	二、一八	二、六〇
雜種稅	二、三一 ^円	二、九四	二、八八	二、五二	二、七六	二、四八	二、八五	三、二〇	三、三三	四、一三	二、二二	五、〇七	五、四二	六、七一
戶數割	五〇四 ^円	四一八	六七三	三八六	三七七	三七七	四六六	七九〇	六二〇	七八五	六七〇	九九〇	一、一二七	一、二七二
營業附加税	一 ^円	四	四	九	一〇	九	九	一〇	二五	二二	二九	二四	二六	三八
所得附加税	一 ^円								二二	三三	八	一六	一九	一六
合 計	四、六一〇 ^円	四、〇五一	五、〇四三	三、七六六	三、三八八	三、三四七	三、四八三	六、七〇五	五、一六九	五、八五四	五、一五〇	六、三〇四	七、二六七	七、二三一

第五章 財政

年 度	金 額	年 度	金 額	年 度	金 額
明治三十八年度	三八〇 円	明治三十九年度	五〇〇 円	明治四十年度	九一五 円
同 三年度	四、六四七	同 三年度	一、二五三	同 三年度	七、一九九
同 四年度	四、三六三	同 四年度	一、二〇〇	同 四年度	六、九二七
同 五年度	四、四一七	同 五年度	一、二九六	同 五年度	七、〇五二
同 六年度	五、〇二三	同 六年度	一、五八二	同 六年度	八、〇九一
同 七年度	六、二八四	同 七年度	一、八六〇	同 七年度	九、九七一
同 八年度	九、六八六	同 八年度	二、〇八一	同 八年度	一四、一六六
同 九年度	一四、八五〇	同 九年度	三、七三二	同 九年度	二一、六八七
同 十年度	一二、一四二	同 十年度	四、五四二	同 十年度	二〇、〇五六
同 十一年度	一〇、七五〇	同 十一年度	三、九八五	同 十一年度	一七、七三五
同 十二年度	一一、一二九	同 十二年度	四、二七九	同 十二年度	一九、三八六
同 十三年度	一〇、八五三	同 十三年度	六、〇〇四	同 十三年度	二〇、九〇三

明治四十一年度	五五四	大正三年度	七〇二	同	九年度	二、五九〇
同 四十二年度	三四八	同 四年度	七〇七	同	十年度	二、四九二
同 四十三年度	三八八	同 五年度	七二〇	大正	十一年度	二、六〇八
同 四十四年度	四三八	同 六年度	五九七	同	十二年度	二、四三九
大正元年度	五九九	同 七年度	八〇一	同	十三年度	二、五八三
同 二年度	八二七	同 八年度	二、五七七			

備考 水利組合ハ大落堀惡水路普通水利組合、見沼代用水路普通水利組合、黒沼笠原沼用水路普通水利組合ナリ

四、村 税

年 度	地 租 附加税	戸 割 附加税	國 稅 附加税	所 得 附加税	縣 稅 附加税	縣 稅 附加税	合 計
明治二十八年	六七〇	六三三					一、三〇五
同 二十九	六七二	六七二					一、三四四
同 三十	六九五	八〇五					一、五〇〇
同 三十一	一、〇七九	九七三					二、〇五二

同 三十二	一、三四八	一、〇〇三					二、三五五
同 三十三	一、三〇七	一、〇三六					二、三四三
同 三十四	一、五九九	一、三四〇					二、八八〇
同 三十五	一、三九二	一、二八一					二、六七三
同 三十六	一、五八〇	一、六六七					三、二四七
同 三十七	一、三八八	一、三九二					二、八四二
同 三十八	一、三八五	一、三〇一					二、七四八
同 三十九	一、三九三	一、四一五					二、八六四
同 四十	一、三七一	一、九三〇					三、三六八
同 四十一	一、七三三	一、四八七					三、三二六
同 四十二	一、八四二	一、七〇二					三、六八〇
同 四十三	一、二三五	一、九八六					三、二二一
同 四十四	一、一三三	一、三七五					二、五七四
大正元	一、七八三	二、六八二					四、六四三
同 二	一、七八四	二、八四八					五、〇一一
同 三	一、七八七	三、〇〇〇					五、一八九

五、國、縣、村稅、戶當

年 度	國 稅 額	縣 稅 額	村 稅 額	合 計
大正四年度	一、七二四	二、七四七	二六	四、九八一
同 五年度	一、七二一	二、七七七	二一	五、一三五
同 六年度	一、七二五	三、〇四九	二七	五、四六九
同 七年度	一、七二七	四、一二五	一七四	六、八六九
同 八年度	二、七五〇	七、五四七	六八	一〇、一七九
同 九年度	六、〇七四	一五、〇〇三	二五六	二二、八二六
同 十年度	五、三四七	一五、六〇六	二六七	二二、九三三
同 十一年度	五、三四六	一五、一四五	二七七	二四、一一七
同 十二年度	五、二六八	一四、九一五	一二〇	二二、六三四
同 十三年度	五、四〇〇	一四、四九〇	五七	二二、九七七
明治三十三年度	六、二三八	一〇、一四三	四、六一〇	二二、四四七

同 三十四年度	六、二九一	一〇、二二九	四、〇五一	六、五八六	二、八八〇	四、六八一	一三、二二二	二一、四九六
同 三十五年度	六、一八八	九、七六〇	五、〇四三	七、九六六	二、六七三	四、二二二	一三、九〇四	二一、九四八
同 三十六年度	五、八三七	九、二六五	三、七六六	五、九七七	三、二四七	五、一五三	一二、八五〇	二〇、三九五
同 三十七年度	七、五九〇	一二、〇四七	三、三八八	五、三七七	二、八四二	四、五一一	一三、八二〇	二一、九三五
同 三十八年度	一〇、九六六	一七、四〇六	三、三四七	五、三一二	二、七四八	四、三六一	一七、〇六一	二七、〇七九
同 三十九年度	一一、一四七	一七、六〇九	三、四八三	五、五〇二	二、八六四	四、五二四	一七、四九四	二七、六三五
同 四十年度	一一、二二三	一七、七四四	六、七〇五	一〇、五九二	三、三六八	五、三二〇	二一、二八六	三三、六二七
同 四十一年度	一一、四三八	一八、〇一二	五、一六九	八、一四〇	三、三二六	五、二三七	一九、九三三	三三、三八九
同 四十二年度	一一、五七五	一七、五三〇	五、八五七	八、八〇〇	三、六八一	五、五二二	二一、一一三	三三、八五一
同 四十三年度	六、一四二	九、一六七	五、一五二	七、七〇〇	三、二二二	四、八〇八	一四、五一六	二二、六七五
同 四十四年度	六、九五〇	一〇、一〇一	六、三〇七	九、一六七	二、五七六	三、七四四	一五、八三三	二二、〇二二
大正元年度	九、九八九	一四、四七〇	七、二七〇	一〇、五三〇	四、六四六	六、七三〇	二二、九〇三	三三、七三〇
同 二年度	一〇、〇二九	一四、四三〇	七、二三四	一〇、四〇〇	四、九二四	七、〇八〇	二三、一八七	三三、九二〇
同 三年度	一〇、一九一	一四、五八〇	七、二〇二	一〇、三〇〇	五、一三二	八、三二〇	二三、五五五	三三、三〇〇
同 四年度	九、九八四	一三、五一〇	六、九二五	九、三七〇	四、〇八三	六、七四〇	二二、八九二	二九、六二〇
同 五年度	九、七一一	一三、〇〇〇	七、〇五二	九、四二〇	五、一三八	六、六一〇	二二、九〇七	二九、〇二〇

大正六年度	九、八七四	一三、〇四〇	一三、〇四〇	一〇、六六〇	五、四七二	七、二二〇	二、三、四一九	三、〇、九二〇
同 七年度	一〇、二六七	一三、五六〇	一三、五六〇	一三、一七〇	六、八七二	九、〇七〇	二、七、一一〇	三、五、八〇〇
同 八年度	一一、三三〇	一四、九二〇	一四、九二〇	一八、六三〇	一三、一八〇	一六、〇二〇	三、七、六六六	四、九、五七〇
同 九年度	一二、二二一	一四、七三〇	一四、七三〇	二八、四九〇	二、三、八二八	三、一、二八〇	四、九、七六九	七、四、八四〇
同 十年度	一二、一〇五	一四、四八〇	一四、四八〇	二六、一五〇	二、三、九九六	三、一、二八〇	四、九、五八一	七、一、九一〇
同 十一年度	一一、六八四	一五、二七〇	一五、二七〇	二四、九一〇	二、四、一一九	三、一、九〇〇	五、四、〇九七	七、一、〇八〇
同 十二年度	一一、二一八	一三、九九五	一九、三八六	二四、三八五	二、三、六三四	二、九、七二八	五、四、一四八	六、八、一〇八
同 十三年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五

同 十四年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 十五年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 十六年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 十七年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 十八年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 十九年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 二十年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 二十一年度	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 二十二年	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五
同 二十三年	一〇、三六三	一三、〇三五	二〇、九〇三	二六、三〇〇	二、三、九七七	三、〇、一六〇	五、五、二四三	五、九、四九五

第六章 衛生

第一節 保健衛生

種痘

種痘法ニ依リ毎年之ヲ行ヒ必要ノ場合臨時種痘ヲ行フ最近ノ狀況左ノ如シ

年 次	種 別	第一期		第二期		計	
		善 感	不 善 感	善 感	不 善 感	善 感	不 善 感
大正十三年	九七	九八	一	一一〇	一一〇	二一〇	一一〇
大正十二年	三二	三二	一	一一一	一一一	二二二	一一一
大正十一年	四七	四七	一	一〇五	一〇五	二一五	一〇五
大正十年	四二	四二	一	一〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇
大正九年	一五	一五	一	九三	九三	二〇二	九三
大正八年	一六	一六	一	九三	九三	二〇二	九三
大正七年	一六	一六	一	九三	九三	二〇二	九三
大正六年	一七	一七	一	八三	八三	二〇〇	八三

大正七年春季ヨリ初夏ニ亘リ各地ニ痘瘡發生シ、病勢猖獗ニシテ何時病毒侵襲セラル、ヤ計リ難カリシヲ以テ、四月十三日ヨリ同月十九日ニ亘リ公種痘所ヲ開設シ二十歳ヨリ五十歳迄ノ者ニ對シ種痘セリ

大字名	種痘人員	大字名	種痘人員
岡 泉	二〇四	瓜 田	一四三
實 ケ 谷	一〇四	太 田	三三六
千 駄 野	一四八	彦 兵 衛	四二
小 久 喜	二五九	役場學校職員	七
上 野 田	一五三		
下 野 田	五三	計	一、五七二

二、水質検査

保健上最モ重大ナル關係ヲ有スル飲用水ノ水質検査ヲ施行シ、改善セシメ以テ保健ノ一助ト爲シタリ検査ノ結果ハ左ノ如シ

第六章 衛生

大字名	検査總數	適	不適	適
岡 泉	八二	五六	七	二六
實 ケ 谷	五二	四七	三	二
千 駄 野	六二	三〇	一	一九
小 久 喜	一〇二	五〇	二六	二四
上 野 田	一二二	五一	四一	二八
下 野 田	六三	三七	二〇	六
瓜 田	六四	一九	二二	一
太 田	一〇三	三九	二八	三四
彦 兵 衛	二二	一二	八	一
計	六六七	三四一	一六七	八〇

三、清潔法施行

清潔方法施行ハ縣ノ指定ニヨリ春秋二季之レヲ執行シ其ノ成績良好ナル者ニ對シテハ賞狀及賞品ヲ授與ス
傳染病發生シ又ハ其ノ虞アル場合ハ臨時清潔方法ヲ施行ス

四、十二指腸虫病驅除

本縣ノ風土病ト稱ヘラル、十二指腸虫ヲ驅除シ、以テ身體ノ健全ナル發達ト保健ヲ持シ、生産能率ノ増加兒童智德ノ發達ヲ期スル爲メ、大正十二年驅除ヲ企劃シ同年十一月二十一日ヨリ十二月四日迄村民及兒童ニ對シ検査ヲ施行セリ其ノ狀況左ノ如シ

イ、村民

大字名	種別	男			女			計		
		検査人員	有卵者	同上百分比	検査人員	有卵者	同上百分比	検査人員	有卵者	同上百分比
岡泉		一四八	六三	五五・四一	一四九	九	六・五七	二九七	一八〇	六〇・六一
實ヶ谷		九三	三三	六六・六七	九四	七	七・四七	一八七	一三三	七〇・五九
千駄野		二四	六	六四・三三	二四	八	三三・三三	二三八	一九九	六八・八二
小久喜第一區		一三五	六四	三三・三三	一三九	六	四・三三	二七四	一六二	五九・三
小久喜第二區		八一	二八	三四・五七	九一	二	二・二二	一七三	五七	三三・二四
上野田		三九	一五	三八・一	二五	一	四・〇	四八五	三四	六・九四
下野田		二四	六	六六・三	二七	九	三三・三三	二四二	一七三	七一・六
爪田ヶ谷		九五	五	六二・〇五	九	五	五五・五五	一九四	一二三	六三・五
太田新井		一八九	二六	六二・六	二〇三	三三	六三・九	三九二	二二九	五八・四

彦兵衛	計及平均	元	三	五・八九	四	二五	五五・三	八〇	四七	五八・七五
計及平均	二・四	七五	六二・四〇	一・三三	八二	六二・七	二・五五	一・五七	六二・五九	

同上年年齢別

年齢別	種別	検査人員	有卵者	同上百分比	備考
一〇以下	至一〇	二八八	九三	三二・二九	
至一〇	至一〇	一五三	七六	四九・六七	
至一〇	至一〇	二八二	一八一	六四・一八	
至一〇	至一〇	四三八	二九八	六八・〇四	
至一〇	至一〇	四五九	三二三	七〇・三七	
至一〇	至一〇	四四四	二八八	六四・八六	
至一〇	至一〇	二四四	一六三	六六・八〇	
至一〇	至一〇	二五一	一五四	六一・三二	
六〇歳以上	計及平均	二・五五九	一・五七六	六一・五九	

ロ、小學校兒童

學年別	種別	檢查人員數	有卵者數	同上百分比
尋常一學年		二五	三〇	二六・〇九
尋常二學年		二〇	二三	一九・一七
尋常三學年		二七	三三	二八・八〇
尋常四學年		八二	三〇	三六・五九
尋常五學年		一三	二八	二五・〇〇
尋常六學年		八四	二七	三二・一四
高等一學年		三八	一四	三六・八四
高等二學年		一八	一〇	五五・五六
合計		六八六	一九五	二八・四二

同上男女別

性別	種別	檢查人員數	有卵者數	同上百分比	蛔虫有卵者	同上百分比
男		三八七	一二七	三二・八二	二五九	六六・二五
女		二九九	六八	二二・七四	二一五	七四・九一
計		六八六	一九五	二八・四二	四七四	六九・一〇

右検査ノ結果ニヨリ有卵者歩合ハ村民ニ於テ六十一人五分九厘兒童ニ於テ二十八人四分二厘ノ多數ナルヲ以テ、有卵者ニ對シ同年十二月十四日ヨリ同月十八日ニ亘リ驅虫藥ヲ服用セシメ大正十三年二月四日ヨリ同月八日迄ニ亘リ更ニ檢便ヲ爲シタリ其ノ結果左ノ如シ

一、住民十二指腸虫驅虫後検査成績表

字別	種別	檢查人員	有卵者	同上百分比	檢查人員	有卵者	同上百分比	計	有卵者	同上百分比
小學	校	九	七	七七・七	五	四	七八・三	一五	一一	七三・六
岡	泉	三〇	二〇	六六・七	四	三	七八・五	七	五	七三・四
實	ヶ谷	一五	一四	九三・三	一	二	七三・三	三〇	二五	八三・三
千	駄野	四二	二九	七〇・七	三	二	六六・〇	八〇	五四	六七・五〇
小	久喜	四三	三三	七六・四	四	三	六八・九	八	六	七五・九
上	野田	六二	四六	七五・八	六	四	七四・四	一七	九	七四・八〇
下	野田	二四	一七	七〇・八	三	二	七四・九	五	四	七三・三

二、同上小學校兒童年齡別成績表

年 齡 種 別	檢 查 人 員	有 効 者	同 上 百 分 比
爪田ヶ谷	二六	九	二五
太田新井	四〇	四〇	八〇
彦兵衛	八	七	八七
計	三九〇	二七六	七〇・五
八 歲	二二	一六	七六・一九
九 歲	二二	一五	六八・一八
十 歲	一七	一三	七六・四一
十 歲	二四	二〇	八〇・三三
十 歲	一八	一六	八八・八九
十 歲	二三	一五	六五・二二
十 歲	一七	一一	六四・七一
十 歲	三三	一一	八四・六一

三、同上一般住民年齡別成績表

年 齡 種 別	檢 查 人 員	有 効 者	同 上 百 分 比
十 歲	二	一	五〇・〇〇
計 六 歲	一五六	一一八	七五・六四
十 歲	二七	二三	八五・一九
十 歲	三一	二五	八〇・六五
十 歲	六六	四九	七四・二四
十 歲	一〇二	七七	七五・四九
十 歲	一三三	九七	七二・九四
十 歲	一三七	一〇九	七九・五五
十 歲	六六	五〇	七五・七六
十 歲	四四	三〇	六八・一八
十 歲	六〇六	四六〇	七五・九一

小學校兒童ハ十二指腸虫ト共ニ蛔虫有卵者多數ニシテ其ノ百分比ハ實ニ六十九人一分ナリ、依ッ
テ之レカ驅除ヲ爲ス爲メ大正十三年七月兒童五百五十五人ニ對シ驅虫藥ヲ服用セシメ驅除ヲ爲シ
タリ其ノ效果左ノ如シ

年 齡	種 別	男			女			計		
		檢査人員	有効人員	同上百分比	檢査人員	有効人員	同上百分比	檢査人員	有効人員	同上百分比
七	歳	三〇	七	二二・二	二	七	三三・三	五二	一四	二七・四五
八	歳	二	六	四〇・五五	一	一	一〇〇・〇〇	二二	六	二七・四五
九	歳	五七	二二	四〇・三五	五	一七	三〇・五	一三	四〇	三〇・四〇
十	歳	一四	二	一四・二九	七	三	四二・六六	二二	五	二二・八二
十一	歳	三七	一四	三七・八四	九	三	四二・六六	五八	二二	三九・六六
十二	歳	三元	二〇	五・二八	一	五	二六・三	五八	二五	四三・一〇
十三	歳	五	二〇	三七・七四	四	五	三三・三	九三	三九	四二・五六
十四	歳	一八	七	三八・八九	一	一	一〇〇・〇〇	一九	八	四二・一一
計		二五九	九七	三八・三	一五	五	三三・四	四四	一五	三三・五

第二節 傳染病

傳染病豫防ニ關シテハ春秋二期ニ於ケル清潔方法施行ヲ爲シ初夏ニ於テ蠅驅除ノ爲メ石油乳劑ノ散布

及衛生宣傳、衛生講話會ノ開設、健康査案等之レガ豫防ニ勤ムルモ尙病毒ノ侵襲又ハ村外寄留者ニシ
テ罹病シ歸村スル者等アルヲ以テ、絶無トスル事能ハズシテ之レガ發生ヲ見ルモノアリ其ノ狀況左ノ
如シ

年 次	病 名	腸 窒 扶 斯		實 扶 的 里 亞		赤 痢		猩 紅 熱		合 計	
		患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者	患者	死者
明治三十三年		一		三						四	
同三十四年		三		三						六	
同三十五年		五		二						七	
同三十七年		一								一	
同三十八年		三								三	
同四十年		三								一	
同四十四年		三		一				二		七	
大正元年		三		一						一	
同二年		二								二	
同三年		一								一	
同四年		二								二	

同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	合計
一	一	二	八	二	三	六	一	一五	六九
一	一								一三
									一〇
									五
	三								四
一									二
									三
									二
一	四	二	八	二	三	六	一	一五	八六
一									二二

第三節 生産、死亡、結婚、離婚

生産、死亡、結婚、離婚、其他ハ左ノ如シ

年次	公生	私生	計	死産	生産歩合	死亡	人口付合	結婚	離婚	人口増加
明治二十二年	二三	二	二四			五	一五、一	三	一五	六六

同二十三年	同二十四年	同二十五年	同二十六年	同二十七年	同二十八年	同二十九年	同三十年	同三十一年	同三十二年	同三十三年	同三十四年	同三十五年	同三十六年	同三十七年	同三十八年	同三十九年	同四十年
六	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七
〇	二	四	三	二	三	二	一	二	九	七	四	一〇	四	四	四	四	四
九	一三	一五	一四	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
三	二	三	三	二	二	三	三	四	四	三	二	二	二	二	二	二	二
三、三	一九四	一七〇	二一五	二五、四	二六、六	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七	二五、七
六	八七	八九	七二	七二	六二	六二	八〇	一〇六	一〇六	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八
一五、七	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三
三	二五	二八	二五	三七	四四	五六	五五	三五	三九	五九	一〇	一一	五	九	八	二	七
八	九	五	八	七	八	八	八	二	二	九	一〇	一一	五	九	八	二	七

年次	明治三十三年	同三十四年	同三十五年	同三十七年	同三十八年
傳染病	4	1	2	3	1
發育及營養病	3	6	4	3	2
皮膚及筋骨病	3	3	2	1	1
關節及骨節病	1	8	4	3	1
血病	5	2	7	1	1
神經及五臟病	10	7	2	7	5
呼吸器	4	3	9	5	7
消化器	4	1	3	7	2
泌尿生殖器	1	3	3	1	1
外傷及死變	3	3	5	1	2
中毒症	1	1	1	1	1
原因不詳	4	3	1	7	1
計合	40	36	37	44	40
呼吸器內病	3	7	4	8	1

死亡ノ病類別左ノ如シ

同	十三年	二〇七	一	二〇七	一五	七二	二三	二九	五	四	二	七五
---	-----	-----	---	-----	----	----	----	----	---	---	---	----

[illegible]

合 計	大正元年		同 四十四年		同 四十四年		同 四十四年		同 四十四年		同 四十四年		同 三十九年	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
三	六	一	三	一	一	一	一	一	二	三	一	一	一	一
二四	二四	一	四	一	一	一	一	一	四	一	一	一	七	一
六	九	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二九	三	三	二	一	一	一	三	二	二	一	一	一	一	一
五九	七	六	六	二	四	一	七	六	四	六	四	三	六	二
二六	一五	一〇	四	七	九	八	三	三	九	三	三	二	二	七
二三	二四	二八	六	四	二四	二四	三〇	三	二五	二九	一七	二八	二五	三
三	七	二	四	一	一	一	二	三	三	四	三	一	二	一
一九	二七	二	一	二	一	一	二	一	六	三	二	三	二	五
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇	一三	一	一	一	一	一	一	一	四	二	一	一	一	一
五四	六六	五	六	三	五	五	五	六	五	六	四	五	五	五
五四	七〇	二	二	三	一〇	五	四	四	二	二	四	四	三	七

病類別ニ依ル死亡ノ百分比ハ左ノ如シ

計	二八	四八	一五	二四	六二	二九	二六	七三	四〇	四六	三	三三	一、二五	二四
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	------	----

病 類	百 分 比	病 類	百 分 比
消 化 器 病	四〇、〇八	傳 染 性 病	二、四二
呼 吸 器 病	二三、〇七	骨 及 關 節 病	二、〇七
神 經 系 及 五 管 症	一一、二五	原 因 不 詳 病	一、九八
血 行 器 病	五、二七	皮 膚 及 筋 病	一、二九
發 育 及 營 養 的 病	四、一四	中 毒 症	〇、二五
外 傷 及 變 死	三、九七	呼 吸 器 ノ 內 肺 病	一〇、七一
泌 尿 及 生 殖 器 病	三、四五		

第四節 衛生組合

本村内ニ清潔方法、消毒方法其他傳染病豫防救治ニ關シ協同施行スル爲メ行政區ヲ區域トシ左ノ十組合アリ

岡泉衛生組合

實ヶ谷衛生組合

千駄野衛生組合

小久喜衛生組合

小久喜第二區衛生組合

上野田衛生組合

下野田衛生組合

太田新井衛生組合

彦兵衛衛生組合

爪田ヶ谷衛生組合

前組合中小久喜第二區衛生組合ハ停車場附近ニ於ケル戸數増加ニ伴ヒ區設置セラレタル後組織セラレタル者ニシテ大正十二年五月ノ組織ナリ、他ノ組合ハ何レモ大正二年二月規約ヲ改正シ現在ニ至レリ各衛生組合ノ現組長左ノ如シ

組合	就職年月日	氏名
岡泉組合	大正十三年二月二日	齋藤貞次郎

實ヶ谷組合	大正十四年七月廿四日	横田清藏
千駄野組合	大正十二年四月五日	山下喜三郎
小久喜組合	大正十四年二月十日	細井房之助
小久喜第二區組合	大正十三年十一月十九日	土橋要助
上野田組合	大正十四年七月二十五日	宮内頼惠
下野田組合	大正十三年五月二十日	竹内祐藏
爪田ヶ谷組合	大正十三年四月七日	齋藤新兵衛
太田新井組合	大正十四年四月十一日	森田長次郎
彦兵衛組合	大正十四年二月十一日	富士庫理兵衛

第七章 消防

第一節 消防組

明治二十七年消防組規則發布セラレ續テ縣令第十六號ヲ以テ施行細則發布セラレタリ同細則ニ依リ組織セラレタル消防組左ノ如シ

一、名稱 岡泉村組合消防組

二、區域及部

第一部 上野田村下野田村彦兵衛村

第二部 太田新井村爪田ヶ谷村

第三部 岡泉村實ヶ谷村

第四部 小久喜村千駄野村

三、役員

組頭 濱田岩之丞

第二部長兼小頭 福澤彌兵衛

第三部長兼小頭 内田作之進

第四部長兼小頭 弓木糸太郎

小頭 鈴木幸八

小頭 齋藤正三郎

小頭 木村房太郎

小頭 土橋忠兵衛

同年八月施行細則改正セラレタルニ依リ組織ヲ變更シ部ヲ廢シ下野田村彦兵衛村ヲ一區域トシ他ハ各村ヲ以テ區域トシ各別ノ消防組ヲ組織シタリ當時ノ役員左ノ如シ

岡泉村消防組組頭 和泉善助

實ヶ谷村消防組組頭 内田作之進

千駄野村消防組組頭 弓木糸太郎

小久喜村消防組組頭 土橋忠兵衛

上野田村消防組組頭 濱田安之助

爪田ヶ谷村消防組組頭 齋藤正三郎

太田新井村消防組組頭 福澤彌兵衛

下野田村彦兵衛村消防組組頭 吉澤濱吉

爾來同組織ヲ以テ經過シ明治四十二年十二月地理上及舊來ノ習慣ヲ考慮シ千駄野村消防組ヲ二部ニ分チタリ、新村造成ニ依リ從來ノ村ハ大字トナリタルヲ以テ各大字ニ別個ノ消防組存在スルハ自治體ノ本旨ニアラザルナリ、復各組役員協議シ大正六年十二月組織變更ノ議成リ同月村會ノ議決ヲ得同月二

十五日日勝村ヲ區域トシ日勝村消防組設置ノ告示ヲ見ルニ至レリ其部名定員左ノ如シ

部名	區域	定員		現在	
		消防手役員	消防手役員	消防手役員	消防手役員
第一部	岡泉	五〇	五	四九	五
第二部	實ヶ谷	四六	五	四五	五
第三部	千駄野	四五	五	四五	五
第四部	小久喜	五五	五	五五	五
第五部	上野田	五九	五	五九	五
第六部	下野田	四五	五	四三	五
第七部	瓜田ヶ谷	四一	五	四一	五
第八部	太田新井	六〇	五	五五	五
合計		四〇一	四〇	三九二	四〇

現在役員左ノ如シ

- 組頭 山崎敬三
- 第一部長 和泉 洪
- 小頭 利根川德太郎 榎本收作 齋藤儀三郎 齋藤長次郎
- 第二部長 倉持政三郎

小頭	門井龍輔	野口宇三郎	野口丈吉	横田清藏
第三部長	高橋武夫			
小頭	高橋源三郎	内田藤左衛門	岡安長右衛門	岩上岩之助
第四部長	江原定七			
小頭	田口勇助	土橋忠藏	淺草豐亮	鬼久保庄一
第五部長	川面 俊			
小頭	清水房太郎	小島武八	細田貴一	澁谷作藏
第六部長	吉澤武夫			
小頭	竹内磯吉	吉澤一太郎	折原傳次	折原喜八郎
第七部長	齋藤 昇			
小頭	石山彌七	石塚英作	八木橋金五郎	齋藤 徹
第八部長	渡邊俊一			
小頭	森田富藏	松本重五郎	福澤德太郎	山下升平

設傾左ノ如シ

部名	腕用ポンプ	被服	帽	火見櫓
第一部	一	法	被	縣制定通
木製				

經費狀況

年
度

區域內火災ノ狀況

年次

一、日勝村消防組火災豫防巡廻規程

第七章·消 防

第二條 各部役員ハ毎年火災時期ナル一、二、三、十一、十二月ノ五ヶ月間ハ一ヶ月一回部内區域ノ

各戸ヲ巡廻シ火器取扱ヒ危險ノ有無ヲ調査シ苟クモ危險アリト思料スルトキハ家人ニ危險排除ノ方法ヲ示シ注意ヲ與ヘ其ノ成績簿ニ記入シ警察官吏ノ檢閲ヲ受クルモノトス

第三條 各部區域内私有消火器ハ役員及警察官立會ノ上一年二回以上保管者ニ於テ之レカ檢査ヲナスヘキモノトス

第四條 各部ニ於テ第一條乃至第三條ノ巡廻及檢査ヲ爲ス時ハ其ノ日時ヲ豫メ組頭ニ通報スルモノトス

第五條 火災豫防上各部役員及消防手ハ左記各項ヲ遵守シ其部内住民ニ對シ之ヲ遵守セシムル責務ヲ有スルモノトス

一、竈、風呂場ノ構造ハ完全ニシ使用後ハ火氣ニ注意シ又焚場ト燃料置場トニ相當ナル境界ヲ設クルコト

二、石油ハ火氣ノ及ハサル一定ノ場所ニ置キ其取扱ニ注意スルコト

三、「ランプ」ハ必ス金屬製油壺ヲ用ヒ釣索ハ針金、鎖、折釘ノ類ヲ使用スルコト

四、炬燵及行火爐ヲ使用スルトキハ炬燵ニハ格子又ハ金屬製ノ網蓋ヲ施シ行火爐ハ轉覆ノ虞ナキ方法ヲ施スコト

五、烈風ノ日ニハ特ニ焚火其他ノ火氣ニ注意シ互ニ警戒シ用心水ヲ用意スルコト

六、兒童ヲシテ石油燐寸其他發火質ノ物品ヲ取扱ハシメ又ハ焚火ヲ爲サシメサルコト

七、燐寸ハ兒童ヲシテ取出スコト能ハサル處置ヲナスコト

八、夜間就寢後豆「ランプ」其他常夜燈ヲ用ユル者ハ金屬製若クハ土器製ノ安全器ヲ用ユルカ若クハ不燃質物製ノ容器ニ入レ置クコト

九、火消壺ヲ使用スル者ハ安全ノ場所ヲ選ミ萬一火氣ノ存在スルモ危險ナキ様特ニ注意スルコト

十、取灰ノ置場ハ地中ヲ掘下ケ之レヲ設クルカ又ハ土竈甕ヲ地中ニ埋メ設クルカ若クハ四圍厚壁ヲ以テ構造シ萬一殘火アルモ危險ノ他ニ及ハサル爲メ家屋其他建造物建築物ト相當距離ヲ保有シ別物ト爲ス等適當ノ方法ヲ構ユルコト

第六條 檢査成績簿様式左ノ通り定ム

備考様式ハ略ス

二、日勝村消防組救護班規程

第一條 日勝村消防組ニ救護班ヲ置ク

第二條 救護班ハ各部ヨリ選拔シ組頭ノ任命シタル消防手十六名及醫員二名ヲ以テ組織ス

前項ノ消防手ハ之ヲ救護手ト稱シ醫員ハ日勝村開業醫ニ囑託ス

第三條 救護班員ハ水火災ノ警防及點檢演習等ノ爲メ消防組出動ノ際ハ直ニ出動シ傷病者アルヲ認知シ又ハ其通告ヲ受ケタルトキハ相當救護ヲ加フルモノトス

第四條 救護班ハ組頭及部長醫員之ヲ指揮監督ス

第五條 班員ハ任務上須要ノ學術及救急ノ方法ハ常時研鑽ニ努メ火急ニ際シ躊躇失策ナキニ努メ博愛

ノ心ヲ持シ被救護者ヲ救護スルニ當リ懇切温和ヲ旨トシ苟クモ愛憎偏頗ノ所爲アルヘカラス

第六條 救護班ニ繃帶囊及擔架ヲ備付ケ繃帶囊ニハ應急手當用ノ藥品及材料ヲ準備シ置クモノトス

但前項ノ應急手當用藥品其他ハ消防組ヨリ支出スルモノトス

第七條 班員ノ服裝ハ消防手ト同一ノ服裝ヲ用ヒ別ニ定ムル腕章ヲ付ス腕章ハ左腕ニ附着スルモノトス

第八條 救護班出動ノ際ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ用ヒ救護所ノ位置ヲ明示スルモノトス

第九條 班員ハ專ラ水火災ニ依リ生レタル傷痕或ハ老幼婦女其他患者等ニシテ進退ノ自由ヲ得サルモノニ對シ救護スルト同時ニ其者ノ住所氏名年齢傷ノ原因日時場所等ヲ聴取リ又急救措置ノ概況等

ハ漏ナク手帳ニ記錄シ置キ事後速ニ組頭ニ報告スルモノトス

第十條 班員ノ携帶品左ノ通り定ム

一、繃帶靴 一、急救措置用藥品箱

一、手帳 一、救護手ト記載シアル手提灯

第十一條 携帶品ハ最モ叮嚀ニ取扱ヒ消費シタルトキハ速ニ役員ニ届出テ請求補填シ置クモノトス

第八章 交通

交通機關ハ道路鐵道自動車人力車荷馬車等ニシテ其他特殊ノ機關ヲ見サルナリ

一、道路

縣道ニシテ本村内ヲ經過スルモノ、延長左ノ如シ

岩槻幸手道 二千四百十四間

柏壁菖蒲道 二千百五十九間

杉戸蓮田道 三百四十五間

(柏壁菖蒲道重用スル區間ヲ除ク)

久喜蓮田道 七百十間

村道中重要ナル路線ハ三十線ニシテ延長一萬六千三百九十三間ニ達ス

二、鐵道及停車場

國有鐵道東北本線ハ本村西南部ヲ貫通シテ北ニ走リ本村ノ經過延長七百八十七間ナリ

白岡停車場 上野ヨリ二十四哩八分蓮田二哩六分久喜三哩四分停車場ハ本村大字小久喜地内ニアリ

テ構内一部ハ隣村篠津村大字白岡地内ヲ占ム蓮田久喜兩驛間ハ六哩ノ長距離ナリシヲ以テ當地地方ハ二

里餘ノ蓮田久喜驛ニ依ラサルヘカラサルヲ以テ交通ノ不便地方産業ノ不振年久シカリシヨリ停車場設

置ノ熱望止マサリシモノアリ偶々明治四十一年復線工事ニ著手シコレカ完成シ篠津村大字白岡地内ニ白岡信號所設置セラル、ヤ地方民ノ熱望激發シ本村及篠津村有志相計リ此機ニ於テ素願ヲ貫徹セムコトヲ期シ明治四十一年二月ヨリ運動ヲ開始シタリ時恰モ第二十四帝國議會開會中ナリシヲ以テ日勝村長佐川重作外十箇町村長ヨリ遞信大臣及貴衆兩議院ニ設置請願ヲ爲シ同時ニ地方有志諸士ノ賛同ヲ得テ日勝村大字小久喜鬼久保文輔外百四十四名ヲ以テ同様請願セリ三月下旬幸ニ兩議院ニ採擇セラル續テ百方狂弄セラレシ結果同年七月敷地寄附ノ條件ヲ以テ願意採用ノ通知ニ接シ同年九月敷地ヲ指定セラレタリ發起人二十名ハ直チニ敷地ノ買入敷地内ノ家屋移轉及寄附ノ手續ヲ取り同年十月七日ヲ以テ敷地五千九百六十四坪ヲ鐵道院ニ獻納シ越エテ寄附承認ノ指令ヲ受ケタリ爾來起工ヲ待ツコト約一年明治四十二年十月上旬起工セラレ明治四十三年二月竣功シ同月十一日紀元節ノ佳辰ヲ以テ開驛セラレタリ而シテ其ノ費額ハ敷地買入及家屋地上物移轉費金四千八百三十圓里道ノ添換費約七百五十圓ニシテ發起人二十名ノ負擔シタルモノナリ地方有志諸氏亦此企テニ賛同セラレ寄附金ヲ寄セラレ其額約千八百有餘圓ニ達シ開場祝賀式費紀念碑建設費等ヲ合スル時ハ殆ント壹萬圓ノ巨額ニ達セリ該驛ハ全ク發起人及地方有志諸氏ノ熱烈ナル努力ノ結晶ナリ

發起人氏名

日勝村 村長 佐川重作 鬼久保文輔 山崎敬三 濱田安之助 高橋房太郎 弓木彖太郎
大木恒次郎 土橋忠次郎
篠津村 細井金之助 渡邊傳司 大橋孫右衛門 井上鷄次郎 金子 喜 松本熊太郎

長島六右衛門 山田茂八 細井友藏 小島佐七 吉川藤右衛門 細井彖次郎
開驛以來ノ狀況

年度	種別		客		貨		順	
	乘	降	車	人	車	合	計	發
明治四十三年度	一四、三八	一三、五四	二七、八五九	五、四	一、三八一	一、九〇五	一、九〇五	一、九〇五
同 四十四年度	一八、八三	一八、二七九	三七、一六二	一、三三三	二、一〇六	三、四三九	三、四三九	三、四三九
大正元年度	一九、五四	一八、三七五	三七、九四九	一、一九九	二、一八一	三、三八〇	三、三八〇	三、三八〇
同 二年度	二二、四九	一八、二五七	四一、六八六	九、九八	二、七〇〇	三、六九八	三、六九八	三、六九八
同 三年度	二二、三九	一六、五五	四四、九四	一、五九九	二、二九一	三、八九〇	三、八九〇	三、八九〇
同 四年度	二二、一九四	二〇、七三四	四一、〇一八	一、九〇〇	一、八三三	三、七三三	三、七三三	三、七三三
同 五年度	二二、一七五	二二、一七〇	四六、九八五	一、七六六	二、一七八	三、九六四	三、九六四	三、九六四
同 六年度	二六、六〇四	二六、〇九一	五二、六九五	二、〇五七	二、一三七	四、一九四	四、一九四	四、一九四
同 七年度	三三、〇九	三〇、九四	六三、〇一三	二、三三七	四、六九	七、〇八六	七、〇八六	七、〇八六
同 八年度	四一、〇七三	四〇、〇九六	八二、一六九	三、九九九	四、一四七	八、〇六六	八、〇六六	八、〇六六
同 九年度	四四、二二	四二、四八三	八六、七〇四	二、八八五	八、六五七	一、一五四	一、一五四	一、一五四
同 十年度	五二、一九五	五〇、〇六六	一〇一、三七一	二、八五二	八、〇五〇	一、〇九〇	一、〇九〇	一、〇九〇

同十一年度	五七、一七三	五七、二五三	一四、四六六	五、一六四	四、六四八	一〇、五二二
同十二年度	五八、八九一	六五、一七六	二四、〇六七	一五、一六四	四、四五〇	一〇、二一四
同十三年度	九二、五七七	九二、一〇四	一八、五六一	三五、二八八	六、一〇四	四、一三九

備考 十三年度乗降人員ノ激增シタルハ鐵道人夫ノ無賃乗車ヲ廢止シタルニヨル

大正九、十年度到著貨物ノ増加ハ白岡驛改良工事用品ヲ包ムニヨル

大正十二年以來發送貨物ノ著シキ増加ハ震災復興材料トシテ散工ノ發送多カリシニヨル

三、自動車

白岡驛ヲ中心トシ久喜町及粕壁町ニ乗合自動車大正十三年十二月ヨリ開業セラレタリ大正十四年七月ヨリ久喜町岩槻町間モ開通セリ

四、諸車

諸車ノ種類及數量左ノ如シ

荷馬車十一臺	荷車三百臺	荷積車六十八臺	自轉車三百八十七臺
牛車七臺	人力車 營業用二臺 自家用一臺		

第九章 水利

第一節 惡水

本村排水ハ隼人堀、爪田ヶ谷堀、野牛高岩落、下沼落、新堀ニ依ルモノニシテ此等諸堀ハ各流域ノ流水ヲ集メ大落古利根川ニ流入スルモノナリ

隼人堀

村ノ中央ヲ流ル、モノニシテ其流域ハ岡泉、實ヶ谷、千駄野、上野田、下野田、太田新井ニ亘ル

爪田ヶ谷堀

上野田ヲ貫通シ下野田、爪田ヶ谷ノ字境ヲ流ル、モノニシテ流域ハ上野田下野田ノ一部爪田ヶ谷ノ大部ナリ

野牛高岩落

村ノ北ヨリ東北隣村須賀村トノ境ヲ流ル、モノニシテ上野田、下野田、爪田ヶ谷ノ一部、其流域ナリ

下沼落

實ヶ谷ノ一部千駄野、小久喜岡泉ノ一部ヲ域流トスルモノニシテ岡泉地内ニ於テ隼人堀ニ合流ス

新堀

隣村黒濱村沼地ヲ基點トスルモノニシテ岡泉、實ヶ谷ノ一部其流域ニアリテ太田新井地内ニ於テ隼人

堀ニ合流ス

大落古利根川

本村全部ハ其ノ流域内ニアリ

第二節 用水

本村灌漑用水ハ黒沼用水笠原用水ニ依ルモノニシテ岡泉、實ヶ谷、千駄野、小久喜、及上野田、下野田、太田新ノ一部ハ前者又ハ同用水ノ支流ニヨリ瓜田ヶ谷、及上野田ノ一部ハ後者ニ依ルモノナリ
黒沼笠原沼用水ハ本郡三箇村地内ニ於テ見沼代用水ヨリ分流シ江面村地内ニ於テ二ツニ分レ一ツハ黒沼用水トナリ本村西部ヨリ東部ニ流レ一ツハ笠原用水トナリ本村北部ヨリ東ニ流ル、モノナリ
用水地ハ黒沼笠原沼用水路普通水利組合ノ關係地區ニシテ同時ニ見沼代用水路普通水利組合ノ地區ニ屬ス

第二章 水

第一節 用水

第十章 兵事

第一節 管 區

陸軍管區ハ第二師團ニ屬シ本郷聯隊區内ニシテ徴兵區モ亦同一ナリ徴募區ハ南埼玉郡ニ屬ス
憲兵隊管區ハ東京憲兵隊上野憲兵分隊ノ區域ニ屬ス
徴馬管區ハ近衛師團ノ管轄區域ニ屬ス
海軍管區ハ横須賀鎮守府ニ屬ス

第二節 壯 丁

最近十ヶ年ニ於ケル壯丁ノ狀況ハ左ノ如シ

種 別	年 次	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
當該年壯丁數		四五	四五	四三	四六	五〇	五〇	五七	四六	四二	四六
前年送り數		一六	一八	四	一	一	二	三	二	一	三
入 寄 留 者		一	一	〇	〇	〇	一	二	一	一	一

計	検査受検者數	平均身長	平均體量	入營者數
五三	四四	五、一三	一三、五〇	二二
五三	四七	五、一三	一三、〇一〇	一五
四七	四〇	五、一五	一三、一六〇	一〇
四七	四二	五、一四	一三、六四〇	一〇
五二	四四	五、一二	一三、六四〇	九
五三	四五	五、一四	一三、〇六〇	八
六二	五五	五、一六	一三、一六〇	一一
四八	四五	五、一七	一三、〇四〇	九
四二	三七	五、一九	一三、六四〇	二二
五〇	四九	五、一四	一三、一六〇	一四

第三節 諸戰役と從軍者

一、西南戰爭

陸軍歩兵卒 折原源之丞

明治十年二月十六日佐倉出發同月十七日東京愛宕下着同月廿六日東京出發橫濱ヨリ名古屋九ニテ同月廿八日神戸着神戸ヨリ同船ニテ博多ニ着三月三日久留米驛着同月五日肥後南關へ揉込同月十日熊本縣下平山村へ揉込同月十二日山鹿驛へ進撃更ニ同月十五日同所ニ進撃同月廿日岩村へ出張ス同月廿一日山鹿驛へ進撃揉込四月四日南田島へ進撃同月五日同所へ更ニ進撃同月十日鳥栖村へ進撃同月十二日同所ニ再ビ進撃同月十五日熊本ニ進軍同月十八日肥後陣内村ニ進軍同月十九日同國片川瀬村へ進軍二十日大津町ニ進軍廿一日布田村へ進軍廿四日河原村進軍五月一日錦村へ進軍五日村山へ進軍七日大津町へ揉込同日ヨリ砲廠護衛同月十一日八代町へ揉込十三日佐々敷町へ揉込廿三日大野村へ進軍卅日瀧

本村廣原村へ進軍六月二日同春村へ進軍十日戸野原村へ進軍同日酒肴料下賜セラル十五日薩摩國山野村へ進軍十八日大口町ニ進撃二十日再ビ同所へ進撃同日大口町へ進軍シ直ニ中栖ニ進軍二十一日再ビ大口町へ揉込廿三日羽内村ニ進軍廿九日鴨田村へ迂回ノ爲メ進軍卅日本城村ニ進撃七月一日横川村進撃三日相川村へ進軍七日西襲山村へ進軍八日鹽下村へ揉込九日大久保村ニ進軍十二日長池村へ進軍十七日逆徒襲撃十九日再ヒ襲撃ス廿日神集館へ揉込廿二日霧島山ニ防線廿三日荒川内村へ進軍廿四日都ノ城進撃同日庄内へ滯陣日向國中霧島村進軍廿五日下午流村へ進軍廿七日瀬戸村へ進軍廿八日二日城町へ進軍廿九日有水村へ進軍三十日高岡町進軍シ同日倉岡迄進軍卅一日佐土原へ進軍八月二日高鍋町へ進軍三日美々津町十二日細島町へ進軍二十二日延岡町ニ進軍廿四日曾木村へ揉込廿八日再ビ延岡町ニ揉込卅一日日本城町へ揉込九月一日河内村へ揉込二日野尻村へ揉込三日庄内町へ揉込六日加次木町へ同日扶桑丸ニ乗込ミ七日鹿兒島ニ上陸シ城ヲ圍ミ防戰中九月廿四日逆徒平定同月廿八日着ノ浦丸ニ乗船歸國ス戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金三十六圓下賜セラル

其他從軍者左ノ如シ

上野田	折原	定市
上野田	石川	佐市
爪田ヶ谷	竹内	卯之吉
太田新井	齋藤	清次郎
太田新井	木村	安太郎

二、明治二十七八年戰役

輜重輸卒 齋藤 藏

現役トシテ明治二十七年十二月近衛輜重兵大隊補充隊ニ入隊廿八年二月近衛師團第三步兵彈藥縱列へ編入同年三月宇品港出帆柳樹屯ニ上陸シ李家屯ニ前進シ同所滞在同年二月二十一日第二軍へ編入四月李家屯ヲ出發虫王廟屯ヲ經テ旅順口ニ至ル五月第二軍戰團序列ヲ離レ臺灣總督樺山海軍大將ノ隸下ニ入ル六月臺灣基隆ニ上陸滞在後出發海山口打鐵ヲ經テ八月臺南附近鹽地子社ニ滞在十一月出發打狗ニ至ル同月十八日凱旋ニ付出發十二月内地ニ歸還ス戰役ノ功ニヨリ二十五圓下賜セラル

步兵上等兵

中村 爲次郎

後備役中充員召集ニヨリ明治廿七年十一月十五日ヨリ東京灣守備ニ服シ廿八年二月九日迄浦賀町大津地方ノ守備ニ任ジ同月十八日東京出發廣島大本營直轄ニ屬ス同年三月十四日出征ノ爲メ宇品出帆大連上陸楊家屯ニ含營三月二十五日第五師團ノ戰團序列ニ入り同師團長ノ指揮ノ下ニ同月廿八日楊家屯發庄河ヲ經テ大孤山ニ至ルベキノ命令ニヨリ前進中四月二日休戰ノ報ニ接シ董家屯ニ含營ス後大孤山ニ至ル同月二十五日安東縣着滞在シ第十一聯隊長ニ屬シ六月七日同所出發青堆子、金州附近東溝ヲ經テ同月二十二日内地歸還ス戰功ニヨリ金三十圓下賜セラル

步兵上等兵

利根川 和三郎

明治廿七年九月充員召集ニ應ジ步兵第三聯隊補充大隊第三中隊へ入隊廿八年三月宇品港出帆四月大連上陸ノ上第八中隊ニ入ル後和約成リ六月内地歸還ス同月歸休トナル明治二十九年三月再ヒ召集入隊威

海衛占領軍守備隊交代ノ爲メ五月宇品出帆威海衛着同地竹島村駐屯守備ニ服ス三十年五月交代ノ爲メ内地歸還ス六月除隊ス戰功ニヨリ金二十五圓下賜セラル

輜重輸卒 齋藤 清吉

明治二十七年十二月近衛輜重補充中隊ニ編入同廿八年宇品出帆大連着柳樹屯、東陶家樓河口卒家屯、基子、双台溝、ヲ經テ水師營西溝着七月旅順口出帆台灣基隆上陸シ台北海山口ヲ經テ中麻ニ上陸ス十月十四日ヨリ山根枝隊ニ屬シ戰團勤務ニ從事八月大湖口ヲ經テ南雅眉庄着同月六日ヨリ九日迄戰團勤務ス後香山庄、中港、新港庄、能里、橋驛庄、山子脚庄ヲ經テ大肚街着八月廿五日ヨリ同廿八日迄師團本部ニ從ヒ戰團三合庄其他ヲ經テ九月打狗着十月六日ヨリ同月八日迄前衛ニ屬シ戰團嘉義其他ヲ經テ捕恙頭着十一月七日ヨリ同月廿四日迄南進軍ニ從ヒ戰團十一月大湖街ヲ經テ舊城着同月打狗出帆同月廿八日東京ニ歸還シ十二月解隊ス戰功ニヨリ金廿五圓下賜セラル

步兵一等卒

鈴木 佐右衛門

步兵第三聯隊ニ在營中明治二十七年十月宇品出帆花園川口ニ上陸シ十一月六日金州ニ於テ發團同月十八日火伯村ニテ戰團同月二十一日旅順口ニテ戰團十二月一日ヨリ斬家屯ニ對陣ス第一軍援助ノ爲メ廿八年二月金州戰蓋平着同月廿四日大平山附近ニ於テ蓋團同年三月九日田庄台附近ニ於テ戰團同月十三日ヨリ蓋平附近龍王廟ニ對陣四月十七日蓋平發金州ニ進ミ同月二十二日復州附近蕪家屯着對陣ス二十八年五月十三日清平和成リ作戰止ム五月出發シ數日金州ニ滞在同月大連出帆六月七日東京ニ凱旋ス戰功ニヨリ勳八等瑞寶章金五十圓下賜セラル

步兵上等兵 土橋 秀松

明治二十七年步兵第三聯隊補充大隊ニ在營中二十八年六月步兵第三聯隊第二中隊ニ編入シ二十九年五月威海衛占領軍守備交代トシテ宇品出帆同地着竹島村ニ駐屯守備ニ任ズ占領軍交代ノ爲メ五月出帆横濱上陸ノ上屯營ニ歸着ス明治三十年十一月滿期除隊ス戦功ニヨリ金二十五圓下賜セラル

步兵一等卒 小川 晋次郎

現役トシテ明治二十七年十二月近衛步兵第三聯隊補充大隊ニ入隊ス二十八年五月近衛步兵第二聯隊野戰隊ヘ補充ノ爲メ同月宇品出帆旅順口着同年六月二十四日臺灣基隆着ノ上第七中隊ニ編入七月二十二日太姑陷附近同月三十一日八月一日涼傘頂ニ八月八日枕頭山ニ同月九日光峯山ニ同月二十八日彰化ニ轉戰ス十一月打狗ヨリ乗船同月三十日内地歸還ス同日滿期除隊ス戦功ニヨリ金二十五圓下賜セラル

步兵一等卒 木村 七五郎

明治二十七年九月第一充員召集トシテ步兵第三聯隊第三中隊入隊同年同月出征ノ爲メ屯營出發十月十八日宇品出帆花園川口ニ上陸シ十一月六日金州ニ於テ戰鬪同十八日火伯村ニテ戰鬪シ同二十一日旅順ニ於テ戰鬪十二月一日ヨリ新家屯ニ對陣第一軍援助ノ爲メ二十八年二月十三日金州出發蓋平ニ着シ同月二十二日ヨリ前哨服務同二十八日出發三月九日田庄臺附近ニ於テ戰鬪同月十三日ヨリ蓋平附近龍王廟ニ對陣四月十七日蓋平出發金州ニ向ヒ前進同月二十二日復州附近薰家屯着對陣二十八日五月十三日平和成リ作戰止ム五月薰家屯出發金州着同月三十日迄滞在シ大連出帆六月七日東京ニ凱旋ス

步兵上等兵 八木橋 武四郎

豫備役中明治二十七年八月第一充員トシテ步兵第三聯隊第十二中隊ヘ召集同年十月宇品出帆同月二十六日花園口上陸シ十二月五日迄同地守備ニ任シ後同地出發七里庄着二十八日二月十二日同地出發蓋平城着同月二十四日大平山攻撃ノ際凍傷ニ罹リ定立病院ニ入院ス四月金州兵站病院ニ入院後内地後送廣島豫備病院ヨリ東京豫備病院ニ移リ五月二十四日ニ退院シ第三聯隊補充大隊ニ編入セラレ同月二十六日解散ス戦功ニヨリ金三十圓下賜セラル

步兵一等卒 清水 宇吉

步兵第三聯隊ニ在營中明治二十八年臺灣討伐ノ爲メ出發シ基隆上陸ス魯閣蕃通路偵察ノ爲メ出張九砲社附近ニ於テ戰鬪二十九年二月五日太魯閣蕃南部九砲社攻撃準備ノ爲メ森林内年路開設作業掩護ニ從事ス二月六日太魯閣蕃討伐ノ爲メ出張南部九砲社ニ於テ戰鬪ス二月九日ヨリ三月一日迄九砲社攻撃準備ノ爲メ軍路開設作業掩護ニ從事ス三月四日ヨリ四月十五日迄加禮宛新城間沼道伐採作業掩護ニ從事ス八月三十日基隆着同地守備ニ任ズ三十年十一月守備交代ノ爲メ基隆出帆同月十四日屯營着ノ上同月十九日第九中隊編入同月除隊ス戦功ニ依リ金二十五圓下賜セラル

步兵上等兵 野口 安兵衛

後備役中明治二十七年八月三十一日召集ニ應ズ九月十四日東京灣守備トシテ三浦郡大津村ニ出張シ十月五日迄守備ニ任シ同日守備地發同十日野戰砲兵第一聯隊ニ入ル十一月十五日前守備地ニ出張ス二十八年二月九日守備地發同日金澤ニ於テ守備隊ヲ解キ同月十二日步兵第三聯隊ニ入ル同年三月十四日廣島發同月十九日楊家屯ニ上陸同月二十五日第五師團ノ戰鬪序列ニ加ヘラレ同月二十七日楊家屯出發大

孤山ニ進軍中四月一日藍家店子ニ於テ休戦ノ報ニ接シ同月三日ヨリ林家屯ニ滞在ス四月十五日林家屯出發同二十六日安東縣著滞在ス同月二十七日步作第十一聯隊長西島大佐ノ指揮ニ屬ス六月七日安東縣出發十三日青堆子着滞在同二十三日同地發三十日沙家屯着滞在同七月三日同所出發同月五日鏡家屯着滞在同七月十二日同地出發大連乘船同月二十日東京ニ凱旋ス戦功ニヨリ金三十圓下賜セラル

步兵特務曹長 野口 幸藏

現役中日清開戦トナリ出征シ各地ニ轉戦ス戦功ニヨリ勳八等ニ叙シ年金三十六圓下賜セラル
三、明治三十七八年戦役

故歩兵一等卒 山崎 喜太郎

明治三十一年十二月現役兵トシテ近衛歩兵第二聯隊へ入營シ同三十四年十一月除隊トナル明治三十七年二月八日充員召集ニヨリ近衛歩兵第二聯隊ニ應召ス同年三月十三日宇品港出帆ス第一軍ニ從ヒ鴨綠江、岫巖、分水嶺、様子嶺、道家嶺、等ニ轉戦ス八月三十日遼陽攻撃ニ加ハリ孟家房南方高地ノ戦闘ニ於テ同日顔面砲彈挫滅創ニヨリ戦死ス同日戦功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金四百七十圓下賜セラル

故歩兵上等兵 松田 亮全

補充兵役中明治三十七年三月九日充員召集ニヨリ歩兵第三聯隊第八中隊ニ應召ス同年四月二十三日宇品港出帆ス旅順攻圍軍ニ加ハリ金州攻撃戦ニ參加シ後大辛寨子附近ニ於テ休養ス旅順總攻撃開始セラレ七月二十六日未明ヨリ攻撃ヲ開始シ凹字形山近ク前進シ翌二十七日第八中隊ハ午後六時頃凹字形山正面ヨリ前進ス爲メニ左右上ヨリ敵彈ヲ受ク中隊ハ三方面ニ分レテ應射シ猛戦ス午後七時頃敵彈左頭

上ヨリ右脇下ヲ貫通シ遂ニ名譽ノ戦死ヲ爲ス戦功ニヨリ功七級勳八等白色桐葉章並ニ金二百二十圓下賜セラル

故陸軍看護手 大久保 長次郎

明治三十二年十二月現役トシテ歩兵第三聯隊ニ入營三十三年十二月陸軍看護手ヲ命セラル三十五年十一月除隊トナル明治三十七年三月九日充員召集ニヨリ第一師團軍醫部ニ應召ス同年五月三十一日出征ノ爲メ宇品港出帆シ鹽大澳ニ上陸ス金州、後革鎮堡等ニ勤務ス八月十七日同所出發シ山湖堡ニ行軍中降雨ニ遭遇シ爲メニ氣管支加答兒ニ罹ル當時人員寡少ノ爲メ重病室勤務中屢々寒氣ヲ冒シテ徹夜服務ス十一月以來寒氣ヲ犯シテ益々奮勵ス爲メニ病氣漸時重ク運送船加賀丸ニテ内地歸還十二月二日廣島豫備病院ニ入院シ爾後加療ヲ爲シタルモ其効ナク遂ニ三十七年十二月十五日午前十一時死亡ス戦功ニヨリ金二百六十圓下賜セラル

故歩兵二等卒 石渡 才助

補充兵補中明治三十七年十二月補充召集ニ應シ歩兵第三聯隊補充大隊ニ入隊ス明治三十八年四月二十八日從軍ノ爲メ宇品港出帆シ五月二日大連上陸五月十日胡家屯着同日同聯隊第十一中隊ニ編入セラル同年六月十二日馬家溝附近ニ於テ散開戰闘教練演習ノ際地障ヲ超越セントシテ誤リテ地障内ニ轉倒シ頭部ヲ打撲シ頭痛症狀ヲ起ス同月十四日馬家溝ヨリ顧家屯ニ宿營地移轉ニ際シ炎熱ヲ胃シ行軍ス爲メニ急性腸加答兒ニ罹ル同月二十七日大泉眼舎營病院ニ入院シ加療中腦膜炎ヲ併發シ心臟麻痺ニヨリ三十八年六月二十八日病死ス戦功ニヨリ勳八等白色桐葉章並ニ金二百二十圓下賜セラル

故砲兵二等卒

賀島

辰

明治三十七年十二月現役トシテ野戰砲兵第十五聯隊補充大隊第一中隊へ入隊ス戰役中内地勤務ニ服ス
明治三十八年四月八日流行性腦脊髄炎ニ罹リ病死ス戰功ニヨリ百十圓下賜セラル

故歩兵伍長

野口源兵衛

現役トシテ明治三十八年十二月近衛歩兵第二聯隊へ入隊ス三十九年四月第十三師團歩兵第四十九聯隊
へ轉出シ同月十四日宇品出帆清津上陸咸鏡守備ヲ命セラル四十年三月清津守備ニ服ス五月十二日軍旗
護衛兵ヲ命セラル十月二十五日鏡城守備ヲ命セラル同地守備ニ服ス十一月上等兵ヲ命セラル十二月十
五日暴徒討伐ノ爲メ新興寺方面ニ出張シ四十一年一月十七日同目的ノ爲メ沙谷洞方面ニ出張ス二月伍
長ニ任シ四月六日更ニ討伐ノ爲メ寒峙洞方面ニ出張ス同年七月下旬間島地方ヨリ慶源寺方面へ守備隊
長トシテ出張暴徒討伐ニ從事ス同年九月三日咸鏡北道明川郡明川ニ於テ暴徒ト戰闘中腹部貫通銃創ニ
依リ同日午前十時戰死ス韓國暴徒鎮壓事件ノ功ニヨリ勳七等青色桐葉章及金二百圓下賜セラル

海軍軍醫大監

齋藤恭三

明治三十四年十二月東京帝國大學醫科大學卒業直ニ海軍中軍醫ニ任官シ大學院ニ於テ研學中明治三十
七年二月病院船神戸丸乗組ヲ命セラレ艦隊所在地ニ在リテ傷病者ノ治療ニ從事ス明治三十七年五月第
三回旅順口閉塞ノ際第九艇隊蒼鷹ニ臨時乗組ヲ命セラレ港口ニ於テ閉塞隊員ノ收容ニ從事ス三十七年
十月軍艦淺間乗組ヲ命セラレ三十八年五月二十七日艦長八代大佐ノ下ニ日本海海戰ニ參加ス三十八年
十一月内地ニ歸還シ再ヒ大學院ニ於テ修業ヲ命セラル戰役ノ功ニヨリ功五級勳四等ニ叙セラル

歩兵中尉

竹内藤右衛門

明治三十七年十月十二日第九師團司令部附ニテ宇品港出帆シ同月十六日青泥窪上陸同月十八日歩兵第
三十六聯隊第九中隊附(小隊長)ヲ命セラル同年十月二十六日旅順總攻撃ノ際松樹溝谷地散兵壕奪取
ノ爲メ突撃隊ニ參加ス十月三十日二龍山攻撃ニ參與ス十一月二十六日旅順總攻撃ノ際二龍山突撃隊ト
シテ參加シ同日負傷野戰病院ニ收容セラレ後兵站病院ヲ經テ同年十二月九日宇品歸還ス戰功ニヨリ功
五級勳五等ニ叙セラル

歩兵中尉

川面多吉

歩兵第二聯隊附ニテ明治三十七年三月第三軍ニ屬シ旅順包圍軍トシテ出發五月九日孫家坦子ニ上陸五
月十六日旅團側衛トシテ十三里臺ニ於テ戰闘大隊ハ第一線トシテ敵ノ十家火ヲ蒙リ最モ苦戰ニ陥リ同
日負傷シ第一野戰病院ニ入院二十五日退院翌二十六日金州南山攻撃ニ參加ス大隊ハ敵ノ正面ニ當リタ
ルヲ以テ猛戰中隊ハ兵員三分ノ一ヲ失フ午後七時同地占領ス七月二十六日石山溝二十七日對面溝ニ於
テ戰闘二十八日金龍寺戰ニ戰闘七月三十日土城子ニ於テ戰闘シ同地占領ス八月十八日曲家屯南方高地
ニ戰闘八月十九日二十日二〇三高地ノ麓ニテ稍堅固ナル砲臺ヲ有スル小東溝南方高地ニ於テ猛戰シ一
部ハ格闘戰ヲモ爲シ大隊長以下死傷者多數ヲ出シ遂ニ午後七時占領ス同地ノ守備ヲ後備歩兵十五聯隊
ニ讓ル十月十四日松樹山砲臺攻撃準備トシテ水師營南方鐵道線守備兵ヲ擊退スル爲メ大隊ハ午後九時
夜襲シ之ヲ占領ス同地守備ヲ第二大隊ニ讓ル敵ハ天明ト共ニ之レニ射彈ヲ集中シ逆襲シ敵ニ脱回セラ
ル十月二十六日拂曉ヨリ第二線トナリ回復攻撃ニ參加ス十月三十日三十一日松樹山斬壕戰ニ參加ス十

一月二十六日松樹山砲臺占領ノ爲メ第一線トナリ突撃スルヤ二〇三高地、椅子山、案子山、望臺、補備、老鐵山諸砲臺ヨリ砲撃セラレ大隊ノ過半ハ死傷シ功ヲ奏セス此ノ際負傷シ入院ス十二月三日退院シ十二月三十一日總攻撃ノ爲メ松樹山砲臺突撃隊第二線ニ加ハリ戰闘シ遂ニ占領ス翌三十八年一月一日開城トナリ補備砲臺ノ武器受領ニ參加ス

明治三十八年一月廿二日奉天攻撃ヲ容易ナラシムヘク敵ノ退路ヲ遮斷スヘキ目的ヲ以テ午前二時出發北進ス三月一日沙河子附近ニ進出シ敵ノ前進ヲ阻シ之ヲ撃退ス三月三日吳家溝附近ニ於テ敵騎ト衝突シ之ヲ撃退ス三月七日三家子附近ニ於テ敵ノ妨害部隊ト戰闘撃退ス三月八日九日二亘リ田義屯（奉天ノ北方約八里）ニ於テ戰闘ス敵ノ逆襲三回ニ亘リ爲メニ惡戰苦闘セリ九日拂曉中隊ハ鐵道線橋梁ヲ破壊スヘキ任務ヲ命セラレ二道溝附近ニ於テ戰闘シ損害ヲ被リ功ヲ奏セス本隊ニ歸還ス後聯隊旗手ヲ命セラル十日午前七時同地ヲ占領ス五月二十日「シツシンコ」ノ率ユル敵騎大某團吾背後ニ進出セル報ニヨリ大隊ハ晝夜行軍大房身ニ於テ衝突之ヲ撃退ス三十九年一月二十八日凱旋ノ爲メ大連出帆内地ニ歸還ス戰功ニヨリ功七級勳七等ニ叙セラル

步兵特務曹長

安藤寅早

第一軍近衛歩兵第二聯隊附ニテ明治三十七年四月二十八日宇品出帆同年五月五日韓國梨花浦ニ上陸ス六月八日岫巖附近ノ戰闘ニ參加シ同月十三日二道河子附近ニ於テ戰闘ス同月二十六日王家堡子附近ノ戰闘ニ參與ス同月二十七日分水嶺附近七月三十一日様子峯附近ニ戰闘ス八月二十四日二十五日東新堡附近ノ戰闘參加ス八月二十六日大西溝附近ノ戰闘ニ於テ負傷ス九月十二日負傷ノ爲メ後送九月十五

日内地歸還ス三十八年六月二十八日第一軍近衛後備混成旅團衛生隊附ニテ宇品港出帆同年九月十五日宇品歸還ス戰功ニヨリ功七級勳七等ニ叙セラル

砲兵特務曹長

川崎勘左衛門

明治三十七年七月十九日宇品港出帆同月二十四日青泥窪上陸ス同月二十六日前牧城驛附近ニ於テ同月二十七日營城附近ニ於テ戰闘同月三十日長嶺子附近ノ戰闘ニ參加ス八月十四十五日胡家屯附近ニ於テ戰闘ス八月十九日ヨリ香河甸附近ニ於テ旅順要塞總攻撃ニ參加シ爾來明治三十八年一月二日ニ至ル迄大西溝、水師營附近ニ於テ要塞攻撃ニ參與ス旅順開城後同年一月十四日先發トシテ北進遼陽着シ一月二十七日黑溝臺戰闘ノ爲メ遼陽守備ニ任シ同月三十一日ニ北河守備トシテ遼陽發頭臺子着同年二月二十七日奉天攻撃ノ爲メ頭臺子發三月一日蘇家安及大平庄附近ニ於テ同三日砂嶺堡附近同五日分山臺附近同六日大石橋附近同七日間上高力屯附近同八日造家屯附近同十日郭七屯郭三屯附近ニ於テ戰闘ス三十八年十月十六日平和克復トナル明治三十九年二月十二日内地歸還ノ爲メ大連出帆同月二十二日屯營歸着ス戰功ニヨリ功七級勳七等ニ叙セラル

輜重輸卒

齋藤平吉

明治三十八年七月補充召集ノ爲メ東京灣要塞砲兵聯隊へ編入同年八月宇品港出帆シ大連上陸ノ上第一師團第十一補助輸卒隊ニ著シ同月十三日ヨリ遼陽ニ於テ獨立重砲兵旅團砲廠勤務十二月遼陽出發奉天本隊へ歸ル明治三十九年二月奉天出發三月橫須賀著凱旋ス戰役ノ功ニヨリ勳八等瑞寶章及金七十圓下賜セラル

騎兵曹長 齋藤泰助

後備役中明治三十七年三月充員召集ニ應シ第一師團補充馬廠ニ編入戰時中内地ニ於テ徵馬事務ニ服シ
埼玉縣群馬縣茨城縣下ニ出張ス後復員馬匹賣却ノ爲メ茨城縣埼玉縣長野縣神奈川縣下ニ出張ス明治三
十九年四月召集解除セラル戰役ノ功ニ依リ勳七等旭日章及金百八十圓下賜セラル

步兵上等兵 黒川角之助

現役中明治三十七年二月動員下令四月宇品港出帆張家屯上陸五月衣家屯、關家居附近ニ於テ戰闘ス同
月二十六日金州南山攻撃占領ス六月利家屯北方高地附近戰闘七月牧城驕南溝及對面溝附近ノ高地並ニ
土城子附近ノ戰闘ニ參加ス八月水師營南方ニ於テ戰闘九月水師營南方堡壘戰闘十一月松樹山西方畑地
ニ於テ戰闘十二月寺兒溝西方約十米突高地ニ於テ戰闘同月標高二〇三高地ニ於テ戰闘同月卅一日松樹
山ニ於テ戰闘明治三十八年一月二日旅順開城同月五日ヨリ老虎尾半島守備同月二十二日水師營出發北
進ス二月鞍山店著三月奉天省田無屯附近ニ於テ戰闘五月七日ヨリ遼河並ニ其沿岸ノ敵狀偵察及道路偵
察ノ帽山出發九日歸隊ス三十九年一月大連出發二月屯營歸還ス戰役ノ功ニ依リ勳八等白色桐葉章及百
五十圓下賜セラル

步兵一等卒 新井佐市郎

明治三十七年十二月步兵第三聯隊補充大隊ニ入隊三十八年四月野戰隊補充トシテ宇品出帆大連上陸シ
第七中隊編入シ七月中花楊樹附近守備ニ任ス三十九年一月鐵嶺出發シ大連乘船二月内地歸還ス戰役ノ
功ニ依リ勳八等瑞寶章及金八十圓下賜セラル

砲兵輪卒 小竹榮藏

豫備役中明治三十七年三月充員召集ニ應シ野戰砲兵第十四聯隊ニ編入同月第二軍戰闘序列ニ入り四月
宇品出帆張家屯上陸五月廿六日南山戰闘六月得利寺附近ノ戰闘ニ參加七月蓋平海山塞附近海山北方ノ
戰闘尙大石橋、大平庄、岳州ノ戰闘八月海城附近ノ戰闘ニ參加八月廿六日ヨリ九月三日迄遼陽ノ戰闘
ニ參與ス後第四軍戰闘序列ニ入ル十月畑臺附近沙河ノ戰闘ニ加ハリ十月廿一日ヨリ卅八年二月廿六日
迄沙河ニ對陣シ翌日ヨリ奉天附近ニ戰闘三月十四日孤家子北方高地ニ戰闘六月南城子附近ニ戰闘ス卅
九年二月凱旋ノ爲メ大連發大連歸還ス戰役ノ功ニ依リ勳八等白色桐葉章及金八十圓下賜セラル

砲兵一等卒 木村貞吉

豫備役中明治卅七年十一月東京灣要塞砲兵聯隊ヘ充員召集十二月宇品出帆臺灣基隆上陸シ基隆要塞第
一區ヘ編入卅八年一月迄牛稠岑堡壘築設ニ從事シ五月横仔寮堡壘守備ニ任ス同月十二日戒嚴宣告七月
其令解止ス九月基隆出帆橫須賀着ノ上内地勤務十月召集解除セラル戰役ノ功ニ依リ金五十圓下賜セラ
ル

輜重輪卒 木村豊喜知

明治卅八年七月充員召集トシテ第廿八補助輪卒隊ヘ編入同年八月宇品港出帆大連上陸シ同地出發鐵嶺
ニ至リ行軍江河泡双樹子ヲ經テ小陶家屯ニ着ス當隊ハ第三軍兵站監部ニ屬ス十月疾病ニテ大房身兵站
病院ヘ入院ス後十二月大連出帆内地歸還シ東京豫備病院ニ收容セラル同月全治退院ス戰役ノ功ニ依リ
金五十圓下賜セラル

歩兵上等兵

利根川 和三郎

明治卅七年三月充員ノ爲メ後備歩兵第三聯隊第五中隊ニ入隊ス卅八年二月宇品出帆三月城津ニ上陸シ臨瀛驛附近ニ滞在六月北進ノ爲メ出發吉州、明川等ヲ經テ鏡城着同地滞在ス七月再ヒ北進ヲ起シ同月廿五日白沙峯北方鞍部ノ戰鬪ニ參加續テ該附近ニ對陣八月松坪附近ノ偵察戰鬪ニ參加ス同月卅一日師團ノ右側掩護ノ爲メ石浦村法近ニ前進對陣ス九月七日ヨリ休戰ニテ戰鬪行爲停止ス十月凱旋ノ爲メ對陣地ヲ出發清津ヨリ乘船内地歸還ス十一月召集解除セラル戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百圓下賜セラル

歩兵一等卒

小川 音次郎

明治三十七年二月充員召集ニヨリ近衛歩兵第二聯隊ニ編入同月近衛後備歩兵第二聯隊第七中隊ニ編入同年六月宇品出帆南尖上陸大孤山、大東溝、安東縣、鳳凰城ヲ經テ同月廿六日高家居着守備七月十九日出發四門子、草河口、北分水嶺ヲ經テ三咀子着後同地出發思山發ニ一泊七月卅一日八月一日伐家子及枕山附近ニ於テ戰鬪副金嶺着守備八月廿五日ヨリ四月五日迄寒坡嶺、黑英臺、小達連溝、附近ニテ戰鬪九月上平子着第一線守備同月十七日同所ニテ戰鬪シ同月八日八家子着此ノ戰鬪ニ於テ當旅團ハ總司令部ヨリ感狀ヲ授與セラル十月二十九日迄歪頭山附近守備十月三十日歪頭山ニテ戰鬪ス三十八年二月廿四日迄歪頭山及花勾嶺山附近ニテ守備三月一日ヨリ同五日迄達子堡附近ニテ戰鬪ス磊子溝ヲ經テ李家臺着六月二日邊牆子附近ニテ戰鬪續テ同月十二日下清河附近ニテ戰鬪後半家堡着十一月三日凱旋ノ爲メ出發大

連ヨリ乘船宇品着同月廿四日東京着ノ上解隊ス戰鬪ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百五十圓下賜セラル

歩兵二等卒

利根川 彌左衛門

補充兵役中明治卅七年六月十九日補充召集ニ應シ歩兵第三聯隊補充大隊第五中隊ニ編入七月廿九日野戰補充ノ爲メ屯營出發八月四日宇品港出帆シ大連上陸ス同月十二日第三聯隊第二中隊ニ編入旅順背面攻撃ニ參加シ八月廿一日水師營南方高地戰鬪突擊ノ際三ヶ所ニ負傷ヲ受ケ第二野戰病院ニ入院ス後長嶺子定立病院、大連兵站病院ヲ經テ九月四日廣島豫備病院ニ入院ス九月十一日澁谷病院ニ轉院シ十月廿五日負傷ノ爲メ召集解除セラル戰功ニヨリ功七級勳八等ニ叙セラル

歩兵二等卒

中村 喜十郎

明治卅八年九月第七師團歩兵第二十六聯隊補充大隊ニ補充召集セラル戰役中内地勤務ニ服ス戰功ニヨリ金卅五圓下賜セラル

輜重輸卒

内田 若之助

補充兵役服務中明治三十八年二月充員召集ニ應シ第一師團第十七補助輸卒隊ニ編入同月宇品港出帆三月柳樹屯出發金州遼陽ヲ經テ四月凡几城着大野兵站司令部配屬輕便鐵道輸送業務ニ從事ス七月撫順兵站病院ニ分遣九月歸隊明治三十九年二月大連出發三月東京ニ歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百圓下賜セラル

歩兵上等兵

横田 清藏

第七師團歩兵廿五聯隊ニ入營服務中日露開戰ス之レヨリ先明治三十六年十月山海關守備ニ任シ秦皇島

分遣隊ニ屬ス十二月交代トナリ山海關着明治三十九年四月北清駐屯軍交代ノ爲メ五月札幌歩兵第二十五聯隊着同年五月除隊戦功ニヨリ勳八等瑞寶章及七十圓下賜セラル

輜重輸卒 齋藤清吉

明治三十七年二月近衛師團兵站彈藥縱列へ召集三月宇品出帆鎮南浦上陸平壤義州安克興鳳凰城遼陽ヲ經テ十一月四家子着卅八年二月廿四日ヨリ三月十七日ニ至ル奉天附近ノ戰闘ニ參加山上子、石臺、吳家溝、奉天ヲ經テ山里屯着更ニ李石塞、小四家子、楊屯、鐵嶺ヲ經テ六月三家子着七月八日第二軍ニ轉屬三家子發小高力屯着糧秣輸送ニ從事ス十月十二日第一軍ニ復歸ス後西營盤着後内地歸還ス戦功ニヨリ勳八等金八十圓下賜セラル

歩兵上等兵 野口安兵衛

明治三十八年一月廿六日國民兵召集ニヨリ國民兵歩兵第三大隊第四中隊ニ編入同年七月九日俘虜監視ノ爲メ東京出發同月十日習志野俘虜收容所ニ着同所ニ勤務ス三十八年十月十七日復員同月廿五日解散戦ス功ニヨリ金三十五圓下賜セラル

歩兵上等兵 野口丈吉

第七師團歩兵第二十七聯隊ニ入隊中明治三十七年八月四日動員下命ニ付補充大隊第四中隊ニ編入セラ
ル同年十二月宇品港出帆シ青泥窪上陸第十中隊ニ編入明治三十八年一月五日ヨリ同月九日ニ亘リ方家屯ニ於テ俘虜受領事務ニ從フ後同地出發同月十四日牛家屯ニ着同地守備ニ服ス同日同地出發シ大石橋、牛庄、高力堡、七公臺、等ノ守備ニ任ス二月二十六日奉天攻撃トシテ七公臺出發三月四日野番

屯附近ニ於テ戰闘シ同月六七日八日轉灣橋附近ニ於テ戰闘ス同月九日北陵附近ノ戰闘ニ於テ負傷シ入院ス四月一日大連兵站病院ヨリ内地還送セラレ大阪上陸ス東京着ノ上戸山分院ニ入院ス七月補充大隊ニ復歸ス明治三十八年一月中戰地ニ於テ能ク苦難ニ堪ヘ其職務ニ勉勵シタルヲ以テ賞狀ヲ附與セラル戦功ニヨリ勳八等白色桐葉章金二百圓下賜セラル

輜重輸卒 野口芳松

明治三十八年三月輜重兵第一大隊補充大隊へ入隊同年五月三十日戰地補充トシテ宇品港出帆シ六月青泥窪上陸ス同月九日鐵嶺ニ着シ第四軍後備混成第十旅團第一糧食縱列へ編入ヒラレシ大山崗堡ニ着輸送ニ從事ス十一月二十一日同地出發鐵嶺ヨリ乘車金州着同月二十六日柳樹屯出帆シ十二月二日神戶乗車東京ニ凱旋ス戦功ニヨリ金五十圓下賜セラル

砲兵一等卒 野口勝藏

明治三十七年十二月野戰砲兵第十六聯隊補充大隊ニ入隊ス戰役中内地勤務ニ服ス三十九年二月復員ニ付同聯隊第五中隊編入セラル戰役ノ功ニヨリ金三十五圓下賜セラル

歩兵特務曹長 野口幸藏

後備役中明治三十七年三月九日歩兵第二聯隊ニ充員召集ニ應ス第三軍ニ從ヘ出征シ旅順背面攻撃ニ參加シ奮戰ス旅順陥落後沙河方面ニ轉シ三十八年一月二十五日黑溝臺守備前哨線ニ服務ス同日未明數倍セル敵ノ夜襲ヲ受ケ勇戰奮闘シ直チニ敵四人ヲ斬殺セシモ衆寡敵セス遂ニ多數ノ敵ニ包圍セラレ一時生死不明トナル此ノ猛戰ニ於テ吾兵ノ生還セルモノ僅ニ十三人ナリト云フ

步兵軍曹 野口 吾右衛門

現役中明治三十七年十一月宇品港出帆青泥窪ニ上陸シ前進シテ大平溝ニ着シ後備步兵第一聯隊ニ編入
小刈家屯及趙家屯附近攻圍線工事ニ從事シ同地守備十二月十五日ヨリ後三羊頭村北方高臺ニ向ヒ攻撃
作業ニ從事ス二十四日後三羊頭村及小房村占領ス同月二十六日師團豫備トシテ李家屯ニ移ル卅八年一
月一日後三羊頭村南地高地攻撃ニ參加シ同月二日開城談判ノ爲メ攻撃中止ス同四日老鐵山諸砲臺受領
隊トシテ韭菜房ニ前進シ同日各砲臺占領シ守備ニ服シ一月二十八日旅順舊市街ニ轉ス二月四日北進ス
ル爲メ旅順出發金州普蘭店海城遼陽ヲ經テ南臺ニ着シ同月二十五日金臺ニ前進ス三月三日奉天總攻撃
ノ爲メ滿州軍總豫備隊トシテ長難ニ前進シ更ニ平羅堡ニ至ル同月九日道義屯及田義屯附近ニ於テ戰闘
シ十二日瓦上窪ニ集合後下河關屯ニ轉ス五月五日第二軍ハ東四子十軒房以南ノ地區ニ開進ノ目的ヲ
以テ下河關屯出發同九日永守堡附近ニ到着ス六月九日同所出發後四家堡ニ移ル七月四日病氣入院八月
青泥窪出發九月東京着ノ上入院十一月復隊十二月元隊ニ交付セラル明治三十九年三月除隊トナル戰役
ノ功ニヨリ勳七等青色桐葉章及金三百圓下賜セラル

步兵二等卒 折原 崎次郎

明治三十七年十二月教育召集ヲ受ケ近衛步兵第二聯隊ニ入隊二十八年三月近衛後備步兵第二聯隊ヘ補
充トシテ宇品港出帆柳樹屯上陸シ四月二十五日奉天省丁家溝ニ着ス後病氣ノ爲メ入院五月大連出發宇
品港上陸ノ上廣島豫備病院ニ收容後東京氷川分院ニ轉ス八月元隊ニ服ス戰役ノ功ニヨリ金五十圓下賜
セラル

輜重輸卒 岩上 七之助

補充兵役中明治三十八年二月充員召集ニ應ジ第一師團第十七補助輸卒隊ニ編入同月宇品港出帆三月柳
樹屯上陸シ同所出發金州ヨリ遼陽ヲ經テ四月三日鳳凰城ニ着シ井上兵站部司令部ニ屬シ輸送業務ニ從
事ス五月撫順ニ進ミ大野兵站司令部ニ屬シ輕便鐵道輸送ニ從事シ後七月鴨綠江軍第一野戰郵便局ヘ分
遣セラル十一月歸隊ス明治三十九年二月大連出帆三月東京ニ凱旋ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章
八十圓ヲ下賜セラル

步兵一等卒 山下 友次郎

現役中明治三十七年二月動員下令三月宇品港出帆鎮南浦上陸四月三十日五月一日鴨綠江、九連城附近
ノ戰闘ニ參加シ鳳凰城ヲ經テ二十一日二連羊河附近ニ於テ戰闘シ六月岫巖附近分水峯附近ニ於テ戰闘
同三十一日様子峯附近戰闘續テ八月二十五日東新堡附近翌二十六七兩日大西溝北方三十三十一日ノ兩
日孟家房東南方ニ於テ戰闘十月十一日老君峯北方ニ於テ戰闘ノ際負傷シ入院十一月一日内地歸還ス戰
役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章二百圓下賜セラル

砲兵一等卒 中 太幸吉

野戰砲兵第十六聯隊入營中三十七年五月動員下令七月宇品出帆青泥窪上陸八月十四十五日西泥河子附近
ニ於テ戰闘八月十七日入院ス退院後法庫門ニ着後原隊ニ歸リ三十九年一月四臺子出發鐵嶺ヨリ乘車二
月東京ニ歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金八十圓下賜セラル

步兵一等卒 大久保 金次郎

後備役中明治三十七年二月動員下令近衛歩兵第二聯隊第八中隊ニ入隊三月宇品出帆鎮南浦上陸五月隼河ニ於テ戰鬪六月岫巖東北方太虎峯附近ニ於テ戰鬪同月偏峯附近分水峯ニ於テ戰鬪同月茶家溝ニ於テ戰鬪七月三十一日八月一日様子嶺附近ニテ戰鬪八月月中趙字嶺附近東新堡店瘡寺附近砲手溝附近「チャンヂヤゴ」西北鞍部「ウエヂヤゴ」北方鞍ニ於テ戰鬪三十日孟房ノ戰鬪ニ於テ負傷第三野戰病院ニ入院ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百五十圓下賜セラル

歩兵一等卒 大木 勝次郎

明治三十七年十二月教育召集ヲ受ケ近衛歩兵第二聯隊ニ入隊三十八年三月補充召集當隊要員ニ充ツ同月近衛後備歩兵第二聯隊補充トシテ宇品出帆大連着上陸後丁家溝着ノ上第六中隊編入五月李家臺着敵情偵察及同地守備ニ任シ後朱家堡子ニ進ミ潛在中疾病ニテ入院ス七月鐵嶺奉天遼陽兵站病院ヘ轉送後大連兵站病院ニ轉送ノ上内地歸還ス東京豫備病院ニ入院ス十月歸隊ス戰役ノ功ニヨリ勳八等瑞寶章ヲ下賜セラル

歩兵上等兵 高橋 源三郎

明治三十七年二月近衛師團動員下令歩兵第二聯隊補充大隊ニ編入六月近衛後備歩兵第一聯隊ニ編入七月横濱出帆安東縣ニ上陸シ楊木溝着同地駐軍後榆樹林附近ニテ戰鬪シ八月二十四日迄代家堡子ニ滞在同月二十五日ヨリ三十日迄本溪湖ノ敵ニ對シ千金嶺ニテ軍ノ右側掩護同三十一日本溪湖附近ニ於テ戰鬪後山會廠ヲ守備九月二日上石橋子附近ニテ戰鬪翌日下平臺子附近ニテ戰鬪土門子朝仙嶺三家子ヲ經テ四日三家子附近ニテ戰鬪爾後同地ニ守備九日再ヒ上石橋子ニ轉進同地滞在十七日平臺子ニ於テ戰鬪

十月七日迄下石橋子東部守備同月八日ヨリ十四日迄沙河會戰中火連寨附近ニテ戰鬪後上石橋子出發高力勾ニ守備シ八家子ニ滞在後前柳谷守備同月二十七日歪頭山攻撃ニ參加シ爾後同所守備三十八年一月二十八日候家屯ニ於テ戰鬪後同地守備同年二月二十六日ヨリ三月中旬ニ至ル奉天附近ノ會戰ニ參加ス續テ三月十六日鐵嶺占領シ同月十九日鐵嶺出發李千戸屯ニ滞在五月同地出發袁家廟子ヲ經テ朱家堡子附近守備六月楊木林子附近守備十一月袁家廟子出發大進着宇品上陸同月二十三日東京ニ凱旋ス戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金二百圓下賜セラル

三等機關兵曹 岡安 長右衛門

現役中明治三十七年二月豐橋乘組第三艦隊ニテ從軍ス韓國沿岸ニ派遣セラル後八重山乘組五月吳發戰地ニ向フ十月更ニ戰地ニ出發ス三十八年十月十六日平和克復シ十一月除隊ス戰功ニヨリ勳七等青色桐葉章及金二百五十圓下賜セラル

歩兵上等兵 中村 爲次郎

明治三十八年一月國民兵召集ニヨリ國民歩兵第三大隊第一中隊ニ入隊同年三月ヨリ佐倉俘虜收容所衛兵服務後東京ニテ衛戍勤務ニ服シ九月ヨリ更ニ習志野俘虜收容所監視衛兵服務ス十月復員下令同月二十五日解散ス戰功ニヨリ金五十圓下賜セラル

歩兵一等卒 清水 宇吉

明治三十七年三月充員ノ爲メ後備歩兵第三聯隊ヘ召集第五中隊ニ編入同年九月歩兵第三聯隊補充大隊ニ入り戰地補充ノ爲メ宇品出帆「ダルニ」上陸シ十三日後備歩兵第十五聯隊第八中隊ニ編入九月十

九日ヨリ二十四日ニ亘ル大平溝東南方標二〇三ノ高地ニ於テ戰鬪シ負傷ス内地後送東京豫備病院ニ入
ス戰功ニヨリ勳八等金百圓下賜セラル

步兵一等卒 増田 龜之助

明治三十七年十一月補充ノ爲メ步兵第三聯隊補充大隊第五中隊編入三十八年二月野戰補充トシテ宇品
出帆「ダルニー」上陸シ遼陽ニ於テ病氣入院同年三月一日内地歸還同月全治退院同年五月後備歩兵第
一聯隊補充兵トシテ宇品出帆大連上陸六月一日水安堡ニ前進シ同日後備歩兵第一聯隊第七中隊編入六
月九日同所出發四家堡ニ移ル七月五日同所發調兵山ニ移ル同年十一月七日凱旋ノ爲メ調兵山發シ柳樹
屯ヲ經テ大連出帆同月二十五日東京歸還シ同月三十日召集解除セラル戰功ニヨリ勳八等瑞寶章及金七
十圓下賜セラル

輜重輸卒 高木 留吉

明治三十七年九月輜重兵第二大隊補充中隊へ入隊同年十二月補充ノ爲メ宇品出帆柳樹屯上陸三十八年
一月九日七臺子着滞在同日第三糧食縱列へ編入同地發黑溝臺附近ノ會戰ニ參加ス二月一日石橋子着滞
在シ同地發金沙勾着滞在ス二月十七日同地發七臺子着滞在二月二十日同地發奉天附近ノ會戰ニ參加ス
三月二十一日揚屯着糧秣輸送ニ從事ス五月四日同地出發松山堡着滞在糧秣輸送ニ從事ス六月十一日丁
家堡子ニ轉宿輸送ニ從事ス同年十二月十三日同地出發大連着三十九年一月一日仙臺着ス戰功ニヨリ勳
八等八十圓下賜セラル

步兵一等卒 高橋 音右衛門

明治三十七年十二月歩兵第三聯隊補充大隊第七中隊へ入營ス戰役中内地勤務ニ從事ス三十八年九月六
日ヨリ同年十一月二十九日ニ至ル東京市戒嚴令施行警戒勤務ニ服ス三十九年一月二十九日復員下命ト
ナル同年十一月歸還除隊ス戰役ノ功ニヨリ金三十五圓下賜セラル

騎兵上等兵 内田 熊藏

騎兵第一聯隊第二中隊ニ在隊中明治三十七年二月六日動員下令三十八年七月騎兵第十九聯隊ニ編入セ
ラル八月二十九日宇品港出帆大連上陸シ九月五日鐵山嶺ニ着孔家窩柵ヲ經テ同十二日高力屯着十月十
八日第十五師團遞騎トシテ分遣セラレ同二十日歸隊ス韓國駐劄守備トシテ同二十一日高力屯發大連出
帆シ同月二十七日仁川上陸シ漢江坊ニ着シ三十九年四月一日迄守備ニ服ス同年四月二十八日宇品着同
年五月十四日原隊ニ復歸ス戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ金八十圓下賜セラル

輜重輸卒 弓木 磯次郎

明治三十八年七月補充召集ニ應ス出征シ各地ニ服務シ三十九年十二月召集解除セラル戰功ニヨリ金五
十圓下賜セラル

步兵二等卒 弓木 嘉吉

明治三十八年五月臨時召集トシテ歩兵第二十八聯隊補充大隊ニ入隊ス戰役中内地勤務ニ服ス三十八年
八月召集解除セラル

步兵一等卒 角田 利壽右衛門

後備役中明治三十七年二月充員召集ノ爲メ近衛歩兵第二聯隊ニ編入同月近衛後備歩兵第二聯隊編入六

月宇品出發南尖上陸大孤山大東溝安東縣鳳凰城ヲ經テ同月末砂子崗ニ着守備七月同所出發分水嶺ヲ經テ三咀子ニ着同月三十日同所發恩山嶺一泊シ三十一日八月一日代家堡子枕山附近ニ戰闘シ同月二日副金嶺着守備八月二十五日ヨリ九月四日迄寒坡嶺黑英臺附近ニ於テ戰闘同日第十二師團第一野戰病院へ入院十日退院シ上平臺子ニ前進同所ニ於テ戰闘十月出發シ同月八日ヨリ十四日迄大嶺ニテ戰闘シ大柳嶺ニ進ミ同所ニ於テ戰闘シ後前進八家子ニ至リ同月二十三日ヨリ二十九日迄歪頭山色勾嶺山附近守備十月三十日歪頭山ニテ戰闘シ翌日ヨリ明治三十八年二月迄歪頭山及花勾嶺山附近ニテ守備三月一日ヨリ同月十六日迄達子堡達連堡子、心臺子、腰堡茨林子、鐵嶺附近ニテ戰闘同月磊子溝着進シテ李家臺ニ着シ六月二日邊牆子附近ニ於テ戰闘シ同十二日下清河附近ニ戰闘シ朱家堡子着ス旋凱ノ爲メ朱家堡子出發シ大連乘船シ十一月東京歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章金百五十圓下賜セラル

輜重輸卒 齋藤福之丞

補充兵役中明治三十八年三月輜重兵第一大隊補充隊へ召集四月宇品港出帆柳樹屯上陸五月劉催屯ニ於テ編入同日李花塞停車場業務道路修繕架橋補助勤務七月鷄鳴屯ニ進ム輸送通路修繕架橋事務ニ從事ス十二月鐵嶺出發同月東京歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等瑞寶章及金八十圓下賜セラル

步兵 等卒 細井吉五郎

明治三十八年二月補充トシテ步兵第三聯隊補充大隊ニ編入六月宇品港出帆大連上陸ノ上步兵第三聯隊ニ編入セラル同年十月十六日平和克復三十九年一月大連發二月東京ニ凱旋ス戰役ノ功ニヨリ勳八等瑞寶章七十圓下賜セラル

騎兵上等兵 大木六郎

第七師團騎兵第一聯隊ニ入營中出征シ三十七年十二月旅順ニ於テ二百三高地攻撃ニ參加ス一月出發金州蓋平半莊ヲ經テ二月接官堡ニ着ス王家カホ「ライカホ」四臺子馬門子「バイニボーザ」中心臺ヲ經テ石佛寺着四月双樹子ヨリ往戸屯東平錢家屯義哈ニ在リテ五月十七日義哈屯ノ戰闘ニ參加ス三十九年一月凱旋ノ爲メ法庫門出發東京歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章金二百圓下賜セラル

步兵一等卒 大木常吉

補充兵役中三十七年七月近衛步兵第二聯隊補充大隊ニ召集入隊十一月宇品出帆「ダルニ」上陸近衛步兵第二聯隊第四中隊編入三十八年二月ヨリ三月十一日込倭家坂北方高地同東北高定附近唐家屯高地附近「タイゴ」附近彭家樓西方高地附近達連堡子附近ノ奉天會戰ニ參加ス十一月内地歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章金八十圓下賜セラル

歩兵上等兵 土橋秀松

明治三十七年三月充員ノ爲メ後備步兵第三聯隊第五中隊編入三十八年二月宇品出帆三月城津ニ上陸シ臨瀛驛附近ニ滞在六月十一日北進ノ爲メ出發吉州、明川ヲ經テ同月二十一日鏡城着滞在七月二十三日北進ヲ起シ同日二十五日自砂峰北方鞍部ノ戰闘ニ參加ス續テ該附近ニ對陣八月七日松坪附近ノ偵察戰闘ニ參加ス八月二十一日師團ノ右側掩護ノ爲メ石浦村附近ニ前進對陣ス九月七日ヨリ休戰ニテ戰闘行爲停止ス十月二十一日凱旋ノ爲メ對陣地ヲ撤去シ輸城ヲ經テ二十五日清津ニテ乘船シ十一月四日東京歸還シ召集解除戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百圓下賜セラル

輜重兵軍曹 鬼久保幸平

豫備役中明治三十七年三月三日輜重兵第一大隊へ充員召集補充中隊ニ編入三十八年四月一日補充員引卒トシテ東京發同月六日宇品出帆同月九日樹屯上陸金州遼陽奉天大孤家ヲ經テ五月五日上屯督同月八日奉天出發大連出帆同月二十日歸隊ス同年十一月歸郷ス戰功ニヨリ勳七等青色桐葉章及金百五十圓下賜セラル

歩兵二等卒 矢部文光

明治三十八年二月補充トシテ歩兵第三聯隊補充大隊へ入隊内地勤務ニ從事ス同年八月召集解除セラル戰功ニヨリ金三十五圓下賜セラル

歩兵一等卒 壽田輝之助

豫備役中明治三十七年二月充員召集ニヨリ近衛歩兵第二聯隊ニ編入セラル同年五月一日九連城ノ戰爭ニ參加シ六月八日岫巖附近ノ戰爭ニ加ハル六月十三日二道河子附近六月二十六日塞門山附近ノ戰爭ニ參與ス七月二三日及六日分水嶺附近ノ守備ニ服シ獨立少哨ニアリタリ後八月疾病ニヨリ内地ニ後送セラル戰功ニヨリ勳八等金八十圓下賜セラル

輜重輸卒 江原清藏

明治三十七年二月充員召集ニ應シ近衛師團第二補助輸卒隊第三小隊ニ編入セラレ出征ス第一軍ニ從ヒ各所ニ轉戰ス戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ金二百圓下賜セラル

歩兵上等兵 折原金之助

豫備役中明治三十七年二月充員召集ニ應シ近衛歩兵第二聯隊ニ編入三月宇品港出帆鎮南浦ニ上陸シ五月六月七月ニ亘リ九連城附近岫巖城附近様子嶺附近ニ於テ戰鬪翌八月二十六日大西溝附近ニ於テ戰鬪ノ際負傷ス爲メニ兵站病院ニ收容セラレ九月内地ニ歸還シ廣島東京豫備病院ニ入院治療シ十月中旬全治元隊ニ編入セラル明治三十八年六月横濱出帆七月薩哈連島メシヤニ上陸直ニ哥爾薩附近ノ戰鬪ニ參集シ同月「タルネー」西北方ニ於テ戰鬪七月中「ブラチネエー」「ウラジミロフク」ニ駐屯ス八月沿海州「デカストリ」ニ出張ス九月「ガルキノウラスコエ」駐屯後「ウデジミロフカ」守備明治三十九年四月「ホルサコフ」出帆青森上陸五月元隊ニ歸隊ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章二百圓下賜セラル

輜重輸卒 收島宇三郎

明治三十七年二月充員召集近衛師團補助輸卒隊ニ編入三月宇品港出帆三月鎮南浦上陸同月同所出發平壤、安洲、宣川、車轡館鐵山ヲ經テ良策館ニ着シ四月末迄良策館 峴面場裡同糧秣運搬ニ從事ス同所發宴舞洞、九連城安東縣ヲ經テ五月湯山城ニ着シ六月下旬迄老古洞、湯山城間糧秣運搬ニ從事ス同月鳳凰城、林家臺四海溝等ヲ經テ七月通子峪着八月下旬迄草加長嶺通子峪橋頭間糧秣運搬ニ從事ス進デ九月湯河沼ニ着シ十月中旬迄浪子山湯河沿間糧秣運搬ニ從事沙濤屯ニ進ミ同所ヨリ半拉子間沙濤屯灰窑間糧秣輸送ニ沙濤屯遼陽間患者輸送及炭燒伐木ニ從事ス卅八年二月灰窑八家子白深寨朱家屯各地ノ糧秣輸送ニ從事シ三月四方臺ニ進ミ同所連力灣及石臺子間糧秣輸送ニ從事ス後李石寨兵站司令部ニ屬シ爾來停車場勤務倉庫使役ニ從事シ撫安屯其他ヲ經テ七月下肥地ニ着シ同地兵站司令部ニ屬シ倉庫使役

司令部用材ノ伐木及道路修繕ニ從ヒ十日未ニ至ル三家子ニ進ム十二月鐵嶺ヲ出發シ三十八年十二月東京ニ凱旋ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章金二百圓下賜セラル

輜重輸卒 宮内芳太郎

明治三十八年七月補充召集ノ爲メ東京灣要塞砲兵聯隊ニ編入シ後第十一補助輸卒隊ニ轉シ八月宇品港出帆大連上陸同月十三日ヨリ遼陽ニ於テ獨立重砲兵旅團砲廠勤務ノ上同月二十一日奉天本隊へ復歸ス三十九年三月大連出帆同月横須賀ニ歸還ス戰役ノ功ニヨリ瑞寶章及七十圓下賜セラル

步兵一等卒 川面清松

明治三十七年十二月近衛歩兵第二聯隊補充大隊ニ入隊三十八年八月宇品出帆大連ニ上陸シ九月鐵嶺着第二軍ニ編入島巴海ヲ經テ獐子草溝ニ着十月第二軍ノ指揮下ヲ離レ韓國駐劄軍指揮下ニ編入ニヨリ同地出發大連看同地出帆仁川上陸忠州附近守備ヲ命セラレ忠州着十一月開慶分遣所着十二月疾病ニヨリ忠州病室ニ入院ス四月忠州發京城着同地守備四十年二月宇品着歸還ス戰功ニヨリ勳八等瑞寶章金八十圓下賜セラル

步兵二等卒 大久保安右衛門

明治三十七年九月補充召集ニヨリ歩兵第三聯隊補充大隊へ入隊三十八年二月宇品港出帆城津上陸臨瀛驛附近滞在六月同所發鏡城着滞在七月二十三日北進シ白沙峰北方附近ノ戰爭ニ於テ豫備隊ニ加ハル續テ同附近ニ對陣八月三十一日師團右側援護ノ爲メ石浦村附近ニ前進對陣ス九月二日早田支隊ノ右側援護ノ故メ全義尙洞東北方約一里ノ所ニ進出ス同月六日ヨリ明堂隅附近ニ對陣ス同月七日ヨリ休戰ニヨ

リ戰鬪行爲中止ス十月凱旋ノ爲メ對陣地發清津ヨリ乘船同月内地へ歸還ス戰功ニヨリ勳八等瑞寶章及金七十圓下賜セラル

砲兵一等卒 小島僚輔

豫備役中明治三十七年二月充員召集ニヨリ近衛野戰砲兵聯隊第四中隊ニ編入同月宇品港出帆三月鎮南浦上陸四月三十日五月一日鴨綠江ノ戰鬪ニ參加ス七月三十一日様子嶺附近ノ戰鬪ニ參加ス後疾病ニヨリ内地歸還入院ス戰功ニヨリ勳八等旭日章及金百圓下賜セラル

步兵一等卒 加藤奎左衛門

明治三十八年二月補充ノ爲メ歩兵第三聯隊第四中隊ニ編入三十八年五月野戰隊補充トシテ出發六月宇品出帆大連上陸ノ上第四中隊ニ入ル三十八年十月平和克復ニ付三十九年一月内地ニ歸還シ二月召集解除戰功ニヨリ勳八等瑞寶章及金七十圓下賜セラル

步兵二等卒 矢部九兵衛

明治三十八年四月補充ノ爲メ歩兵第三聯隊補充大隊へ召集九月後備歩兵第三聯隊へ補充トシテ宇品出帆清津ニ上陸シ陸行北進同月二十五日石浦村對陣地ニ着シ後備歩兵第三聯隊第七中隊へ編入十月二十一日對陣地撤去シ富寧輪城ヲ經テ二十五日清津出帆十一月五日東京ニ着ス戰功ニヨリ金參拾五圓下賜セラル

輜重輸卒 藤井芳之丞

明治卅七年二月八日充員召集ニテ近衛補助輸卒隊第三號へ編入同年三月宇品出帆シ同十五日鎮

陸ス同十六日出發平壤、安州、定州、宜川、車輦館ヲ經テ鐵山ニ着ス進ンデ良策館着四月八日ヨリ二十七日迄良策館ヨリ糧秣運搬ニ從事ス進ンデ九連城ヲ經テ五月七日湯山城ニ着ス翌八日ヨリ六月二十一日迄老古洞及湯山城同糧秣運搬ニ從事ス後出發鳳凰城四道溝等ヲ經テ七月二十二日通子峪着翌二十三日ヨリ八月二十九日迄草河長嶺通子峪、橋頭同糧秣運搬ニ從事ス同月出發大安平ヲ經テ九月七日湯河沿着同月八日ヨリ十月十日迄浪子山、湯河沿糧秣運搬ニ從事ス後沙湍屯ニ着同月十一日ヨリ沙湍屯羊拉山子間糧秣輸送沙湍屯遼陽間患者輸送及炭燒伐木ニ從事ス明治三十八年二月出發八家朱、自深、塞朱家屯各地間ノ糧秣輸送ニ從事ス、三月十六日四方臺着同日ヨリ四方臺連力灣間及石臺子間糧秣運搬ニ從事ス四月十日季石塞兵碯司令部ニ配屬シ爾來停車場及倉庫使役ニ從事ス五月一日近臺子病院ニ分遣セラレ同院ニ勤務シ六月二十六日復歸ス翌二十七日出發七月一日下肥地ニ着シ同地兵站司令部ニ配屬シ倉庫使役司令部用材ノ伐木及道路修繕ニ從事ス同年十月出發三家子ニ着ス十二月鐵嶺發大連出帆同月十二日宇品上陸歸還ス戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百五十圓下賜セラル

步兵一等卒

石渡石太郎

明治三十七年十二月第七師團步兵第二十五聯隊補充大隊第五中隊ニ入隊ス戰役中内地勤務ニ服ス三十八年十月十六日平和克復シ十一月復員下令ス三十九年十一月除隊トナル戰功ニヨリ金五十圓下賜セラル

輜重輸卒

齋藤彌八

明治三十八年八月臨時教育召集トシテ近衛輜重兵大隊補充大隊ニ入隊戰役中内地勤務ニ服ス戰役ノ功

ニヨリ金三十五圓下賜セラル

步兵一等卒

藤井芳右衛門

補充兵役期間中明治三十七年二月八日充員ノ爲メ近衛步兵第二聯隊補充大隊ニ編入セラレ八月近衛後備步兵第二聯隊補充員トシテ八月十七日馬關出帆同二十日安東縣ニ上陸シ第五中隊ニ轉入シ九月一日ヨリ五日迄紅官屯、小達連溝ノ各所ニ轉戰ス小窩着滞在ニ進ンデ紅旗堡着滞在十七日平臺子附近ニ於テ戰鬪ス大嶺着シ十月八日ヨリ十四日迄同所ニ於テ戰鬪ス翌九日ヨリ捻座傷ニテ本溪溝病院ニ入院同月十五日退院ス大嶺ノ戰鬪ニ於テ當旋團ハ總司令官ヨリ感狀ヲ授與セラル後新該嶺着守備ニ服ス八家子着十月十九日ヨリ歪頭山、花勾、嶺山、馬耳山附近ノ第一線ノ守備ニ任ズ三十八年二月二十六日ヨリ二月二日ニ至ル間下柳峪前哨服中歪頭村ニ於テ戰鬪ス三月一日ヨリ十六日ニ至ル迄ノ間達子堡、達連堡、子心臺、子腰堡、鐵嶺附近ニ於テ戰鬪シ二十日丁家溝着滞在後出發五月十日李家臺着第一線守備ニ服ス六月二日敵狀及地形偵察トシテ王家燒鍋附近へ出張シ五日歸着ス二十八日同所出發林家堡ニ着シ馬家堡子附近ノ守備ニ任ズ十一月十五日大連發同月二十四日東京ニ凱旋ス戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ金五十圓下賜セラル

步兵一等卒

田村源藏

第七師團步兵第二十五聯隊ニ在隊服務中日露開戰トナル山海關步兵隊第四砲臺守備ニ服ス戰功ニヨリ金五十圓下賜セラル

步兵一等卒

小野月留吉

現役トシテ明治三十七年十二月歩兵第三聯隊補充大隊ニ入隊ス出征シ各地ニ轉戦ス戦功ニヨリ勳八等ニ叙シ金八十圓下賜セラル

明治三十八年五月臨時召集トシテ歩兵第二十八聯隊補充大隊ニ入隊ス戦役中内地勤務ニ服ス三十八年八月二日集解除セラル

輜重輸卒

吉澤末次郎

明治三十八年二月教育召集トシテ近衛輜重兵大隊補充大隊ニ入隊ス四月四日補充召集ニ移サル戦役中同地勤務服ス戦功ニヨリ金五十圓下賜セラル

輜重輸卒

吉田善太郎

補充兵役中明治三十八年四月充員ノ爲メ歩兵第十五聯隊ニ應召即日第二十五補助輸卒隊ニ編入五月宇品港出帆大連上陸シ同年奉天着爾來同所ニ於テ鹹獲輕便鐵道材料整理及同車臺修理作業ニ從事ス七月奉天發新立屯小塔子ヨリ金家屯ニ至ル輕便鐵道敷設ニ從事ス金家屯ニ進ミ爾來同所ヨリ八寶屯ニ至ル輕便鐵道敷設ニ從事シ完成後十月更ニ八寶屯小塔子間ノ輕鐵撤收ニ從事シ完了後十一月古城子ニ進ム明治三十九年二月凱旋ノ爲メ同所出發同月十二日東京ニ歸還ス戦役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章及百五十圓下賜セラル

歩兵一等卒

吉田義三郎

歩兵第二十五聯隊入營中明治三十六年十月山海關守備ノ爲メ出發同地守備十二月秦王島ニ分遣セラレ

三十七年四月交代山海關歸着三十九年四月北清駐屯軍交代ノ爲メ内地歸還ス明治四十年獨立守備第一大隊ニ入隊三月守備ノ爲メ宇品出帆シ守備地郭家店着守備四十二年服務解約六月歸還ス戦役ノ功ニヨリ勳八等瑞寶章及金七十圓下賜セラル

砲兵二等卒

吉澤一太郎

明治三十八年二月教育召集トシテ野戰砲兵第十三聯隊補充大隊第一中隊ニ入隊ス同年七月戰利砲大隊補充員トシテ宇品出帆「ダルニー」上陸第四軍戰利野砲大隊ニ編入三十九年二月大連出帆三月六日内地歸還同目召集解除セラル戦功ニヨリ瑞寶章及金八十圓下賜セラル

輜重輸卒

齋藤八由藏

明治三十八年七月一日充員召集トシテ第二十八補助輸卒隊ニ編入同年八月二日宇品出帆大連上陸同月九日大連ヨリ乘車鐵道ニテ同十一日鐵嶺下車シ同日行軍ヲ以テ江河泡双樹子ヲ經テ同月十三日小陶家屯着ス當隊ハ第三軍兵站部監部ニ屬シ待命ス九月三日ヨリ法庫門兵站司令部ニ配屬シ十月十三日大房身ニ分遣セラレ患者輸送部ニ轉屬ス凱旋ノ爲メ三十九年一月三十一日大房身出發鐵嶺乘車大連着ノ上出帆シ同月十六日世田ヶ谷着ノ上召集解除セラル戦功ニヨリ金五十圓下賜セラル

砲兵二等卒

吉田興三郎

明治三十八年八月臨時召集トシテ野戰砲兵第十三聯隊補充大隊第二中隊編入戦役中内地勤務ニ服シ同年十月召集解除セラル

第七師團歩兵第二十五聯隊第五中隊入隊中明治三十七年八月動員下令ニ付十一月十三日大阪出帆シ青泥窪上陸同月二十五日第三軍ニ編入セラル同月二十六日松樹山補備砲臺ニ於テ戰鬪負傷シ第七師團第二野戰病院ニ入院ス「ダルー」立站病院ヲ經テ内地後送トナリ十二月十一日廣島豫備病院ニ轉院シ後東京豫備病院ニ轉院三十八年一月全治退院トナリ歩兵第二十五聯隊補充大隊第四中隊編入セラル三十八年八月野戰補充員トシテ月塞屯營出發九月十三日帆品出宇シ大連上陸シ同月二十六日第十八回補充員トシテ歩兵第二十五聯隊第五中隊編入セラル十月十六日平和克復トナル三十九年二月凱旋ノ爲メ出發三月屯營歸着ス戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百五十圓下賜セラル

歩兵一等卒

賀島長三

豫備役中明治三十七年二月充員ノ爲メ近衛歩兵第二聯隊補充大隊ニ編入七月動員下令近衛歩後備歩兵第四聯隊ニ編入内地勤務三十八年十月復員ニ付召集解除セラル戰役ノ功ニヨリ勳八等瑞寶章金七十圓下賜セラル

歩兵二等卒

岡野常吉

明治三十七年十月教育ノ爲メ近衛歩兵第二聯隊補充大隊ヘ召集十二月宇品港出帆鎮南浦上陸シ賽馬集ヲ經テ三十八年一月城廠着舎營病院開設ニ從事進テ灣柳河ニ野戰病院開設ニ從事四月新兵堡ニ於テ舎營病院開設ニ從事ス疾病ニヨリ珥清患者療養所ニ入院シ九月内地歸還ノ上東京廣尾分院ニ收容十月退院元隊ニ復ス戰功ニヨリ勳八等瑞寶章及金七十圓下賜セラル

歩兵一等卒

岡野彌左衛門

歩兵第三聯隊第十中隊ニ現役中明治三十七年四月宇品出帆張家屯上陸小石家屯駐屯ス同月十三日衣家屯十六日韓家居ニ於テ戰鬪同月二十五二十六日金州附近ニ於テ戰鬪同年七月二十六七八日對面溝附近ニ於テ戰鬪ノ際負傷シ第一野戰病院ニ入院シ八月内地歸還廣島豫備病院ニ收容十一月全治退院元隊ニ復シ内地勤務三十八年十二月除隊ス戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及百五十圓下賜セラル

歩兵上等兵

八木橋武四郎

明治三十七年十二月充員ノ爲メ後備歩兵第五十聯隊第十二中隊編入三十八年二月宇品出帆「ダルー」上陸二月一日旅順口着同地守備ニ任ス同年十一月大連出帆同十三日似島着同月十九日東京着ノ上解散ス戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金百五十圓下賜セラル

砲兵輸卒

賀島隆八

明治三十七年十二月補充兵砲兵輸卒トシテ野戰砲兵第一聯隊補充大隊ニ編入三十八年二月教育結了解散同年三月臨時召集トシテ召集同月動員下令同年四月一日野戰砲兵第十九聯隊ニ編入同年五月六日弘前集合七月二十四日樺太「アレキサンドロースキー」湖第一「アルコワ」上陸同月二十九日ヨリ三十一日ニ亘リ「パンオ」「タウラン」「ハンダサ」ニ於テ戰鬪八月八日ヨリ同月十四日迄「ホルサゴースキー」村ニ滞在同日樺太中區守備隊ニ屬ス同月二十四日樺太帆青杏上陸同年十月十九日韓國守備トシテ廣島出帆元山津上陸後咸興着ス三十九年三月西湖津出帆内地歸還ス戰功ニヨリ勳八等瑞寶章及金七十圓下賜セラル

二等看護卒

八木橋晃

豫備役中明治三十七年三月充員召集ニヨリ步兵第三聯隊補充大隊へ編入セラレ三十七年九月十五日第一師團衛生豫備員トシテ東京出發同月二十二日宇品出帆ス九月二十七日ヨリ十月二十五日込山淵堡定立病院ニ勤務同月二十六日第一師團第四野戰病院へ配屬セラル十月二十七日ヨリ三十八年一月十二日迄第一師團所屬甲子山屯野戰病院開設業務ニ從事ス一月二十八日北進ノ目的ヲ以テ同地出發金州、普蘭店、熊岳城、蓋平、海城大石橋、鞍山店ヲ經テ二月十二日劉二堡着ス二月二十七日ヨリ奉天附近戰團參加ノ爲メ浦邊墻子出發シ三月七、八日平羅堡患者療養所開設業務ニ從事ス三月八日ヨリ三月三十日迄道義屯野戰病院開設業務ニ從事ス四月四日ヨリ五月十日迄昌圖舍營病院開設業務ニ服ス五月十二日ヨリ同月二十五日迄小江家屯舍營病院開設業務ニ從事ス五月二十五日ヨリ七月二十二日迄法庫門舍營病院開設業務ニ服ス八月疾病ニテ法庫門兵站病院ニ入院ス後内地還送東京豫備病院廣尾分院ニ入院ス十一月二十日召集解除セラル戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ金八十圓下賜セラル

砲兵二等卒 田村 銀藏

明治三十八年八月二十二日臨時召集トシテ野戰砲兵第十三聯隊補充大隊第一中隊編入セラル戰役中内地勤務ニ服ス同年十月平和克復ニ付召集解除トナル

砲兵一等卒 竹内 庄太郎

豫備役中明治三十七年十一月戰時東京灣要塞砲兵聯隊へ充員召集セラル同年十二月三日宇品港出帆シ同八日臺灣基隆ニ着シ同月十一日出發内寮砲臺進入ス明治三十八年五月十二日戒嚴宣告セラレ七月八日解止セラル九月十二日基隆出帆シ橫須賀着同月二十一日復員解隊セラル戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ瑞

寶章ヲ授與セラル

砲兵一等卒 富澤 新藏

明治三十八年四月十四日補充召集トシテ野戰砲兵第一聯隊補充大隊第三中隊へ入隊ス野戰補充トシテ同年八月十四日宇品港出帆シ大連ニ上陸ス同月二十五日聯隊縱列へ編入セラル十月平和克復シ三十九年一月大連出帆シ同月三十日宇品ニ上陸シ二月八日復員下令トナル戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ瑞寶章下賜セラル

歩兵一等卒 川崎 直右衛門

補兵役服務中明治三十七年二月充員召集ニ應齡近衛歩兵第二聯隊ニ編入同年九月宇品港出帆同月清國孫庄子十月十一日ヨリ同月十三日ニ亘リ盛京貴老君、馬耳山附近ニ於テ戰闘シ更ニ同十四日馬關子山附近ニ於テ戰闘明治三十八年二月二十四日ヨリ三月十三日ニ亘ル奉天ノ會戰中二月二十四日倭家攻北方高地ニ於テ戰闘三月九日双樹子及三道溝附近ニ於テ戰闘同日負傷入院四月全治退院同年十一月大連出發同年十二月東京ニ歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章金百圓下賜セラル

工兵上等兵 山下 升平

豫備役中明治三十七年二月充員召集ニ應シ近衛工兵大隊ニ召集三月宇品港出帆鎮南浦上陸四月三十日鴨綠江軍橋架設ニ從事シ五月十一日九連城攻撃ニ參加ス七月三十一日揚子嶺戰闘ニ加フル九月二十五日下馬屯附近ニ戰闘續テ翌東新堡附近ノ戰闘ニ參加ス同二十七日大相屯附近二十八日「ワライヨツ」附近ニ戰闘ス同二十九日ヨリ三日間四方臺附近ニ於テ除家溝方面ノ陣地攻撃ノ際戰闘ニ從事ス九月二日

ヨリ三日迄遼陽附近ノ戰鬪ニ加ハル同中隊ハ藤津支隊ニ屬セラレ太子河右岸ノ敵ヲ追撃ス同月十三日迄遼陽東門及東北方太子河ニ於テ兵砦架橋ニ從事ス同月西英城子北方ニ於テ防禦陣地編成ノ際工事ニ從事ス同月廿六日ヨリ十月三日迄遼陽内外太子河ニ於テ永久的架橋ニ從事ス同月柳河附近ニ戰鬪ス中隊ハ梅澤後備旅團ニ屬セラレ防禦工事並ニ歪頭山攻撃ニ從事シ十一月大隊ニ復歸ス三十八年一月二十五日ヨリ二月十七日迄師團最前線馬關子ヨリ歪頭山西北麓ニ至ル陣地ノ構成ニ從事ス同二十五日ヨリ三月八日迄沙河右岸ノ陣地攻撃ニ從事シ續テ十六日迄奉天附近ノ會戰ニ參加ス七月ヨリ八月半迄菓子園ヨリ老邊ヲ經テ後施家堡ニ至ル間軍路ノ新設及遼河ニ架設シアル老邊橋ノ補修並ニ増水時ニ於ケル應急作業ニ從事ス三十八年十一月鐵嶺出發同月宇品ニ上陸シ十二月着隊ス戰役ノ功ニヨリ功七級金鵄勳章並年金百圓及勳八等白色桐葉章ヲ下賜セラル

輜野輪卒 齋藤藏

後備役中明治三十七年二月充員召集ニ應ス同年三月宇品港出帆鎮南浦上陸シ江西守備四月安州ニ前進守備鐵山守備ニ任シ宴舞道着五月一日綠鴨江戰鬪ニ參加シ前進安東縣安東守備鳳凰城ヲ經テ賽馬集着シ同地守備同月十八日第十二師團長ノ指揮ニ屬シ同地發山岨子思山嶺ヲ經テ代家堡子及榆樹林子附近ノ戰鬪ニ參加ス八月二十五日ヨリ九月五日ニ亘リ寒坡、嶺黑英臺小達連溝附近ニ戰鬪シ平臺子ニ於ケル本旅團ニ復歸シ左翼守備隊トナル十月大嶺附近ノ戰鬪ニ加ハリ大柳家峪守備ニ任ス後第一軍直轄トナリ上柳河子ニ進ミ同地守備三十八年二月迄歪頭山及西勾附近守備二月二十五日ヨリ三月十六日迄代家峪達子堡姚千戸屯四方臺達連堡子蒲河心臺子鐵嶺附近ニ於テ戰鬪三月鐵嶺發上未臺沖ニ著ス三十八年四月内地歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章金百圓下賜セラル

砲兵伍長 川崎半兵衛

豫備役中明治三十七年二月充員召集ニヨリ近衛彈藥大隊第一砲彈藥縱列ニ編入三月宇品港出港鎮南浦ニ上陸シ平壤、肅川、安州、定州、宜川ヲ經テ四月處串館著同月三十日五月一日鴨綠江戰鬪ニ參加シ同日前進九連城沙河鎮白家堡子、鳳凰城「ヘンデマブズ」大荒溝「シャウジャブズ」等ヲ經又ハ潛在シテ高家店四門子間彈藥輸送ニ從事鳳凰城城東方流河彈藥輸送七月「チャウデヤブズ」出發東方流河ヲ經テ七月三十一日八月一日様子嶺附近戰鬪ニ加ハル後「マカメンガ」ニ進ミ同地ヨリ「クラヤン」間糧秣輸送連山關金家堡子間彈藥輸送八月二十四日ヨリ九月四日ニ至ル連陽附近ニ通河東新堡「ナニヤベン」「ウエジャゴウ」四方臺孟家房等ノ戰鬪ニ參與ス十月新堡發ベ河合戰ニ參加シ戰鬪後下葉沙溝滞在ス三十八年二月下葉河溝出發三月十六日ニ至ル間ノ奉天會戰及鐵山嶺攻撃ニ參加ス七月九日師團ハ第二軍ニ臨時轉屬ニヨリ得勝臺ニ宿營地ヲ移轉ス各地間ノ糧秣輸送ニ從事ス九月十六日休戰命令下令後第一軍ニ入り十二月鐵嶺ヨリ乘車十二月東京歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳七等金三百圓下賜セラル

步兵二等卒 森田庄七

補充兵役中明治三十七年八月動員下令步兵第二十五聯隊ニ編入三十八年一月補充員トシテ宇品出港二月柳樹屯上陸シ二十五聯隊ニ入ル同月奉天附近阿司中ニ於テ同達子堡ニ於テ戰鬪三月同方面分山臺附近及三月七日奉天附近轉灣橋ニ於テ戰鬪尙小集屯附近ニ戰鬪四月小塔子附近三父子ニ於テ戰鬪五月ヨリ七月迄四子附近ニ於テ前哨勤務七月一日同地附近ニ於テ戰鬪ス三十九年二月奉天出發三月室蘭上陸歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等百十圓下賜セラル

補充兵役中明治三十七年二月近衛補先輪卒隊ニ編入三月宇品出帆鎮南浦上陸シ平壤、安州、定州、車

輜重輪卒

福澤菊次郎

鞏、義洲間ノ糧秣運搬從事五月出發九連城安東縣湯山城鳳凰城林字臺通遠堡草河口、石門子、四道溝、草河長嶺、ノ各地間糧秣運搬從事七月草河長嶺、通子峪、橋頭、孤家子、大安平間ノ糧秣運搬九地狼子山湯河沼間ノ糧秣運搬ニ從事ス九月疾病ニテ狼子山定立病院ニ入院後青泥窪病院ニ轉送同月內歸還ノ上廣島豫備病院ニ收容セラル後水川分院ニ移ル急速全治ノ見込ナキニヨリ十一月召集解除セラ

ル戰役ノ功ニヨリ八等勳瑞寶章金八十圓下賜セラル

步兵一等卒

戸田喜傳次

明治三十七年十一月補充ノ爲メ步兵第三聯隊補充大隊へ召集三十八年二月野戰隊補充トシテ横濱出帆三月大連上陸ノ上第四中隊編入セラル後十月平和克復ニヨリ三十九年一月内地歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章金百圓下賜セラル

輜重輪卒

福澤信治

明治三十七年二月充員召集ニヨリ近衛師團補助輪卒隊へ編入三月鎮南浦上陸以來兵站勤務ニ眼シ老古洞湯山城間ノ糧食運輸ニ從事ス鳳凰城、雪裡店、林家臺、通遠浦、草河口、四門子、四道溝、草河長嶺ニ至ル七月草阿長ヨリ通子峪ニ至ル途中ニテ疾病ニ罹リ八月通子峪患者療養所ニ入院後送九月内地歸還水川分院ニ收容セラレ十月退院ス戰功ニヨリ嶺八等瑞寶章及金八十圓下賜セラル

步兵一等卒

木村七五郎

明治三十七年十二月充員ノ爲メ後備步兵第五十聯隊第十二中隊編入三十八年一月宇品出帆青窪上陸二月一日旅順口着同地守備同年十一月九日旅順出發シ同十日大連出帆似島着後同月十九日東京着ノ上解散ス戰功ニヨリ勳八等瑞寶章及金八十圓下賜セラル

輜重輪卒

山口善太郎

明治三十七年二月召集ニ應ジ近衛師團第二補助輪卒隊編入三月宇品出帆鎮南浦上陸シ平壤安州定州ヲ經テ四月四日鐵山着同所出發良策館着同地滞在勤務ニ服ス後同所出發煙峯里、義州鴨綠江ヲ經テ九連城着五月六日同所發安東縣ヲ經テ湯山城着六月二十二日迄勤務鳳凰城雪裡店ヲ經テ林家臺ニ至リ七月五日迄勤務更ニ雪裡店ニ歸リ七月二十日迄勤務七月二十一日彈藥ヲ積載シテ晝夜兼行通遠浦ニ至ル同地出發四道溝ヲ經テ通子峪ニ至リ七月二十七日迄勤務更ニ四通溝ニ歸リ勤務同月三十日彈藥ヲ積載シ晝兼行通子峪ニ至リ八月二十四日迄勤務後橋頭ニ勤務同月二十九日孤家子ニ至リ勤務九月大安平勤務十月橋頭ニ駐頭店ニ勤務十二月十五日第一師團第三兵站司令部へ分遣司令部ト共ニ浪子山大安平英守堡ヲ經テ十二月二十六日灰窪着三十八年三月同地發康大人山、白深ヲ經テ朱家屯着同地勤務後李石塞着滞在三月十四日ヨリ四月二日迄近臺子兵站司令部ニ於テ勤務四月三日松崗堡着同地兵站司令部ニ勤務四月三十日康大人山平野兵站司令部支部ト交代五月松崗堡發連力灣瓢起屯ヲ經テ撫安屯着同地ニ兵站司令部開設シ勤務同年八月二十四日第五師團第十六兵站司令部ト交代シ十一月三十日原隊ニ復歸ス凱旋ノ爲メ十二月七日熊官地ヲ出發大連乘船同月二十日東京着同月二十六日解除セラル戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金二百圓下賜セラル

步兵一等卒 山下 喜右衛門

第七師團步兵第二十七聯隊第三中隊在隊中明治三十七年八月動員下令同年十月二十四日屯營出發十一月大連上陸ス旅順攻撃ニ參加シ明治三十八年一月一日旅順二〇三高地戰闘ノ際負傷ス曹家屯定立病院ヲ經テ内地後送大阪豫備病院阿倍野分院ニ入院治療ス同年九月除隊ス戰功ニヨリ勳八等旭日章金二百圓下賜セラル

砲兵輪卒 齋 藤 作 藏

明治三十八年三月近衛野戰補充大隊砲兵聯隊増設總列へ編入シ後同總列解散ニ付野戰砲兵第十三聯隊補充大隊ニ轉出第一中隊ニ入隊ス四月第十三師團彈藥大隊第一歩兵彈藥縱列へ轉シ同年六月二十六日橫濱出帆シ青森港ヲ經テ七月七日樺太島メシヤ岬ニ碇泊後九日大泊ニ上陸ス同月十日馬蹄傷ニテ「コルサコウ」兵站病院ニ入院ス内地後送ノ爲メ同月十九日「ホロアントマリ」出帆シ青森上陸ス青森分院ヲ經テ八月東京豫備病院澁谷分院ニ入院ス十月十三日全治退院ス原隊ニ復歸ス同年十月十六日平和克復ス戰功ニヨリ勳八等瑞寶章金七十圓下賜セラル

步兵二等卒 高 澤 留 吉

明治三十七年十二月補充召集ニヨリ步兵第三聯隊第一中隊ニ編入セラル各地ニ轉戰ス戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ金八十圓下賜セラル

輜重輪卒 森 田 豐 吉

明治三十八年二月補充召集ニ應シ輜重兵大隊補充隊ニ編入セラル同月出征シ各地ニ服務ス戰功ニヨリ

勳八等ニ叙シ金八十圓下賜セラル

海軍機關兵 山 口 辰 三

現役中開戦トナル戰役中軍艦八雲ニ乗組ミ各所ノ海戰ニ參加ス戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ金二百圓下賜セラル

輜重輪卒 小 島 久 次 郎

補充召集トシテ明治三十八年二月輜重兵第一大隊補充隊へ入隊同月出征シ各地ニ服務ス戰功ニヨリ勳八等金八十圓下賜セラル

輜重輪卒 島 村 忠 藏

現役年限中明治三十七年三月動員下令歩兵第三聯隊へ召集四月宇品出帆五月清國ニ上陸ス同月十五日ヨリ衣家屯及關家店附近同月二十六日金州附近ニ於テ戰闘越ヘテ七月八月ニ亘リ双臺溝、五城子附近水師營南方ニ於テ戰闘九月水師營東南方堡壘ニ於テ戰闘ス十一月水師營大西溝西南方高地戰闘十二月來松樹山浦備砲臺附近ニ於テ戰闘ス明治三十八年二月二日旅順開城後數日間老虎尾半島守備ニ服ス同月水師營出發二月始メ北邊橋子着同月中旬南鎗渾河附近ニ於テ戰闘シ二月末ヨリ奉天附近ノ會戰ニ參加三月田義屯附近ニ於テ戰闘ス明治三十九年一月大連出帆二月屯營ニ歸還ス戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章及百五十圓下賜セラル

歩兵二等卒 鈴木 佐 右 衛 門

明治三十七年三月充員ノ爲メ後備歩兵第三聯隊第五中隊編入三十八年二月宇品出帆三月城津上陸臨瀛

附近ニ滞在六月十一日北進ノ爲メ出發吉州、明川ヲ經テ同月二十一日鏡城着同地滞在七月二十三日再ヒ北進ヲ起シ同月二十五日白沙峯北方鞍部ノ戰闘ニ參加續テ該附近ニ對陣八月七日松坪附近ノ偵察戰闘ニ參加ス八月三十日師團ノ右側掩護ノ爲メ石浦村附近ニ前進對陣九月七日ヨリ休戦ニ依リ戰闘行爲停止ス十月二十一日凱旋ノ爲メ對陣地ヲ發シ輪城ヲ經テ清津ヨリ乘船十一月四日東京着ノ上召集解除戰功ニヨリ勳七等瑞寶章及金八十圓下賜セラル

要塞砲兵一等卒 折原末次郎

明治三十七年十二月東京灣要塞兵聯隊ハ入隊シ戰役中内地勤務ニ服ス三十八年十月十八日緊急配備撤我セラル明治三十九年二月復員下令トナル明治四十年十月歸休退營ス戰役ノ功ニヨリ金三十五圓下賜セラル

陸軍通譯

清水 龍藏

日露開戰前浦鹽ニ遊ビ露語ヲ研究シ居リシガ開戰トナルヤ歸國ス明治三十七年十一月後備步兵第五旅團司令部付トナリ軍務ニ從事ス同年十二月留守第四師團司令部付トナリ俘虜輸送係トシテ旋順ト内地及樺太ト内地ヲ往復シ輸送ニ從事ス明治三十八年伏見俘虜收容所付ニ轉シ同所ニ勤務シ明治三十九年二月解隊トナル勤務中職務ニ精屬シタルニ依リ岡見陸軍少將ヨリ賞セラル戰役ノ功ニヨリ從軍紀章及時賜金下賜セラル

日本赤十字社看護婦

吉田 かん

明治三十五年所志アリテ日本赤十字社看護婦ヲ志願シ研究中開戰トナル明治三十七年十二月十六日日

本赤十字社看護婦ニ任用セラレ第二十一救護隊ニ編入同日陸軍病院船ヘ配屬セラレ東英丸及橫濱丸ヘ歴乗シ傷病患者ノ救護ニ從事ス其間一年有餘明治三十九年一月十日救護終了ニ付召集解散トナル從軍記章及戰役ノ功ニヨリ勳八等寶冠章並ニ金七十圓下賜セラル

四、大正三年乃至大正九年戰役及西伯利出兵事件

現役中大正六年四月二十二日滿洲駐劄ノ爲メ小樽出發釜山ニ上陸ス駐劄中步兵第二十六聯隊附ニ補セラレ大正七年八月九日應急準備下令同月十八日出征ノ爲メ奉天出發同月二十三日滿洲里着十月二日迄同地守備ニ服ス進同月四日「ボルジャ」着三月十三日迄同地守備同月二十一日浦潮着四月十二日迄同地守備四月十三日ヨリ同月二十二日迄日、英、佛伊支「チエクスロウツク」ヨリ成ル聯合軍ニ屬シ「シロ」方面ニ行動ス四月二十三日應急準備解除大正九年二月二十日尼港派遣隊編成下令同月二十二日尼港派遣隊步兵大隊第一中隊附ヲ命ゼラレ三月十九日小樽出發同月二十二日北樺太亞港ニ上陸ス五月八日北部沿海洲派遣隊ニ編入シ同月十二日迄亞港警備ニ服ス同月十三日多門枝隊ニ屬シ先遣隊トシテ亞港出發同月十五日「デカストリ」上陸同月十七日「キジ」附近ニ於テ戰闘ニ參加シ進シデ同月二十日「キジ」西方八吉米突無名川附近ニ於テ戰闘シ同月三十日「キジ」出發五月三十一日ヨリ六月一日ニ亘リ小隊長トシテ「ツイル」附近ニ於テ戰闘シ同月三日尼港ニ進入ス同月四日ヨリ同月七日迄「ベトロロフスク」方面ニ追撃ス同月廿八日ヨリ七月一日迄尼港警備ニ任ズ同月二十二日尼港出發二十四日亞港ニ上陸ス同月二十八日「デルビンスコエ」守備更ニ「チャイオ」ニ進ミ十月六日

ヨリ大正十年八月十日迄同地守備ニ服ス同月十一日同地出發同月十九日函館港ニ歸還ス同月二十六日派遣隊解除セラル戦功ニヨリ勳六等一時金七百圓下賜セラル

輜重兵上等兵

渡邊房太郎

現役トシテ輜重兵第一大隊第一中隊ニ在營中大正七年八月十一日動員下令八月十四日架橋縦列要員トシテ配屬シ同月二十四日宇品港出帆同月二十八日浦潮上陸縦列集中ノ爲メ同月二十九日浦潮出發同月三十日「スイヤギナ」着九月六日同地出發同月七日「イマン」着十月十六日ヨリ同月三十日ニ至ル間「スバスカヤ」「アトロフカ」ニ至ル薪炭輸送ニ從事ス九月二十七日「イマン」發同月二十八日「スバスカヤ」着十一月五日内地歸還ノ爲メ同地出發同月八日浦潮出帆同月十二日宇品ニ上陸シ同月二十一日原隊ヘ歸還ス戦功ニヨリ勳八等金二百五十圓下賜セラル

步兵一等卒

角

田作十郎

現役トシテ步兵第二十八聯隊第四中隊ニ入隊中大正七年八月九日應急準備下令同月十九日出征ノ爲メ旅順出發同月二十二日哈爾濱着同地守備ニ任ズ同年九月十四日船橋支隊ニ屬シ「ハルビン」出發ス同年十月十一日同支隊解散ノ爲メ黑河出發同月二十二日齊々哈爾濱着同地守備ニ服ス大正八年一月内地ニ歸還ス戦功ニヨリ勳八等二百二十圓下賜セラル

上等看護卒

齋藤健作

現役トシテ步兵第三聯隊第四中隊ニ在隊中大正六年三月獨立守備步兵第一大隊看護學修業兵要員トシ編入守備地鄭家店ニ出張シ守備隊第三中隊編入ス五月步兵第二十五聯隊第七中隊ニ配屬換大正七年九

月三日西伯利亞事變ニ際シ東清鐵道南線ノ警備並ニ軍事諸施設掩護ノ爲メ松本派遣隊ニ編入セラレ同月五日駐屯地郭家店出發寛城子着同地守備ニ任ズ九月六日獨立守備步兵第一大隊長ノ隸下ニ復ス十一月三十日守備地交代ノ爲メ郭家店ニ歸リ同地守備ニ服ス大正八年五月内地歸還ノ上歸休除隊ス戦功ニヨリ勳八等百七十圓下賜セラル

歩兵伍長

鬼久保誠輔

現役トシテ步兵第二十八聯隊第四中隊ニ在隊中大正七年八月九日應急準備下令同月十九日出征ノ爲メ旅順出發八月二十二日「ハルビン」着同地守備ニ任ズ九月十四日船橋支隊ニ屬シ「ハルビン」出發ス十月十一日同支隊解散ノ爲メ黑河出發十月二十二日齊々哈爾濱着同地守備ニ服ス大正八年五月内地ニ歸還ス戦功ニヨリ勳八等金四百三十圓下賜セラル

騎兵上等兵

利根

川涼

現役トシテ騎兵第七聯隊第三中隊ニ在隊中大正六年四月滿洲駐劄トナル大正七年八月九日應急準備下令同月十六日公主嶺屯營ヲ出發シ八月十六日ヨリ柚原少將ノ指揮スル先遣隊ニ屬シ同月二十一日札來諾爾着同日「アバカイ」附近ノ敵情偵察ニ服シ翌二十二日滿洲里着同年八月二十六日迄藤井支隊ニ屬シ同地ニ於テ搜索及警戒勤務ヲ爲ス八月二十七日ヨリ八月三十日迄「ダウリヤ」地方斥候勤務同月三十一日ヨリ九月六日迄「ボルジヤ」オロウナナヤ」間追撃ニ從事ス九月七日滿洲里ヘ傳令勤務九月十三日歸隊ス九月十四日ヨリ同月二十四日ニ至ル迄「モゴウチヤ」「タブツガール」「アマゾール」「ルフロオ」間追撃ニ從事ス九月二十三日ヨリ同月二十六日迄「ルフロオ」ニ於テ警戒勤務九月二十七日

「ルフロオ」發十月二日「ダフリヤ」着九月十三日ヨリ十月二日迄柚原支隊ノ隸下ニ屬ス同八年四月十五日迄「ダウリヤ」ニ於テ守備勤務ニ任ズ翌十六日内地歸還ノ爲メ「ダウリヤ」出發ス同日應急準備解除セラル四月二十九日函館着五月二日旭川屯營ニ着ス戰功ニヨリ勳八等三百圓下賜セラル

歩兵一等卒 細井文次郎

現役トシテ歩兵第三聯隊第三中隊ニ在隊中大正八年九月臨時朝鮮派遣第二大隊第二中隊ニ編入セラレ同月二十二日金州着同地守備ニ服ス後歩兵第七十五聯隊へ編入同月二十九日會寧着第十中隊ニ入ル大正九年十月五日間島事件ノ爲メ彈春並ニ百草溝方面ニ出動シ討伐ニ從事シ十二月二十九日歸隊ス大正十年一月歸隊除隊ス戰功ニヨリ勳八等金百六十圓下賜セラル

歩兵一等卒 野口時三

歩兵第三聯隊第六中隊ニ在隊中大正九年四月歩兵第七十三聯隊第一中隊ニ編入替トナル大正九年十月七日匪徒討伐ノ爲メ支那間島ニ出動ス同一年一月一日間島龍井村派遣大隊第六中隊ニ編入セラル四月十五日間島龍井村徹隊ノ爲メ引揚ダ翌十七日羅南屯營着原隊ニ復歸ス大正十年十一月歸隊除隊トナル戰功ニヨリ勳八等金百十圓下賜セラル

一等機關兵 鈴木菊藏

橫須賀海兵團在團中大正八年四月補充トシテ榛名乗組ヲ命ゼラル大正九年八月館山發東亞露領沿岸へ回航警備ニ任ズ九月小樽ニ歸着ス戰功ニヨリ金七十圓下賜セラル

陸軍一等計手 早川傳次郎

鐵道第一聯隊第二中隊ニ在隊中大正九年四月臨時鐵道聯隊交代要員トシテ千葉屯營出發同月二十八日伏木港出帆五月一日浦潮ニ上陸シ尼市ヲ經テ同月二十三日第一チタ着同日臨時鐵道聯隊第五中隊ニ編入第一チタ出發同月二十五日「オロウニナヤ」着同月二十六日ヨリ「オノン」河橋梁修築作業ニ從事シ七月二十日作業完了同月二十三日「オロウニナヤ」出發同月二十四日チタ着同日ヨリ後員加留方面部隊撤退輸送業務ニ從事ス大正九年軍令陸甲第十號ニヨリ露領及北滿洲派遣部隊編成改正ノ結果大正九年十一月十五日臨時鐵道隊材料廠ニ配屬ス大正十年十二月一日臨時電信隊附日本部ニ勤務ス同十一年七月八日歸還ノ爲メ浦鹽發帆シ敦賀上陸同月十三日電信第一聯隊附トナル戰役ノ功ニヨリ勳八等金三百圓下賜セラル

工兵一等卒 渡邊智

近衛工兵大隊ニ在隊中大正三年九月四日編成下令同日工兵獨立第一大隊第一中隊ニ編入同月二十日宇品出帆勞山灣上陸十月一日ヨリ同月八日迄河東峠桃園洞道路作業ニ從事ス十月十一日ヨリ十月二十八日ニ至ル間浮山附近ヨリ僧野ヲ經テ田家村附近ニ至ル左翼隊進出路及砲兵陣地進入路構築作業ニ從事ス十月二十九日ヨリ青島要塞攻撃戰ニ參加ス十一月七日青島陷落ス同年十二月二十日山東省砂子港出帆シ同月二十八日橫須賀ニ上陸シ翌日編成擔任部隊ニ歸還ス戰功ニヨリ功七級勳八等ニ叙セラル

工兵上等兵 秋葉源三郎

鐵道聯隊第八中隊ニ在隊中大正三年八月二十三日臨時鐵道第三大隊第十二中隊へ配屬シ九月十三日宇品出帆同月十八日山東省石哥庄ニ上陸同月二十日ヨリ二十四日迄王哥庄大橋間路盤工事ニ從事ス同月

二十五日ヨリ十月七日迄王哥庄東李村間輕便鐵道敷設作業ニ從事ス同月八日ヨリ同十三日迄丹山東李村間線路補修作業ニ從事ス同月十四日ヨリ十一月七日迄攻城地帯内ノ運轉及保線作業ニ從事ス青島陥落後十一月二十九日迄元攻城地帯内及東李村下王埠嶺滄口間ノ運轉及保線修業ニ從事ス同月編成換ノ爲メ臨時鐵道聯隊第四中隊ニ配屬セラル中隊ハ岵山ヲ經テ坊子ニ着シ十二月四日ヨリ山東鐵道軍轉勤務ニ服ス疾病ニヨリ大正四年二月一日坊子患者療養所ニ收容セラル四月一日第八中隊ニ配屬シ同月五日青島出帆同月十五日歸休除隊ス戰功ニヨリ勳八等金百五十圓下賜セラル

重砲兵一等卒 松本 啓一郎

重砲兵第二聯隊第一中隊ニ在隊中大正三年八月十七日第一師團甲號臨時部隊編成下令ニヨリ同日攻城廠中隊へ編入九月十六日大阪港ヲ出帆シ同月二十六日山東省西下嶺ニ上陸シ戰務ニ服ス十月十九日疾病ニテ王哥庄患者療養所ニ收容十一月十六日退院ス十二月二十三日勞山灣出發同三十日橫須賀ニ上陸ス戰功ニヨリ勳八等金七十圓下賜セラル

步兵特務曹長 高橋 源太郎

步兵第三聯隊第十一中隊附トシ内地ニ於テ戰時勤務ニ服ス

鐵道上等兵 大高 武之助

大正七年鐵道第二聯隊第五中隊へ入隊ス大正八年四月一日ヨリ大正八年十一月三十日迄鐵道第二聯隊ニ在リテ戰役ニ關スル勤務ニ從事ス戰役ノ功ニヨリ金百圓下賜セラル

工兵一等卒 小野 田源三

豫備役中大正七年十一月九日充員召集ヨリ第五師團兵站電信第五中隊ニ編入シ同月十六日宇品港出帆シ鴨綠江通過十二月十一日「ベスチヤンカ」兵營ニ着ス「スレートンスク」通信所ニ勤務ス大正八年四月廿四日「ベスチヤンカ」兵營出發大連着同月十四日宇品港上陸ス戰功ニヨリ勳八等白色桐葉章金二百二十圓下賜セラル

輜重輸卒 諸 星 武治

大正三年九月臨時召集ノ爲メ野戰重砲兵第二聯隊第一大隊本部ニ編入同年九月十五日橫須賀出帆嶗山灣ニ上陸ス同月二十八日孤山巫山ノ戰闘ニ參加ス九月二十九日ヨリ十月二十八日迄青島攻撃準備ニ服シ同月二十九日ヨリ青島攻撃戰ニ參與ス十一月七日陷落ス十二月二十一日凱旋ノ爲メ沙子口乗船出帆同月二十九日橫須賀へ上陸シ同月三十日召集解除セラル戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ金九十圓下賜セラル

重砲兵一等卒 八木 橋金五郎

豫備役中大正三年九月九日臨時召集ニヨリ重砲兵第二聯隊ニ應召同日野戰重砲兵第二聯隊第四中隊ニ編入シ同月十五日出征ノ爲メ橫須賀ヲ出帆シ同月二十四日嶗山灣ニ上陸ス九月二十八日孤山巫山ノ戰闘ニ參加ス九月二十九日ヨリ十月二十八日迄青島攻撃準備ニ服ス十月二十九日ヨリ青島攻城戰ニ加ハリ十一月七日青島陷落ス凱旋ノ爲メ十二月二十二日沙子口出帆同月三十日橫須賀上陸大正四年一月一日召集解除セラル戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ百二十圓下賜セラル

重砲兵上等兵 江 原 定七

豫備役中大正三年九月九日臨時召集ニヨリ重砲兵第二聯隊第四中隊ニ編入セラレ出征ノ爲メ九月十五

日横須賀出帆同月二十四日嶗山灣上陸ス九月二十八日孤山巫山ノ戰闘ニ参加ス九月二十九日ヨリ青島攻城戰ニ參與ス十一月七日青島陷落ス凱旋ノ爲メ十二月二十二日沙子口出帆同月三十日横須賀ニ上陸シ大正四年一月一日召集解除セラル戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章並ニ金二百二十圓下賜セラル

輜重輪卒

山崎英太郎

大正七年三月徴兵トシテ近衛輜重兵大隊第一中隊ニ入隊シ同年五月滿期除隊トナル大正七年八月十八日充員召集ニヨリ近衛師團架橋縱列ニ編入セラル同月二十九日宇品港出帆九月一日浦鹽ニ上陸シ同年十月三日ヨリ十月二十三日迄「ウルカン」河架橋ノ爲メ器材運搬其他ニ從事ス後「ツイクダ」「ゼトヤ」間軍需品輸送勤務ニ服ス同年十一月七日浦鹽出發シ同月十日宇品上陸ス同月十八日召集解除セラレ戰功ニヨリ勳八等ニ叙シ瑞寶章並ニ金百五十圓下賜セラル

稅關監吏

清水龍

藏藥出陣

大正三年十一月稅關監吏トシテ現官ノ儘青島ニ出征シ軍司令部付トシテ大藏省ヨリ從軍ス第十八師團ニ配屬シタル青島埠頭局付ニシテ同局海軍棧橋出張所長トシテ勤務ス後埠頭局ハ青島守備軍ニ配屬セラレタリ大正四年七月大藏省ニ歸還ス從軍紀章及一時賜金ヲ下賜セラル

工兵一等卒

和泉俊

航空第一大隊第二中隊ニ在隊中大正十一年六月二十七日浦潮派遣軍航空班員要員トシテ屯營出發同月二十八日敦賀同月三十日浦鹽ニ上陸シ七月一日同地發「スバスカヤ」着七月四日ヨリ同年同月十五日迄鐵道沿線掩護並ニ威嚇ノ爲メ浦鹽、尼古里斯克「スバスカヤ」間ノ連絡飛行ニ際シ「スバスカヤ」ニ

在リテ飛行場勤務ニ從事ス皇軍撤去ニ際シ「スバスカヤ」根據地ヲ撤シ八月二十六日出發同日尼市着同月二十七日同地出發二番河根據地着九月二十一日「ラズドリノエ」ニ前進シ着陸場勤務員トシテ出發同日到着ス同月二十九日任務終了二番河根據地ニ歸着ス同日ヨリ二番河ニアリテ「ラズドリノエ」以南ノ偵察威嚇並ニ連絡飛行勤務ニ從事ス十月十五日内地歸還ノ爲メ同地ヲ出發シ同月十七日浦鹽出發宇品港着大正十一年十一月二十五日原隊ニ復歸ス西伯利出兵事件ノ勤勞ニ依リ金五十圓下賜セラレ

第四節 戰病死者村葬及凱旋式

明治三十九年一月二十九日故松田亮全山崎喜太郎大久保長次郎諸氏ノ合同村葬ヲ上野田大德寺ニ於テ執行ス本縣知事木下周一閣下ヲ殆メ本縣聯隊區司令官歩兵中佐大久保直道本郡長神谷原、岩槻警察署長坂井勳諸氏ノ參列ノ榮ヲ得タリ尙會スル者神官僧侶二十四人四隣村長村內名譽職員及重立小學校生徒等ナリ

明治三十九年九月二十九日故石渡才助氏ノ葬儀ヲ上野田大德寺ニ於テ執行ス本郡長神谷原、郡書記小暮團次郎、岩槻警察署代理四隣村長諸氏ノ參列ヲ始メ神官僧侶十九人村內名譽職員重立等ノ參列アリタリ

明治四十一年十月二十二日韓國暴徒鎮壓ノ爲メ戰死シタル故野口源兵衛氏ノ葬儀ヲ實ケ谷自宅ニ於テ執行ス

明治三十九年四月十四日露戰役從軍者一同ヲ招待シ凱旋式ヲ舉行ス

第五節 戰役卜村民ノ後援

明治三十七八年戰役ハ空前ノ大戰ニシテ舉國一致國民ハ出征軍人ノ後援ニ或ハ軍需品ノ應徴ニ報國ノ誠ヲ盡セリ

軍需應徴ノ狀況

軍馬購買

購買ニ應ジタルモノ一人ニシテ一頭價格九十五圓ナリ

馬匹徴發

徴發ニ應ジタル馬匹五十六頭ニシテ價格三千九百三十五圓人員四十九人ナリ

車輛徴發

徴發ニ應ジタル車輛九十七輛ニシテ價格九百四十五圓五十錢人員五十三人ナリ

大麥徴發玄米徴發

大麥徴發ニ應ジ五回ニテ千九百六十八石二斗價格一萬三千七百八十九圓六十六錢ニシテ人員四百三十一人ナリ

玄米ニ應徴シタルモノ六十人其石數三百四十二石四斗ニシテ價格四千五百五十三圓九十二錢ナリ其ノ細別左ノ如シ

大字名	種別	大			玄		
		數量	金額	人員	數量	金額	人員
岡 泉		一五〇、三	一、〇四六・五〇	二七人	六三、六	八四五・八八	一
實 ケ 谷		二三〇、五	九〇〇・二〇	四二	二二、二	二八一・九六	一四
千 野		五三、七	三八七・一五	一八	一〇八、〇	一、四三六・四〇	一
小 久 喜		一〇五、五	七六八・六五	三六	五三、六	七二二・八八	一九
上 野 田		三四九・五	二、四七六・四八	六二	三三、二	四四一・五六	一三
下 野 田		四三〇・三	三、〇〇五・八八	四七	一九、六	二六〇・六八	一
爪 田 ケ 谷		一六二、九	一、一三四・三〇	四五	三三、〇	四二五・六〇	九
太 田 新 井		三三一・八	二、三三九・二〇	五七	八、八	一一七・〇四	一
彦 兵 衛		三五、七	二四九・〇〇	七	二、四	三二・九二	一
合 計		一、七〇五・二	一、二三〇・七二六	三四一	三四二・四	四、五五三・九二	六〇
大麥五回分		二二八、〇	一、四八二・四〇	九〇			
再 計		一、九六八・二	一、三七八九・六六	四三一			

二、國庫債券應募

回数	本村配當額	應募額	募入額	人員
第一回	八、〇〇〇 円	六、二二五 円	三、〇七五 円	四二
第二回	四、〇〇〇	三、八〇〇	一、一五〇	七
第三回	四、〇〇〇	四、四〇〇	一、四五〇	一二
第四回	九、一〇〇	五、二〇〇	六二五	二四
第五回	九、一〇〇	八、五〇〇	八〇〇	五九
合計	三四、二〇〇	二八、一二五	七、一〇〇	一四四

三、本村從軍者慰問

日露戰役ニ際シテハ國民舉テ出征者ニ對シ各種ノ方法ニヨリ慰問シ國民トシテ後援ノ實ヲ舉ゲタルハ云フヲ待タズ其ノ一方法トシテ郷土ノ從軍者ニ對シ村民トシテ慰問ノ意ヲ表シタリ

内 譯

岡 泉	金二十一圓五十五錢
實ヶ谷	金七圓五十錢
千駄野	金十七圓

小 久 喜 金十三圓

上野田 金十九圓三十錢

下野田 金十圓

爪田ヶ谷 金十四圓五十錢

太田新井 金二十一圓十錢

彦兵衛 金三圓〇五錢

前寄附金ヲ以テ慰問袋ヲ調製シ二回ニ亘リ之ヲ送リタリ

寄 贈 品 目 (一人分)

寶丹 一包 清心丹 一包 合卷煙草 一包 齒磨膏 一包

筆 一本 手拭 一帖 手巾 二枚 靴 下 一足

釣針 三本 半風子退治藥 一袋

大正三年乃至大正九年戰役ニ際シ出征者ニ對シ數回慰問狀ヲ發シタリ
大正八年七月二十日從軍者ヲ招待シ凱旋ヲ祝シ併テ出征中ノ勞ヲ感謝スル爲メ感謝狀ニ金圓ヲ添ヘ贈呈シ且ツ凱旋祝賀ノ宴ヲ開催シタリ其ノ寄附金九十六圓八十三錢ナリ

第十一章 社 寺

第一節 神 社

神社ハ村社、無格社ヲ合セ從來二十三社ナリキ。政府ハ明治三十九年頃ヨリ神社ノ體裁備ハラズ神職ノ常置ナク、祭祀行ハレズシテ崇敬ノ實舉ラザルモノハ合併セシメ以テ崇敬上ノ設備ノ完全ヲ期セシメンコトヲ獎勵セリ。

當時村當局ハ各大字ニアル神社ヲ合併シ一社ノ爲コノ希望ヲ以テ數次合祀ノ協議ヲ重ネシモ機運熟セズシテ合併ノ實舉ラザリキ。爾來期ヲ見テ大字内ノ合併ヲ諭シ協議ヲ遂ゲシメ合祀ノ實ヲ促進セシメタリ、明治四十五年大字岡泉ヲ始メトシ大正三年ニ亘リ大部分ノ合併ヲ爲シタリ

村社鷲神社(大字岡泉)

祭神ハ天穗日命ニシテ創立年不詳ナリ、從前戸前耕地ニアリシヲ天和元年十二月轉社シ明治六年三月村社ノ格ヲ得タリ、明治四十五年四月廿二日字新田上ニアリシ無格社鷲神社(祭神天穗日命)ヲ合祀スルノ許可ヲ受ケ之ヲ合祀ス明治四十三年七月十三日明治卅七八年戰役ノ戰利品七珊手彈丸四個方匙一挺配付セラル。氏子九十二戸ニシテ境外所有地九畝十一歩ヲ有ス

境 内 神 社

神明 社(祭神大日靈貴命)

創立年月不詳從前境外所有地ニアリシヲ明治四年上地ニ付境内ニ轉社ス明治四十四年十二月五

日境内神社タリシ稻荷社(祭神倉稻魂命)菅原神社(祭神菅原道真)稻荷社(祭神倉稻魂命)

ノ三社合祀ノ許可ヲ受ケテ合祀シ明治四十五年一月五日社殿立換ヲ爲ス

八 坂 社(祭神素盞鳴命)由緒不詳

淺 間 社(祭神木花咲耶姬命)

元宇神台ニアリシヲ明治四十五年四月二十二日移轉許可ノ上轉社ス

道 祖 神 社(猿田彦命)

創立ハ寛保四年正月ニシテ字台下ニアリシヲ明治四十五年四月廿二日許可ヲ得轉社ス

村社久伊豆神社(大字實ヶ谷)

祭神ハ大日貴命ニシテ嘉吉元年ノ創立ニシテ正徳四年再興シ明治七年村社ノ格ヲ得タリ大正二年十月十日字東ニアリシ八幡神社(祭神譽田別命)合祀ノ許可ヲ受ケ氏子五十二戸ニシテ境外所有地二反七畝廿九歩ヲ有ス

境 内 神 社

稻 荷 社(祭神倉稻魂命)

八 坂 神 社(祭神素盞鳴命)

庖 瘡 神 社(祭神少名彥名命)

村社八幡神社(大字千駄野)

祭神ハ譽田別命創立年月不詳ニシテ明治六年村社ノ格ヲ得氏子三十一戸ナリ

境内神社

山王神社(祭神大山咋命)

無格社稻荷神社(大字千駄野)

祭神ハ倉稻魂命ニシテ創立年月不詳氏子三十四戸

境内神社

稻荷社(祭神倉稻魂命)

村社久伊豆社(大字小久喜)

祭神ハ大己貴命ニシテ明治八年一月村社ノ格ヲ得タリ、大正二年十月十日字中村ニアリシ無格社稻荷

社(祭神豊宇氣姫命)及諏訪社(祭神南方刀美命)並ニ三谷ニアリシ無格社稻荷社(祭神豊宇氣姫命)

ノ三社ヲ合祀スルノ許可ヲ得合併シタリ、大正八年十月三日社殿ノ改築ヲ爲ス氏子百十五戸ニシテ境

外所有地二丁二反一畝十七歩ヲ有ス

村社鷲宮神社(大字上野田)

祭神ハ天穗日命ニシテ明治六年十二月村社ノ格ヲ得大正二年四月廿九日西ヶ崎ニアリシ無格社雷電社

(祭神別雷命)同三年九月十七日字十二所ニアリシ稻荷神社(祭神倉稻魂命)ヲ合併スルノ許可

ヲ受ケ合祀ス氏子百二十九戸ニシテ境外所有地五畝七歩ヲ有ス

境内神社

三峯神社祭神ハ伊弉諾命伊弉册命ニシテ文化二年ノ創立ナリ
琴平神社、祭神ハ大物主命ニシテ文化十二年創立ナリ

村社鷲宮神社

祭神ハ天穗日命ニシテ明治六年十二月村社ノ格ヲ得タリ大正四年四月廿五日社殿ヲ改築ス氏子六十三戸ニシテ境外所有地八反五畝十歩ヲ有ス

村社諏訪神社(大字爪田ヶ谷)

祭神ハ建御名方命ニシテ由緒不詳ナリ氏子六十五戸ナリ

無格社稻荷神社(爪田ヶ谷)

祭神ハ倉稻魂命ニシテ信徒五十二人

無格社愛宕神社(爪田ヶ谷)

祭神ハ軻遇突智命ニシテ信徒六十六人

無格社太田神社(大字太田新井)

祭神ハ建御名方命ニシテ大正二年三月十五日宿北ニアリシ鷲宮神社(祭神天穗日命)宿原ニアリシ鷲

宮神社(祭神天穗日命)ヲ合併合祀ノ許可ヲ得テ合祀ス元ト諏訪神社ト稱セシガ大正五年九月十二日

社名ヲ太田神社ト改稱ノ義許可アリタリ崇敬者百十戸ニシテ境外所有地二反九畝廿七歩ヲ有ス

無格社淺間社(大字彦兵衛)

祭神ハ木花咲耶姬命ニシテ大正二年五月十日境内神社タル小御嶽社(祭神岩長姫命)角行神社(祭神

角行靈神、食行靈神)琴平社(祭神大物主命)稻荷社(祭神倉稻魂命)ノ四社ヲ合祀ノ許可ヲ得合祀ス崇敬者二十戸ニシテ境外所有地一反一畝歩ヲ有ス

第二節 寺院

觀音堂

大字岡泉、神臺ニ在リ

(一) 宗派 眞言宗

本尊 十一面觀音、不動尊

(三) 緣起 不詳

壽樂院

大字小久喜、西山ニ在リ

(一) 宗派 禪宗曹洞派南嶺玉篠津村白岡岱崇山興善寺末

本尊 釋迦如來

(三) 緣起 壽樂院ハ大高山ト號シ篠津村岱崇山興善寺第三世孝天存舜大和尚禪師當院開山トナリ元龜

元庚午年三月鬼久保尾張繁政開基トナリテ建立ス(三百五十五年前)

翌元龜二年三月二日開山遷化ス以後累代二十三世就中三世智翁永殊知尙ハ興善寺五世トナリ人

皇百六代後陽成天皇ヨリ心通德江禪師ヲ勅特賜セラレ五世光嚴明和尚ノ代ニ至リ境内ニ一字ヲ

建設シ寛文二壬寅年本尊藥師瑠璃光如來ヲ安置ス(二百六十三十年前)

寶曆年間七世大乘了悟和尚ノ代新宿村小舟武兵衛新堀村岡野久兵衛發起トナリ四十八ヶ村ヲ勸

募シ(奉主一萬人トアリ)梵鐘ヲ鑄造ス其後十四世摩斤牛和尚ノ代寛政七年十二月四日本堂燒

失ス(百三十年前)次デ十六世中興得法和和尚ノ代文化十三年二月諸堂再建ス其後廿一世智貫泰

禪和尚ノ代即チ慶應三年五月二日山門並ニ鐘樓ヲ除キ其他ノ堂宇全部烏有ニ歸ス(五替八年前)

依テ明治三年十一月庫裡兼用トシテ一字ヲ建立シ以テ現今ニ至ル

地藏堂

大字小久喜、中村ニ在リシガ大正四年六月八日許可ヲ受ケ壽樂院境内ニ移ス

(一) 宗派 曹洞宗

本尊 地藏菩薩

(三) 緣起 不詳

大德寺

大字上野田、赤砂利ニ在リ境内ニ大日堂及觀音堂アリ

(一) 宗派 本寺茨城縣下總國西葛飾郡山王山村東昌寺末曹洞宗

本尊 釋迦如來

(三) 緣起 本寺ニ一卷軸ヲ藏ス題シテ大德禪寺緣起ト云フ開キテ之ヲ見ルニ

抑武藏國百間領野田村金界山大德寺開闢ノ僧ハ德祐ト申人ニテ初ハ眞言宗也師匠ハ常陸國筑

波山開創德一上人ト申延曆ノ頃弘法大師修禪ノ跡ヲ慕ヒ南都ヨリ關東ニ下行シ師ハ筑波山ヲ開創シ弟子德祐ハ武藏國ニ一庵ヲ結ビテ獨住シ四方ノ老若師ノ道徳ヲ仰ギ道場ヲ建立シ丈六坐像ノ大日如來ヲ三十三間ノ堂ニ安置致シ諸人願望不叶トイフ事ナシ然ニ正慶元年中征夷將軍新田義貞公源家長久ノ心願ヲ發シ以テ野田村通行ノ節度々御祈念有テ北條高時ト義貞ト合戰アリ義貞ハ當國川越入間川エ出陣ス舍弟脇屋義助ハ下總小手指原エ出陣シ鎌倉勢ト戰ヘ義助一戰ニ打勝是全ク大日如來ノ御利勝ト感シ奉リ夫ヨリ川越勢歸陣ノ時野田村ヘ諸軍勢入込人馬ノ勞ヲ休メ大德寺ヲ本陣トナシ出立ノ跡エ小手指原ノ殘徒入代リ酒食イタシ跡ヘ火ヲ懸ケ退散シ其頃野田村民家漸十二三軒ニテ消防致シ兼諸伽藍不殘燒失シ本尊大日如來ノ御頭ト兩手斗リ取出シ脇ノ沼ヘ挿入置キ其後右ノ御頭御手ヲ沼ヨリ出シ假堂再建御身體再興致シ安置奉ル災火ニ罹リ諸堂燒失シ表門斗リ殘居處當所吉田正監ト申者野毛野渡下宮郷東昌寺即庵禪師ノ弟子能山和尚ヲ請シ文明二庚寅年二月洞家家ニ改稱ス國家安全寶祚長久ノ祈念朝夕怠ル事ナシ然處文久六己午年即庵禪師ハ陸奥國石川ノ城主源昭光公ノ請ニヨリテ同所長泉寺ヘ轉住致サレシ後能山和尚東昌二代ノ住持トナス終日佛法興隆ヲ祈誓ス予未聞道今茲于此書ヲ爲スモ惟務メテ吾本師堂宇ヲ創立シテ法孫ヲ救助スルノ大切願ハ酬佛恩者ナリ

千時文明八丁申年三月

法嗣 鶴翁謹記

トアリサレド同寺現住職小林德雄師ノ見ル所ニヨレバ此ノ緣起文ニハ幾多ノ誤傳ト疑點トヲ含

メルガ如シ仍リテ同師ノ物セル大德寺沿革ト題セル一篇ヲ掲クベシ蓋シ此ノ一篇ハ大德禪寺緣起ニ關シ考察ト補修トヲ加ヘタルモノニシテ大ニ參考ニ資スル所アルベキヲ以テナリ

大德寺沿革

傳ヘ云フ當寺元ハ眞言宗ナリシト夫レ或ハ然ラン本宗ニ類例稀ナル言家ノ本尊大日如來ヲ奉安セルノ一事以テ之ヲ證スルニ難カラズ武藏風土記亦斯ク記述セリ

該記ニ依ルニ寛文九年當所ノ住人吉田將監トイフ者下總國葛飾山王山村東昌寺ニ代能山和尚ヲ請シ開山トナシ自ラ開基トナリ本宗ヲ開創セリトアルハ當ラズ何トナレバ能山和尚ノ死ハ永正九年十一月九日ニシテ吉田氏ノ死ハ正保二年七月二十四日ナレバ其ノ間九十四年ノ差アリ到底同一時代ニ於テ共ニ再興經營ニ從事セルト認メ難ケレバナリ寧ロ吉田氏ト時代ヲ同ウセル當時中興ノ祖タル榮傳和尚コソ正シク事實上ノ開創者ナルベシ同和尚ハ寛永十九年六月十九日ノ寂ニシテ吉田氏ニ先ダツコト三年ナルノミナラズ同和尚靈牌ノ裏面ニハ「客殿(本堂)大庫裡大門並ニ大日堂造立大日地藏之二尊修理是者也」ト記サレタレバ榮傳和尚ヲ以テ開山ト認ムルノ適當ナルヲ知ルベシ唯考フベキハ修理ノ二字是レナリ己ニ修理トイフ尊體ノ存在セシコトハ云フマデモナシ尊體ノ存セシ以上ハ之ヲ奉安スベキ堂宇ノ在リシコトモ想像ニ難カラズ果シテ然ラバ大日堂ハ造立ト稱スルモ想フニ改築ノ意ナランカ今ハ是以前ニ溯リテ之ヲ究明スルノ難キヲ遺憾トス

更ニ茲ニ注意スベキハ榮傳和尚ト死亡年月ヲ同ジウセル重徹和尚ノアリシコトナリ同和尚ノ

靈牌ハ御開山ノ靈牌ニ次グベキ特殊ノモノニシテ少クモ同和尚生前ノ功績ニ酬ウルノ意志表示ヲナセルモノト認ムルヲ得只惜ムラクハ其ノ功績ノ明カナラザルコトヲ

降テ元祿十四年頃ニ至ルマデ第二第三世ノ二代四十八年間ノ事蹟不明ナリ四代泰岩和尚ノ代ニ祠堂金ノ制ヲ設ケ該金ニテ土地購入ノ記録アルモ他ニ著シキコトモ見エズ五代新山和尚ハ正徳二年住職トナリ大ニ檀徒ノ化導伽藍ノ修造佛器ノ整備等ニ意ヲ注ギ専ラ寺門恢興ニ努メタリ即チ本尊釋迦如來及大日如來ヲ首メ其他ノ佛體ヲ再光シ幾多ノ什器ヲ購入シ伽藍ノ破損ヲ修理シ土地ヲ購入シ以テ餘澤ヲ後代ニ貽シ後人ヲシテ敬慕奮起セシムル所頗ル大ナリ六代雪岩和尚亦克ク先代ノ意ヲ體シ享保十七年新ニ大日堂ヲ建立シ續テ寛保元年長屋門ヲ建築セリ然ルニ不幸ニシテ延享四年十月十四日ノ暴風ニ遭ヒ表門長屋門鎮守堂下屋ノ四棟ヲ粉碎セラル依テ寛永元年春工ヲ起シ翌二年三月竣成セリ被害後僅々一年半ニ滿タズシテ四棟ヲ完成セルガ如キハ如何ニ和尚ノ奮闘ノ大ナリシカヲ見ルニ足ルベシ

此ニ注目スベキハ大日堂ノ新建立是ナリ既ニ初代榮傳ノ世ニ大日堂ノ建立アリ其ノ年代ハ詳カナラザルモ大凡寛永九年頃トセンカ爾後當時ニ至ルマデ九十年ノ久シキニ及ベルモ依然トシテ其ノ堂宇ノ存在セシハ舊記ノ示ス所ナリ然ルニ同一佛體ヲ奉安スベキ堂宇ヲ特設セルノ一事今日之ヲ考フルニ何ノ事由ニ基キシモノナルカ窺ヒ難シ而シテ當時建立ノ堂ハ蓋シ現存セル大日堂ノ前身ナリシナラン斯クテ和尚ハ成スベキ總テヲ成シ遂ゲ寛曆七年隱居セリ

雪岩隱居後前住益全和尚在住セリ茲ニ少シク宗門昔時ノ慣例ヲ述ベンニ本宗ハ法系ヲ重視シ

師資相承ノ嚴肅ナル他門ニ其ノ例ヲ見ズ從ツテ住持ノ相承モ師資相續ヲ本則トセリ故ニ相續者其ノ人ヲ缺ク時ハ最モ近キ法系ヨリシ尙其ノ人ヲ得ザル時ハ變則トシテ前住又ハ補住ノ制ニ依リ一時の寺務ヲ處理セルモノナリ今ハ宗令ニ依リ本制ヲ廢止セリ

益全和尚ハ雪岩和尚隱居後凡ソ五年半在住シ寶曆十二年七月死亡セリ此ノ和尚ハ現今末寺正傳寺ニ開山上人トシテ世人ノ渴仰ヲ博シツ、アル其人ナリ七代寶山和尚益全和尚ノ後ヲ承ケシモ幾バクナラズシテ他ニ轉住セシガ如シ八代祐山和尚梵鐘鑄造ヲ發願シ四方檀越ノ助力ヲ仰キ明和五年十一月之ヲ竣成セリ現存ノ梵鐘是レナリ和尚ハ安永五年八月寂ス九代舜元和和尚ハ明和六年ノ交ニ住持トナリ安永六年九月死亡セリ住持以來日淺ク何等手ヲ染ムルコト能ハザリシハ深ク之ヲ惜マザルヲ得ズ十代雷觀和尚ハ安永五年以後住持トナリ寛政二年死亡セリ是レ又在職僅ニ十ケ年以内ナリ

熟々考フルニ七代ヨリ十代即チ寶曆十二年ヨリ寛政八年頃マデ約四十年間ハ短住ナリシガ如ク而シテ三代ヨリ十代マデハ法系ヲ相承セシガ如シ五代六代ハ守成ノ高潮時ニシテ九代以後稍々衰兆ヲ現セリ十代ハ相承ノ資ナク前住明道和尚補職セリ十一代大梁和尚ヨリ十四代番外和尚マデ四代間不明ナリ番外和尚ハ享和ノ前後ニ住持トナリ文化三年七月退住セリ十五代茂林和尚ハ在職長カラズト雖モ一意寺門ノ興隆ヲ策シ多クノ佛器ヲ新調シ今ニ現存セルモノアリ十六代心月和尙ノ代即チ文化八年中當寺最古ノ建造物タル大日堂大破ニ及ビ維持不能ニ陥リタルヲ以テ金十七兩ニテ賣拂云々ノ舊記アリ更ニ尊體ハ境内ニ存スル堂ニ引取云々ト記セ

リ此ノ堂ハ即チ寛永ノ頃榮傳和尚ノ造立セルモノナランガ其ノ位置ハ現在當時ノ所有タル大門前林ニシテ今猶敷地ノ形跡ヲ止ム而シテ是レヨリ御成街道ニ面シ長サ八十間餘ノ參道ノ存セシコトハ大字彦兵衛富士庫理兵衛氏所藏ノ同字開墾當時ノ文書ニヨリテ明カナリ此等ノ當實ヲ總合セバ此ノ大日堂ノ規模ノ大小ハ略々之ヲ推測シ得ベシ心月和尙ハ後正傳寺ニ退隱シ同字ノ法地開山ナリ十七十八ノ二代ノ事蹟ハ不明ナリ十九代便成和尚ハ嘉永四年住持トナリ嘉永六年本堂總葺替土臺ノ入替等ヲナシ文久三年長屋門ヲ改造シテ物置兼木屋トシ鎮守堂上屋東司等ヲ改築セリ二十代大道和尚ハ明治四年住持トナリ爾後茨城縣某寺ヘ鑑寺トシテ赴任シ當寺ハ師ノ全明和尚ニ委セリ明治十八年復歸シ明治廿六年十二月寂ス

廿一代德雄和尚ハ明治二十八年就任セリ明治三十一年秋暴風ノ爲メ庫裡極度ノ傾斜ヲ來シ且ツ用材腐蝕シ將來存續ノ見込ナキヲ以テ庫裡玄關廊下三棟四十九坪ヲ取毀チ便成和尚造立ノ物置ヲ引付ケ炊事場トシ越エテ同三十八年方丈室ノ三坪内方丈ノ五坪餘ヲ取毀チ更ニ六坪餘ヲ加ヘ現狀ニ改造シ大正四年三月本堂總葺替ヲ了シ翌五年三月大日堂總葺替其ノ他修理ヲ加ヘ同六年四月鎮守堂上屋ヲ分離シ中門トナシ鎮守堂ハ位置ヲ變シ瓦葺トシ今日ニ及ベリ以上ハ伽藍及住持ノ事態ニシテ寺院存立ノ性質上見逃スベカラザル檀徒ノ分布及増減等ハ到底考查シ難キモ大體上野田下野田岡泉千駄野爪田及北葛飾郡ノ戸島等ニ散在シ明治以前百戸位ニ現在百四十戸ニ及ビ資産ハ田畑山林原野合セテ五町餘ナリ

正傳寺

大字上野田赤砂利ニ在リ境内ニ太子堂、文珠堂アリ

(一) 宗派 曹洞宗上野田大德寺末

(二) 本尊 釋迦如來

(三) 緣起 詳ナラザルモ明和ノ頃同寺ニ在住セシ寶山ノ筆ニナル緣起文ヲ同寺ニ藏セリ其ノ信僞固ヨリ明カナラザルモ今之ヲ平易ニ書キ改メ大方ノ參考ニ資スルコト、セリ

武州埼玉郡岩槻領上野田村正傳寺は昔時岩槻の城主北條重郎氏房公の信迎に依る攝津國四天王寺に於て聖德太子御自作の御面像を請じ來りて祈願の正傳寺に奉納す是れ則ち日本三太子の一なりと傳ふ其後天正十八年小田原御陣の砌正傳寺諸堂并に太子堂まで兵火の爲めに焼失せり國亂靜まりて檀越集りなげきて如何様にもして寺を造らんと示談し夫より山内の立木を伐らんとする時に大木の樗木あり中應の朽ちたる空より光あり諸人あやしみよりて是を見るに太子の尊像なり諸人奇異の思ひをなし不思議にも火災を逃れ給ふ者かなと信心肝に銘じ先づ御堂を建て移さんと夫より寺外に堂地を寄進し三間四面の御堂を建立し彼地に安置す此尊の靈驗新にして萬人諸願を祈るに叶はずといふ事なし其證に曰く元祿の年中賊來て堂内に入り彼の尊像を盗み夜中に道五里を離れ羽生領水深村と云ふ所にて休み又立行かんとするに尊像大盤石の如くにて動かす賊あきれて捨て去りぬ夜明けて里人集り見て不思議の思ひをなし先所の寺に移さんとするに猶あぐるこゝ叶はず依て其所に雨覆して高札を立て置きしに不思議に野田村の太子なることを知り送らんとする時輕々と速に御歸りありしこと諸人は是を知る

所なり又現證に去る明和二年の春村の吉澤氏の二男年四十有餘にして子なき事をうれひ夫婦一七日歩を運び一子を祈るに其年の中に女子一女を産す依て夫婦肝涙を流し信心をなし額を納め置く其の外靈證多しといへども是を略す然りと雖も幾星霜を経て御堂破壊に及びし事をなげき老若男女志を發し諸方へ助力を頼み新に御堂建立すといへども未だ造作の便りなし之に依て信心の輩を頼み造作の助力を願ふ者なり寔に今日營をなす所の衆生何れか太子の恩德に寄らざるものなし然れば實に太子の報恩を知り隨喜信受の輩は必ず家内安全子孫繁榮ならん者をや

于時明和七寅初春吉辰

上野田村正傳寺 先住 寶 山

藥師堂

大字上野田西ヶ崎ニ在リ

(一) 宗派 曹洞宗

(二) 本尊 藥師如來

(三) 緣起 不詳

觀音堂

大字爪田ヶ谷、原ニ在リ慈眼山ト號ス

(一) 宗派 新義真言宗太田新井安樂寺末

(二) 本尊 十一面觀世音

(三) 緣起 開山有範寶永六年五月二十八日寂ス往古觀音寺ノ本尊ナリシガ中興真言宗一般本尊ヲ不動

尊ニ更正スベキ旨ニヨリ境外ニ堂ヲ建築シ遷轉スト古老ハ申傳ヘリ

藥師堂

大字爪田ヶ谷萩原ニ在リ

(一) 宗派 真言宗

(二) 本尊 藥師如來

(三) 緣起 不詳

安樂寺

大字太田新井、本田ニ在リ境内ニ藥師堂アリ本尊藥師ハ高サ三尺許弘法大師ノ作ト傳フ

(一) 宗派 京都府京都市下京區東瓦町大本山智積院末新義真言宗智山派

(二) 本尊 不動明王

(三) 緣起 以前ハ新義真言宗山城國醍醐報恩寺末ニシテ朝日山遍照院ト號シ本尊阿彌陀如來ナリシガ

明治二十七年十月七日大本山智積院末トナル中興ヲ祐榮ト云フ寂年詳ナラズ

大正七年十月十一日時ノ住職有岳師ノ物サレタル住職相承其ノ他ニ關スル文書ハ左ノ如シ

法印祐宣 寛永十癸酉七月十五日

法印祐榮 中興開基應仁二年本尊彩色藥師御腹内ニ書附有之由相知不申候

法印日慶 延寶九年辛酉正月十日寂住職二十三年

法印慶傳 貞享二乙丑年四月十六日寂住職十六年

法印慶海 享保五庚子年二月二十日寂住職二十二年

法印慶秀 享保十七壬子年五月二十一日寂住職二十二年

法印秀範 延享三丙寅年四月十九日寂住職十五年

法印舍光 寶曆十八年四月入院天明六年十月隱居寛政七卯年安養院焼失ノ際火死

法印弘賢 寛政九丁巳年九月庫裏再建享和元辛酉年六月十五日寂

法印尊英 文政十一戊子年四月十六日寂

法印秀鏐 文政十一戊子年三月六日

法印聞惠 文政二己卯年六月初四日

法印問道 天保七丙申年十月他寺移轉

大阿闍梨法印宥寛 天保八酉年十一月十七日二色着用御四ヶ寺ヨリ免許トナル元治元年十月

當村福澤七左衛門三男得度弟子大朝、文久三年三月本堂再建安政三辰年大風雨ニテ安養院

大破ニ及ビ一橋様へ出願仕リ當寺へ合併相成所在地二町餘步當寺へ入ル明治十年二月一日

寂住職二十五年行年八十八

法印福澤宥岳 明治三年三月住職ナル明治七年岡泉村圓福寺泉福寺川島地藏院廢サレ明治

十四年敎職訓導内務省ヨリ任命同二十年五月寺附地所亂用ニヨリ二ヶ年ノ刑ヲ受ケ根嶺山

行練行致シ二十五年四月試補ヲ任命二十六年四月十三日再住職トナル

同二十七年十月七日大本山智積院末トナル

當村白石孤重郎五男始明治四十三年入寺大正四年四月十四日得度福澤宥眞ト改名

尚同寺所藏ノ文書ニ「爲末代書副置意趣之事」ト題シ漢文體ニ書キ成サレタルモノアリ同寺縁

起ノ一端ヲ知ルニ足ルヲ以テ竝ニ之ヲ譯載ス

粵ニ武州埼玉郡岩付領太田新井村ニ寺アリ寺號ハ安樂寺院號ハ遍照教院山號ハ朝日山ト云フ

昔年没落セシガ故ニ開山數百年ト云フコトヲ知ラズ村邑ノ古老ニ尋ヌルモ其ノ來由ヲ覺エタ

ル人ナシ旨ニ中古我が師ハ同國足立郡中平塚郷ノ人俗性ハ小崎氏幼稚ノ頃ヨリ剃髮染衣ノ身

トナリテ佛道ニ眼ヲ曝シ釋氏ノ流ヲ汲ンデ同郡同邑觀藏院ノ弟子トナリ法名ヲ號シテ日慶ト

云フ不思議ノ因縁アリテ正保三丙戌歲ヨリ寛文八戊申歲ニ至ルマデ安樂寺ノ住持ヲ勤メ玉フ

然リト雖モ此ノ寺ノ法流退轉ニ單ビ開基ノ年代覺束ナシ則チ寺ノ本尊ハ阿彌陀如來堂ノ尊體

ハ藥師如來ナリ此ノ藥師破損シテ像貌正シカラズ故ニ他方ヲ乞ヒ修興ノ時彼ノ尊像ノ胸中ニ

意趣ノ文アリ先年再興ノ趣ヲ記セリ其ノ時代ヲ見ルニ應仁二戊子年祐榮法印之ヲ修理ストア

リ夫レヨリ天和三癸亥歲ニ至ルマデ二百十六年ナリ古蹟ナルコトハ何百年トモ計リ難シ然シ

ナガラ法流退轉ヲ日夕ニ嘆キ三寶ニ皈依シ神祇ヲ祈ル我レ祖生ハ師範日慶ト同シク足立郡大

針村ナリ然ルニ俗性ヲ削テ佛學ニ志シ出世成就ヲナサント欲シ二十餘年以前寛文ノ頃上京セ

リ、其ノ砌幸上ノ醍醐報恩院殿水本法務大僧正ヲ拜シ奉リテ師資相承ノ印璽ヲ望ム速ニ本末

天和三癸亥歲二月吉日

慶
傳

大字太田新井宿新井耕地ニ在リ

(一) 宗派 眞言宗

(二) 本尊 地藏菩薩

(三) 緣起 元祿五申年ノ創立ナリト云フ

大字彦兵衛清右衛門ニ在リ

(一) 宗派 北葛飾郡西大輪村迦乘院末金光山卜號ス

(二) 本尊 釋迦如來

(三) 緣起 不詳

不動堂

大字彦兵衛清右衛門ニ在リ

(一)	宗派	曹洞宗
(二)	本尊	不動尊
(三)	緣起	不詳

(一)	(二)	(三)
宗派	本尊	緣起
曹洞宗	不動尊	不詳

第十二章 各種團體

第一節 日勝村農會

日勝村農會ハ明治三十九年以前ハ其ノ實體ニ於テ未ダ獨立ノ團體トナラスシテ村費ヨリ幾分ノ補助ヲ得テ僅カニ執行セシ感ナリ明治三十八年十月農會令改正セラル、ヤ明治三十九年三月二十七日總會ヲ開キ同年豫算ヲ決議シ役職員ヲ選舉選任シ活動ノ歩ニ入リタリ後明治四十二年十月會則ノ一部ニ變更ヲ加ヘ明治四十五年六月會則全部ヲ改正シ大正十一年四月改正農會法發令セラレタルニヨリ大正十二年一月總會ニ於テ新農會法ニ則リ會則變更ヲ決議シ今日ニ至レリ

一、經費ノ狀況

年度	科目	會費	雜收入	繰越金	補助金	合計	事務費	會議費	事業費	負擔金	合計
明治卅九年度		二九、七四六	一、〇七〇			一四〇、八六六	二、〇〇〇	一八、〇〇〇	八、九八〇	一三、〇一〇	一三三、〇〇〇
同四十二年度		二九、一三〇		一七、五二六		二六、六四六	四、四四〇	七、〇〇〇	六、八七〇	九三、七七三	二〇九、〇八三
同四十四年度		二四、二七二		七、四七三		二五、〇七四	五、四四〇	七、〇〇〇	六、五二九	五三、二一〇	二四九、九五五

大正元年度	一七、八九〇					一七、八九〇					一七、八九〇
同二年度	一七、二七五					一七、二七五					一七、二七五
同三年度	三〇、四二五					三〇、四二五					三〇、四二五
同四年度	四九、三八〇	九八、九三七	一三八、二八	八六、〇〇〇	三七、四三五	一、〇八〇	七、〇〇〇	一五、一三五	一〇〇、四二〇	三七〇、六三五	三九七、四〇七
同五年度	四四、五三〇	〇、四八〇	一、八〇〇	一〇、〇〇〇	四五、八一〇	七五、八二〇	一〇、〇〇〇	一〇、一七九	一〇九、八六〇	三九七、四〇七	三九七、四〇七
同六年度	四九、六三〇	九八、六五〇	五、四〇〇	一、〇〇〇	六六、六八三	一〇〇、二五〇	七、〇〇〇	三五、〇七〇	二〇九、〇一〇	六六六、九七〇	六六六、九七〇
同七年度	六四、八五〇	二六、八五〇	二、七二三	一、〇〇〇	六八、〇二三	九八、一〇〇	七、〇〇〇	二二、八四〇	二五、四三〇	五八〇、〇八〇	五八〇、〇八〇
同八年度	八九、八七〇	一九、五二〇	一〇、〇四三	七、八〇〇	一〇九、七四三	二九、六七〇	一四、〇〇〇	六六、一〇九	二七〇、八三〇	一〇七五、五九〇	一〇七五、五九〇
同九年度	一八、二八〇	八二、二二〇	二、八四三	三七、〇〇一	一五、三四三	三九、九九〇	三、九〇〇	九九五、七七〇	四四五、八七〇	一、七二一、八三〇	一、七二一、八三〇
同十年度	一五、七〇〇	一、〇三〇	四四、五二五	四四、〇〇〇	一四八、〇五三	三三、〇四〇	三、六〇〇	一、〇九五	一五四五、六四〇	一、九四一、九五	一、九四一、九五
同十一年度	一、〇三、九二〇	四、五、六九五	五、五、五七七	一〇〇、二、四八三	六、六、二二二	二〇、二、〇〇〇	一、七九六	八〇、五、六八〇	一、九七八	六、八〇	六、八〇
同十二年度	一、五、一、三三〇	三、五、〇〇〇	二、九、八〇五	四、八、八二、三五七	二、八、三八四	〇、七五	六、〇、〇〇〇	六、二、五、九八〇	五、〇、四、九二〇	一、四、六、四、九七五	一、四、六、四、九七五

大正十三四年度經費收入支出豫算

科 目	大正十三年度	大正十四年度
一、會 員 費	一、一七・〇〇〇	一、七一九・〇〇〇
二、補 助 金	一、〇九七・〇〇〇	一、六九九・〇〇〇
三、雜 收 入	七八七・〇〇〇	六四六・〇〇〇
四、繰 越 金	一・〇〇〇	二・〇〇〇
合 計	二、七〇〇・〇〇〇	二、五三五・〇〇〇
一、事 務 所 費	三二一・〇〇〇	三二一・〇〇〇
報 酬	一・〇〇〇	一・〇〇〇

諸 給 與	二六三・〇〇〇	二六三・〇〇〇
二、會 議 費	三八・〇〇〇	三八・〇〇〇
三、事 業 費	一〇三・〇〇〇	一〇三・〇〇〇
技 術 員 費	六六・〇〇〇	六六・〇〇〇
立 毛 共 進 會 費	二七・〇〇〇	二七・〇〇〇
桑 園 品 評 會 費	一・〇〇〇	一・〇〇〇
堆 肥 競 進 會 費	一、六四四・〇〇〇	一、四八四・〇〇〇
採 種 場 費	六三・〇〇〇	六三・〇〇〇
苗 代 共 進 會 費	九五・〇〇〇	九五・〇〇〇
園 藝 獎 勵 費	一四・〇〇〇	一四・〇〇〇
撰 種 及 害 虫 驅 除 費	二・〇〇〇	二・〇〇〇
耕 地 巡 回 指 導 費	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇

穀物検査助成費	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
桑苗圃費	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
指導地費	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
農事保險組合	一六〇、〇〇〇	
獎勵費	一二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
農事改良獎勵諸費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
品種試驗地費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
講習講話會費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
視察費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
統計費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
表彰費	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
雜費	五八〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
四、負擔費	五八〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
郡農會員負擔費	五八〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
五、豫備費	六二〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇
合計	二、七〇〇、〇〇〇	二、五三五、〇〇〇

二、事業ノ大要

技術員設置

世運ノ進歩ニ伴ヒ農業技術農業經營ニ於テモ近時改善進歩セラレタリ從ツテ之レカ指導ヲ爲シ經濟的農業ヲ行フニ於テ技術員ノ必要痛切ニ感セラレタリ依テ大正六年四月ヨリ篠津村農會ト協同シ技術員設置ヲ爲シタリ

自大正六年四月至大正七年三月篠崎直次郎

自大正十年四月至大正十一年三月黒澤敬

自大正十一年四月至大正十二年三月八木原玄之助

自大正十四年四月現任川崎修一

立毛共進會

水陸稻大小麥等支要農業生産物ノ改善進歩ヲ計ル爲メ毎年開催セル中途ニ於テ多收穫共進會ニ改メタル時アルモ現在ニ於テハ立毛共進會トシ立毛ニ依リ審査シ等級ヲ決定シ優良者ニ褒賞ヲ授與ス

桑園品評會

養蠶ハ唯一ノ副業ナルヲ以ツテ桑園品評會ヲ開催シ桑園改良ノ一途トナス

堆肥共進會

經濟的農業經營ヲ成ス一端トシテ堆肥ノ製造ヲ獎勵スル爲メ共進會ヲ開ク

採種場指導地設置

優良種子栽培改良ノ爲メ採種場及ヒ指導地ヲ設置ス設置ハ農會ニ於テ補助シ村內九農事改良組合ヲシテ設置セシメタリ

苗代共進會

苗代ノ良否ハ直チニ本田作ノ優劣ニ關係ヲ有スルヲ以テ之レカ共進會ヲ開催シ優良苗代ヲ作ルヲ目的トス

撰種及ヒ害虫驅除

各大字ニ固形ニガリヲ配布シ鹽水選ヲ爲サシメ溫湯浸法ニヨリ麥奴豫防ヲ勵行ス稗ノ拔取及害虫驅除ニ對シテハ拔取及害虫驅除ニ對シテハ拔取又ハ驅除數ニヨリ賞品ヲ與ヘテ勵行ス

耕地巡回指導

役職員耕地ヲ巡回シテ作毛ヲ調査シ優良ナル者ニ賞品ヲ與フ劣等ナル作毛ニ付キテハ之レカ原因ヲ調査シ技術ノ改善ヲ爲ス

桑苗圃設置

苗圃ヲ設置シ廉價ヲ以ツテ苗ノ需要ニ應スルヲ目的トス

園藝獎勵

副業トシテ蔬菜果樹ノ栽培ヲ適當ナル程度ニ行ハシメ農業收益ノ増加ヲ計ル

農事改良組合事業獎勵

改良組合ヲシテ組合員一致協力農事ノ改良發達ヲ計リ諸般事業ヲ適切有効ナラシメル爲メ補助金ヲ

與フ

品種試驗地設置

本村ニ適當ナル品種ヲ發見スル爲メ試驗地ヲ設置ス

講習講話

農事ニ關スル講習講話ヲ開催ス

農事視察

毎回農會役職員其ノ他ヲ以ツテ縣下農事視察ヲ爲ス又時々縣外視察員ヲ派遣ス

統計

重要農物ノ生産統計ヲ爲ス

表彰

模範農業者及模範農家ヲ表彰ス

三、大正十三年度事業概況

諸共進會ノ狀況左ノ如シ

大小麥立毛共進會

大麥之部

小麥之部

水陸稻立毛共進會

一等 三點

一等 一點

一等 四點

二等 二點

二等 二點

二等 二點

三等 十點

三等 三點

三等 三點

十九點

七點

二十八點

水稻之部 一等 四點 二等 十三點 三等 二十八點
陸稻之部 一等 二點 二等 七點 三等 十七點
堆肥製造共進會 一等 一點 二等 三點 三等 七點

苗代品評會

一等 二點 二等 五點 三等 十二點

田稗拔取狀況

田稗拔ニ關シテハ各農事改良組合ニ於テ實行スル外農會ニ於テモ之レカ拔取ヲ獎勵スル爲メ拔取ノ上農會ニ提出シタル者ニ對シ賞品ヲ與フ其ノ提出シタル束數八百十六束ナリ

野鼠驅除

野鼠ヲ驅除スル爲メ藥品ヲ混入シ材料ヲ調ヒ驅除ス其ノ反別百九十四町步ナリ

講習講話會

三月五日ヨリ七日迄婦人養蠶講習會ヲ開催ス

講習シタルモノ六十四人ナリ

三月二十四日郡農會主催農事講演會ヲ本村ニ開催セラレタルヲ以テ之ヲ援助シ農村振興ノ一助トシタル山崎延吉氏ノ講演アリタリ

繭正量取引

春蠶繭ノ正量取引ヲ爲ス其貫數八百一貫七百二十匁ナリ

農事視察

九月十六日熊ヶ谷蠶業試驗場及農事試驗場玉井種藝部ヲ視察ス參加人員二十八人ナリ

品種試驗地設置(水稻)

場所 千駄野 管理人 折原崎次郎

品種 岡取十五號、撰一、二關、不作不知、無芒愛國崎一號、同二十二號、坊主福島、太郎兵衛糯埼一號、大正糯、小針糯、

本郡農會經營ニ係ル品種比較試驗ヲ本村內ニ委託セラレタルモノ左ノ如シ

イ、甘 藷

場所 太田新井 管理人 山口忠吉

品種 紅赤、花魁、在來紅赤、原種紅赤、在來花魁、原種花魁、在來太白、原種太白、土呂紅、相州、飯郷、

ロ、水 稻

場所 千駄野 管理人 折原崎次郎

品種 岡取十五號 早生愛國、保村八號、愛國二十號、幾早一號、同八號、同九號、無芒愛國埼一號、常豐、埼玉中七號、同七十四號、早六十一號、撰一、

ハ、陸 稻

場所 太田新井 管理人 山口忠吉

品種 常陸錦、戰捷、大畑、浦三、長柄早生凱旋、美濃糯、山口中糯、寶糯、

二、桑苗圃

場所 瓜田ヶ谷 管理人 八木橋貞助

品種 春日、清十郎、改良、鼠返、魯國野桑、多胡、市兵衛、魯桑

四、役職員

會長、副會長

會長 自明治三十九年三月

至大正八年二月 木村愛之丞

現會長 自大正八年二月山崎敬三

副會長 自明治卅九年三月

至大正八年二月竹内嘉藤次

現副會長自大正八年二月和泉龍助

總代

齋藤泰助 瀧谷塊一 利根彌左衛門 内田武左衛門 倉持政三郎 田中民藏 江原定七 土橋秀正

岩上六左衛門 小島武八 安藤音次郎 齋藤龜吉 吉田將監 竹内祐藏 齋藤長三 川野政吉 齋藤

正三郎 渡邊三左衛門 山口忠吉 鈴木勇藏 島村善次郎

評議員

齋藤泰助 横田辨藏 中村爲次郎 折原桑次郎 平野啓三郎 齋藤正三郎 富士庫理兵衛 山崎藤吉

郎 細井房之助

理事

利根川孫左衛門 野口宇三郎 高橋源三郎 加藤久内 吉澤市太郎 鈴木儀左衛門 鈴木忠左衛門

齋藤新兵衛 鬼久保庄一

幹事

木村愛之丞

技手

川崎修一

書記

山口惣七 富澤周哉

第二節 農事改良組合

六、組織事業及現組合長
農事ノ改良發達ヲ計リ農家福祉ノ増加ヲ期セントスルニハ農會ノ活動ニ待ツモノ多シ而シテ農會活動ノ基礎ハ各部落ノ共力一致ニヨラサルヘカラス依ツテ本縣會ニ於テモ農事ニ關スル小組合ヲ設置シ村

會ト關聯ヲ保チ以テ農事上諸般ノ向上ヲ計ラシムルコトヲ獎勵シタリ本村ニ於テモ大正十年四月各大字ヲ區域トシ農事改良組合ヲ組織シタリ即チ岡泉實ヶ谷千駄野、小久喜、上野田、下野田、爪田ヶ谷太田新井、彦兵衛、ノ農事改良組合ノ九組合ナリ

其目的同一ニシテ實行事項モ殆ント同シ大要左ノ如シ

米麥指導地ノ設置並栽培改良

優良品種ノ選擇及普及

共同選種

自給肥料ノ生産

病虫害ノ驅除豫防

水相互共濟ノ實行

裏作栽培及普及

肥料共同購入及配合

牛馬耕利用及農具ノ改良

深耕

實地視察

勤儉貯蓄ノ勵行

組合員ノ表彰

副業ノ經營

時間勵行

耕作地ニ標札スルコト

採種組合ノ經營

各組合ノ現組長

岡泉農事改良組合	利根川彌左衛門
千駄野農事改良組合	高橋源三郎
小久喜農事改良組合	鬼久保庄一
上野田農事改良組合	安藤寅之助
下野田農事改良組合	吉澤一太郎
爪田ヶ谷農事改良組合	齋藤新兵衛
太田新井農事改良組合	山口忠吉
實ヶ谷農事改良組合	野口宇三郎
彦兵衛農事改良組合	鈴木儀左衛門

二、大正十三年事業概況

(一) 指導地探圃

組合別	指導地			採種			圃		
	反大	反水	反陸	反水	反陸	反大	反小	反大	反甘
岡 泉	二、二〇〇	二、二〇〇	—	二、八〇〇	〇、五〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	一、〇〇〇
實ヶ谷	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	一、〇〇〇	〇、五〇〇	—	—
千駄野	一、〇〇〇	二、二七	—	五、五〇〇	〇、五〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	〇、五〇〇	—
小久喜	一、二〇〇	一、〇〇〇	—	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	—
上野田	一、〇〇〇	—	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	—	—
下野田	一、〇〇〇	—	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	—
爪田ヶ谷	二、〇〇〇	一、一〇〇	—	〇、五〇〇	〇、五〇〇	—	一、〇〇〇	—	〇、五〇〇
太田新井	八〇〇	—	二、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	—
彦兵衛	一、〇〇〇	—	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	〇、五〇〇	—	—
計	一〇、一〇〇	七、四七	六、〇〇〇	二、三六	五、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
									三、五〇〇

(二) 選種

組合名	稻 鹽 水 選		麥 奴 豫 防		計	
	施行人員	石 數	施行人員	石 數	人 員	石 數
岡 泉	四〇人	六、五〇〇	三八人	六、〇〇〇	七八人	一二、五〇〇
實ヶ谷	四〇	九、五二五	四〇	六、七三〇	八〇	一六、二五五
千駄野	一四三	一三、〇七五	七六	八、三四五	二一九	二二、四二〇
小久喜	一二四	九、七〇五	七三	五、〇六〇	一九七	一四、七六五
上野田	四〇	六、五〇〇	三二	六、三〇〇	七二	一二、八〇〇
下野田	一五	二、八五〇	三一	五、七四〇	四六	八、五九〇
爪田ヶ谷	二三	四、五〇〇	二七	四、八四〇	五〇	八、三四〇
太田新井	三五	五、五〇〇	三〇	五、六〇〇	六五	一一、一〇〇
彦兵衛	一一	三、二〇〇	一三	二、七〇〇	二四	五、九〇〇
計	四七一	六、一三五五	三六〇	五、一三二五	八三一	一二、二六七〇

(三) 其他、農事懇談會、田稗拔取、堆肥製造、野鼠驅除、肥料共同購入等ナリ

三、經費狀 況

大正十三年度決算

組 合 名	金 額
岡 泉農事改良組合	六七・四五〇
實ヶ谷 同	四四・四五〇
千駄野 同	一〇三・一〇〇
小久喜 同	六七・五五〇
上野田 同	五四・一五〇
下野田 同	三八・四〇〇
爪田ヶ谷 同	三三・六五〇
太田新井 同	三九・九五〇
彦兵衛 同	二二・四五〇
計	四七〇・一五〇

第三節 日勝村教育會

本會ハ明治四十四年一月組織セルモノニシテ本村教育ノ退步發展ヲ謀ルヲ以テ目的トス大正十四年四月現在ニ於テ會員二百四十七人ヲ有ス

一、規約及規程

日勝村教育會規約

- 第一條 本會ハ日勝村教育會ト稱シ其ノ事務所ヲ本村小學校内ニ置ク
- 第二條 本會ハ本村教育ノ進歩ヲ謀ルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ本村在住者及本村出身者ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ハ特ニ本村教育ニ功勞アル者及本村ニ關係アル名士ヲ請シテ名譽會員トス
- 第五條 本會ノ事業ハ概ネ左ノ如シ

一、學齡兒童ノ保護

- い、貧窮兒童ヲ救護スルコト
- ろ、兒童ノ就學及出席ヲ獎勵スルコト
- は、兒童ノ虐待ヲ防止スルコト

二、青年子女ノ教育

- い、夜學ヲ獎勵スルコト

三、休日學校ヲ設クルコト

二、風紀ノ振肅

- い、講話會ヲ開催スルコト
- ろ、借樂場ヲ設クルコト

は、圖書館ヲ設クルコト

に、篤志者及善行者ヲ表彰スルコト

但本條規定ノ實行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 本會ハ毎年三月及八月ノ二回總會ヲ開キ左ノ一項若クハ數項ヲ舉行ス

一、會務ノ報告

一、本會經費豫算ノ議決及決算ノ承認

一、役員ノ選舉

一、教育又ハ實業ニ關スル講話

一、表彰

第七條 本會ハ隨時役員會ヲ開キ本會事業ノ計畫ヲナスモノトス

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長一名 本村長ヲ推戴ス

一、副會長一名 本村小學校長ヲ推戴ス

一、理事二名 會長之ヲ選任ス

一、幹事十名 本村各大字ヨリ一名ツ、小學校ヨリ一名ヲ選出シ其ノ任期ヲ二ケ年トス

第九條 本會役員ノ任務ハ左ノ如シ

一、會長ハ本會ノ事務ヲ統理ス

一、副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理ス

一、理事ハ庶務會計ヲ掌ル

一、幹事ハ其ノ大字若クハ小學校ニ於ケル會務ヲ掌ル

第十條 本會ノ經費ハ會費寄附金及村補助金ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十一條 本會々員ハ會費トシテ年額金五十錢ヲ齎出スルモノトス (大正九年四月七日改正)

第十二條 本會ノ規約ハ總會ノ決議ニヨリ改正スルコトヲ得

明治四十四一月二十九日議決

日勝村教育會學齡兒童保護規程

第一條 本村學齡兒童ヲ保護センカ爲メ本會規約第五條但書ニ據リ此ノ規程ヲ設ク

第二條 貧窮兒童ニシテ就學セルモノニハ其ノ情狀ニヨリ左ノ一種ニ別チテ救護ヲ加フルモノトス

一、當該學年所要教科書ノ貸與並ニ學用品一切ノ給與

二、同上及獎學金ノ給與

第三條 學用品ハ隨時之ヲ給與シ獎學金ハ一日金二錢ノ割合ヲ以テ出席日數ニ應シ毎月末之ヲ給與ス

第四條 救護ヲ加フヘキ兒童及救護ヲ止ムヘキ兒童ハ每學年末ニ於テ會長之ヲ決定スルモノトス

第五條 貧窮兒童及其ノ保護者又ハ雇傭者ニシテ就學及出席ニ關シ其ノ行爲他ノ模範タルヘキ者ハ

之ヲ表彰スルモノトス

第六條 就學兒童ニシテ無缺席二ケ年以上ニ及ヒタル者ハ毎學年末ノ調査ニ依リ之ヲ表彰スルモノトス

第七條 學齡兒童ノ保護者又ハ雇傭者ニシテ兒童ヲ虐待酷使スル者アル時ハ適宜ノ方法ニヨリ之ヲ防止ニ努ムルモノトス

明治四十四年一月二十九日定ム

二、經費狀況

歳入

科 目	明治四十 四年度	大正元 年度	大正二 年度	大正三 年度	大正四 年度	大正五 年度	大正六 年度	大正七 年度	大正八 年度	大正九 年度	大正十 年度	大正十 一年度	大正十 二年度	同十 三年度	同十 四年度
第一 資金ヨリ 生スル收入	一五、六三	一三、六九	三、九六	一九、六六	二〇、七〇	一九、六四	二四、九六	二四、七五	二七、六〇	二六、九〇	二九、七五	二九、二〇	二九、二〇	二五、六〇	二五、六〇
預金利子	一五、六三	三、八九	三、九六	一九、七六	一九、七八	二〇、七六	一九、六四	二四、九六	二七、六〇	二六、九〇	二九、七五	二九、二〇	二九、二〇	二五、六〇	二五、六〇
第一 會費	—	—	三六、〇〇	三六、〇〇	三六、〇〇	三六、〇〇	四、四〇	四〇、五〇	四〇、五〇	六〇、八〇	五六、五〇	九四、五〇	八八、〇〇	一五、五〇	一五、〇〇
會費	—	—	三六、〇〇	三六、〇〇	三六、〇〇	三六、〇〇	四、四〇	四〇、五〇	四〇、五〇	六〇、八〇	五六、五〇	九四、五〇	八八、〇〇	一五、五〇	一五、〇〇
過年度會費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第三補助金	三、五三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

縣補助金	三、五三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
村費補助	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第四寄附金	二七、七五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
寄附金	二七、七五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第五繰越金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前年度繰越金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	三三、〇三	三三、〇三	三九、九六	二六、七六	二五、九二	二七、七〇	二四、九六	二九、九二	二八、五七	六八、四七	六三、五五	七〇、四二	四〇、五五	五八、六〇	四六、八〇

歳出

科 目	明治四十 四年度	大正元 年度	大正二 年度	大正三 年度	大正四 年度	大正五 年度	大正六 年度	大正七 年度	大正八 年度	大正九 年度	大正十 年度	大正十 一年度	大正十 二年度	大正十 三年度	大正十 四年度
第一 總會費	三、〇六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總會費	三、〇六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第二 事業費	一三、四〇	一三、四〇	六、四六	一六、四五	一八、九五	二二、四八	二二、六〇	二六、三〇	二四、六六	三三、一〇	二二、四六	九、九七五	二九、三〇	四五、八〇	三三、〇〇
學用品給與費	一三、四〇	一三、四〇	六、四六	一六、四五	一八、九五	二二、四八	二二、六〇	二六、三〇	二四、六六	三三、一〇	二二、四六	九、九七五	二九、三〇	四五、八〇	三三、〇〇
出席獎勵金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

[illegible]

備考 大正十二年度迄ハ決算大正三十四年度ハ豫算
三、最近學用品給與及出席獎勵金交附狀況

資 金 積 立	第七豫備費	合 計
—	—	三三、四〇五
—	—	一三、四〇五
二六五、〇〇	—	三三九、九九五
—	—	五九、七六五
—	—	六七、三三〇
—	—	二七、四八〇
101,400	101,400	二四三、七四〇
—	—	一〇、一九五
—	—	三八、一六〇
—	—	一六三、九八〇
—	—	五八〇、四六〇
—	—	五五九、五五五
—	—	五八四、一五〇
—	六四、100	五六六、〇〇
—	二四、100	四八六、〇〇〇

第一學期給與人員
第二學期給與人員
第三學期給與人員

五一
五〇
四六

四七
四七
四二

四五
四五
四六

出席獎勵金

月	年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度			
四月	月	給與金額 五・九八〇 ^円	給與人員 一四人	給與金額 四・一〇〇 ^円	給與人員 二人	給與金額 五・六二〇 ^円	給與人員 一五人
五月	月	七・〇二〇	一四	五・六二〇	一	七・五二〇	一
六月	月	四・七八〇	一四	四・三四〇	一二	六・九四〇	一
七月	月	六・三四〇	一四	五・四〇〇	一	六・四八〇	一四
八月	月	四六〇	一二	三二〇	一	五〇〇	一三
九月	月	五・三〇〇	一二	五・五八〇	一	五・七八〇	一
十月	月	五・二六〇	一二	五・六八〇	一	一・九一〇	一四
十一月	月	五・六四〇	一二	五・六〇〇	一	六・八四〇	一
十二月	月	四・六六〇	一二	四・四二〇	一	五・四八〇	一

四、總會

大正二年四月十三日第一回總會ヲ開キ大正二年度豫算ヲ決議シ小學校兒童三名農業補習學校生徒二名
青年團員二名及村民ヲ表彰ス講演會ヲ開會シ天野祐明氏ノ講話ヲ乞フ

大正三年三月二十一日第二回總會ヲ開キ大正三年度豫算ヲ決議ス小學校兒童四名農業補習學校生徒一
名ヲ表彰ス天野祐明氏ノ講話ヲ乞フ

大正四年三月三十日第三回總會ヲ開會シ大正三年度決算承認及大正四年度豫算ヲ決議ス講演アリタ
リ

催眠術ノ原理及實驗

文學士村上辰五郎氏

大正六年二月十一日第四回總會ヲ開キ大正四年度決算承認及大正五年度豫算ヲ決議ス小學校生徒三名
農業補習學校生徒二名ヲ表彰ス講話アリタリ

柳郡教育會副會頭 小島柏壁中學校教諭 坂口柏壁實科女學校長

大正七年三月二十一日第五回總會ヲ開キ大正五年度決算承認及大正六七年度豫算ヲ決議ス小學校兒童一名農業補習學校生徒二名ヲ表彰ス鎌倉郡長松岡岩槻警察署長穴澤郡指導員ノ講話アリタリ

大正八年三月二十二日第六回總會ヲ開キ大正六年度決算承認及大正八年度豫算ヲ決議ス農業補助學校生徒一名ヲ表彰ス同日生徒父兄會ヲ開ク

大正九年四月七日第七回總會ヲ開キ大正七年度決算承認及大正九年度豫算ヲ決議ス小學校兒童農業補習學校生徒各三名ヲ表彰ス天野雉彦氏ノ講話アリタリ

大正十年四月十一日第八回總會ヲ開キ大正八年度決算承認及大正十年度豫算決議ヲ爲ス上野田青年會岡泉學友自治團農業補習學校生徒三名ヲ表彰ス同日敬老會ヲ開キ數ヘ年七十七以上ノモノ六十二名ヲ招待シ紀念品及祝菓子ヲ贈呈ス小學校兒童ノ學藝ヲ演シ慰安ス

大正十一年四月三日第九回總會ヲ開キ大正九年度決算承認及大正十一年度豫算ヲ決議ス小學校兒童農業補習學校生徒各一名ヲ表彰ス左ノ講演アリタリ

歐洲ノ思潮ト吾國民ノ覺悟

報知新聞記者 山森利一氏

地方自治ニ就テ

同 秦 滿氏

大正十二年十一月十八日第十回總會ヲ開キ大正十一年度決算承認及大正十二年度豫算ヲ決議ス小學校

兒童二名及九月一日關東大震災ニ際シ避難救護上奇特ノ點ニヨリ太田新井下野田青年會ヲ表彰ス左ノ講演アリタリ

歐米漫遊談 鐵道省參事 新井堯爾氏

大正十三年九月一日第十一總會ヲ開キ大正十二年度決算承認及大正十三年度豫算ヲ決議ス小學校兒童農業補習學校生徒各一名ヲ表彰ス左ノ講演アリタリ

國民精神作興

曹洞宗教學部主事 久保田實宗氏

同日本會主催ニヨリ關東大震災橫死者靈慰祭ヲ執行ス

大正十四年四月十九日第十二度總會ヲ開キ大正十四年度豫算ヲ決議ス小學校兒童二名農業補習學校生徒一名ヲ表彰ス左ノ講演アリタリ

同際外交ト日本ノ將來

國民新聞社 堀田善太郎氏

第四節 日勝村青年會

一、沿革

明治二十八年日清ノ戰捷ヲ記念セシカ爲メ本村青年有志ヲ以テ日勝青年會ヲ組織セリ是レ本村ニ於ケル青年會ノ濫觴ナルモ久シカラスシテ廢絶セリ後明治四十四年四月太田新井青年團先ツ成リ次テ

小久喜實ヶ谷兩青年團成立シ大正二年四月十三日三青年團體ノ聯合總會ヲ開キ出席會員二百餘名其他ノ參列者約百名ニ及ヒ頗ル盛況ヲ呈セリ此日本縣師範教諭大西郷氏ノ講演及講談福引等ノ餘興アリタリ

大正四年十一月各大字青年團體完ク成立セルヲ以テ之ヲ統一センカ爲メ日勝村青年會ヲ組織シ同月十四日總會ヲ開キ會則ヲ議定シ了リテ運動會ヲ舉行セリ實ニ御大禮中大嘗祭ノ當日ナリ此ノ舉ハ御大禮記念事業ノ一トシテ在郷軍人分會ト聯合シテ行ヒシ者ナレハ來會者三百餘名ニ及ヒ本會ノ前途ニ光明ノ赫灼タルヲ感セシメタリ

本會設立以來茲ニ滿十年其ノ間本會ノ事業ニ隆昌アリ所屬團體ノ組織ニ變遷アリシト雖モ概シテ順潮ニ進展シ連綿今日ニ及ヘリ

三、會 則

日勝村青年會々則

第一條 本會ハ日勝村青年會ト稱シ日勝村各大字青年團體ヲ以テ組織ス

第二條 本會ハ所屬青年團體ノ統一ヲ計リ青年ノ心身ヲ鍛鍊シ質實剛健ノ氣風ヲ養成スルヲ目的トス

第三條 本會ハ所屬青年團體員ヲ分チテ少年部（年齡滿十二歲以上二十歲以下）壯年部（年齡滿二十歲以上）ノ二部トス

第四條 本會ハ本村長ヲ總裁ニ推戴シ其ノ統督ヲ受ク

第五條 本會ハ本村ニ於ケル左ノ人々ヲ賛助員トス

一、役場吏員 一、小學校職員 一、區 長 一、村會議員

一、學務委員 一、學 校 醫 一、農 會 長 一、軍人分會長

一、駐在巡查 一、鎮守社掌 一、寺院住職 一、名 望 家

第六條 本會ノ役員ハ左ノ如シ

一、會 長 本村小學校長ヲ推戴ス

一、副會長 一名 本村小學校訓導ヲ推戴ス

一、幹 事 九名 所屬青年團體長ヲ以テ之ニ充ツ

一、小年部長 九名 所屬青年團體ヨリ一名ツ、ヲ選出ス

一、壯年部長 九名 所屬青年團體ヨリ一名ツ、ヲ選出ス

第七條 本會役員ノ任務ハ左ノ如シ
會長ハ一切ノ會務ヲ統理シ所屬青年團體ヲ指導ス

副會長ハ會長ヲ輔佐ス

幹事ハ會計及庶務ヲ掌理ス

少年部長ハ其大字少年部ノ事務ヲ處理ス

壯年部長ハ其大字壯年部ノ事務ヲ處理ス

第八條 本會ノ事業ハ概ネ左ノ如シ

(一) 少年部

- 1、毎年數回會合シテ本會ノ目的ニ恰適ナル事業ヲ行フコト
- 2、補習教育ヲ受クルコト
- 3、壯丁者ハ本村施設ノ壯丁教育ヲ受クルコト
- 4、本村小學校ニ於ケル三大節及開校記念ノ儀式ニ參列スルコト
- 5、小村小學校ノ運動會ニ參加スルコト
- 6、壯年部ト共ニ公共事業ノ實行又ハ幫助ヲナスコト

(二) 壯年部

- 1、少年部ノ事業ニ參加シ又ハ幫助スルコト
- 2、公共事業ノ實行又ハ幫助ヲナスコト
- 3、有益ナル事業ノ視察又ハ旅行ヲナスコト
- 4、農事改良ニ關スル事項ヲ行フコト
- 5、風俗習慣ノ改善ニ關スル事項ヲ行フコト

第九條 本會ハ毎年春秋二回總會ヲ開キ左ノ一項乃至數項ヲ行フ

一、本會々務及所屬青年團體ノ事業報告

二、協議

三、會員ノ談話

四、講話講習

五、運動及娛樂

第十條 本會ノ經費ハ所屬青年團體ニ於テ其ノ團體員數ニ應シテ之ヲ負擔ス

附 則

第十一條 本會ハ總會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ改正スルコトヲ得ス

第十二條 本會則ハ大正四年十一月ヨリ之ヲ施行ス

三、事業

(一) 總會 毎年二回之ヲ開キ主トシテ講演運動娛樂等ヲ行ヘリ今試ニ毎會ニ於ケル講演事項

ノ主ナルモノヲ列舉セン

國民道德ノ基礎

歐洲戰亂ノ狀況ト我國民ノ覺悟

朝鮮滿州支那視察談

堆肥ノ必要

日露戰爭ト歐洲戰亂トノ比較

青年ノ覺悟

誠實勤勉質朴剛健共同和樂

國家觀念

奧平聯隊區司令官

吉江協中氏

石田福太郎氏

篠崎農業技手

北原砲兵大尉

松本郡書記

鈴木多吉氏

二宮中佐

世界ノ大勢ト國民ノ覺悟
國體ノ精華ト民力涵養

牲ト共同

青年日ノ設定

家族制度

江戸城ノ沿革

修養ノ必要

世界ノ大勢

歐米視察談

列國軍備ノ現勢ト國民ノ覺悟

國民精神ノ作興

勤儉週間設定ト國民ノ注意

日米問題ニ對スル國民ノ態度

國際ノ現狀ト國民ノ覺悟

講習會 第一回ハ大正九年四月二、二兩日ニ亘リテ之ヲ開催セリ講習事項ハ左ノ如シ

青年會ノ目的及會員ノ責務

國家ノ組織及目的

衆議院議員 山崎 猛氏

粕壁中學校長 野山 忠幹氏

衆議院議員 山崎 猛氏

本會長 石田 福太郎氏

熊倉 定右衛門氏

本會長 石田 福太郎氏

陸軍少將 伊豆 凡夫氏

法學士 利根 中佐

步兵大尉 新井 堯爾氏

本會長 高山 正一氏

本會長 石田 福太郎氏

本會長 山崎 敬三氏

本會長 石田 福太郎氏

國民新聞社弘通部長 堀田 善太郎氏

本會長 石田 福太郎氏

本會長 石田 福太郎氏

本村長 山崎 敬三氏

農村青年會ノ事業

町村ノ組織及事務

日勝村ノ現勢

世界ノ大勢(1、國土ノ變更 2、經濟ノ大勢 3、現下ノ思想)

公民ノ心得

公民精神

法律ト社會生活

近代思潮ト思潮ノ注意

日勝村ノ現勢

國民精神ノ作興

列國軍備ノ現狀

其他ノ事業

1、大正五年十一月三日立太子禮奉祝式ヲ舉行ス

2、大正七年三月十日實行條目ヲ定ム

實行條目

岩槻小學校長 小林 好三氏

本村長 山崎 敬三氏

本村長 山崎 敬三氏

本會長 石田 福太郎氏

南埼玉郡書記 川瀬 氏

本會長 石田 福太郎氏

本會長 石田 福太郎氏

南埼玉郡長 岡 利和氏

埼玉縣社會課 三浦 氏

本村長 山崎 敬三氏

布教師 山田 仙遊氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

陸軍歩兵大尉 福榮 眞平氏

一、時間ヲ確守スルコト

二、襟卷ヲ用ヒサルコト

三、外出ノ際ドテラヲ着用セサルコト

四、帶ヲ正シクシメルコト

3、大正九年十月十九日教育勸語煥發滿三十年記念式ヲ舉行ス

4、大正十一年三月十日會員百十四名 宮城及新宿御苑拜觀ノ光榮ニ浴シ同時ニ明治神宮ニ參

拜セシハ永遠ニ記念タルヘキ事業ナリ

5、大正十三年一月二十六日 御成婚祝賀式ヲ行フ同日自今毎月十日ヲ以テ青年模範日ト定メ

會員一同模範的生活ヲナスコト、ス

6、大正十三年三月十日 大詔奉戴式ヲ舉行ス

7、大正十三年十月三日 詔書贈本拜戴式ヲ行フ

8、奉仕の事業ノ主ナルモノハ大正十年本村小學校新改築ニ際シ土砂運搬ノ勞ニ當リテ其ノ工

事ヲ補助セシコト大正十一年二月本村費ノ補助及小學校職員ノ寄附ヲ加ヘ日本青年會館建

設費中へ金二百八圓ヲ寄附シタルコト大正十二年九月ノ大震災ニ方リ金品ヲ醸出シテ本村

ヘノ避難者ヲ救護慰問シ且ツ縣内罹災者ニ對シ義捐金ヲ贈リタルコト等ナリ

9、體育方面ニツキテハ毎年一回運動會ヲ催シ來レリ大正七年以來ハ毎年冬季一二週間劍道練

習會ヲ開キ大正十二年ヨリハ更ニ春季秋季等ニ於テ競技練習會ヲ催セリ

四、所屬青年團體ノ事業

岡泉青年會

(一) 總

會 大正五年ヨリ毎年三回總會ヲ開キ講話運動娛樂等ヲ行フ

(二) 道

路修理 大正十年ヨリ毎年春季ニ於テ之ヲ行フ

(三) 貯

金 大正十二年ヨリ行フ現在貯金者三十九名貯金額四十五圓ナリ

(四) 基

本金 大正五年ヨリ積立テ現在三十圓ヲ有ス

(一) 總

會 每年春秋二回之ヲ開キ講話會員ノ談話及娛樂ヲ行フ

(二) 貯

金 大正十四年二月ヨリ會員各自之ヲ行フ貯金額調査未了

(一) 千

駄野青年會

(一) 總

會 每年春秋二回之ヲ開キ會員ノ談話及娛樂ヲ行フ

(二) 懇

談會 意志ノ疏通ヲ計ルタメ毎月一回之ヲ開ク

(三) 體

育 休日ヲ利用シ時々體育競技ノ練習ヲナシ又時々遠足旅行等ヲナス

(四) 補

習教育獎勵 大正十一年ヨリ會員中ノ學習學齡者ニ對シ教科書ヲ貸與セリ

(五) 貯

金 御大典記念事業トシテ毎月一人地五十宛貯金スルコト、セシモ今ハ之ヲ中止シ大

(六) 正

十四年二月ヨリ復興貯金トシテ全會員之ヲ行フ

(七) 基

本財產造成 毎年一回總會員ヲ以テ用水浚渫ヲナシ其ノ賃金ヲ基本地トス現在金二十圓ヲ

有ス

(七) 揭示場設置 大正十二年之ヲ設置シ時事ヲ揭示ス

小久喜青年會

(一) 總會 毎年二回開催シ講話演說娛樂等ヲ行フ

(二) 製繩器械 大正六年三月之ヲ備ヘ會員其他ニ貸與ス

(三) 共同耕作 大正六年三月當大字久伊豆神神境内ノ畑一段八畝歩同神社所有畑三畝歩ヲ借入レ

之ヲ耕作ス同年同年内ノ畑五畝歩ニ桐苗ヲ同十四年三月同所有畑三畝歩ニ桑苗ヲ植付ク

(四) 貯金 大正十年二月ヨリ共同貯金(一人月額金十錢)ヲ行フ大正十四年一月ヨリ復興貯

金トシテ各自月掛貯金ヲナス其ノ金額多キハ五圓ニシテ少キハ二十錢ナリ

上野田青年會

(一) 總會 毎年三月八月ノ二回之ヲ開キ會務ノ報告役員ノ選舉事業ノ協議講話娛樂等ヲ行フ

(二) 桑園設置 大正九年三月四日捨場開墾ヲ開始シ同十一月終了ス延人員二百三人ヲ要セリ同月

十四日開墾成功祝賀會ヲ開キシニ大字内有志ヨリ金六十五圓白米二斗六升ノ寄贈ヲ得タリ同月十

七日更ニ前西ヶ崎捨場ヲ開墾シ同日兩開墾地約一段歩ニ桑苗ノ植付ヲナセリ

(三) 視察及旅行 大正七年三月所澤飛行場見學夜間徒步旅行ニ會員三十名參加ス

大正九年三月二日北葛飾郡倉常及上高野青年團ヲ視察ス一行十一名

大正十年四月十日熊ヶ谷農學校玉ノ井農事試驗場原蠶種製造場等ヲ視察ス

同年九月十六日自轉車ヲ以テ筑波登山ヲ行フ

大正十一年三月十日日本村青年會主催宮城拜觀並ニ新宿御苑拜觀團ニ參加ス人員二十八名

同年九月一日成田習志野及津田沼飛行場ヲ自轉車ニテ見學ス

(四) 大正十四年三月十一日筑波山ヘ自轉車ヲ以テ日歸旅行ヲ行フ

(四) 用惡水路浚渫 大正九年二月ヨリ每年用惡水ノ藻刈浚渫ヲ請負ヒ其ノ役錢ノ三分ノ一ヲ基本

金トス

同十年更ニ大町用水特別工事ヲ行フ

(五) 奉仕事業 大正四年九月時ノ相談役四名ヨリ製繩機ヲ寄附セラレタルヲ以テ會員其他ニ貸與

スルコトハス

大正十一年二月二十日明治神宮外苑青年會館設立ニ付金九圓ヲ寄附ス

大正十一年三月指導標ヲ村内數ヶ所ニ新設同十四年三月其ノ塗替ヲナス

大正十二年三月二十二日前西ヶ崎ニ櫻及赤楊ヲ植付ク

大正十二年九月一日關東大震災アリ同五、六、七ノ三日間會員交代ニテ一晝夜ツ、徹宵避難者ノ

救助ニツトム更ニ同十七日本村避難者救助費トシテ金五圓ヲ寄贈ス

大正十三年三月二十八日御成婚記念事業トシテ村社鷲宮神社ニ眞榊一對ヲ奉獻ス

(六) 貯金 貯金者十八名其金額二百七十餘圓ナリ

(七) 基本財産 桑園ノ收益及請負事業ノ一部積立ニヨリ現在金八十八圓二十八錢ヲ有ス

附

大正十年四月十六日本會ノ成績優良ナルヲ以テ本村教育會ヨリ表彰狀並ニ金五圓ヲ授與セラル

下野田青年會

(一) 總會 每年三回之ヲ開キ談話娛樂運動等ヲ行フ

(二) 共同耕作 大正十一年ヨリ大麥及陸稻ヲ栽培ス

(三) 旅行 大正八年四月三日筑波ニ徒歩旅行ヲナス參加者八名同十一年九月二十日再ヒ筑波山ニ自轉車ヲ以テ日歸旅行ヲナス

(四) 貯金 大正十二年八月ヨリ共同貯金ヲ行フ現在貯金者十二人其ノ金額九圓六十錢ナリ

(五) 奉仕事業 大正四年十一月十六日御大禮記念トシキ村社鷲宮神社ニ公孫樹ヲ植ウ其助ニ資ス

大正十年一月六日學校通路ニ粗糠ヲ敷ク人員十四

同年三月二十一日學校通路ヲ修理ス人員十二人

(四) 大正十二年九月一日ノ大震災ニツキ救助所ヲ設ケ湯茶ヲ供ス之ニ依テ村教育會ヨリ表彰狀並ニ金三圓ヲ贈與セラル

爪田ヶ谷青年團

(一) 總會 每年三回之ヲ開キ談話及娛樂ヲ行フ

太田新井青年團

- (一) 總會 每年春秋二回定期總會ヲ開キ團務ノ報告及談話運動娛樂等ヲ行フ
- (二) 共同耕作 大正三年十月ヨリ之ヲ行フ收益ハ懇親費及基本財産トス
- (三) 製繩機 大正四年九月之ヲ購入シ使用料一日金十五錢ニテ一般ニ貸與ス
- (四) 視察及旅行 大正五年九月大宮工友館ニ開催セラレタル埼玉工業品評會ヲ視察ス

大正九年九月本縣浦和農事試驗場見學

大正十三年七月七日筑波登山ヲナス

大正十四年四月四日松山箭弓神社參拜吉見百穴見學

(五) 文庫設置 大正十年青年文庫ヲ設置ス

(六) 奉仕事業 大正十年 東宮殿下御來遊記念事業トシテ指導石標ヲ二ヶ所ニ立ツ

大正十二年九月一日大震災ニ際シ甘藷湯茶ヲ供シテ避難者ヲ救助ス依テ本村教育會ヨリ表彰狀及金子一封ヲ贈與セラル

(七) 基本財産 現在三十五圓二十五錢ヲ有ス彦兵衛青年會

(一) 總會 春秋二回之ヲ開キ談話運動娛樂等ヲ行フ

(二) 貯金 大正十四年二月ヨリ之ヲ行フ

第五節 日勝村處女會

本會ハ明治四十二年二月十一日ノ創設ニシテ蓋シ南埼玉郡ニ於ケル處女會ノ嚆矢タリ創立以來茲二十

六年何等著シキ事績ヲ認メズト雖モ着實ニ會員ノ修養ニツトメタルヲ以テ地方教化ニ資益スル所アリ
シハ疑フベカラズ

一、會 則

日勝村處女會々則（大正九年四月三日改正）

第一條 本會は女子の智能を修め婦徳を養ふを以て目的とす

第二條 本會は日勝村處女會と稱し事務所を本村小學校内に置く

第三條 本會の會員は本村在住の處女にして年齢滿十二歳以上二十歳以下の者とす

第四條 本會の事業は概ね左の如し

一、修養上の講話

二、學藝の講習

三、會員の談話及演藝

四、其他本會の目的を達するに適切なる事業

第五條 本會は毎年一回總會を開き左の事項を行ふ

一、會務の報告

二、本會の事業に關する協議

三、前條の一項乃至數項

第六條 本會に左の役員を置く

一、會長 本村小學校長を推戴す

二、理事 本村小學校職員に委任す

三、幹事 各大字會員中より若干名を選出す

第七條 本會役員の任務は左の如し

一、會長は一切の會務を統理す

二、理事は庶務に従事す

三、幹事は其の居住大字内の會務を掌る

第八條 本會は本村長并に名望家を仰いて名譽員とす

第九條 本會の經費は會員の醸出金及村補助金を以て之を支辨す

第十條 本會々員の醸出金額は役員會の協議により之を定む

二、事 業

(一) 總 會 ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ行事ハ講演及娛樂ニ關スルコト、ス茲ニ設立以來ノ主ナル事項ヲ表示スベシ

年 月 日	講 話 事 項	娛 樂	出席會員數
明治四十二年二月十一日	本會設立の趣旨（石田本會長） 處女の心得（佐川村長）	茶話會、蓄音機	七二

明治四十三年三月五日	本會に對する希望(井原郡視學) 女子の心得(飯尾女師教諭) 本村女子の風儀(佐川村長)	手品、茶番狂言 蓄音機	九一
明治四十四年三月五日	常識の修養(土井女師教諭)	薩摩琵琶、蓄音機	九四
明治四十五年二月十五日	家庭の平和(石田本會長)	薩摩琵琶、講談	八九
大正三年三月二十二日	農村の若い女の爲に(竹内女子師教諭) 虚榮心(石田本會長)	劍舞、浪華節	一五〇
大正四年四月四日	婦人の趣味(中村女師教諭)	浪華節	一七〇
大正五年四月二日	女子の心得(小高女師教諭)	講談	一七〇
大正六年四月二日	女子の務(中村女師教諭) 犯罪のうちに婦人あり(松崎貴氏)	講談	一二〇
大正七年四月三日	女子の心得(齋藤女師教諭) 女子の長所と短期(山崎村長)	講談	一〇七
大正九年四月三日	清福(熊倉定右衛門氏) 男と女とはどちらが偉いか(石田本會長)	講談、福引	一三〇
大正十年四月五日	料理法講習(峯氏)	試食會	一一六
大正十二年二月十六日	覆水盆三復ラズ(渡邊以一氏)	薩摩琵琶	一〇〇
大正十一年四月四日	脚下顯照(熊倉定右衛門氏)	講談	一三〇
大正十二年四月四日	女子の衛生(澁谷直貴氏)	講談	一一〇
大正十三年四月十五日	家庭生活に於ける理化實驗(鈴木勝二氏)	觀櫻會	一四四
大正十三年十月三日	國民精神ノ作興	講談、尺八	一一八

大正十四年八月一日

女子のつとめ(小林久喜小學校長)

薩摩琵琶

八〇

(二) 女子補習會

大正十一年四月ヨリ斯會ヲ設ケ朔望會ト名ケ農繁期ヲ除キテ毎月一日十五日ノ兩日之ヲ開催セリ其ノ事業ハ學科ノ補習(修身國語珠算)ヲ主トシ時々必要ナル講話ヲ加フルモノトス今其ノ施行ノ概要ヲ述ベシ

大正十一年度

修身	國民道德及日常ノ作法
國語	文章ヲ謄寫シテ授ク
珠算	加減乗除
誠	(武笠禪明氏)
講話	學習の必要(長岡郡視學) 合理的生活(中原岩槻校長) 二回ニ亘ル 女子の衛生(澁谷直貴氏)
其他	絞染法 改良服裁縫

大正十二年度

補習事項 前年ニ同ジ

講話 女子ノ衛生(澁谷直貴氏) 前年ヨリ引續キ三回ニ亘ル
講話 女子ノ修養(鈴木中實校長)

其他 音樂遊戲

大正十三年度

補習事項 同 前

メイトル法ノ實施(鈴木勝二氏)

講話 復興貯金(石田本會長)

ウイリヤム、テル(石田本會長)

(三) 其他ノ事業

1 大正七年四月三日裁縫品展覽會ヲ開ク

2 大正十二年九月大震災ニツキ罹災者救恤品ヲ村內各戸ニ募集ス

3 大正十三年三月一日大詔奉戴式ヲ舉行シ且ツ自今毎月十日ヲ以テ模範日ト定メ當日ハ會員

一同特ニ模範的生活ヲナシ聖旨奉體ノ實ヲアグルニ努ムルコトトス

4 大正十三年十月三日左ノ實行條目ヲ定

一 時間ヲ確守スルコト

二 早起ヲナスコト

5

大正十四年五月十日大婚二十五年祝賀式ヲ舉行ス越エテ六月十日此ノ大典ヲ記念センタメ
本村ニ於テ敬老會ヲ開催セシヲ以テ本會員ハ高齢者ノ接待其他ノ斡旋ヲナセリ

第六節 帝國在郷軍人會日勝村分會

一、規 約

第一款 總 則

第一條 本會ハ帝國在郷軍人會ト稱ス

第二條 本會ハ本部ヲ東京市麴町區飯田町二丁目五十二番地(偕行社)ニ支部ヲ聯隊區警備隊區司令部

所在地ニ分會ヲ各市區町村ニ置ク但シ一市ニ數箇ノ分會ヲ置キ又ハ數區町村ヲ合シテ一分會ヲ置キ

又ハ數箇ノ分會ヲ合シ聯合分會ヲ置キ其ノ他要スレバ海外樞要ノ地ニ支部及分會ヲ置クコトアルハ

シ

支部ノ區域ハ聯隊區又ハ警備隊區ノ管轄區域ニ依ル海外樞要ノ地ニ支部ヲ置ク場合ニ在リテハ其ノ

管轄區域ハ刷ニ之ヲ定ム

支部以下ノ稱號ハ支部ニ在リテハ所在地ノ名稱分會ニ在リテハ所在地郡市區町村ノ名稱ニ從ヒ帝國

在郷軍人會何支部又ハ帝國在郷軍人會何(市、區、町、村、郡、市、聯合)分會ト稱ス

第三條 本會ハ總裁トシテ皇族ヲ推戴シ又顧問トシテ會老二名ヲ置キ陸軍ノ高級將官ニ之ヲ囑托ス

第四條 本會ハ陸軍大臣ノ監督ヲ受ク

第五條 支部ハ師管内ニ在リテハ所管師團長臺灣ニ在リテハ臺灣總督樺太ニ在リテハ樺太守備隊司令官朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督滿洲ニ在リテハ關東都督ノ監視ヲ受ク
第六條 本規約ハ本部評議會ノ決議ヲ經タル後陸軍大臣ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第二款 目的及事業

- 第七條 本會ハ軍人ニ賜リタル勅諭ノ精神ヲ奉體シ在郷軍人ノ品位ヲ進メ親睦ヲ醇タシ相互扶助シ軍人精神ヲ振作シ體軀ヲ鍊リ軍事知識ヲ增進スルヲ以テ目的トス
- 第八條 前條ノ目的ヲ達スル爲本會ハ左ノ事業ヲ行フ但シ分會ノ狀況ニ依リ第二號以下ノ一若ハ數號ノ實施ヲ延期セムトスルトキハ支部評議會ノ承認ヲ經ヘキモノトス
- 一、本部ニ於テ雜誌ヲ發行スルコト
- 二、毎年三大節ニ於テ遙拜式及勅諭捧讀式ヲ行フコト
- 三、陸軍記念日(三月十日)ニハ最寄地方ニ於テ祝典ヲ行フコト
- 四、毎年少クモ一回最寄地方ニ於テ戰役死亡者ノ祭典ヲ行フコト
- 五、廢兵及戰死者遺族ヲ優遇スルコト
- 六、最寄地方ニ於テ軍事ニ關スル懇話會ヲ開キ擊劍會、射擊會等ヲ開クコト
- 七、有勳者ノ名譽ヲ保持セシメ之ヲ優遇スルコト
- 八、會員ニシテ傷痍若ハ疾病ニ罹リ自活シ能ハサル者又ハ災厄ニ罹リタル者アルトキハ之ヲ救助ス

ルコト

九、會員ニシテ死亡シタルトキハ會葬シ時宜ニ依リ其ノ遺族ニ弔慰金ヲ贈リ又ハ其ノ葬祭ヲ行フコト
十、在營兵卒ノ家族ニシテ救護ノ必要アル者ヲ救助スルコト
十一、會員タリシ者ノ寡婦孤兒ニシテ救護ノ必要アル者ヲ救助スルコト

前項第二號以下ノ施行方法ハ分會ニ於テ之ヲ定ム但シ各支部ヲ通シ一定ヲ要スルモノハ本部評議會ノ決議ニ依リ各分會ヲ通シテ實施シ若ハ一定ヲ要スルモノハ支部評議會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第三款 會 員

第九條 本會ノ會員ヲ左ノ三種トス

一、正會員

待命休職豫備役後備役退役將校同相當官准士官及在郷下士兵卒及補充兵

二、特別會員

在郷軍人ニ非スシテ特ニ本會ニ功勞アリ本部支部又ハ分會ノ推薦ニ係ル者

三、名譽會員

現役將校同相當官ニシテ本部支部又ハ分會ノ推薦ニ係ル者

第十條 將校同相當官及特別會員ハ第八條ノ救助及弔慰金ヲ受ケサルヲ本則トス又特別會員ハ本會ノ役員トナルコトナシ

第十一條 正會員ハ分會ノ定ムル規定ニ從ヒ會費ヲ納ムルモノトス

第十二條 本會會員ハ總テ其ノ居住地ノ分會ニ入會スルモノトス

第四款 資 産

第十三條 本會ノ資産ハ左ノ如シ

- 一、本部ノ所有ニ屬スル財産本部ノ事業及財産ヨリ生スル收入金並本部ヘノ寄附金ハ本部ニ屬ス
- 二、支部ノ所有ニ屬スル財産及財産ヨリ生スル收入金並支部ヘノ寄附金ハ支部ニ屬ス
- 三、分會ノ所有ニ屬スル財産分會ノ事業及財産ヨリ生スル收入金分會ヘノ寄附金並會員ノ會費ハ分會ニ屬ス

第十四條 會費額會費ノ免除及財産ノ管理ニ關スル規則ハ各評議會ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ支部ノモノニ在リテハ本部分會ノモノニ在リテハ支部ノ認可ヲ受クルモノトス

第五款 本會ノ機關

第十五條 本會ニ會長一名副會長一名ヲ置ク

第十六條 本部ニ理事十名以内監事二名評議員二十名以内ヲ置ク

第十七條 會長副會長及本部ニ屬スル理事監事評議員ハ東京市及其ノ附近在住ノ會員中ヨリ會老ノ諮詢ヲ經テ總裁之ヲ囑托ス

第十八條 會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ兼テ本部ノ事務ヲ統轄シ其ノ屬員ヲ任命ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

本部理事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ掌理ス

本部監事ハ會長ノ命ヲ承ケ經理ノ整否ヲ監査ス

第十九條 支部ニ支部長支部副長各一名理事監事及評議員若干名ヲ置キ會老ノ諮詢ヲ經テ總裁之ヲ囑托ス

第二十條 分會ニ分會長分會副長各一名理事監事及評議員若干名ヲ置キ評議員ハ分會ノ總會ニ於テ選舉シ分會長分會副長理事及監事ハ評議員之ヲ互選ス但シ分會長及分會副長ハ支部ヲ經由シテ本部ニ報告シ會老ノ諮詢ヲ經テ總裁之ヲ囑托ス

第二十一條 會長副會長支部長支部副長分會長分會副長並本部支部分會ノ理事監事及評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ケス又補缺員ノ任期ハ前任者ノ任期ニ依ル理事監事及評議員ハ每年四月各其ノ半數ヲ改選ス

第二十二條 本部支部及分會ニ係ル重要ノ事件ヲ決議スル爲本部支部及分會ニ評議會ヲ置ク

第二十三條 本部評議會ハ會長副會長本部理事及本部評議員ヲ以テ組織シ支部評議會ハ支部長支部副長支部理事及支部評議員分會評議員ハ分會長分會副長分會理事及分會評議員ヲ以テ組織シ評議會ノ議長ハ本部ノモノニ在リテハ會長支部ノモノニ在リテハ支部長分會ノモノニアリテハ分會長ヲ以テ之ニ充ツ

第二十四條 本部評議會ハ會長ニ於テ必要アリト認メタルトキ會長之ヲ召集ス

第二十五條 本部評議員ハ議會ノ外定員ノ三分一以上出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 本部評議員ノ議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十七條 第十八條第二十四條乃至第二十六條ノ規定ハ之ヲ支部及分會ニ準用ス

第六款 戰時ノ特例

第二十八條 戰時ニ在リテハ本部評議會ノ決議ニ依リ第八條事業ノ一部ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十九條 戰時ニ在リテハ本部評議會ノ決議ニ依リ第十五條乃至第二十七條ノ規定ニ關シ必要ノ特

例ヲ設クルコトヲ得

第七款 徽章及會旗

第三十條 本會會員ハ一定ノ徽章ヲ佩用スルモノトス但シ時宜ニ依リ之ヲ佩用セザルモ妨ゲナシ

第三十一條 分會ニハ各一個ノ會旗ヲ設ケ奉送迎集會及會葬等ノ場合ニ之ヲ用フ

第三十二條 會員徽章及會旗ノ制式ハ本部評議員ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

雜則

一、本會ノ發行スル雜誌ハ支部及分會ニ於テハ必ス一部ヲ購讀スルノ義務アルモノトス而シテ會員

ニハ其ノ希望ニ依リ定價ヲ以テ之ヲ頒ツ但シ機關雜誌ヲ指定シタルトキモ亦之ニ準ス

二、本部支部及分會ニ於テ名譽會員ヲ推薦セムトスルトキハ豫メ本人ノ承諾ヲ得テ推薦狀ヲ贈與ス

但シ支部及分會ニ於テ推薦シタル者ハ其ノ人名ヲ本部(分會ニアリテハ支部經由)ニ申報スヘシ

三、毎年四月ニ於テ各其ノ部内ノ景況ヲ支部ハ會長ニ分會ハ支部長ニ報告スヘシ

二、沿革及事業

明治三十九年本鄉聯隊區司令官ノ依託ニヨリ村長佐川重作氏ト謀リ在郷軍人同盟團ナルモノヲ組織シ

同年十一月三日發會式ヲ舉ク是レ即チ本分會ノ前身ナリ時ノ役員人名次ノ如シ

幹事長 齋藤泰助 幹事 小島僚助

副幹事長 鬼久保幸平 同 利根川彌左衛門

幹事 鈴木佐右衛門 同 野口安兵衛

同 高橋源三郎 同 竹内理平

同 森田庄七 同 富澤新藏

同 木村豊吉 同 土橋秀松

明治四十三年十月一日帝國在郷軍人會設立ノ通知ニ接ス時ノ聯隊區司令官ハ土橋大佐ナリ同年十二月

三日副幹事長野口音右衛門幹事鬼久保幸平ノ兩氏上京シ軍人會發會式ニ參列ス越エテ十一月十日日本村

役場ニ評議會ヲ開キ分會組織ニ關シ擬議ス翌四十四年二月十一日分會組織成リ發會式ヲ舉ク時ノ役員

次ノ如シ

分會長 齋藤泰助 理事 賀島隆八

分會副長 鬼久保幸平 同 森田佐七

理事 土橋秀松 同 野口安兵衛

同 折原金之助 同 高橋源三郎

同 鈴木佐右衛門 同 木村豊吉

同 竹内理平 監事 小島僚助

監事 利根川彌左衛門

同年四月二十一日總會ヲ開ク同シク十一月三日天長節祝賀式ニ參列終テ校庭ニ遙拜式ニ行フ十二月分會旗ヲ購入ス翌四十五年一月一日分會旗披露式兼新年宴會開會出席者十餘名内正會員八十六人村長校長ノ講演アリ午後四時解散ス同ジク三月二十三日大德寺ニ於テ戰病死者ノ追弔會執行ス戰病死者次ノ如シ

陸軍歩兵伍長 野口 源 兵 衛

同 上等兵 松 田 亮 全

看 護 手 大久保 長次郎

陸軍歩兵一等卒 山 崎 喜 太 郎

同 石 渡 才 助

同 賀 島 辰

同年七月三十日 明治天皇崩御今上天皇踐祚ス大正元年八月分會長齋藤泰助理事川崎半兵衛ト共ニ宮内省へ出頭シ天機ヲ奉伺ス同九月十三日御大葬ニツキ午後六時校庭ニ於テ遙拜式舉行ス同十月五日大演習ノ爲メ通過スル軍隊ニ對スル犒軍準備ノ協議會ヲ開キ其ノ決議ニヨリ村ト協力シ分擔委員ヲ舉ケテ協力準備ス大正二年一月一日新年宴會ヲ村ト合同シテ開ク大正三年三月二十三日戰病死者追弔會執行後墓參同四月十日皇太后陛下崩御アラセラレ村ト合同シテ校庭ニ遙拜式ヲ舉ク大正五年二月二日久喜町小學校ニ於テ御大典ノ御親閱記念綬ヲ受領ス同シク二月二十三日郡教育會主催ニ係ル壯丁ノ入營

準備教育ヲ開ク日子二十一日間夜學トス壯丁三十名中二十三名出席ス同四月三日村青年會ト合同シ聯合總會ヲ催ス支部長奥平中佐ノ國民道德ト題スル講演アリ十一月十四日青年會ト聯合シテ大運動會ヲ催ス種目ハ擊劍角力早駈競爭綱等四月二十二日本會ノ基本金造成ノ目的ヲ以テ黒沼笠原用水ノ浚渫工事ヲ引受ケ完了ス出場人員六十七名請負金三十七圓餘同九月二十三日戰病死者追弔會ヲ壽樂院ニ於テ執行ス來賓トシテ村長校長各字區長ノ出席アリ午後墓參ヲ終リ役員ハ學校ニ集リ青年會役員ト聯合協議會ニ出席シ丁年者ノ軍籍ニアラサル者ヲ青年會又ハ分會ニ編入スルノ可否ヲ議シ青年會ニ編入ニ贊ス大正六年三月七日日本村大字太田新井安樂寺ニ於テ陸軍馬匹檢查施行ニ付本會役員ハ六七兩日該所ニ出頭シテ檢査場準備其他檢査ニ付テ便宜ヲ與ヘタリ同年四月三日日本村青年會ト聯合シテ總會ヲ開キ步兵第三聯隊ヨリ吉江大尉出張講演アリタリ同四月十二日黒沼用水路ノ浚渫工事ヲナス同八月一日ヨリ三日間未教育補充兵ノ教育ヲ施行ス九月十五日ヨリ十七日ニ亘リ三日間ノ豫定ヲ以テ筑波笠間ニ徒步旅行ヲ行ヘタリ參加人員二十五名行程約四十五里同十月二日入營者ヲシテ軍隊參觀ヲ爲サシメタリ同十一月十五日ヨリ約五日ニ亘リ入營準備教育ヲナス同十二月十六日戰病死者ノ祭典ヲ安樂寺ニ於テ施行終リテ學校ニ於テ本年度除隊兵ノ入會式ヲ舉ケタリ大正七年一月二十一日附ヲ以テ本村々長山崎敬三氏並ニ小學校長石田福太郎氏ヲ本分會顧問ニ推薦シ囑托セラレタリ同三月十日陸軍紀念日ニ付キ講演會ヲ催ス演題講師次ノ如シ日露戰爭ト歐洲戰亂トノ比較北原砲兵大尉同四月十四日青年會ト聯合シテ運動會ヲ行フ同九月二十四日講話會ヲ催ス辯士中部實業學校長鈴木多吉氏大正八年四月十三日青年會ト聯合シテ運動會ヲ行フ十一月十六日講話會ヲ開ク演題講師次ノ如シ國家觀念ニ宮中佐長短鎗仕合

及失敗ト成功田邊小南龍大正九年四月十一日午前九時ヨリ青年會ト聯合大運動會ヲ開催十月十九日教育勅語煥發滿三十年記念講演會ヲ催ス演題次ノ如シ世界ノ大勢ト國民ノ覺悟衆議院議員山崎猛大正十年四月十五日講話會開催國民ノ精華ト民力涵養ニ付テ野山粕壁中學校長犧牲ト共同ニ付テ山崎猛同十月二十三日秋季總會講話ト競技練習會大正十一年三月十日青年會員ト宮城拜觀同四月九日青年會ト聯合シテ春季運動會ヲ開催ス同十一月九日講演會修養ノ必要ニ付テ伊豆少將世界ノ大勢ニ付テ利根中佐同十一月十三日ヨリ二十三日迄入營準備講習會ヲ開ク同十二月十七日午前八時正傳寺ニ於テ戰病死者ノ追弔祭ヲ行ヒ午後入會式並ニ前分會長副會長ノ慰勞會ヲ行フ大正十二年三月一日ヨリ二十日迄壯丁講習ヲナス同四月十五日春季運動會ヲナス同九月三日ヨリ一週間本村消防組ト協力シテ本村ヲ通過スル大震災ノ避難者ヲ救助ス同九月十四日役員會ヲ開キ本村避難者慰問ノ件ニツキ協議ス且ツ内閣告諭ヲ傳達ス同十一月十八日教育會青年會ト聯合シテ總會ヲ開ク講話歐米視察談法學士新井堯爾講談國民精神島田劍南同十二月一日ヨリ一週間入營準備講習ヲナス同十二月十日國民精神作興ニ關スル詔書ノ寫下賜セラル同十二月二十五日午前八時ヨリ正傳寺ニ於テ戰病死者ノ追弔會ヲ行フ午後學校ニ於テ入會式ヲ行フ大正十三年一月二月六日皇太子殿下御成婚祝賀式ヲ舉行ス同三月十日大詔奉戴會ヲナシ步兵第三聯隊ヨリ高山大尉出張セラレ列國軍備ノ現勢ト國民ノ覺悟ト云フ題ニツキ講演アリタリ同四月十五日競技練習會ヲナス十月三日青年會ト聯合秋季總會ヲ開ク松平學園ノ講談其ノ一ハ國民精神作興次ハ古今武人傳及尺八ノ吹奏アリ同十一月十日勤儉獎勵講演會開催勤儉週間設定ト國民ノ注意ニ付テ山崎村長口米問題ニ對スル國民ノ態度ニ付テ石田校長同十二月十三日午前十時ヨリ講堂ニ祭壇ヲ設ケ

大德寺正傳寺壽樂院ノ三住職集マリ戰病死者ノ追弔會ヲ行フ午後ハ入會式餘興ニ浪花節アリ大正十四年一月一日新年祝賀式ヲ行フ同三月六日七日九日ノ三日間公民講習ヲ開ク講師氏名次ノ如シ山崎日勝村長石田校長岡南崎玉郡長崎玉縣社會課屬三浦氏南本山布教師山田仙遊陸軍歩兵大尉福榮眞平氏三月一日ヨリ二十日迄壯丁講習ヲ行フ同四月十二日黒沼笠原用水路浚渫工事ヲナス同四月十九日春季總會講演講談アリ終テ園遊會アリ演題ハ次ノ如シ國際ノ現狀ト國民ノ覺悟ニ付テ國民新聞社ノ堀田善太郎長短鎗仕合田邊南麟同五月十日銀婚祝賀式ヲ行フ分會旗ノ寫眞捧呈同六月二十七日御下賜金受領同七月十九日校庭ニ於テ慈恩寺條津日勝ノ簡閱點呼アリ參會者二百七十七人執行官陸軍歩兵少佐男爵西村敬三

三、戰死者及公務ニ基因シタル死亡者

陸軍歩兵伍長	野口源兵衛
陸軍歩兵上等兵	松田亮全
陸軍歩兵一等卒	山崎喜太郎
陸軍歩兵一等卒	石渡才助
陸軍歩兵一等卒	賀島辰
陸軍看護手	大久保長次郎

詳細ハ第十章第三節三ニアリ

陸軍砲兵二等卒 新井淺次郎

現役トシテ第一師團野砲重砲兵第一聯隊第四中隊ニ在隊中大正八年九月二十六日午前七時四十分同聯隊砲廠前ニ於テ中隊教練行進中砲手トシテ勤務中第一中隊驃馬極盛號右後肢輓索跨ギタルタメ直ニ該所ニ至リ之ヲ正シ去ラントスル際該驃馬極盛號ノ右後肢ニテ蹴ラレ腹部ニ受傷ス爾後横須賀衛戍病院ニ於テ加療ヲナシタルモ其効ナク同年九月二十七日死亡ス

陸軍砲兵一等卒 岩崎 愼一郎

現役トシテ野砲兵第一聯隊ニ在隊中明治四十五年五月勤務中右足母指ニ受傷シ同月十八日東京第二衛戍病院ニ入院加療ス大正二年一月傷痍ニヨリ兵役免除トナリ大正二年二月退院シ歸郷ス大正七年九月二十八日死亡ス

四、役 員

歷代分會長副分會長就職年月日氏名

明治四十四年二月	分會長	齋藤 泰助
同	副 長	鬼久保 幸平
大正二年二月	副 長	野口 音右衛門
大正四年三月	分會長	野口 音右衛門
同	副 長	齋藤 光弘
大正六年三月	分會長	齋藤 光弘
同	副 長	和泉 洪

大正八年十二月	分會長	和泉 洪
同	副 長	石山 強七
大正十一年九月	分會長	齋藤 昇
同	副 長	小島 祐輔

現在役員氏名

岡 泉	騎兵一等卒	齋藤 隆
實ヶ谷	歩兵上等兵	野口 通郎
千駄野	補充兵	岩上 寛二
同	同	石川 重藏
小久喜	歩兵一等卒	齋藤 豊吉
同	砲兵一等卒	山崎進之丞
小久喜二區	砲兵上等兵	竹林彌三郎
上野田	補充兵	小島武左衛門
同	補充兵	安藤 喜一
下野田	歩兵上等兵	早川庄右衛門
爪田ヶ谷	補充兵	賀島 堅藏
太田新井	上等看護卒	齋藤 健作

彦兵衛

砲兵一等卒

金島

忠吉

五、年中行事

一、三大節祝賀式

二、陸軍記念日講話會

三、用水路浚渫工事

四、教育（イ、壯丁教育

ロ、入營準備講習 ハ、補充兵教育）

五、總會年二回春季秋季

六、入退營者ノ送迎

七、戰病死者ノ追弔會

八、入會式

六、獎勵事項

（イ）貯金

（ロ）體力練磨

（ハ）時間尊重

七、財產

一金百十五圓也

積立金

一金九十六圓也

月掛金

一金四十圓也

補助金

八、備品

- 一、分會旗一流
- 一、壯丁文庫一
- 一、勅諭勅語詔書奉納箱二個
- 一、入營準備教育書拾冊
- 一、壯丁讀本參拾冊
- 一、步兵須知一冊
- 一、壯丁のために一冊
- 一、雜誌國民の精華毎月二部

九、在郷軍人字別表（本表ハ出寄留者ヲモ含ム）

大字名	役名	既	教	育	者	未	累
		休	備	後	合	充	計
岡	泉	三	二	五	九	一八	二七
實	ヶ	二	四	五	一	一六	二七
千	駄	〇	一	八	九	二二	二二
小	久	一	八	二	二	三七	五八
上	野	三	六	五	四	二二	四五
下	野	一	二	二	五	一四	一六

爪田ヶ谷	一	一	四	六	一	一四	二五
太田新井	〇	二	〇	二〇	二四	二七	五一
彦兵衛	一	三	七	一〇	二	七	九
合計	一二	三二	七三	一一六	一六四	二八〇	

第七節 日勝村耕地整理組合

一、組合設立ノ狀況及總會

本組合ハ本村內大字實ヶ谷、千駄野、小久喜ノ三大字ニ亘リ地區約百二十八町步ニ係ル組合ナリ。關係地區內實ヶ谷字川端、千駄野字菱沼、下手、下沼、小久喜字下野谷、下沼、古沼等ハ特ニ低地ニシテ一旦降雨ノ際ハ洪水甚ダシク排水容易ナラザリキ。爲メニ收穫甚シク減少シ時ニ無皆ノ年ニ遭遇スルコトアリテ、土地所有者ノ常ニ苦惱セシ所ニシテ之レガ救済ニ關シ焦慮セシコト年久シカリキ。大正五年八月頃ヨリ關係土地所有者中ノ有志相計リ救済策トシテ耕地整理ノ施行ヲ爲サントスルノ議起リ、爾來關係者ニ替同ヲ求メ協議ヲ重ネ同年九月十八日野口啓次郎外三十七名ヨリ耕地整理實施調査願ヲ知事ニ出願シ更ニ同年十一月十日山崎敬三外五名ヲ以テ土地所有者總代人トシ、耕地整理工事設計並ニ工事監督補助申請ヲ知事ニナシ、同年十一月十五日許可ノ指令ヲ受ケタリ。爾來耕地整理組合設立ニ關シ組合規約其他設立ニ要スル一切ノ件ヲ協議シ大正六年二月十五日ヲ以テ內田作之進外十六名ヨリ設立認可申請ヲ知事ニ出願シ同月二十日ヲ以テ設立認可ノ指令ヲ受ケタリ。其施行地ノ面積百二十七町八反八畝二十七步、地價四萬七千五百圓十三錢、筆數千七百九十七筆ナリ。大正六年二月二

十八日第一回總會ヲ大字小久喜壽樂院ニ開會シ左記ノ件ヲ議決ス

一、組合設立認可申請者ノ爲シタル組合設立ニ關スル事項承認ノ件

二、組合設立ニ關スル費用承認ノ件

三、組合長、組合副長、及評議員選舉

大正六年三月一日組合長、組合副長選任認可申請ヲナシ同年同月三日ヲ以テ認可ノ指令ヲ受ケ茲ニ全ク設立ヲ終リタリ。是レヨリ先キ縣ヨリハ技術者ヲ派遣セラレ工事設計ヲ爲サシメ大正六年二月ニ至リ設計完了セリ。依テ同年三月九日ヨリ工事ニ着手ス、而シテ工事費ハ多額ヲ要スルヲ以テ直ニ組合費ヲ徴シ之レニ充ツルコト困難ナルヲ以テ同月三月十六日組合會ニ於テ借入金ヲ以テ充當スルコトヲ決シ翌十七日起債認可申請ヲナシ同月二十日認可ヲ受ケ四月六日低利資金九千圓ヲ借受ケタリ。後工事ヲ進ムルト共ニ内部事務タル假換地ノ調査、地價配賦申請ノ準備、登記事務等ヲ進メリ而シテ工事ハ大正七年八月三十一日ヲ以テ完了セリ

大正九年一月十一日大字小久喜壽樂院ニ於テ第二回總會ヲ開キ左ノ事項ヲ議決セリ

一、整理前後ノ土地等位及價格評價ノ件

二、換地交付ノ件

三、地價配當ノ件

後事務ノ進捗ヲ計リ大正九年二月十日換地處分濟トナリ大正九年十一月十九日地價配付ヲ完了シ大正十年三月二十四日登記事務ヲ完結セリ。

二、工事費ノ概況

工事區分	金額	摘要
溝渠費	四、五四三・八五〇	用排水路百十一ヶ所、舊水路其他埋立六十三ヶ所
道路費	一、三〇二・一四〇	九十一線
橋梁費	九九八・三九〇	十一ヶ所
構造物費	一、六二二・七〇〇	樋管十三ヶ所、伏越一ヶ所、掛樋一ヶ所、堰柵三ヶ所
材料費	六一九・三六〇	土管三千九百三十七本、杭木、其他
雜工費	一七〇・七〇〇	鐵線棚工事
地區外工事費	一九九・七二〇	鐵線棚工一ヶ所
雜費	二四・一三〇	諸雜費
合計	九・四八〇・九九〇	

三、地區整理前後ノ地目別面積及地價

地目	從前ノ土地面積	地價	整理後ノ土地面積	地價
田	九九、〇五二・七	四五、〇九六・八六	一〇二、五四二・二	四三、七四七・三八

四、各年度經費

收入

年度	科目	組合費	財產收入	補助金	借入金	繰越金	小作料	合計
大正五年度	山林	一六、〇七〇・七		二、三二五・一六		一五、四九〇・五		二、〇六四・一七
	原野	一、〇三二・四		二九・九九		一八・一二		五・五五
	雜種地	二、一二二・八		四六・二九		七五・二二		一二・〇八
	計	二二〇・二		一・八三		一〇〇・〇		九・〇
	國道	二二八、五一・一八		四七、五〇〇・二三		一一八、〇七・二二		四五、八三九・〇八
	有溝渠	五、六八二・八				五、七八・一二		
	地計	三、六八一・一				七、九九〇・六		
	合計	九、三七〇・九				一三、七七・一八		
	合計	一二七、八八二・七		四七、五〇〇・二三		一三一、八五〇・九		四五、八三九・〇八

年度	科目	組合費	財產收入	補助金	借入金	繰越金	小作料	合計
大正五年度			三五・七九		九、〇〇〇・〇〇			九、〇三五・七九
大正六年度		三、五三二・二四	三五・四三		一、二〇〇・〇〇	一、四八四・四二	四一七・五三六	六六九・六二

年度	科目	支出
大正七年度	事務所費	二、〇七九・五四
大正八年度	事務所費	二、〇七九・二六
大正九年度	事務所費	二、五八四・八四
大正十年度	事務所費	二、三九九・〇四
大正十一年度	事務所費	一、六四四・五三
大正十二年度	事務所費	二、〇三六・四二
大正十三年度	事務所費	二、一七九・一八
大正五年度	會議費	五・二〇
大正六年度	會議費	三・九〇
大正七年度	會議費	二・〇〇
大正八年度	會議費	二・〇〇
大正九年度	會議費	二・〇〇
大正十年度	會議費	二・〇〇
大正十一年度	會議費	二・〇〇
大正十二年度	會議費	二・〇〇
大正十三年度	會議費	二・〇〇
大正五年度	工事費	五、七七六・九
大正六年度	工事費	五、七七六・九
大正七年度	工事費	五、七七六・九
大正八年度	工事費	五、七七六・九
大正九年度	工事費	五、七七六・九
大正十年度	工事費	五、七七六・九
大正十一年度	工事費	五、七七六・九
大正十二年度	工事費	五、七七六・九
大正十三年度	工事費	五、七七六・九
大正五年度	補償費	九六七八・九
大正六年度	補償費	九六七八・九
大正七年度	補償費	九六七八・九
大正八年度	補償費	九六七八・九
大正九年度	補償費	九六七八・九
大正十年度	補償費	九六七八・九
大正十一年度	補償費	九六七八・九
大正十二年度	補償費	九六七八・九
大正十三年度	補償費	九六七八・九
大正五年度	借入金費	一九七・八
大正六年度	借入金費	一九七・八
大正七年度	借入金費	一九七・八
大正八年度	借入金費	一九七・八
大正九年度	借入金費	一九七・八
大正十年度	借入金費	一九七・八
大正十一年度	借入金費	一九七・八
大正十二年度	借入金費	一九七・八
大正十三年度	借入金費	一九七・八
大正五年度	創業費	五〇・一八
大正六年度	創業費	五〇・一八
大正七年度	創業費	五〇・一八
大正八年度	創業費	五〇・一八
大正九年度	創業費	五〇・一八
大正十年度	創業費	五〇・一八
大正十一年度	創業費	五〇・一八
大正十二年度	創業費	五〇・一八
大正十三年度	創業費	五〇・一八
大正五年度	小作料	七六六・五
大正六年度	小作料	七六六・五
大正七年度	小作料	七六六・五
大正八年度	小作料	七六六・五
大正九年度	小作料	七六六・五
大正十年度	小作料	七六六・五
大正十一年度	小作料	七六六・五
大正十二年度	小作料	七六六・五
大正十三年度	小作料	七六六・五
大正五年度	合計	七、五二・六
大正六年度	合計	六、四七六・九六
大正七年度	合計	四、二七四・五八
大正八年度	合計	四、八七二・三〇
大正九年度	合計	二、一八二・九

五、役 員

備考 大正十二年度ハ決算、大正十三年度ハ豫算、工事費中修トアルハ修繕費及水路浚渫並漢刈費ナリ

職 名	期 間	摘 要	村 大 字	氏 名
組 合 長	自大正六年三月三日	現 職	小 久 喜	山 崎 敬 三
組 合 副 長	自大正六年三月三日	同	千 駄 野	野 口 音 右 衛 門
同	自大正六年三月十七日	同	同	高 橋 房 太 郎
同	自大正六年三月十七日	同	同	同
同	自大正六年三月三十日	同	同	同
同	自大正十三年十二月十八日	同	同	同
同	自大正十三年十二月十八日	同	同	同
評 議 員	自大正六年二月廿八日	同	同	同

同 同
同 同

同	同
同	同
岡安	岩上
奎左衛門	岩之助

同 同

同	同
同	小久喜
澁谷助三郎	細井繁次郎

第八節 日勝信用販賣購買組合

本組合ノ前身ハ日勝東部信用組合ニシテ本村内大字下野田、爪田ヶ谷、彦兵衛ノ三大字ヲ區域トシタ

(二) 組合員數

大正八年定款ノ一部ヲ變更シ同年九月十二日許可ヲ受ケ更ニ組合法改正ニ伴ヒ大正十一年定款ヲ變更シ同年六月六日許可ヲ受ケ今日ニ至レリ

(二) 出資口數

商業	計
一二	二七二
一二	六九三
一二	五二九
一二	五二九
一二	五七二

(三) 拂込濟出資額

區別	明治四十年	大正元年	大正六年	大正十一年	大正十三年
各自拂込	八一六 _円	二、九二一 _円	二、六四五 _円	二、六四五 _円	二、六九六 _円

(四) 積立金

區別	明治四十年	大正元年	大正六年	大正十一年	大正十三年
準備金	一六〇 _円	四二六 _円	一、三四八 _円	一、八八二 _円	二、一七二 _円
特別積立金	一六〇	一二七	一六九	一六九	一六九
計	一六〇	五四三	一、五二七	二、〇五一	二、三四一

(五) 貯金

區別	明治四十年	大正元年	大正六年	大正十一年	大正十三年	大正十四年末
普通貯金	四八三 _円		九、四九三 _円	五、五四八 _円	七、〇九〇 _円	七、〇六九 _円
定期貯金	七二五		八四	一一、九六三	九、二一二	九、八五三
特別貯金	九八三		二七九	一、八一	一、〇七一	三、五〇〇
不動貯金				一、八七六	二、三八六	二、七〇一
復興貯金						
合計	二、一八一	一二、七九〇	九、八五六	二二、一九八	一九、七五九	二三、一二三

(六) 貸付金

區別	明治四十年	大正元年	大正六年	大正十一年	大正十三年	大正十四年末
普通貸付	二、一二五 _円	一七、〇五八 _円	二三、四〇七 _円	一六、一六五 _円	一九、二一五 _円	一九、一二五 _円

(七) 購買

區別	明治四十年	大正元年	大正六年	大正十一年	大正十三年
肥料	—	三、五二三	—	五、七九一	五、〇七四
其他	—	—	—	四八〇	一、六三二
合計	—	三、五二三	—	六、二七一	六、七〇六

(八) 販賣

區別	明治四十年	大正元年	大正六年	大正十一年	大正十三年
米、大麥	—	—	一〇、六四五	八、三三二	六、七〇七

三、役員

職名	氏名	職名	氏名
理事	山崎敬三	評議員	利根川喜萬
同	木村愛之丞	同	高橋源三郎

同	倉持政三郎	同	田口勇助
同	濱田安五郎	同	安藤音次郎
同	吉田將監	同	大森喜左衛門
同	八木橋貞助	同	竹内祐藏
同	鈴木幸八	同	鷺谷安右衛門
監	和泉龍助		
同	高橋源三郎		
同	齋藤常藏		

第十三章 雜件

- 一、明治四十年四月七日小學校庭ノ櫻花絢爛艶ヲ競フノ下本校卒業生相圖リ前校長齋藤遊之助氏ノ頌德會ヲ開催シ金百二十圓及紀念品ヲ贈呈シ且家族ヲ招待セリ
- 一、明治四十一年十一月二十七日本校創立滿十五年紀念式ヲ行ヒ生徒成績物展覽會ヲ開ク紀念品トシテ風琴一臺蓄音機及曲風板一ダース大姿見鏡一面ヲ購入セリ
- 同日又前校長齋藤遊之助前訓導中祐次郎兩氏ノ慰勞會ヲ開ケリ前校長齋藤氏ニ本村ヨリ金百圓前訓導中里氏ニ對シテハ本村ヨリ金百圓生徒父兄ヨリ金六十圓及宣德火鉢一對ヲ贈呈セリ
- 一、明治四十二年二月十一日憲法發布滿二十年紀念式ヲ舉ケ尙齒會ヲ催シ七十七才以上ノ高齢者五十四名ヲ招待シ賀狀及壽盃一組宛ヲ呈セリ
- 一、明治四十三年八月十一日ヨリ大洪水起ル約二ヶ月ニ亘リ救助事務善後處置ヲ掌ル
- 一、明治四十五年七月二十一日午後一時郡長ヨリ 天皇陛下御重患ニ渡ラセラル、旨通達ヲ受ク
- 一、明治四十五年七月二十九日山崎村長石田校長齋藤分會長宮内省へ出頭シ 天機ヲ奉伺ス
- 一、明治四十五年七月三十日午前零時四十三分 崩御アラセラレタル旨告示ヲ發セラル
- 此日 皇太子殿下直ニ踐祚遊バサレ改元ノ詔書公布セラル
- 一、大正元年九月十三十四十五日ノ三日間ニ於テ 大葬儀ヲ行ハセラル、ニツキ小學校兒童ハ午後一

時村名譽職員學校職員神官僧侶其他各種團體及一船村民ハ午後八時ヨリ小學校庭ニ於テ遙拜式ヲ行フ

- 一、大正二年九月三十日納稅成績優良ニヨリ東京稅務監督局長ヨリ表彰セラル
- 一、大正三年四月十一日午前二時十分 皇太后陛下崩御アラセラレ明十二日ヨリ三日間廢朝仰出サレタル旨公報ヲ受ク

一、大正三年五月二十四二十五二十六日ニ亘リ 大葬儀ヲ行ハセラル、ニ付小學校兒童ハ晝間村名譽職員學校職員各種團體ハ午後八時小學校庭ニ於テ遙拜式ヲ行フ

一、大正四年十一月十日(御即位禮)十四日(大嘗祭)十六日(大饗第一日)行ハセラル、ニツキ左

記ノ奉祝ヲナシタリ

十一月十日 當日名譽職員、村吏員、學校職員、兒童村民一堂ニ會シ奉祝式ヲ行ヒ滿八十歲以上高齢者ニ下賜セラレタル木杯並酒肴料奉授式ヲ行ヒタリ

同日七十才以上ノ高齢者九十六人ヲ招待シ共ニ奉祝シ紀念トシテ木盃ヲ贈呈シタリ

十一月十四日 分會員青年會員ハ各大字神社ニ參拜シ後校庭ニ集合シ奉祝ヲナシ運動會ヲ開催シタリ

十一月十六日 名譽職員、學校役場職員其他有志ヲ以テ奉祝ノ宴會ヲ爲シタリ

一、大正六年十月一日五ヶ年間ノ納稅成績優良ナルニヨリ東京稅務監督局長ヨリ表彰セラル

一、大正七年二月二十三日日勝村教育會ノ事業成績優良ナルニヨリ南埼玉郡教育會長ヨリ表彰セラル

- 一、大正十一年九月十六日十ヶ年間納稅成績優良ナルニヨリ東京稅務監督局長ヨリ表彰セラル
- 二、大正十一年十月一日小學校舍改築落成式ヲ行フ
- 一、大正十二年二月十一日村長山崎敬三教育功勞者トシテ埼玉縣知事ヨリ表彰セラル
- 一、大正十二年二月十二日校長石田福太郎教育功勞者トシテ南埼玉郡長ヨリ表彰セラル
- 一、大正十二年三月十八日勝村農會事業成績優良ナルニヨリ南埼玉郡農會長ヨリ表彰セラル
- 一、大正十二年七月七日戶籍主任書記齋藤自由郎主任トシテ永年勤績且事務成績優良ナルニヨリ越ヶ谷區裁判所管内研究會長同區裁判所判事ヨリ表彰セラル

一、大正十二年九月一日關東大震災起ル

一、大正十三年二月十一日千駄野農事改良組合成績顯著ナルニヨリ埼玉縣知事ヨリ表彰セラル

一、大正十四年五月十日 天皇皇后兩陛下御大婚滿二十五年祝賀式ヲ小學校ニ於テ行ヒ天盃下賜セラ

レタル左記高齢者ニ對シ之ガ傳達ヲナシタリ

大字太田新井

木村 つな

九十一才

大字同

古武 じわ

九十一才

一、村基本財産小學校基本財産其他ニ寄附セラレタル篤志者

寄附受入年月日	寄附金品	指定目的	住所	氏名
明治二十七年八月廿八日	金五十圓六十錢	農業補習學校備品購入費	岡 泉	八木橋貞助 外三十六名
同	金三十圓	同校肥料金建築費	同 泉	齋藤德三郎
明治三十五年三月二十日	金三圓五十錢	小學校圖書購入費	上野田	和泉龍助
同	金三圓五十錢	同	上野田	齋藤友吉
同年六月二十日	金二圓	教育費	小久喜	土橋縫之助
同	金二圓	同	同	關山 榮
明治三十六年三月	金一圓	補習學校費	同	須田善右衛門
同年四月	金六圓	同	同	同 人
同年五月八日	金十一圓	同	爪田ヶ谷	八木橋貞助
明治四十一年六月廿九日	教員机上用書庫二人持五個 軍事公債證書額面五十圓二枚	小學校備品	小久喜	中里祐次郎
明治四十二年四月八日	同	小學校基本財産	上野田	鬼久保文輔
同	金十圓	同	同	濱田安之助
同	金十圓	同	小久喜	山崎敬三
同年十二月六日	萬國々旗七十二枚	小學校備品	同	金井塚龜藏

第十三章
雜件

三八三

大正八年一月一日	金三十錢	同	岡泉	齋藤りき
大正八年二月廿五日	金二十五錢	同	上野田	齋藤政吉
大正八年三月二日	金二十五錢	同	太田新井	山口清次郎
大正八年二月五日	金三圓	同	小久喜	田口勇助
大正八年十月廿四日	金二圓	同	下野田	關根彌二右衛門
大正八年十一月廿日	金五十圓	同	上野田	矢部良齋
大正八年十二月四日	金五圓	同	岡泉	澁谷塊一
大正八年十二月八日	金二圓	同	下野田	内山淺右衛門
大正八年十二月廿五日	金二圓	同	彦兵衛	鈴木幸八
大正九年一月十三日	金十圓	同	爪田ヶ谷	大森喜左衛門
大正九年一月十六日	金五圓	同	太田新井	安樂寺檀徒總代
大正九年一月十七日	金五圓	同	上野田	小島武八
大正九年二月二十五日	金十圓	同	同	小島與右衛門
大正九年四月八日	金十二圓	校舍改築費寄附	實ヶ谷	内田武左衛門
大正九年五月廿七日	金五十圓	同	岡泉	利根川清右衛門
			齋藤	政吉

大正九年六月二日	金五圓	村基本財産	同	澁谷塊
大正九年六月廿九日	金五百圓	小學校基本財産	一〇〇〇	鷺谷米藏
大正九年二月八日	金四圓	村基本財産	爪田ヶ谷	藤齋正三郎
大正九年八月廿日	金二圓	同	上野田	澁谷房吉
大正九年十月十八日	金五十圓	校舍建築費	下野田	折原傳次
大正九年十一月十五日	金二圓	村基本財産	淺草區光月	森田豐吉
			下谷區龍泉	森田嘉平
			寺町九	森田証之助
			淺草區吉野町	森田証之助
			府下三河島	山崎彦四郎
			二ノ坪云光	牧島留吉
大正九年十一月十九日	金百五十圓	校舍改築費	淺草區四十五	伊藤倉次
			下谷區龍泉	岩上助七
			寺町二九二	齋藤七郎
			淺草區橋場	吉田與八
			町一六	竹内嘉藤次
			東京日本橋	
			下野田	
大正十年一月十日	金五十圓	校舍改築費	同	
大正十年一月廿五日	金五圓	村基本財産	同	
大正十年一月廿五日	金五圓	同	同	

大正十年三月三日	金五圓	同	上野田	濱田安之助
大正十年三月九日	金五圓	校舍改築費	岩槻町一二三	山下耕作
大正十年三月廿五日	金五百圓	同	小石川區西丸町十九	山崎芳郎
大正十年四月日	金五圓	村基本財産	小久喜	土橋秀松
大正十年四月廿一日	金十圓	校舍改築費	神田區錦町一丁目十二	渡邊雄
大正十年四月廿七日	金三十圓	學校基本財産	上野田	清水龍藏
大正十年五月八日	金三十圓	校舍改築費	綾瀬村大字田戸	齋藤吉五郎
大正十年五月九日	卷尺(百尺)	役場備品	岡泉	木村豊喜知
大正十年八月三十一日	金十圓	校舍改築費	北足立郡谷塚村字新崎	山下巳之助
大正十年八月卅日	金八圓	同	東京本郷區根津監町三	大日本肖像畫記念會
大正十年八月三十日	花崗岩	小學校用門	岡泉	澁谷塊
大正十年九月六日	門柱一組	小學校改築費	下谷區龍泉寺町三六一	新堀又三
大正十年九月十二日	金二圓	村基本財産	小久喜	細井庄吉
大正十年九月十二日	金五拾圓	學校改築費	淺草先月町一番地ノ二	小島久次郎
大正十年九月十五日	金一百圓	同	百間村	折原啓三
大正十年九月十七日	金五拾圓	同	上野田	濱田安之助

大正十年九月二十日	金二十圓	同	大阪北河内郡枚方町字伊加賀三番	鈴木菊助
大正十年九月日	金五十圓	學校備品費	東京本郷區郷四ノ二	中山嘉太郎
大正十年九月日	金五圓	學校改築費	上野田	折原庫之助
大正十年十月一日	大時計一個	學校備品	東京本郷區本郷六ノ三	鷺谷米藏
大正十年十月十三日	金一圓五十錢	村基本財産	小久喜	角田かん
大正十年十一月四日	金五圓	同	上野田	小島僚輔
大正十年十一月廿四日	金拾圓	同	同	小林德雄
大正十年十一月三十一日	金五圓	同	千駄野	高橋房太郎
大正十一年二月七日	金一百圓	學校基本財産	東京本郷區島天町一ノ五	安藤寅吉
大正十一年二月廿八日	金二圓	村基本財産	瓜田ヶ谷	富澤周哉
大正十一年三月二十四日	金拾圓	同	小久喜	土橋秀正
大正十一年四月六日	金二十圓	同	下野田	竹内れん
大正十一年五月二十二日	金一圓	同	同	竹内岩藏
大正十一年八月十八日	金拾圓	同	上野田	齋藤清六
大正十一年十一月二日	金三圓	同	小久喜	鬼久保庄一
	金三圓	同	下野田	竹内理平

大正十二年六月廿八日	金拾圓	同	實ヶ谷野口啓次郎
大正十二年七月十三日	金拾圓	同	下野田吉田將監
大正十二年八月三十日	金五圓	同	太田新井齋藤正作
大正十二年九月廿五日	金拾圓	同	岡泉木村愛之丞
大正十二年九月廿五日	金拾圓	同	太田新井山崎藤吉郎
大正十二年十二月十六日	金五圓	同	千駄野田中俊治
大正十三年月日	金拾圓	同	小久喜江原定七
大正十三年三月廿五日	金拾圓	同	千駄野高橋武夫
大正十三年三月廿五日	金拾圓	同	下野田竹内武次
大正十三年三月廿九日	金三圓	同	同竹内理平
大正十三年四月十七日	金五圓	同	千駄野高橋武夫
大正十三年五月廿七日	金五圓	同	太田新井森田長次郎
大正十三年八月三十一日	金五圓	同	小久喜土橋秀松
同	金三圓	同	同
大正十三年八月廿五日	金三圓	同	實ヶ谷小崎たつ
大正十三年九月十五日	金拾圓	同	下野田關根晴夫

大正十三年九月二十九日	金五圓	同	岡泉齋藤隆
大正十三年十月三日	金十圓	同	上野田安藤音次郎
大正十三年十二月二日	金五圓	同	同大久保文吾
大正十三年十二月二十日	金十圓	同	小久喜鬼久保庄一
大正十四年一月一日	時計一個	同	東京山口六郎次
大正十四年二月九日	金五圓	同	下野田竹内紋吉
大正十四年五月十日	帝國五分利公債證券額面百圓等一枚	同	小久喜澁谷助三郎
大正十四年三月十九日	金十圓	同	千駄野高橋武夫
大正十四年五月十八日	金十圓	同	小久喜土橋忠藏
大正十四年六月十五日	金五圓	同	太田新井渡邊三左衛門
大正十四年六月廿八日	第四回復興貯蓄債券二枚券面二十圓	同	小久喜澁谷助三郎
大正十四年七月八日	金拾圓	同	實ヶ谷野口俊作
大正十四年七月八日	金三圓	同	小久喜細井釣三郎
大正十四年八月廿三日	金五圓	同	實ヶ谷門井常吉

一、日本赤十字社々員ハ左ノ如シ

終身社員 五十八人

正社員 二十九人
 愛國婦人會員 六人

日勝村誌終

大正十四年十月十五日印刷
 大正十四年十月十九日發行

非賣品

版權
 所有

編者兼發行者 埼玉縣南埼玉郡日勝村役場
 代表者 山崎敬三

印刷所 東京市丸ノ内日比谷ビルデング
 大日本文化協會印刷部

頂
山

頂山 大日本文部省印刷局

東京市京、町田谷

外見 山 湖 三

昭和十一年三月一日

大正十四年十月十日
大正十四年十月十日

求賣品

埼玉県立浦和図書館



32077382